



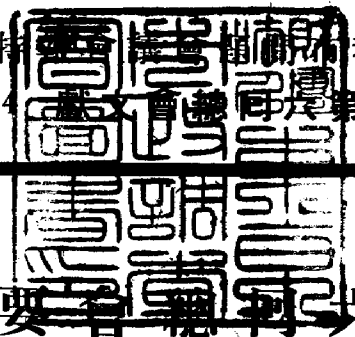
全國都市問題會議會報特別號

第六回總會文獻 4

# 第六回總會要錄

全國都市問題會議

號別特 都國全



錄要名總利大第

上 題問本基の畫計市都 告報究研 1

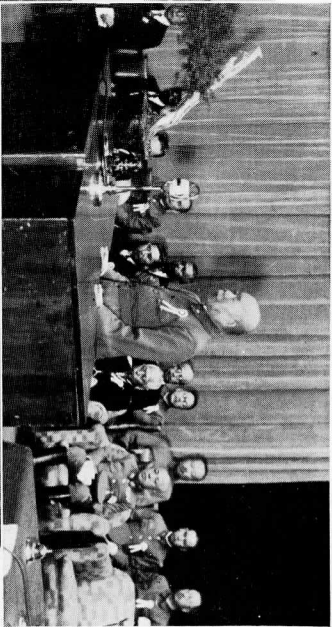
下 題問本基の畫計市都 告報究研 2

題問費經の市都 告報究研 3

錄 要 會 總 4

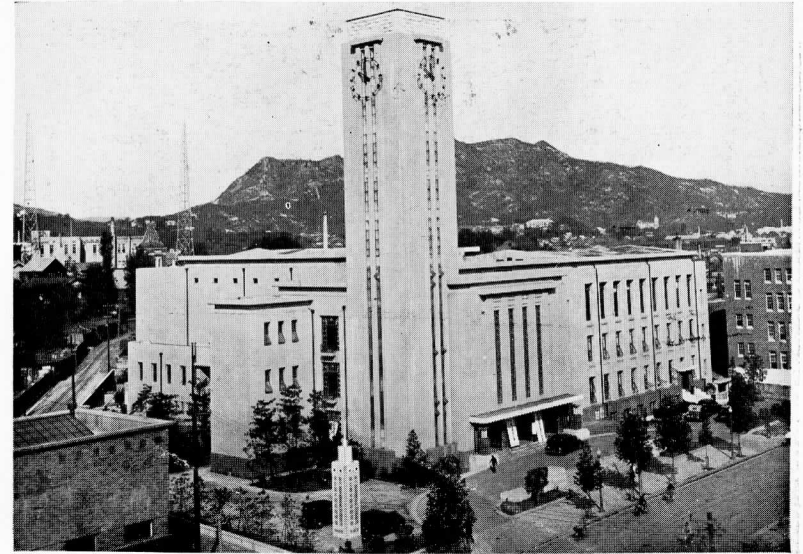
議會題問市都國全

025069



(右に上を觀るに對し、南朝鮮總督)

總 會 狀 況

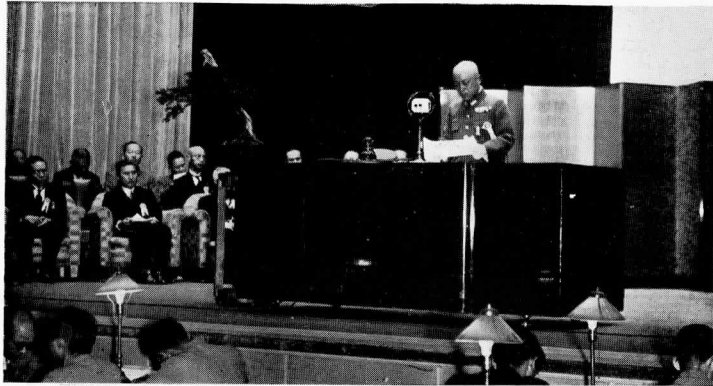


總 會 場 (C) 民 府 館



開 會 式 · 掘 切 會 議 事 理 式 辭

開 會 式 · 朝 鮮 軍 司 令 官 祝 辭  
(中 山 經 理 局 長 代 讀)



總 會 · 第 一 議 題 主 報 告 者 研 究 報 告



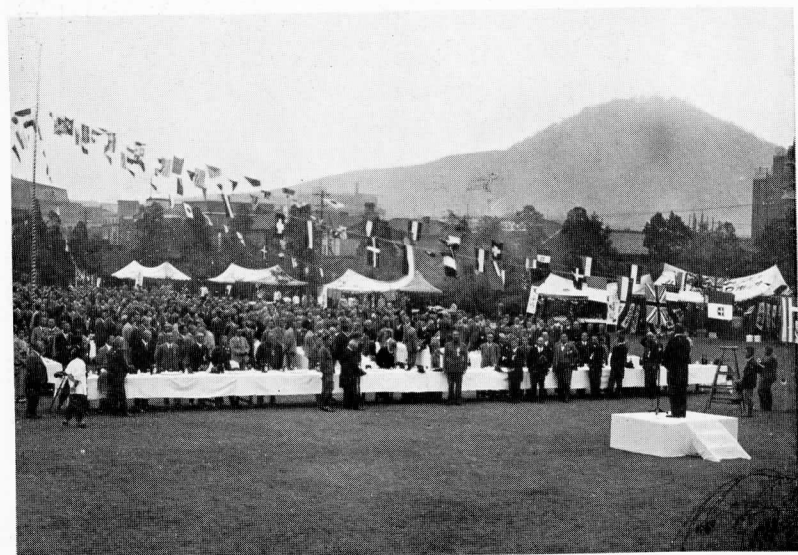
總 會 · 第 二 議 題 主 報 告 者 研 究 報 告



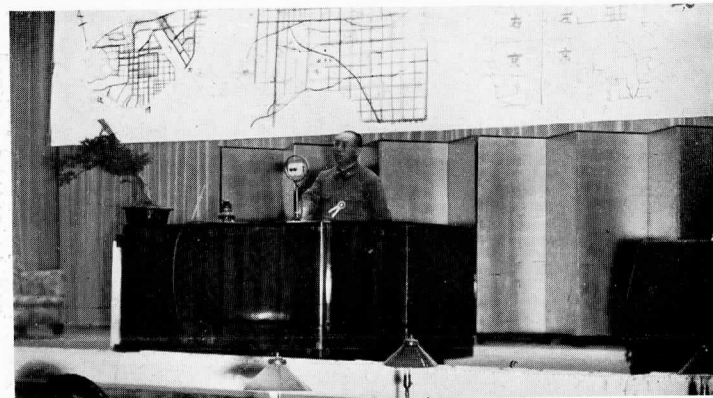




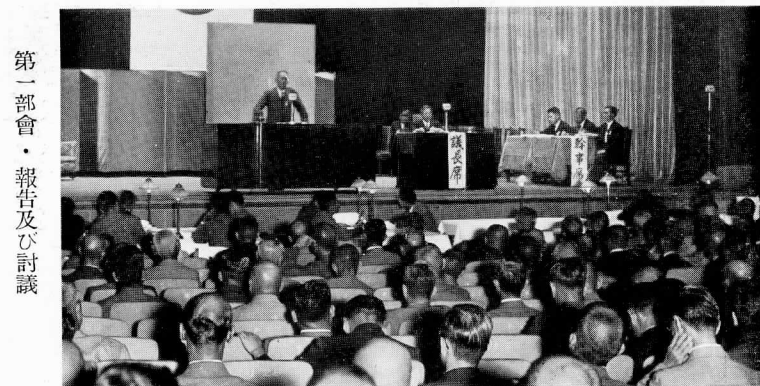
（堂講中館民府城京）會待招督總鮮朝



（宮壽德）會待招尹府城京



總會・特別報告



第一部會・報告及び討議



第二部會・報告及び討議



、  
實地視察（博文寺）



（宮神鮮朝）察視地實

實地視察（麻浦江岸）



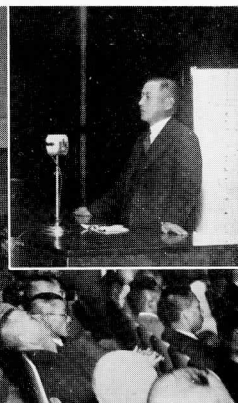
實地視察（敦岩町土幕民部落）



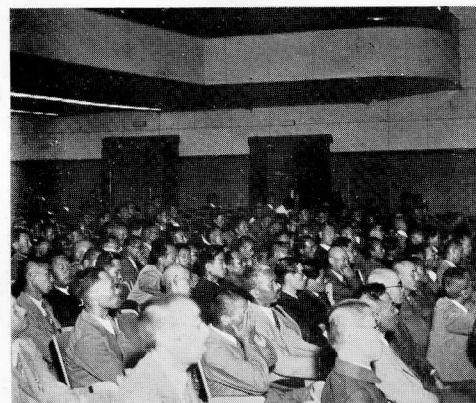
（宮福景）察視地實



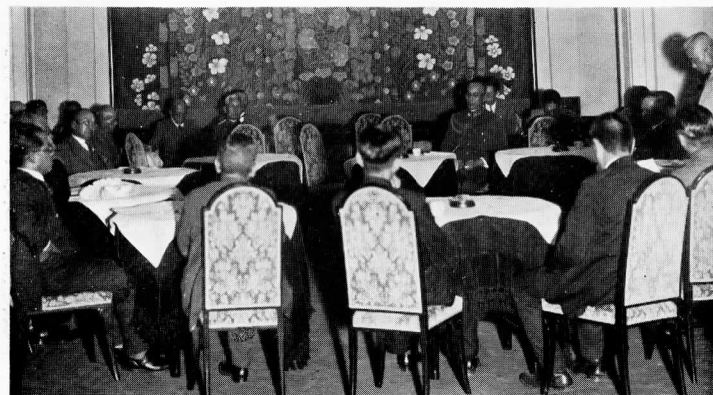
實地視察（公設蔬菜洗滌消毒場）



都市問題公開講演會



大京城座談會



## 凡 例

- 一 本書は第六回全國都市問題會議總會に關する一切の記録なり。
- 二 本書は別冊研究報告「都市計畫の基本問題」上巻、同「都市計畫の基本問題」下巻及同「都市の經費問題」と併せて總會關係文書の全部を組成するものなり。
- 三 本書の分類篇別は、便宜上（一）總會の準備行為に屬する事項、（二）總會經過の敘述、（三）總會に現はれたる報告討議等の内容を三篇に大別したる上、各篇を更に小分類し、別に參考事項を附録せしめたり。
- 四 尙第二篇中に收むべき總會參加者氏名は、參照の便宜上特に卷末に掲出せり。
- 五 本書所載事項中、速記に依りたるものは大體速記の儘に收録するを旨としたるも、會議の寫實に影響なしと認めたる事項に就ては、多少速記を收縮したる個所あり、是れ唯編纂上の都合に依ること、御諒承を請ふ。

六 本書は前掲の如く、總會關係文書として總會參加者に配付するを主旨としたるが、獨立の文獻として取扱ふも亦斯問題研究上好箇の參考資料たるべきを信ず。

六 本書の刊行は即ち第六回全國都市問題會議總會事務の終結なり。この機會に、總會參加者各位に敬意を表し、又總會の爲め直接間接に寄與せられたる官公私各方面、殊に終始格別の盡力を煩は

したる京城府、朝鮮總督府、鮮内に於ける言論機關並に關係團體、拜觀視察見學等の關係當局に厚き感謝を捧ぐ。

昭和十四年三月

全國都市問題會議

第六回全國都市問題會議總會 4

第六回總會要錄 目次

第一篇 總會準備

第一 第六回總會開催計畫に關する事項

一 總會準備經過

二 開催地當局京城府の援助

第二 總會參加者に對する接遇

一 總會關係文書等の配布

二 京城府、朝鮮總督府等の接遇

第二篇 會議總說

第一 總會第一日

一 序 說

二 開 會 式

會議理事東京市政調査會副會長堀切善次郎氏式辭(一五)……朝鮮總督南 次郎氏祝辭(一六)……朝鮮軍司令官中村孝太郎氏祝辭(一七)……內務大臣末次信正氏祝辭(一八)……拓務大臣公爵近衛文磨氏祝辭(一九)……京城帝國大



學總長速水 湯氏祝辭(三)……京畿道知事甘肅義邦氏祝辭(三)……朝鮮商工會議所會頭賀田直治氏祝辭(三)  
……京城府會副議長大野史郎氏祝辭(三)……京城府尹佐伯 顯氏歡迎の辭(三)

三 議 事

四 主報告者研究報告(報告内容は總て第三篇に蒐輯す)

五 部 會(同 前)

六 京城府尹招待會

第二總會 第二日

一 序 說

二 特別議題報告(報告内容は總て第三篇に蒐輯す)

三 部 會(同 前)

四 朝鮮總督招待會

五 朝鮮事情紹介映畫舞蹈の會

第三總會 第三日

一 序 說

二 特別報告(報告内容は總て第三篇に蒐輯す)

三 部會の報告討議經過報告(同 前)

四 會議理事互選

五 閉 會 式

會議理事東京市政調査會副會長堀切善次郎氏挨拶(六)……京城府尹佐伯 顯氏挨拶(三)……參會者代表廣島

市横山金太郎氏挨拶(四)

六 實 地 視 察

第四 任意視察並鮮内及滿支視察

一 任 意 視 察

二 鮮内及滿支視察

第五 關係諸 催

一 都市問題公開講演會

二 ラヂオ放送

三 大京城座談會

四 都市關係の圖表展示

第六 關係方面の協力

第七 總會參加者及び準參加者

第三篇 報告及び討議内容

第一 主報告並に特別報告

一 序 說

二 主報告内容

現下都市計畫の緊急問題

朝鮮に於ける都市計畫の特異性

内務會計課局長 松村 光磨君  
朝鮮總督府 内務局土木課長 榛 葉 孝平君

經費の合理性と必要性	元東京市助役	菊池	三君	三
都市經費の實證的考察	大阪市助役	森下	政一君	二
特別議題報告内容	厚生省衛生局長	林	信夫君	二
事變と都市厚生(社會・衛生)對策	朝鮮總督府	大野	綠一郎君	五
特別報告内容	朝鮮總督府	大野	綠一郎君	五
日滿支都市の文化的經濟的協力に就て	朝鮮總督府	大野	綠一郎君	五
第二 第一部會報告討議				一
一 序				一
二 報告討議内容	内務省囑託	西村	輝一君	一
關東州々計畫令の特異性	都市計畫東京地方委員會事務官	高橋	登一君	一
工業を基調とする都市計畫の再檢討	成興府會議員	大川	市二君	一
大道路建設の可否	京城帝國大學教授	鈴木	武雄君	一
朝鮮の都市に就て	愛知縣都市計畫課長	眞坂	忠藏君	一
國土計畫制度を要求する根本問題	都市計畫三重地方委員會技師	兼岩	傳一君	一
都市計畫と地方計畫の諸傾向に就て	朝鮮總督府技師	鳥井	拾藏君	一
地域制の分化に就て	日本建築協會	中澤	誠一郎君	一
都市工業地の發展と專用地區	副會長理事	井上	新二君	一
工場の原動機馬力數算定の是正	愛知縣建築課長	山岡	敬介君	一
都市構成の單位區劃に就て	朝鮮總督府技師	山岡	敬介君	一

第三 第二部會報告討議

一 序

二 報告討議内容

京城府の經費に就て	京城府會第一會	濱田	虎熊君	三
朝鮮に於ける都市經費の動向に就て	京城帝國大學教授	小田	忠夫君	四
受益者負擔金に就て	元山府會議員	南	祐君	四
非常時局下に於ける都市の新經費に就て	元東京市助役	菊池	慎三君	四
公企業會計に就て	元秋田縣知事	竹中	龍雄君	五
羅津府土地増價税に就て	大阪商科大學	高橋	貫右君	五
都市經費の合理化	朝鮮總督府	大塚	辰治君	五
大都市行政に於ける企畫性の必要と企畫部局の使命	東京市企畫局	芦田	勳君	五
都市經費の基準算定に就て	京城府都市計畫課長	梶山	淺次郎君	五

經費の性質に就て……………	關廣義塾大學教授	永田清君……………	二六
新京特別市の財政に就て……………	新京特別市財務處長	鯉沼兵士郎君……………	二六
都市の經費負擔に就て……………	木浦府會議員	金聲振君……………	二六
都市の經費と財源捻出策……………	東京市企畫局	槇島勇君……………	二六〇
朝鮮地方債に就て……………	朝鮮總督府	高橋貫右君……………	二六三
物件費と人件費……………	元山府會議員	李弘俊君……………	二六六
支那の都市建設の經費支辨方法……………	元東京市助役	菊池慎三君……………	二六七
第四 兩部會に於ける報告討議の經過報告……………			二五二
一 序……………			二五二
二 第一部會に於ける報告討議經過報告……………			二五二
三 第二部會に於ける報告討議經過報告……………			二五七
附篇 第六回全國都市問題會議總會に關する文獻類……………			二五九
第六回全國都市問題會議總會參加者名簿……………			二六六
第六回總會係員事務分擔表……………			卷末

# 第一篇 總會準備

## 第一 第六回總會開催計畫に關する事項

### 一 總會準備經過

第六回總會は、會議規約第七條所定隔年制の原則に基き、昭和十三年度其の開催該當年度となり居れり。依つてこれが要綱を議定せんが爲め昭和十二年四月十七日、會議事務局に理事會を開き第六回總會開催地並開催方法に關する事項の議定ありたり。即ち開催地に就ては京城府及仙臺市兩者の申入ありたるところ京城府と決定、開催方法は慣例により開催地當局と事務局とにて協議の上決定することに一任し(會報第十號參照)、其後開催期を昭和十三年十月十日より三日間、議題を第一議題「都市計畫の基本問題」第二議題「都市の經費問題」と決定(會報第十一、十二號參照)、事務局は會報を以て兩議題の解説及參考文獻目錄を作製し、汎く會員の關心に訴ふると共に其の研究報告の提出方を要望せり。

然るに其後支那事變勃發し、これが推移と關係諸方面への影響とは慎重考慮を要する事態に達したるを以て、事務局に於ては京城府を始め關係各方面と協議を遂げたる結果、豫定通り開催のことに確定を見(會報第十二號參照)、越えて十三年三月三十日東京市丸之内會館に理事會を招集し、總會費、總會々費並特別議題及特別報告追加の件を可決せり。即ち總會費は五千圓とし、總會々費は一名につき金拾圓、特別議題は「事變と都市の厚生(社會・衛生)對策」、特別報告は「日滿支都市の連携——主として經濟的文化的協力に就て——」と、夫々題名決定せり。次で七月五日理事會(書面)に於て總會開催に充つる費用として京城府より金五千圓出捐の申入ありたるを以て之を總會費に追加計上することに決し、之を以て總會費豫算總額は一萬圓となれり。

總會參加勧誘に關しては、正會員の外に、關係各方面凡そ三千餘箇所に向つて總會要項を具し、招請狀を發送すると共



に、事務局は職員を派して内地、朝鮮及滿洲國の要所に實地勧誘をなし、又京城府は別に文書を以て各方面に勧誘を試る一方、主腦者を鮮内、内地、滿洲國の諸都市に派し同様勧誘をなせり。

研究報告に就ては、議題の決定と共に會員の間に、次で廣く一般關係者の間に提出を依頼し、かくして提出せられた研究報告は、第一議題に對し四十三篇、第二議題に對し十七篇に達したり。此等諸篇は第六回總會文獻研究報告「都市計畫の基本問題」上、下、「都市の經費問題」の三冊、總計一千餘頁を形成し、總會に先立ちて刊行を見たり。尙參會者の便に供するため、視察旅行資料並總會彙報（1日程及參加者注意事項、2日程細目及關聯諸事項、3參加者名簿、4參加者追補、5拜觀並視察箇所説明概要）を刊行配布せり。

右の如き經過を以て諸準備計畫着々進捗し、左の如き日程を以て總會に臨むことゝなれり。

第六回總會日程

朝鮮神宮並に京城神社參拜（十月九日・日） 會議代表

第一日會 議（十月十日・月）

參集時限 午前八時五十分

會 場 京城府民館大講堂

開會式 午前九時 開會

(一) 國歌合唱

(二) 皇居遙拜

(三) 默 禱

(四) 式 辭

(五) 祝 辭

同

同

同

同

同

同

同

(六) 歡迎の辭

總 會

(一) 事務報告及議事方法に就ての報告

第二議題主報告者研究報告

(一) 現下都市計畫の緊急問題

(二) 朝鮮に於ける都市計畫の特殊性

(正午 休憩・京城府民館中講堂にて晝食)

第二議題主報告者研究報告

(一) 經費の合理性と必要性

第一 第六回總會開催計畫に關する事項

會議 總理 堀切善次郎氏

朝鮮總督 南次郎閣下

朝鮮軍司令官 中村孝太郎閣下

內務大臣 末次信正閣下

拓務大臣 公爵 近衛文麿閣下

京城帝國大學總長 速水瀧閣下

京畿道知事 甘藪義邦閣下

朝鮮商工會議所會頭 賀田直治氏

京城府會副議長 大野史郎氏

京城府尹 佐伯顯氏

會議 理事 堀切善次郎氏

總務東京市政調查會副會長

內務省計畫局長 松村光磨氏

朝鮮總督府 榛葉孝平氏

內務局土木課長

元東京市助役 菊池慎三氏

元秋田縣知事 五

(一) 都市經費の實證的考察

大阪 關西大學 講師 森下政一氏

部 會 午後三時 小憩の後各自選擇に従ひ、第一部會場及第二部會場に入場)

(一) 第一部會(第一議題關係)に於て會員の報告討議

會 場 京城府民館大講堂

(二) 第二部會(第二議題關係)に於て會員の報告討議

會 場 遞信事業會館講演室(三階)

京城府尹御招待會

午後四時三十分より德壽宮(京城府廳西横)に於て催さるゝ京城府尹の御招待會に臨む。

第二日 會 議 (十月十一日・火)

參集時限 午前八時五十分

會 場 京城府民館大講堂

總 會 午前九時開會

(一) 特別議題報告

事變と都市の厚生(社會・衛生)對策

厚生省衛生局長 林 信 夫氏

(二) 右に關し意見交換

部 會 自午前十一時 至正午

(一) 第一部會(第一議題關係)に於て前日に引續き會員の報告討議

會 場 京城府民館大講堂

(二) 第二部會(第二議題關係)に於て前日に引續き會員の報告討議

會 場 遞信事業會館講演室(三階)

朝鮮總督御招待會 正午より京城府民館中講堂に於て催さるゝ朝鮮總督閣下の御招待會に臨む。

部 會 自午後一時 至午後四時

午前に引續き各其の會場に於て開會

(一) 第一部會(第一議題關係)に於て午前に引續き會員の報告討議

(二) 第二部會(第二議題關係)に於て午前に引續き會員の報告討議

朝鮮事情紹介 午後四時十分より京城府民館大講堂に於て映畫並朝鮮舞踊

第三日 會 議 (十月十二日・水)

參集時限 午前八時五十分

會 場 京城府民館大講堂

開 會 午前九時 開會

(一) 特別報告

日滿支都市の連携 ―主として經濟的文化的協力に就て―

朝鮮總督府 政務總監 大野 綠 一郎閣下

(二) 第一部會の研究報告討議經過報告 第一部會議長

(三) 第二部會の研究報告討議經過報告 第二部會議長

(四) 會議理事互選

閉會式

- (一) 挨拶
- (二) 同
- (三) 同

會議  
東京市政調査會副會長  
堀切善次郎氏  
京城府尹  
佐伯顯氏  
參會者代表

(正午 休憩 京城府民館中講堂にて晝食)

拜觀及實地觀察

集合時間 午後一時

集合場所 京城府民館前

第一班

朝鮮神宮、博文寺、南山裏住宅豫定地、京城綜合運動場、秘苑、敦岩町土幕民部落(不良住宅及區劃整理地帯)、清涼里新興地帯、公設蔬菜洗滌消毒場、終つて概ね午後六時長谷川町入口朝鮮銀行前にて解散(全區バスに依る)

第二班

朝鮮神宮、景福宮、阿峴屎尿地下流送設備、麻浦江岸、漢江橋、永登浦工場地帯、鐘紡京城工場、朝鮮麥酒會社工場、昭和麒麟麥酒會社工場、終つて概ね午後六時長谷川町入口朝鮮銀行前にて解散(全區バスに依る)

任意觀察 (十月十三日・木)

第一班及第二班

集合時間 午前九時 解散豫定時刻 午後一時

第一班 (市内)

集合場所 京城府民館前

朝鮮總督府、景福宮、校洞小學校(半島兒童初等學校)、京城府立府民病院(施療及輕費診療)、昌慶苑、終つて同苑内にて晝食(京城府接待)、京城府廳前にて解散(全區バスに依る)

第二班 (市内)

集合場所 德壽宮正門前(京城府廳横)

德壽宮、恩賜記念科學館、商工獎勵館、京城府營水產市場、府立順化病院(傳染病院)、德壽小學校(半島兒童初等學校)、昌慶苑、終つて同苑内にて晝食(京城府接待)、京城府廳前にて解散(全區バスに依る)

第三班 (仁川方面)

集合時間 午前九時 解散豫定時刻 午後二時 集合場所 京城府廳前

京仁道路沿線工場地帯、仁川港諸施設、終つて仁川にて晝食(接待)、京城府廳前にて解散(全區バスに依る)

二 開催地當局京城府の援助

第六回總會の開催地たる京城府の盡力に關しては、先づ茲に特記して深甚の謝意を表する要あり。即ち第六回總會京城府開催のことに決定を見るや、多大の厚意を以て諸般の準備計畫に參與せられ、且つ府會滿場一致の協賛の下に總會費特別負擔(前述)をなし、又總會參加勸誘に關しても、前述の如く各地に實地勸誘を試むる等々、其の拂はれたる盡力犠牲寔に多大なるものあり。殊に總會時に於ける公私施設其の他の實地並任意觀察、會場設備、參會者處遇等は舉げて同府の盡力に俟てり。而して總會執行に關しては六月以降府總務部内務課内に總會掛を特設し、總會時には後掲の如く多數の吏員其の掛員として晝夜を分たず盡瘁せられたり。

朝鮮總督府、李王職を始め地元公私各團體等の甚大なる援助に就ては後掲する所に譲るも、其の後援なかりせば總會をして盛會裡に終始せしめ得ざりし次第にして、半島朝野の盡力に對し茲に深甚の謝意を表するものなり。

## 第二 總會參加者に對する接遇

### 一 總會關係文書等の配布

總會へ參加の會員に對し配布したる文書、印刷物等左の如し。

#### (イ) 第六回總會文獻

- 1 研究報告「都市計畫の基本問題」(上)
- 2 研究報告「都市計畫の基本問題」(下)
- 3 研究報告「都市の經費問題」
- 4 第六回總會要録(總會終了後配布)

(ロ) 京城府提出、參考資料「朝鮮都市の衛生事情に關する若干研究」

(ハ) 東京市政調査會提出「日本都市概觀附滿洲國都市」「市政カード」二葉

(ニ) 第六回總會彙報 第一 日程及參加者注意事項

第二 日程細目及關聯諸事項

第三 參加者名簿

第四 參加者追補

第五 拜觀並視察箇所説明概要

#### (ホ) 參加者徽章

### 二 京城府、朝鮮總督府等の接遇

(ヘ) 京城府尹招待狀

(ト) 配布文書「京城府勢一班」「京城府都市計畫要覽」「京城府土木事業概要」「京城府市街地計畫風致地區指定資料調査書」「京城府清掃事業一班」「京城府の財政」「京城府勸業一班」「京城府稅政一班」「京城府社會事業要覽」「京城府教育概況」「京城府内に於ける宗教の概況」「京城府衛生一班」「京城府上水道概要」「昭和十二年度朝鮮水道統計表」「京城の觀光地」

(チ) 府内電車優待乗車券 德壽宮、秘苑拜觀券 昌慶苑、朝鮮總督府博物館、恩賜記念科學館、國防大博覽會觀覽券 記念繪葉書 記念風呂敷

(リ) 朝鮮總督招待狀

(ヌ) 配布文書「都市計畫概要」「朝鮮の社會事業」「朝鮮社會事業要覽」「朝鮮經濟事情」「朝鮮事情」「半島の近影」「支那事變と半島同胞」「朝鮮の習俗」「朝鮮列車時刻表」

(ル) 朝鮮商工會議所より「朝鮮産業經濟現勢」

(ヲ) 京城商工會議所より「伸る京城」

(ワ) 社團法人照明學會より「都市照明法制定に關する提唱」の寄贈あり。

(カ) 尙鮮内よりの參會者に對しては二割引、内地、滿洲、關東州よりの參會者に對しては三割引の、朝鮮鐵道二、三等旅客運賃割引證を交付。

第二 總會參加者に對する接遇



第二篇 會議總說

## 第一總會 第一日

### 一 序 說

昭和十三年十月十日（月曜、雨後曇）京城府京城府民館大講堂に於て、第六回全國都市問題會議總會開始さる。之に先立ち十月七日會議理事堀切東京市政調查會副會長及松島京城府總務部長は總會參會者を代表して朝鮮神宮並京城神社を參拜せり。

### 二 開 會 式

午前八時五十分、振鈴と共に參會者一同並來賓として朝鮮總督南次郎、朝鮮軍司令官代理中山經理部長、內務大臣代理計畫局長松村光磨、拓務大臣代理理事官金次博、京城帝國大學總長速水篁、京畿道知事甘庶義邦、朝鮮商工會議所副會頭賀田直治、京城府會副議長大野史郎、京城府尹佐伯顯の諸氏、主報告者、會議理事及び一般參會者八百四十餘名（來賓及傍聽者を加へて一千餘名）總會場たる大講堂に入場を畢るや、九時十五分、司會者事務局弓家東京市政調查會參事開會式を宣し、國歌合唱、皇居遙拜、護國の英靈への感謝と皇軍の武運長久のため默禱を捧げ、續いて會議理事堀切東京市政調查會副會長の式辭、南朝鮮總督、中村朝鮮軍司令官（中山經理部長代讀）末次內務大臣（松村計畫局長代讀）近衛拓務大臣（金次理事官代讀）速水京城帝國大學總長、甘庶京畿道知事、賀田朝鮮商工會議所會頭、大野京城府會副議長の祝辭並に佐伯京城府尹の歡迎の辭あり。式辭及祝辭左の如し。

### ○會議理事、堀切東京市政調查會副會長式辭

閣下並に諸君こゝに第六回全國都市問題會議總會を開くに當りまして、會議理事の立場に於きまして私より一言御挨拶を申し上げますことは洵に光榮に存する所であります。

今日は總督閣下を初め諸閣下各位の御臨場を忝う致しまして、本會議の上に一段の光彩を添へましたことは満場の會員諸君と共に深く御禮申上げる所であります。

忠勇なる皇軍は到る所偉大なる戰果を收め國威を中外に宣揚し、統後の國民亦全力を擧げて至誠奉公、内鮮一體、國家總力戰に従事してをります。この秋に當りまして政治、經濟、文化の中樞に對する都市問題を研究、討議致しまする爲に日滿支の中心に位致しまする所の當京城府に於きましてこの會議を開くに至りましたことは洵に意義あることと存する次第であります。本會議は昭和二年に第一回を大阪に開きまして以來、隔年總會を開きまして、今回はその第六回であります。而して第二回の東京總會以來東京市政調査會がその事務的のお世話を上上げることに相成つてをる次第であります。

この度の總會は外地に於て開かれます最初のものであります。事務局と致しましては甚だ不行届であるに拘らず、京城府御當局を初め總督府の方々の熱烈なる御支援、御盡力を頂きましたことは洵に恐縮に存じましてをりますと共に特にこの機會に於て篤く御禮を申上げなければならぬことと考へてをる次第であります。

本會議に於きましては、先づ議題が出ますと事務局に於きましてその議題の内容を分析致しまして一々これに解説を加へ、議論の範圍を明かに致して豫め會員諸君にお配りしてをります。これが爲に總會に於きましては論議の多岐に亘ることを避け、努めて短時日の間に極めて深遠なる知識の交換を遂げることが出来るやうに努めてゐる次第であります。

尙ほ會員諸君には總會に發表せられます報告その他の文獻を印刷に附してお配り致してありますが、この會議を終了致しました後に於きましてこの問題の御研究の貴重なる資料と致して頂きたいといふことを考へてをる次第であります。

第一回の總會以來議題は毎回その時々々に於ける研究上適切なる實際問題を捉へてをるのであります。總會に於きまして

發表せられる意見は何れも會員諸君の御苦心の結果、研究の結晶であります。従つて議場は極めて靜肅に、極めて眞摯に検討せられるのが從來の例になつてをります。今日に於て發表せられます貴重なる御意見はその問題に對して有すべき文獻と致しまして何時までも重要な指導的役割を演じてをりますことは、從來の例に依つても明かなのです。

斯如き光輝ある沿革を有すると共に、而もこの會議が回を重ねる毎にその効果を増大致しまして今日に至りましたことは、全く會員諸君の熱誠なる御研究の賜であると存するのであります。

今回の會議に於て取上げました議題の第一は「都市計畫の基本問題」であります。この問題は現代都市建設の根本に關する問題でありまして、特に都市の建設が最近に於きまして軍事上、經濟上、文化上その理論に於きまして、その構成に於きまして、又その技術の方面に於きまして、根本的な再検討を要請せられつゝある重要問題であります。

議題の第二は「都市の經費問題」であります。都市運営上その能率の良否は直ちに市民の負擔に影響する所でありながら、從來この問題は比較的閑却される傾きのある問題であると思ひます。

以上の二問題の他、この度の事變下に於きまして都市の厚生對策が特に重要性を加へるに至りました實情に鑑みまして、これを特別議題と致しました。

尙ほ當地京城府が我が國の前進基地たるの特殊性に鑑みまして、日滿支都市の連携に關する特別報告を伺ふことに致した次第であります。幸ひに主報告者、斯界の權威者であらせられますこの方々の御承諾を得ましたことは今會議の洵に光榮とする所であります。

會議參會の諸君、本日の會議以降こゝに眞摯なる御意見が展開せらるゝことと思ひます。何卒會員諸君一層の御努力を致されまして、この度外地に於て初めて開かれましたこの會議を十分に効果あらしめ、會議の目的を遺憾なく達成せられるやう切望して已みません。而してこれに依りまして都市政策上特に朝鮮都市の將來に何物かの貢獻を齎らさるべきこと

を期待してをります次第であります。

開會に當りまして一言式辭を申上げる次第であります。

### ○南朝鮮總督祝辭

本日茲に第六回全國都市問題會議總會を開かれまして、斯の如き多數の斯界に於ける權威者の壯容に接し、同時に私に祝辭を申述べる機會をお與へ下さつたことを衷心より光榮と致します。

最近に於ける朝鮮の産業經濟は非常なる勢を以て伸展致しました。従つて都市に於ける人口も亦躍進的の増加を示してをります。故に本府に於きましても單に京城府附近のみならず、全十三道の道廳のある土地竝に大邱、仁川、清津、その他の各府の存在する所に於きましては、何れも都市計畫を實行しつゝ、或はその計畫を立てつゝあるところであります。而して私はこれら都市行政竝に民衆の福祉を増進するために日夜工夫を致してをる次第であります。

この秋に際しまして斯の如く多數全國の斯界に於ける權威者竝に學者がお集りになつて、都市問題を研究せられることは、黎明期に在る朝鮮にとつては最も幸福とするところであります。必ずや朝鮮に於きましては各位の會議の結果に基き、大いに啓發せられるところがあると信じて、深く／＼心に期待してをる次第であります。承れば唯今堀切さんの御説明のありました如く、本會議は極めて眞面目に、地味であるけれども、極めて忠實にその研究せられたる結果は、的確に次回の會議に報告せられ、それが廣く斯界に供給せられることになつてをるといふことを承りまして、これ亦私は深く朝鮮のためにこれを喜ぶのでありまして、同時に本會の將來益々有意義なる發展をなさむことを切望するのであります。一言蕪辭を述べて祝辭と致します。

### ○中村朝鮮軍司令官祝辭

茲に第六回全國都市問題會議總會開催せらるるに方り聊か祝意を陳ぶる機會を得たるは洵に欣幸とする所なり。惟ふに

輓近科學の進歩産業の發達經濟の複雑化に伴ひ都市諸般の既設機能等に整備擴充を圖るべきもの愈々多く特に近時軍事の進展國防の重要性は都市の防衛に關し幾多の革新改善を促し、而も現下帝國四圍の情勢は之が實現を要すること最も緊切なるものもあり。

此の秋然も全國斯界の權威を集めて都市問題會議を開催せられ都市計畫の基本問題、都市の經費問題等に關し審議せらる洵に機を得たりと謂ふべし。殊に京城に會場を選ばれたるは日本の大陸發展の兵站基地たる朝鮮の爲意義深く且つ慶賀に堪へざる所なり。必ずや其の成果は刮目して待つべきものあらん。

冀くは審議に其の蘊蓄を傾倒せられて都市の發展防衛の完璧に寄與貢獻せられんことを。

一言所懷を述べて祝辭となす。

### ○末次内務大臣祝辭

本日茲に第六回都市問題會議總會を開催せらるるに當りまして一言祝辭を述ぶるを得るは最も欣快とするところであります。

惟ふに輓近都市の異常なる發展に伴ひ衛生保安交通産業上等各方面に於て種々の複雑困難なる問題が発生したのであります。各都市當局に於ては鋭意其の對策に努力せられ都市の合理的發展に寄與せられましたことは寔に慶賀に堪へない所であります。然し乍ら現下學國一致の奮勵を要すべき時局に際會しまして更に行政財政上軍事上等の方面に於て緊急重要な問題に直面するに至りましたが、此の時に當り全國都市問題會議第六回總會を開催し都市計畫の基本問題、都市の經費問題等を研究討議せらるるは寔に機宜を得たるものと信じます。

希くは實に徹し理に照し其の蘊蓄を盡されまして國運の進展に資するの途を講ぜられむ事を一言所懷を述べて祝辭と致します。



## ○近衛拓務大臣祝辭

本日茲に第六回全國都市問題會議總會開會式の舉行せらるるに當りまして所懐の一端を述ぶるは私の欣快とする所であります。

惟ふに時運の進展に伴ひ都市問題の益々重要となるは敢て絮説を要せぬ所ではありますが殊に現下の如き戦時體制下に在りましては一層之が研究整備の喫緊なるを痛感致す次第であります。此の秋に當り地を京城府に選んで總會を開催し以て都市計畫の基本、都市の經費等諸般の重要問題に就き研究討議を進められますとは洵に時宜を得た企であると存じます。外地に外ける都市計畫に關しましては曩に朝鮮及臺灣に法令の制定實施を見、爾來銳意之が實現を期しつつある所でありまして今回特に朝鮮に於て總會の開催せらるるに至りました事は内地諸都市との比較考究上裨益する所多く且つ其の地が事變勃發以來地理的其の他の關係に於て彌々重要性を加ふるに至つた點に鑑みる時其の意義亦極めて深く之が成果の期して待つべきものあるを疑はないのであります。

關係者各位に於かれましては時局の重大と本總會開催の趣旨とに照し充分なる研究を遂げられ以て都市の發展整備に寄與貢獻せられん事を切望して已まない次第であります。

此を以て祝辭と致します。

## ○速水京城帝國大學總長祝辭

茲に第六回全國都市問題會議の開催さるるに當りまして、祝辭を述ぶるの機會を得ました事は私の頗る光榮とする所であります。

全國都市問題會議は、都市政策其の他各般の都市問題に關する全國の當局者、實際家、學者より成る研究並に資料交換の全國的機關であると聞いて居りますが、昭和二年其の第一回總會を大阪市に開催せられてより回を重ねらるゝこと既に

五回に及びその度毎に或は都市衛生問題或は公益企業問題或は都市の郊外地統制問題或は受益者負擔金問題等都市問題に關する必要にして有益なる諸議題に就き討議研究を重ねられ貴重なる報告書を發表せられて我が日本の都市政策並に都市關係科學の向上に寄與せられたことは頗る多大なるものであるのであります。由來都市と農村とは國家社會を構成する二大支柱とも云ふべきものでありまして、この兩者の健全なる發達と調和とにより始めて健全にして強靱なる國家の發展となることは云ふまでもない所ではありますが然かも此の事は現在の如き戦時非常時局下に於きましては銃後の固めとして、識者爲政者の最も留意すべき基本的な重要問題であると考へるのであります。

かゝる時に當りまして我が都市政策並に都市問題の研究機關として最高の權威たる全國都市問題會議がその第六回總會を此の京城に於て開かるるに至りましたことは此地に在住する私共として洵に欣快に存するばかりでなく廣く全日本の國家的觀點よりこれを見ますと洵に意義深きものと考へるのであります。即ち從來内地の六大都市のみに於て開催せられましたものが今回初めて六大都市以外の都市而も外地に於て開催せられ都市問題に關する關心を與へる範圍が頗る擴大さるるに至つたことはその一つであります。また外地と申しまして以下時局に最も關係深き大陸の一角たる此の朝鮮に於て然かも所謂大陸前進兵站基地として精神的にも物質的產業的にも近時めざましい躍進を遂げ従つて都市の膨脹發展速度も亦急激なる感があり、従つて内地來會者の各位には躍進半島の如實の姿を御覽頂いて日本帝國の重要な一環としての朝鮮の地位を充分に認識さるる機會ともなり、また朝鮮内各都市よりの參會者各位には先進内地各都市の關係者學者等の方々と一堂に會して親しく意見の交換をなすことに依り半島の産業躍進に應じその據點たる各地都市のよりよき發展に資することの出来るのはその三であります。而して最後に本總會が常に實際に即すると共にまた大局的理論的見地を喪ふことなく、關係學會並に學者と密接な關係を維持せられて居り今回も亦技術並に文化方面の學者諸氏多數の參會を得て會議に光彩を添えて居られますことは、私共學界人として深甚なる敬意を表したいのであります。

どうか向後三日間の會議に於きまして充分の成果を挙げられん事を希望して止みません。  
以上所懐の一端を申述べて祝辭と致します。

### ○甘肅京畿道知事祝辭

本日茲に全國都市問題會議第六回總會を開催せらるゝに當り一言祝辭を述ぶるの機會を得たのは最も欣快とする所なり。

惟ふに本會議は昭和二年五月創立せられ爾來極めて順調なる發達を遂げ常に都市經營に關する最も重要な問題を捉へ學理と實際に立脚して縱横に研究討議し幾多重要資料を蒐集して我國都市計畫事業に甚大なる貢獻を齎らし其の功績極めて顯著なるものもあるに夙に世人の敬稱措かざる所なり。而して今回更に當地に第六回總會を開催せられ閣下並に全國權威者を網羅せる九百餘名の會員各位一堂に相會され都市計畫の根本問題たる緊急事案に就き親しく審議檢討せられんとする邦家の爲め洵に慶祝に堪へざるなり。

近時都市の急激なる膨脹は東西共通の趨勢にして之れ即ち一國産業、文化、經濟其他各般施設の擴張強化と近代科學文明の齎らせる當然の歸結にして國家社會の進歩發達を立證せるものなりと雖も其裏面には健康の障害、生活の不安、思想の混亂等心身に及ぼす幾多弊害の茲に醗酵せられつゝあるに想到するとき洵に憂慮に堪へざるものあり固より都市の施設は極めて複雑多岐にして而も其の改善と膨脹とは恰も走馬燈の如き關係を呈し弊害除去の完璧を期するは至難の業なりと雖近代都市に課せられたる最も重要且つ緊急問題は如何にして之を未然に防止して健康明朗の都市を建設すべきや不慮の天災地變に對し如何にして人命と財寶の安全を期すべきや等の問題たり、之等に關しては凡ゆる全知を鍾めて周到なる研究を遂げ速に合理的理論と實際を發見し施設の基礎を確立するは都市建設上正に焦眉の急務なるを思ふとき本會使命の益々重大なるを痛感し會員各位の一層の御健闘をお祈りして息まざるなり。

竊て我が半島の趨勢を見るに朝鮮が我が帝國の大陸政策に對し極めて重要な地位を占むるは其の地理的歴史的關係を一瞥すれば直に感得せらるゝ所にして始政以來二十有八年其の間畏くも宏大無邊の皇謨の下一視同仁の聖恩に浴し人口の激増、産業文化經濟の躍進、資源の開発發等物心兩面に於て頗る顯著なる發展を遂け來りしが特に今次事變の勃發するや或は帝國の前進兵站基地として或は國防産業の據點として其の重要性愈加はると共に二千三百萬同胞は俄然皇國臣民たる自覺と矜持とに燃え内鮮眞に一體となり銃後の赤誠を披瀝して各自生業報國に邁進しつつあり。然れども此の重大事局に對處し半島が克く其の負荷する重大使命を遂行するには其の原動力たる産業經濟の振興人的資源の開発發上先以て健全なる都市の建設を最重要事項とす。最近半島商工業の躍進的勃興に伴ひ各地の商工都市は急激に膨脹し殊に當京城府の如きは半島の首都として眞に劃期的一大飛躍を示せり。然れども之等朝鮮の新興都市は近代都市としては今尙創始の域を脱せず都市建設上最も重要な時機に在り今にして施設を誤らむか悔を將來に残すの虞なしとせず。此の際本會議に於ける權威ある論議と貴き文獻とは朝鮮の都市建設百年の大計に對し貴重なる指針となり裨益する所眞に甚大なるものあるを信じて疑はず。

茲に聊か蕪辭を述べて本總會の御成功を祝し將來益々御隆盛ならんことを御祈して祝辭とす。

### ○寶田朝鮮商工會議所會頭祝辭

今回第六回全國都市問題會議總會を當地に於て開催せられ多數斯界の權威者御參會の席末に列する事を得たるは最も光榮とする所であります。

都市問題の重要なるは今更總說の要を認めない事ですが特に最近都市集中激化に因る都市と農村との關係、軍事化學の進歩に伴ふ國防の問題等よりする技術上並に法制上に於ける都市計畫其他都市に關する財政問題等に就き十分なる再検討を要する時機に直面してゐると考へらるゝのであります。

此の間にあつて全國都市問題會議は昭和二年以後前後五回の總會を重ね夫々理論及び實際の見地上より縦横に研究審議を盡し以て今日の我邦都市發展に貢獻せられたる功績は眞に顯著なるものあるを信するものであります。

今回の總會は蓋し外地に於ける會合の最初のものであり時局下重大なる意義を有することゝ存する次第であります。朝鮮に於きましては昭和九年以來市街地計畫令が實施せられ殊に本令は市街地建築法の實體をも兼ねたる立法として特殊性を有する所でありまして更に又近年著しい躍進を續け内に尙ほ不備不整の多くを存するが益々新興氣分の横溢してゐる朝鮮の眞の姿を御紹介する好個の機會でもあり吾々半島に於ける者としても眞に喜びに堪へぬ事と存じて居る次第であります。

どうか各位の御熱誠なる御檢討に依り事變下而も外地に於ける最初の此の總會をして充分なる收獲を挙げられ引いては大陸の都市計畫上にも御指導、御寄與あらん事を切望し以て聊か祝辭に代へる次第であります。

### ○大野京城府會副議長祝辭

今回内鮮滿各方面より都市問題に關係を有せらるゝ有力なる方々並學界に於ける最も權威ある知名の方々が多數御來城になり茲に本日より三日間に亘り全國都市問題會議の總會を開催せられますことは當京城府の光榮であり又七十餘萬京城府民の等しく欣快とし滿腔の熱意を以て御歡迎申上ます次第であります。

本總會を當京城府に招請致したき意見は當京城府會が滿場一致を以てせる多年の要望であつたのであります。が今回之が實現を見ましたことは關係各位の御熱心なる御努力と御理解ある御共鳴との賜でありまして私は當府會副議長と致しまして府會を代表し茲に關係各位に對し深甚なる感謝の意を表すと共に本總會を成立せしめて下さいました會員各位に對し厚く御禮を申上ます。

本會議は會を重ねらるゝ事既に五回此の間都市に關する幾多の重要問題に對し有効適切なる解決を與へられ以て諸般の

都市施設に改善を加へられ健全幸福を要望する市民に對し無限の感謝と満足とを與へられつゝある其偉大なる功績は今更喋々を要せざる處でありまして私共は強く本會議を尊敬信頼するものであります。

殊に本總會の議題は都市問題中に於ても極めて重要緊切なる問題である計りではく當朝鮮は所謂幼年都市を多數に持つて居ります關係上本會議に於て討究御發表になる資料は一層貴重でありまして直に採りて利用し得べきものが多々あることを信するものでありまして従て本會議開催に依り朝鮮諸都市の受ける裨益は極めて甚大なることを期待するものであります。

何卒皆様に於かれましては遠路御旅行の御疲勞も未だ消えられないとは思ひますが邦家の爲、又朝鮮の爲にも御努力を願ひ和氣霽々裡に御討議を進められ十分なる成果を收めらるゝ様冀望して退まないのであります。

終りに臨み當朝鮮は今更申述ぶる迄もなく大陸に於ける帝國唯一の領土であり今や大陸建設の兵站基地であり各方面に新に建設施設を要するものが多々あるのでありまして將來皆様の御指導御援助を待つものが極めて多いのであります。

皆様には既に朝鮮に對する御理解と御認識を十分に有せらるることゝは信じますが此の度の御入城を機會とし改めて深く御視察と御批判を賜りますれば此の上もない幸とする處であります。

尙御滞在御旅行等に於て御希望御要求がありますならば御遠慮なく係へ御申付を願ひたく何卒朝鮮内の御行動中は萬事に涉り御愉快に御過し下されんことを衷心から御禱り致す次第であります。盡しませぬが之を以て歡迎の辭と致します。

### ○佐伯京城府尹歡迎の辭

開催地府尹として一言御挨拶申し上げ度いと存じます。今回第六回全國都市問題會議總會が當府に開催せらるゝことゝ相成り全員九百餘名御參會の下に盛大なる開會を見るに至りましたことは當府の最も光榮且つ欣幸とする所であります。擬て古今を問はず都市は文化經濟の中樞國家構成の核心とも謂ふべきでありまして其の運営の如何は國家の興隆國運の

消長に多大の影響を齎すことは申す迄もありません。殊に人口都市集中の趨勢依然として停止する所なく之等に關する對策を初め且つ國防上の見地より都市建設方策の一大改變を必要とするの時期に際會し更に都市衛生都會人の體位向上對策幾多の重要問題の解決を喫緊とする秋に當りまして帝國版圖は勿論廣く隣邦滿洲國方面に於ける都市問題の權威者竝に有力なる篤志家各位が一堂に會合されまして都市建設經營の骨子とも見るべき「都市計畫の基本問題」「都市の經費問題」を主たる議題として多年の體驗を基調としその蘊蓄を傾倒されましたる研究の發表又は報告討議等を加へられ其の嚮ふ處を究めて之を天下に宣明し以て都市建設の指針都市生活の濟美に寄與せられんとすることは是極めて適切緊要なる事柄でありまして其の齎らす所獨り市政の改善に止まらず國運伸暢の重要礎石とも言ふべきでありまして邦家の爲洵に慶賀に堪へざる所であります。

開催地に就きまして過去五回に亙る都市問題會議總會は東京、大阪、京都の三大都市に於てのみ開催せられ當府の如き新興都市にして然も遠隔の地に於て本總會の開催を望むが如き元より至難とする所でありましたが幸ひ會議御當局を始め各位の絶大なる御支援により全く前例に拘るなく當府に開催の決定を見るに至りましたことは望外の幸とする所でありまして單に我が京城府の光榮たるのみならず全半島の悦とする所であります。然るに昨夏支那事變の勃發の爲め本年五月に至るまで採否決定に至りませんでした爲準備着手が立遅れまして成否如何を氣遣ひましたが幸ひ東京市市政調査會の方々の熱誠なる御盡力と會員各位の深き御理解とに依り參會者實に九百餘名に達し全く空前の盛況を示すに至り而も内地重要都市は勿論隣邦滿洲國要路に於ける斯界の權威多數御來駕を頂きましたことに對し厚く感謝の意を表します。

當府は人口今や七十萬を超え著しく尙増加の傾向にあり歲計豫算總額一、五〇〇萬圓を算し六大都市に追隨するの域に達しては居りまするが所謂建設途上の都市として格別御視察を願ふべき施設が甚だ乏しきを識るものでありますが一面又當地の獨得の一、二の施設或は風物等御覽を仰ぐべき向もありますので御視察を願はれますれば誠に幸と存じます。

尙ほ朝鮮半島は輓近躍進の一途を辿り即ち或は北鮮及西鮮の新興工業地帯三津地方の國際貿易港を始め尨大なる發電施設或は南鮮の農耕地帯の發達等實に目覺ましきものがあります。又靈峰として東亞に誇る金剛山、平壤の古都樂浪の遺跡、新羅の舊都慶州の遺跡内鮮一體の史實を存する百濟の舊都扶餘の遺跡等何れも一見の價值ありと信じますので日時の許さる限り鮮内各地の御視察をも仰ぐと共に聊かなりとも旅情を慰め下さいます様切望する次第であります。

折角御來城賜りましたにも拘らず御接待等時節柄でもあります外土地柄これと申す程のことも出来ませすその上旅館も著しく雜閑し加ふるに係員一同不慣れでありまして地元として萬端不行届で御満足を御與へることが出来ませぬは誠に恐縮の至りに存じますが此の點何卒御寛大なる御宥恕を御願ひ致し度いのであります。

終りに臨み本會の御成功と會員各位の御健康とを御祈り申し上げ歡迎の御挨拶と致します。

次で滿洲國交通部大臣の祝電を披露す。

### 三 議 事

以上を以て開會式を了り、引續き總會に入り、堀切會議理事起つて議長として佐伯京城府尹を煩はし度き旨を提言し、満場の賛成ありて、佐伯府尹議長席に着き、議長としての挨拶の後、事務報告及び議事方法に就いての報告あるべき旨を宣す。乃ち會議理事東京市市政調査會堀切副會長左の通り報告を行ふ。

事務の報告を申上げる譯でありますが、この前の總會開催以來今回に至ります迄の詳細に付きましては、既に會報竝に彙報を以てお知らせ申上げてをりますから、これを繰返すことを時間の節約上省略致したいと思ひます。どうぞそれらの會報竝に彙報に就て御承知願ひたいと思ひます。

議事の方法に付ては理事會に於てこれを決定することになつてゐるのでありますが、先例によりまして總會の他に議

題により第一部會、第二部會の二つの部會を設け、部會に於ての討論、論議の詳細は更に總會に報告を願ふことにしたいと思ひます。就きましては第一部會の議長には工學博士の佐野さんにお願ひしたいと思ひます。第二部會の議長は先例により京城府の總務部長の松島さんにお願ひしたいと思ひます。その點御了承を願ひます。本會議の性質上從來通り總會に於きましては、採決とか決議とかいふことは致さないのはこれ亦先例通りと御承知願ひたいと思ひます。

#### 四 主報告者研究報告

以上を以て議事を終り、直に主報告者の研究報告に入る。乃ち先づ第一議題都市計畫の基本問題に關し、「現下都市計畫の緊急問題」と題して内務省計畫局長松村光磨氏、「朝鮮に於ける都市計畫の特異性」と題して朝鮮總督府内務局土木課長榛葉孝平氏の各報告あり、午後零時五分議長休憩を宣し、府民館中講堂に於て午餐。

午後一時再び總會を開き、引續き第二議題都市の經費問題に關し、「經費の合理性と必要性」と題し元東京市助役、元秋田縣知事菊池慎三氏、「都市經費の實證的考察」と題して大阪市助役關西大學講師森下政一氏の各報告あり、了りて議長より小憩の後部會に移る旨を宣し、午後三時一旦總會を閉づ。

以上主報告者の報告内容は便宜上別項として第三篇中に收む。

#### 五 部 會

午後三時二十分より議題毎に會場を分ち、部會に於ける研究報告討論に移り、第一部會は前記總會場をその儘使用、第二部會は府民館に隣る朝鮮遞信事業會館講演室に於て開會、會員は其の任意の選擇により何れかの部會に出席す。部會兩議長は前掲總會に於て決定せる所に從ひ、第一部會は工學博士佐野利器氏、第二部會は京城府總務部長松島清氏夫々その

任に就きたり。

第一部會に於ては參集會員四百餘名、豫め通告ありたる順序に從ひ、一名宛十五分程度を以て會員の報告討論を行ひ、内務省囑託西村輝一氏外三氏の報告討論あり、午後四時三十分同部會を閉づ。

第二部會に於ては參集會員約二百名、第一部會と同様の方法にて、京城府第一部會副議長濱田虎熊氏外三氏の報告討論あり、午後四時二分同部會を閉づ。

以上兩部會の報告討論内容は、便宜上別項として第三篇中に收む。

#### 六 京城府尹招待會

各部會終了後直に、一同會場に南隣する德壽宮に於ける京城府尹の招待會に臨み、佐伯府尹及篠田李王職長官の挨拶、堀切會議理事の參會者を代表しての謝辭の後、苑内にしつらへし宴席及び多數の模擬店に、厚き歡待を受け隨時散會す。

## 第二總會 第二日

### 一 序 説

十月十一日（火曜、晴天）午前九時を以て、前日に引續き京城府民館大講堂に總會第二日を開會す。

### 二 特別議題報告

午前九時、前日の總會場に總會を再會し、特別議題報告「事變と都市の厚生（社會・衛生）對策」に付厚生省衛生局長

林信夫氏登壇、主として時局下に於ける厚生行政の重要問題に關し報告あり。了りて議長右報告に對し、意見交換ありたき旨を宣し、濱松市會副議長岩崎豐氏外一氏の質問並に意見開陳あり、了りて議長之より部會に移る旨を宣し、午前十時五十一分一旦總會を閉づ。以上報告内容は第三篇に收む。

### 三部 會

第一部會は午前十一時七分より、第二部會は午前十一時五分より、前日に引續き夫々の會場に開會す。部會の構成、報告、討議の形式議長其の他總て前日に同じ。

第一部會に於ては參集會員四百餘名、第二部會に於ては二百餘名、何れも通告順に従ひ報告討議ありて、第一部會は午前十一時五十二分、第二部會は午前十一時五十七分、各午前の部會を終了休憩に入り、別項朝鮮總督招待會に臨む。

午後よりは、第一部會午後一時三十七分、第二部會午後一時三十分より、午前に引續き各其の會場に開會、第一部會に於ては朝鮮總督府技師島井捨藏氏外八氏の報告討議ありて、午後四時五分同部會を閉じ、第二部會に於ては、東京市企畫局芦田勳氏外八氏の報告討議ありて、午後三時四十八分同部會を閉じたり。

以上兩部會の報告討議内容は第三篇に收む。

### 四 朝鮮總督招待會

同日正午參會者一同府民館中講堂に於ける朝鮮總督招待會に臨む。南總督におかれては親しく御臨席の上四十分餘に互り左の如き挨拶あり、參列者に多大の感銘を與へられたり。尙之に對し參列者を代表して堀切會議理事謝辭を述べ。

今日は、都市問題に關する全國の權威者各位が我が京城に集られたのを好機に、歡迎の意を表する爲に此の粗席を設け御招き申上げました處、斯く多數御臨席の榮を頂きましたことは、私の満足に存する所であります。

都市問題を通じて常に國家社會の諸動向を明察されつつある各位には、我國における特殊重要地域たる朝鮮の意義に就ては既に御承知のことであると存するのですが、現下我が帝國の曠古未有なる規模の遂行に邁進しつつある一大聖業と關聯して朝鮮の有つ使命に對して新たな再認識が必要であると存じますから、此の機會に若干の所見を申述べ會議中及會議後半島御視察の御參考に供したいと存じます。

其の一は朝鮮統治の眞諦其の二は朝鮮の特殊使命であります。我國は維新開國によつて遅れ走せ乍ら國際の舞臺に乗り出しましたが、當時の環境は列強の侵蝕から東亞を保全し東洋平和の基礎を確立することが緊急の問題でありました。日清日露の兩大役は此の目的の爲に蹶起したのであり、韓國併合も亦實に此の爲に實現したのであります。

今日、昭和に入つて滿洲事變に次で支那事變が発生したことも、明治以來東亞の安定勢力を以て任じ、東亞全體の保全と平和とを以て自らの休戚とする帝國の一貫せる國是に出づるものであつて、遠くは神武肇國の大理想たる「八紘一宇」の具現であり、近くは明治大帝の聖謨に發し、之を奉遵する國民の父兄より子弟に先輩より後輩にと建業の企圖を相繼いで之を成就しつつあるものであることは私の申上げる迄もない所である。我々現代の國民が父兄先輩に對する大責任、同時に後につづく子弟後輩に對する大責任に於て現事變を徹底的に解決し、根本塞源的に東亞の天地より災ひの根を斷つべき使命が茲に存することも亦明かであります。

斯様に我が國の大陸政策は理義明白にして且つ一貫不變のものでありますが、然らば此の朝鮮は帝國の大陸政策上如何なる意義、いかなる使命を有するかといふに自ら地形がそれを暗示して居る様に思はれます。

アジア大陸中、東亞の部分に對して我が日本本土は太平洋上に恰も防波堤の如く布列し、世界から打寄せる荒波を防

いで居るかに見え、朝鮮半島は内地から大陸に上陸する棧橋の形をなして居る。昔民族の移動又は文化東漸の時代には主として大陸から半島を経て日本内地に流入したのであるが、今や日本國內に溢るる力、文化、人口、經濟等の力は逆に大陸に向つて流れ出す歴史の段階となつたのであります。

また歴史上の考證によれば、大和民族と朝鮮民族とは同根に近き關係にありまして、韓國併合の皇謨は偶々此の因縁深き兩民族をして往古の關係に還元せしむるの深き意味を寓し隨つて併合の御趣旨は「一視同仁」にあり、歴代爲政當局は皆此の聖旨を奉體し、半島民衆をして速に内地の國民と同様の生活水準に引上げ、同様の福祉を享受せしむることを目途として、苦心相承け努力を拂つて今日に至つたのであります。既に血縁的な歴史關係及び併合の御趣旨が以上の如くでありますから朝鮮統治の根本方針は當然「内鮮一體」の強化徹底になければなりません。これ朝鮮統治が白人國家の有色人種を被支配者とする屬領に對して行ふ植民地行政と根本的に相異なる所以であつて、朝鮮を以て植民地と呼ぶことの如き全く當らず、況んや西洋式植民政策の概念を以て朝鮮統治を計量せんとするが如きは、我が崇高なる道義立國の精神を解せざるものであります。

西洋諸國が其の植民地に臨むや、表面被治者の傳統と自由とを尊重するが如き外觀の下に、能ふ限りその智識、能力の水準を低き段階に停め、以て巧妙にその搾取を繼續せんとすることを通例とするのであります。之を我朝鮮統治の如く全力をあげて速かに母國民の生活水準までに引上げ、一國家一家族の關係に於て共に福祉を均霑せしめんとする我が施政に比すれば其の差千里も雲ならざることを理解するべきであります。

過去二十八年の朝鮮統治は一視同仁の聖旨を奉體し有ゆる困難に耐え半島同胞をして内地國民と同様の智能及生活水準に引上げねばおかぬといふ唯一の「誠」に由て官民共力今日に至りましたが其の醞釀は滿洲事變を契機として人心の上に顯著な變化が生じて参つたのであります。これは内に於て四半世紀に亘る統治の誠心が漸次了解されて來たことと

外に於て帝國の大陸問題に臨む不動の態度の中に、共同の理想、共同の使命、共同の運命を感得するに至つたことを主要の動機とするものと見らるるのであります。此の動向は今大支那事變となつて更に顯著となり、皇國臣民としての國民意識に於て内鮮人眞に文字通り一體となるといふ思想態度、生活態度に推し移つて参つたのであります。其の結果として銃後國民としての愛國運動に各種の形を以て表現され、内鮮人感激を共にして心の底から手を握り合ひ、今日此の美はしい情景を展開して居る次第であります。此の如き機運に依て朝鮮には陸軍特別志願兵制度及教育上に於ける内鮮の區別撤廢といふ統治史上劃期的なる二大制度が實現し、誠に對しては誠の反應があるといふ事實が示されたのであります。併し半島における人心の動向としては未だ凡ての人々が日本國民たるの心境になり切つたとは謂ひ難き時期であつて、此の現状に對し當局者も民間指導者達も相共に協力して半島同胞の全部が一日も速に皇國臣民たるの自覺と矜持とを有つ様に啓導を行つて居ります。

物體は轉び出すまでが他の力を要し、一たび轉び始めればそれ自身の力が加はつて機運で行く様に、既に一定の方向に移り始めて半島の人心はおそらく加速度を以て皇國臣民化の道程を急ぎ、遠からざる將來に於て今日を顧み更に隔世の感を懷く様な渾融の状態に立到ることを私は信じて居るのであります。この意味から考へても、一般内地人の朝鮮に對する理解が深まり内地等に在住する朝鮮人に對する認識を改むると共に、朝鮮に移住する人の數が殖えて、内鮮人の生活の接觸面を擴大することが必要である。幸ひにして朝鮮には近年産業勃興の時代を迎へ、職業供給の力も俄に増大致して参りましたから、内地の優秀なる分子が續々來住するやうに機運を促して戴きたいのであります。

朝鮮統治の成績は、今後帝國が解決せんとする大陸問題の上に極めて巨大なる意義を有つことを考へねばなりません。即ち八紘一字の精神、皇道日本の精神が一たび外に向つて働く時には如何なる實果を結ぶかといふことが、單に言葉でなく實體を以て示されつつあるものが、我が朝鮮の現状であります。又滿洲國に對しては日滿不可分一體の緊密なる關



係に於て支那に於ては親日滿と防共とを旗幟とする新政權の發展擴大を見んとし、所謂日滿支提携、東亞民族大團結の機運が戰果の擴大に伴ひ愈々濃厚となつて參つたのであるが、此の三國提携の道義的基礎をなすものは、西洋流の搾取原理、強食弱肉の原理にあらずして、實に東洋政治理想の粹としての我が皇道精神に外ならぬのであつて、此の皇道精神の外延的關係に於て活きたる先例を示しつつあるものが、我が朝鮮の實體現狀であると斷言し得るのであります。

今次事變に際し朝鮮は軍の出勤、輸送等の上に重要な役割を果し來つたのみならず、主として食糧、雜貨等相當量の軍需物資を北支方面派遣軍に供出するを得たのであります。併しながら支那事變に關聯し、東亞の將來にのしかかつて來てゐる險惡なる環境の狀勢に想到するとき、廣義國防の上に荷ふ朝鮮の任務といふものは斷じて今日の産業經濟の能力に甘んじ得ないことは明かであります。

即ち一面に於て大陸前進に於ける人的物的資源の補給を考へまするに情勢の變化を考慮に入れずして舊態依然として悉く内地の補給に俟つが如きは、時間的にも距離的にも極めて迂遠であつて大陸の足場たる朝鮮の内容を充實する緊要性が首肯されることと存じます。又他面に於て之を考ふれば内地と朝鮮との間に横たはる海面に就ては固より帝國海軍の偉力に對し國民は滿幅の信頼を置くとは言へ、空軍及潛水艦の發達せる今日、而も日本海の對岸にソ聯の空海根據地があつて匕首を我が横腹に擬しつゝある狀勢下に於て、海上輸送の絶對安全を保持し得ざる場合なきにしもあらず。帝國版圖中唯一の大陸接壤地域たる朝鮮に、或る場合、或る期間大陸作戰軍の軍需を賄ひ得べき産業力を培ひ、以て將來の事態に備ふべきである。これ年來私の胸中にある前進兵站基地論の出發點をなすものであります。幸にして朝鮮には幾多の重要な資源があり、開發の條件が備はつて居ります。地下には内地に無く、又乏しい礦物が豊富に於て横はつて居る。谷梁山脈系には豊富なる水力電源がある。農林水産に亘る工業原料も豊富にある。安い工場敷地と勞力とがある。交通運輸機關も急激に發達しつつある。斯様な條件の綜合の上に、朝鮮産業は滿洲事變以後顯著な勢を以て飛

躍的な發展を遂げて參りましたが、今後一般の朝鮮に對する認識が加はるにつれて輕工業、平和工業の外にも重工業、精密機械工業等の軍需産業が比々として擡頭すべき時期を迎へんとしつつあるのであります。

前月總督府におきましては内鮮、滿、支に亘る凡ゆる方面の權威者百餘名から成る時局對策調査會なるものを開催致し、今後時局の推移に對處し、帝國の國策を分擔すべき重要事項に付諮問し、有力なる答申案を得ましたから、私の抱持する方針と一致するものより之を採用して着々實現を期せんとする過程に在ります。

勿論日滿支經濟ブロック構成の一員としての職能を最大限に發揮し、朝鮮の使命を果さんとするものでありまして、人的、精神的なる意味に於ては内鮮一體の深化、物的經濟的なる意味に於ては前進兵站基地としての使命遂行、此の二つが私の施政に臨む二大方針となつてゐる次第であります。斯様な時期にありますが故に、都市問題より見んか、新都市の出現（羅津、興南の如き）や、舊來の都市の膨脹（京城、平壤、清津其他）等、顯著なる特徴をなすものであります。従つて内地先進都市の先例に倣ふべきもの又は新なる様式を創始するに適するもの等、各位の専門眼より見られて指導を要し研究に直するもの尠からぬことと存するのであります。

どうか、大なる國策を負荷しつゝある朝鮮統治に寄與せらるる意味に於て、朝鮮都市の改善發展に協力を吝まれざらんことを望みます。

以上を以て私の御挨拶と致します。終りに盃を舉げて皆さんの御健康を祝福し度いと思ひます。

## 五 朝鮮事情紹介映畫舞踊の會

兩部會終了後、京城府の提供により府民館大講堂に於て、朝鮮事情紹介の爲、映畫「躍進朝鮮」「朝鮮風俗」の上映、竝に朝鮮舞踊「春舞」「四鼓舞」「僧舞」「劍器舞」の上演あり。

## 第三 總會 第三日

## 一 序 說

十月十二日（水曜、晴天）總會第三日は午前を總會に、午後を實地視察に充て、先づ前日に引續き總會に入る。

## 二 特別 報告

總會第三日は午前九時開會、直に朝鮮總督府政務總監大野綠一郎氏の「日滿支都市の連携」——主として經濟的文化的協力に就て——の演述あり、其の内容は便宜上別項として第三篇に收む。

## 三 部會の報告討議經過報告

特別報告に引續き、議長は第一日及び第二日に行はれたる部會經過報告あるべき旨を宣し、第一部會に關し佐野第一部會議長より、次で第二部會に關し松島第二部會議長より、夫々の部會に於ける報告討議經過報告ありたるが、其の報告内容第三篇に收む。

## 四 會議理事互選

部會經過報告を了り、議長は議事に入るべき旨を宣し、會議規約第四章に定むるところに依り、前總會に於て互選せられたる理事は本總會終了と共に任期満了となるを以て、新に理事二十名以内の互選を行ふことを諮る。時に東京市紀元二

千六百年記念事業部長谷川昇氏より、理事の員數及び其の選定は議長に一任すべき旨動議し、滿場の賛成ありて議長左の通り理事二十名を指名報告し、滿場之を容れたり。

内務省地方局長	内務省計畫局	都市計畫兵庫地方委員會	都市計畫宮城地方委員會
朝鮮總督府內務局長	東京市長	大阪市長	京都市長
名古屋市長	神戸市長	横濱市長	新潟市長
岐阜市長	門司市長	京城市長	臺北市長
日本橋區長	埼玉縣大宮町	社團法人日本建築協會	社團法人東京市政調查會

尙この時、次回總會開催地決定に關し臺北市助役矢上純雄氏より動議あり、議長次回開催地は新任理事會に於て決定せらるべきも、希望意見の開陳は差支なしと之を容れ、同氏は左の如き希望意見を陳述せり。

次回の本會議を臺北市に開催して頂きたいといふ希望を、豫ねて事務局宛に書類を以ちまして提出しておいたのであります。この際その希望する所を若干申述べさせて頂きたいと存じます。

臺灣は朝鮮に比較して從來から一般認識を得ることが非常に難しかつたのであります。その理由を考へますと臺灣が比較的遠隔の地にあることが一つ、それから領臺當時に流行しました惡疫又非常に針小棒大に傳へられました生蠶の被害といふやうな好ましからん事柄がありまして、非常に惡印象を以て迎へられた。併しながら既に改隸以來四十有三年を閉みしめて、臺灣の文化は著しく向上してをるのであります。産業に交通に衛生に教育に經濟に總ゆる部門に關し、日本文化の或る一部分をなしてをるといふ風に私は考へてをります。斯様な意味合から致しますと更に臺灣の有つ熱と光はこゝに産業の躍進を來しまして、更に／＼日本産業の重要な一部門をなすことを確信する譯であります。從來とも臺灣産業は日本の食糧問題に相當の貢獻をして來たのであります。更に軍事的方面を見ますと、今回の支那

事變には某方面に對して作戰基地であり又兵站基地であつて、軍事上重要な役割を果してをるやうに私共は見受けるのであります。都市問題に於ては既に後藤總務長官の時代に於て相當の計畫が立てられ、着々實行せられて來たのであります。時代の推移に従ひ、施設の充實といふことや或は商工業の振興に伴ひ從來の計畫に多少の修正を加へる必要を感じますと同時に、更にこれを擴大する必要を痛感してをる譯であります。従ひまして、これを廻ります色々の問題がそこに發生して、臺灣の各都市は現在これが打開に關し相當努力を拂ひつゝあるのであります。かかる實情に鑑みする時この都市經營の指導的立場にゐらつしやる皆様に親しく御渡臺を願つて、色々實地に就ての御指導を仰ぎますと同時に、帝國の南方の生命線であり、又帝國の南方發展基地である臺灣の實情を十分に御視察下さいまして、更に將來性を卜して頂くことが出來ましたならば、これに越した幸はないと考へてをるのであります。この意味に於きまして次の開催地を臺北に御指定を願ひますこと、は色々な意味に於て非常に意義があるといふ風に私共は考へてをる譯であります。こゝに皆様の御了解を得まして、御共鳴を願ひたいと存じ立たせて頂いた次第であります。

以上を以て議事全部を結了したるを以て議長其の旨を宣し一場の挨拶を爲して退席す。

### 五 閉 會 式

議事終了と共に、會議理事堀切東京市政調査會副會長登壇、會議事務局當事者として左の通り挨拶を述べ。

こゝに第六回全國都市問題會議總會の閉會式を行いますに當りまして、會議理事としての御挨拶を申し上げたいと思ひます。この度の總會は皆様方の非常な御熱誠によりまして、洵に立派な成績を胎してこゝに目出度く終了することが出來た次第であります。參會者は總計一千餘名に上り、本會議開設以來空前の盛會であります。朝鮮内は勿論内地、北海道、臺灣よりも多數參會者がありました。殊に滿洲國からも多數參會せられましたことは、内鮮一體、日滿一如をこの

所にも具現しました次第でありまして、洵に御同慶の至りに存じます。參會者諸君は極めて熱心に論議を闘はせ、平素御研究の結晶をこゝで御發表下さいました結果今回の總會は單り數に於てのみならず、その質に於てその内容に於きましても、非常に優秀な成績を得まして、將來の我が都市政策上に貢獻する所頗る多いことと存じます。從來の總會に較べまして、更に又一段の進歩を見たといふことを申上げて差支へないと思ひます。

この度の會議が京城に開かれるといふことが決定して以來、今日に至る迄又この後暫く京城府當局の與へられます御盡力は非常なものでありまして、我々はこれに對して御禮を申す言葉もない程の御厄介を掛けてゐるのであります。このやうな成功を收め得ましたことは、偏へに京城府御當局の御援助の賜物と我々深く感謝してをります。會員一同と共に厚く御禮を申し上げたいと思ひます。

朝鮮總督閣下よりは昨日圖らずも朝鮮統治の根本觀念に付きまして、洵に熱烈御懇ろな御訓話を拜聽する機會を得まして、我々一同感銘洵に深いものがありました。又政務總監閣下には本日わざわざこの演壇にお立ち下さいまして、特別議題の内容に付き我々に明確な指針を與へられ吾人を啓發されたこと極めて多かりしことに付きまして、洵に感謝に堪へません。厚く御禮を申し上げます。主報告者の方々は何れも斯界の權威者であらせられまして、この會に對して蘊蓄を傾けられて研究を御發表下さいましたことに付き本會の爲のみならず都市政策全般の上に極めて裨益する所が多かつたのでございまして、これ亦感謝に堪へない所であります。特に内務・厚生兩省に於かれましては、本會議の趣旨に共鳴せられまして、非常な御多忙の兩局長を特にこの遠隔の地に我々の爲に御派し下さいましたその御好意に對しまして、諸君と共に深甚なる敬意を表したいと思ひます。

この間事務局と致しまして、甚だ不行届でありまして、洵に恐縮に存する次第であります。總て京城府の御努力によりこゝ迄至つた次第であります。會期が短かつた爲に諸君の間には定めし思ふやうに御意見の御發表が出來なかつたで

ありませう。御不満のあることであらうと思ひますが、洵に、我々この點遺憾に存じてをる次第であります。時局の關係上已むを得なかつたこと、不惡御了承を願ひたいと思ひます。この度の會議の速記録は出来るだけ早くこれを作りまして、成るべく早く皆様方のお手許にお廻しするやうにしたいと考へてをります。これは既にお手許に差上げました研究報告と併せて今回の問題に對し、實際家に取りまして、又學者に取りまして、洵に貴重な研究資料が出来たと、確信致す次第であります。どうぞ各都市の實際家に於かれてはその内容を適當にその土地に應じて攝取・吸收せられまして、實行の方途に向ふことの速かならんことを希望致します。學者の方々にはこの材料を基礎とせられまして、更に研究を進められむことを希望してやみません。この資料は一般の都市政策の上にも、又朝鮮の都市の今後の進み方に付きまして、相當な貢獻を齎らすであらうと信じて疑はない譯であります。

こゝに總會を閉ちますのに惜しいやうな感じもするのでありますが、連日の諸君の御熱心なる御討議に對しまして厚く敬意を表しまして、總督府並に京城府御當局の御好意に對し深甚なる謝意を表し、本總會の成果を諸君と共に祝しながらこゝに閉會をし、諸君とお別れする次第であります。お互に銘々それ／＼の分野によりまして時局下の御奉公を務めますやうにしたいと思ひます。諸君の御健康を祈りまして、この會を閉ちることに致したいと思ひます。

次で佐伯京城府尹登壇、開催地府尹として左の通り挨拶あり。

閉會に當りまして一言私より御挨拶申し上げます。

今回の會議に付きましては、會場その他設備萬端非常に不行届でありましたにも拘らず、多數の御參會の會員各位連日御熱心に會議せられ、唯今副會長堀切閣下より色々お褒めの言葉を頂きます迄に非常に盛大に終了しましたことに付きまして、謹んで御祝を申上げる次第であります。尚ほ色々不行届の點お許の程を重ねてお願い致す次第であります。

今回の會議に於きまして色々御發表に相成り、報告・討議せられましたことにより、當京城は勿論の事、戦時非常時

局下に於ける朝鮮の各都市の建設・經營方面に付きまして、非常に大きな示唆を與へられましたことを深く確信致す次第であります。京城府と致しまして色々その示唆に付きまして、これをよく消化研究し、朝鮮に於ける都市行政上に光輝ある足跡を留めるやうにしたいと存じてをる次第であります。何卒今後も宜しく御示教・御協力の程を切にお願い致す次第であります。

尚ほ本日より京城府内に於きます二・三の施設を御覽頂くのでありますが、どうぞ忌憚なく御批評御高教の程をお願いしたいと存じます。尚ほ旅館その他萬般のことに付きまして色々混雜を致し、御不便を與へたことと存じます。何しる初めてのことでありますから、不慣れの者ばかりでございます。何卒この邊も不惡お許をお願いしたいと存じます。終りに臨みこの全國都市問題會議が將來益々隆昌に赴きますやうに、尚ほ會員各位の御健康をお祈りしまして、私の挨拶を終りたいと存じます。

尚、次で京都市企画部長中村三之助氏より、參會者代表としての謝辭を廣島市長横山金太郎氏に煩はしたき旨提言あり、満場の賛成を得て横山市長より左の通り挨拶あり。

御指名によりまして皆様のお許を蒙り參會者側を代表して、一言御禮を申上げる光榮を有します。第六回全國都市問題會議總會を御當地に開催せられまして、去る十日より十二日迄に亘り、その間總ての行事が滞りなく相濟みまして、就中各種の議題に付て會員諸君に申すのは洵に失禮の至りでございますけれども、眞摯なる態度を以てお臨みになり、而も熱誠籠めて檢討審議を重ねられまして、洵に順序よく極めて圓滿裡に會議を終りましたことは、御同慶の至りに堪へない次第であります。これ偏へに主催者といふよりも、開催地御當局たる京城府並に會議事務局の周到なる御準備とそして御幹旋の下に、而も南總督閣下初め朝鮮總督府その他各關係の御方面の多大なる御好意と御努力の結果に外ならぬと存じ、洵に有難く存じます。謹んで御禮申し上げます。特に留意すべきは第一議題、第二議題の主報告並特別

報告に付て斯道の權威者であられる閣下竝に各位が各問題に關して忌憚らない御高見を御披露せられ、豊かなる御報告と御經綸をお示し下さり由つて以て私共をしてその趣み所を知ることを得せしめたことを、ここに滿腔の謝意を表しますると同時に、今後一段と奮勵、精進をしまして、その尊い趣旨に副ふべく最善の努力を致すべくお誓を致します。

甚だ簡單でござりますが、これを以て御挨拶の言葉と致します。

最後に大野朝鮮總督府政務總監の發聲により 陛下の萬歲を三唱し、午前十一時、三日間に亘る總會を閉づ。

## 六 實 地 視 察

午後は京城府計畫に基き二個の視察班を編成し、豫め視察希望者の選擇通告を得て、その所屬班を定めたる上、全コースを京城府提供のバスに分乗、同府掛員の懇篤なる説明を得つゝ、左記の通り夫々視察を遂げたり。

第一班 参加人員二四二名、午後一時京城府民館前に集合、バス十五臺に分乗、先づ一同朝鮮神宮に参拜し、社頭より京城市街を鳥瞰し、次で樊忠壇公園丘上なる博文寺に詣づ。景色を愛づる少時、南山裏住宅豫定地に至る。車上にて掛員より附近開發狀況につき説明を受けつゝ、松林をぬけて漢江の近くに到り車を引返し、次で昌德宮庭園なる祕苑に至る。こゝは本總會参會者の爲特に李王職に於て拜觀の許可を與へられし所にして、一同その美觀に打れつゝ、樓閣散在する綠濃き老樹の間を散策。更にバスを馳せて敦岩町土幕民部落（不良住宅地及區劃整理地帯）に至り、府土木課員より附近土幕民部落並其の改良計畫の説明を受く。更に車上清涼里新興地帯を一巡して、公設蔬菜洗滌消毒場に到り、府掛員の説明を受けつゝ、京城獨特の保健施設と其の消毒作業を見る。次で厚生施設の一としての京城綜合運動場を視察、同所にて茶菓の接待を受け、かくして長谷川町朝鮮銀行前に歸着、午後六時解散。

第二班 参加人員一七八名、午後一時京城府民館前に集合、十二臺のバスに分乗、先づ朝鮮神宮に参拜し、次で景福宮

に至る。同所現存の勤政殿、思政殿、慶會樓、光化門等の説明を聞き、一同懷古の情をよるものあり。次で阿峴に至り屎尿地下流送設備を京城府梶山都市計畫課長より詳細なる説明を受けつゝ視察。次に麻浦江岸にて堤防施設等を、漢江にて漢江橋を檢討。次に東上より京城新興地帯の雄たる永登浦工場地帯の説明を得つゝ、鐘紡京城工場に至る。同工場の宏大なる規模と作業狀態等を視察したり。次で一行を朝鮮麥酒會社工場班と昭和麒麟麥酒會社工場班とに分ち、夫々工場施設を見學す。鐘紡工場、兩麥酒工場ともに懇切鄭重なる接待を以て一行を遇せり。かくして長谷川町朝鮮銀行前に歸着、午後六時過ぎ解散。

## 第四 任意視察並鮮内及滿支視察

### 一 任 意 視 察

京城府は總會終了の翌十三日、更に希望者を募りて、左記三個の任意視察班を編成し、引續きバスを提供、案内接待等懇篤なる接遇の下に有意義なる視察を爲す便宜を與へられたり。概況次の如し。

第一班 参加人員五一名、午前九時二十五分京城府民館前出發、先づ朝鮮總督府に至り廳内大ホール並會議室等を參觀し更に雨を衝いて、同廳に隣る朝鮮總督府博物館に至り、館員の懇篤なる説明を聞き、續いて景福宮址なる勤政殿、思政殿、慶會樓、光化門等を參觀したり、こゝを終りたるころより幸ひ雨は止みて薄曇りとなる。而して校洞小學校（半島兒童初等學校）に至りて校長より同校の沿革並現況につき説明を受け、授業中の各教室を參觀、次に京城府立府民病院（施療及輕費診療）に於て院長の案内にて各病室を視察す。こより更に昌慶苑にバスを馳せ第二班の到着を待つ。

第二班 参加人員四十四名、午前九時、德壽宮正門前に集合、先づ德壽宮内の李王家美術館を參觀、終つて同所よりバス

に分乗し、恩賜記念科學館に至り、説明を聞きつゝ同館内を參觀、次で商工獎勵館に向ふ。同館は總督府の所管にして、主として朝鮮の生産品を又參考として内地の製品を陳列しあり。同所を參觀後、京城府水産市場に到着、府掛員の説明を聞き場内を一巡したり。更に其所を出で府立順化病院(傳染病院)に至り院長の案内にて病棟並諸施設を見る。次に徳壽小學校(半島兒童初等學校)にて、兒童の體操並女兒の舞踊等を見、朝鮮初等教育の現況につき認識を高むるを得たり。次で昌慶苑に到り、苑内にて第一班と共に京城府接待の晝食をとり、苑内動物園を見物す。

以上を以つて豫定の視察を了りたるも、更に第一、第二兩班より、朝鮮總督府陸軍兵志願者訓練所見學の希望者を募り、三十九名の参加を得てバス四臺に分乗し、泥濘の悪路を遠く同訓練所に向ふ。所長以下大なる喜びを以て迎へられ、先づ講堂にて所長海田少佐より詳細なる説明を聞き、次で所内を見學、更に生徒代表の挨拶並に木刀體操を見その真摯精勵に心打たる。午後四時半長谷川町朝鮮銀行前に歸着、解散す。

第三班、参加人員一三〇名、午前九時京城府廳前に集合、バスに分乗し一路仁川に向ふ。京仁道路沿線工場地帯につき東上説明を聞きつゝ、仁川埠頭に到着、直に開門式築港の見學を爲し、次に港内に浮べる月尾島に到り、仁川港第二期施設を一時に眺望す。終つて同府公會堂に於て仁川府尹の府勢に關する詳細説明ありて後、晝食の接待を受く。了つてバスにより一路京城府廳前に歸着、午後四時過ぎ解散したり。

## 二 鮮内及滿支視察

京城府に於ては、總會後に於ける一般參會者の鮮内及滿支各地視察に對し便宜を計る爲、豫め希望者の申込を受け、十月十三日夜京城發の左記四班を編成し、夫々掛員を派し案内の勞をとられ、更に右以外鮮内、滿支單獨視察希望の向に對しても、單獨視察通告票の提出を求め、滿洲國の諸當局、ジャパントリーストビュロー、京城、北京、天津各案内所其他

の協力を得て、斡旋する所あり、視察先たる鮮内及滿支の各地當局亦視察者を迎ふるに歡待と便宜供與とを以てせられたり。

### 一金剛山

十月十三日夜 京城發 十四日 朝 溫井里着視察同所に一泊 十五日終日視察 同 夜 溫井里發

十六日 朝 京城着解散の豫定

### 二慶州方面

十月十三日夜 京城發 十四日 朝 大邱着 直に慶州行に乘換 慶州着視察同夜佛國寺一泊

十五日 佛國寺及石窟庵視察 解散

### 三北鮮方面

十月十三日夜 京城發 十四日 朝 咸興着 終日咸興及興南一帶視察 同日夜行にて咸興發

十五日 朝 清津着同地視察 連絡自動車にて夕刻羅津着同地視察の上一泊 解散

### 四西鮮方面

十月十三日夜 京城發 十四日 朝 平壤着視察 同日午後 平壤發 夜 新義州着一泊

十五日 新義州、安東視察 解散

## 第五 關係諸催

### 一 都市問題公開講演會



本總會開催を機とし、一般都市問題及び都市防空問題に就き府民の啓發に資すべく、京城府主催の下に十月十一日午後七時より、京城府館大講堂に於て都市問題公開講演會を開催せり。

聴衆五百餘名、京城府尹佐伯顯氏の開會の辭に始まり、「都市防空問題」と題して工學博士佐野利器氏、次で「兵站基地と都市の發展」と題して東京市政調査會副會長堀切善次郎氏の各講演あり、最後に京城府財務部長金永祥氏の閉會の辭を以て九時二十五分散會す。兩氏の講演内容は後掲の如く各種の文書に收められ廣く頒布せられたり。

## ニ ラ チ オ 放 送

朝鮮放送協會は本總會開催の機會を捉へ都市問題に關し全鮮の關心を喚起すべく、總會出席の東京市政調査會副會長堀切善次郎並に工學博士佐野利器多兩氏の講演放送をなせり。即ち堀切氏は、十月十日午後六時二十五分より「都市問題について」と題し、又佐野博士は同月十二日同時刻より「防空と建築」と題し、京城中央放送局より放送せり。

## 三 大 京 城 座 談 會

十月十二日午後七時より朝鮮ホテルに於て、京城都市研究會主催の下に、都市計畫問題を中心に大京城の建設に對する批判及意見の交換をなす大京城座談會開催さる。出席者は本總會參加のため來鮮せる斯界の權威十餘氏の外、總督府、京畿道、京城府等の當局者並に都市計畫研究會會員にして合計四十名、左の如き事項に關し幾多示唆に富む所見の開陳ありて十一時散會す。

日滿支經濟ブロックと朝鮮の地位（鈴木城大教授）、朝鮮都市の國防上に於ける地位（井原朝鮮軍參謀）、工業誘致問題（甘藷京畿道知事）、内鮮滿支經濟上より見たる朝鮮及京城（賀田京城商工會議所會頭及佐野博士）、都市計畫と都市施設

（菊池眞三氏）、中京より見たる京城（花井名古屋市土木部長）、大連より見たる京城（貝瀬大連市會議長）、滿洲の産業と都市問題（武内國務院內務局管理處長）、新京より見たる京城（溝江奉天市工務處長）、その他堀切善次郎氏、長郷京城府工務部長、司會者谷都市計畫研究會々長。

尙同座談會の内容は、その後主催者京城都市計畫研究會より「大京城座談會速記録」と銘して公刊せられたり。

## 四 都 市 關 係 の 圖 表 展 示

京城府に於ては總會期中京城府民館内に、都市計畫其他都市に關する各種圖表、統計、模型等を陳列し隨時參會者の觀覽に供したり。出品種目左の如し。

京城市街地計畫街路網及土地區劃整理施行一覽圖	一	都 市 計 畫 課
京城府市街地計畫人口豫想圖	同	
同 交通量調査圖	同	
同 交通事故發生主要街路表示圖	同	
同 交通事故果年表	同	
同 歲出決算額統計圖	同	
同 人口分布圖（昭和五年國勢調査ニ依ル）	同	
同 人口分布圖（昭和十一年末現在）	同	
同 交通機關利用到達時間帶圖	同	
同 工場 分 布 圖	同	
同 市街地計畫綠地計畫圖案	同	
同 京城市街地計畫下水計畫圖案	同	
同 防空計畫圖案	同	
同 地域計畫圖案	同	

第二篇 會議總說

同	永登浦教岩大觀土地區劃整理計畫圖	都市計畫課
同	京城府風致箇所圖	同
同	自然發達狀況圖	同
同	朝鮮各都市歲出豫算比較圖	同
同	各都市人口及面積比較圖	同
同	道路網圖	同
同	稼行鐵道分布圖	同
同	東亞交通網圖	同
同	京城府中心トスル交通略圖	同
同	全國諸都市風致地區面積一覽圖	同
同	京城市街地計畫永登浦運動場公園計畫	同
同	明治三十二年ノ京城市街(寫眞)	同
同	現今ノ京城市街	同
同	明治二十七年ノ南大門通	同
同	現今ノ南大門通	同
同	內鮮滿パンフレット	同
同	朝鮮各都市水道給水狀況一覽	同
同	累年統計表	同
同	京城府給水種別表	同
同	京城水道擴張上水道水源地(模型)	同
同	淨水場	同
同	京城府糞尿流送施設平圖	同
同	縱斷面	同
同	道路下水現況一覽	同
同	關東地方計畫資料	同
同	關東地方工業都市分布圖	同
同	關東地方工業都市分布圖	同

都市計畫東京地方委員會

木 課

道 務 課 課

第三 總會 第三日

同	關東近傍工產種別圖	同
同	東京市移入人口割合	同
同	東京市移入勞働者割合	同
同	交通機關別職工通勤距離圖表	同
同	通勤距離別職工數百分比累計圖表	同
同	工場制限地帶圖	同
同	勞働時間延數圖表	同
同	原料及材料總使用額圖表	同
同	電力使用額圖表	同
同	燃料總使用額圖表	同
同	帝都膨脹圖	同
同	朝鮮各都市市街地計畫圖	同
同	朝鮮市街地計畫施行箇所一覽圖	同
同	人口及面積圖表	同
同	咸興市街地計畫事業建築敷地造成地區現形及計畫平面圖	同
同	平壤第一土地區劃整理地區整理豫定圖	同
同	羅津市街地計畫第一土地區劃整理換地豫定地指定圖	同
同	第二土地區劃整理	同
同	咸興市街地計畫土地區劃整理第一區平面圖	同
同	第二區	同
同	朝鮮住宅寫眞及圖面	同
同	十二個年繼續シテ實施セル猩紅熱豫防注射成績表	同
同	火葬場寫眞	同
同	野菜洗場寫眞	同
同	府民病院寫眞	同
同	哈爾濱都邑計畫圖	同
同	全國都市問題會議事務局	同
同	京城府營繕課	同
同	衛生課	同
同	總 府	同

全國都市問題會議事務局

京城府營繕課

衛生課

總 府

## 第六 關係方面之協力

本總會に對し開催地當局京城府の拂はれたる努力は既述の如し。

朝鮮總督府に於かれては本總會の開催に對し多大の期待をかけられ當初より甚大なる援助を與へられ。殊に内務局鐵道局等の後援に負ふ所尠からざるものありたり。又李王職が祕苑等の拜觀を差許されたるを始めとし、朝鮮軍司令部、京畿道其他全鮮各道府、並各視察都市、朝鮮商工會議所、京城電氣株式會社、京城郵便局、京城都市計畫研究會、京城觀光協會、京城旅館業組合、ジャパンツーリストビュロー、朝鮮遞信事業協會等々の公私諸團體、又遠く滿洲國當局及同國各市が、或は各種資料印刷物の寄贈に、或は視察の便宜供與に、熱誠なる協力を與へられ、參會者の鮮滿に對する認識を深むる上に資益するところ尠からざりき。更に京城府内各新聞社が總會の前後を通じ、多くの紙面を割愛され、よく一般の啓發に寄與協力せられたり。

尙内務、厚生、拓務各省並内地外地各地方團體が主報告者の派遣に、研究報告の提出に、參會者の出張等に協力を惜しまれざりしことは總會の成果を擧ぐるに大なる力ありし次第なり。

以上各方面の援助協力を對し深き感謝を捧ぐ。

## 第七 總會參加者及び準參加者

總會參加申込者は一千三十三名の劃期的多數に上れり。但し當日參會上の手續を了せられたる會員數八百四十七名、之に參會を申込まれたる會員中出席せられざりしも總會費を納入して總會文書等の全部を受入れ所謂準參加の關係を結ばれたるもの七十五名、合計九百二十二名なり。其の氏名卷末所載の如し。

東京市議會

## 第三篇 報告及び討議内容

## 第一 主報告並に特別報告

### 一 序 説

前篇記述の如く、總會第一日に於ては主報告者四氏の研究報告、第二日に於ては特別議題報告、第三日に於ては特別報告ありたるが、其の内容要旨左の如し。

### 二 主報告内容

## 現下都市計畫の緊急問題

内務省計畫局長

松 村 光 磨 君

### 一 大都市の發展の統制と地方計畫

#### 一 大都市の發展

近代都市の發展は極めて著しく、其の勢は滔々として殆んど停止する所を知らざる狀況である。英國の如きは總人口の八割が都市人口である。我國に於ても國勢調査の度毎に都市人口が増加して居る。大正九年には市部の人口が一八%であつたものが、昭和十年には三二・七%になつて居り漸増の趨勢である。是は地方に於ける中小都市の發展も相當著しきものであるけれども、大都市の人口増加が殊に激しい爲である。如斯き現象は産業革命以來の必然の勢であつて産業發展の上からも文化向上の上からも利便が多く、殊に中小都市の發展の如きは大に望ましいものである。然しながら東京、大阪

の如き大都市が非常なる發展を爲すことに付ては其の弊害が極めて著しきものであることは十目の一致する所であらう。其の弊害は是を國家的に見れば資本の一方的集中、文化的施設の都市偏重となつて地方農村の疲弊を招來する。都市内部に於ても保健衛生上、誠に憂慮すべき現象を齎らす。交通上に於ても都心部方面の混雑は容易に之を救ふことが出来な。朝夕の所謂「ラッシュアワー」に於ける無駄の交通費と努力は非常な損失である。精神的にも享樂的氣分を多くして所謂文弱に流れ易く、國民の質實剛健なる氣象を維持することが困難となる。又都會に於ては經濟的自由、競争激烈なる結果極端なる個人主義を養成し多くの敗殘者を生じ延て各種の社會惡を發生せしむる。殊に地震、火災、水災等の天災が一度起れば其の慘害が集積して非常に大きくなるのみならず、今後の戦争に於ては我國の如き木造家屋の多い都市に於ては一度空襲を受けることになれば其の被害は蓋し想像するに戰慄を覺えるものがある。

斯の如き弊害があるにも拘らず大勢は滔々として都市が發展する。之は放任してよいものであらうか。何とか其の弊害を救ふと言ふ意味に於て大都市の發展を統制するの必要があるのではないかと思はれる。茲に於て大都市の發展の狀況に就て仔細に是を觀察すれば人口集積は其の大勢であるけれども。

## 二 人口の地方分散傾向

一方に甚だ弱いものではあるが人口の地方分散の傾向も是を觀取することが出来る。

1. 工場、地方の傾向 大都市の地價が段々高くなるので其處に工場の新設擴張が困難である爲又大工場は水を使うことが多いので大都市では充分之を得ることが困難である爲、又良い労働者を比較的安い賃銀で得ることが容易である等の爲、工場を地方へ持つて行く傾向がある。又工業港の發達が著しい、澤山の原料品を船に積んで直接工場の埠頭に陸揚げして是に加工し生産品は又直に積んで出す關係上、將來益々工業港は歡迎せらるゝであらう。

2. 大都市の郊外への發展狀況 大都市夫れ自身の發展狀況を見るに、中心部は高層建築物が増加して、其の晝間人口は非常に多いのであるが、其處に定住する人口即夜間人口は寧ろ減少する傾向がある。多數の人は電車其の他交通機關の利便な郊外の空氣のよい所に居住を求める傾向が多い。電車や幹線道路が郊外方面に開通するに伴ふて其の沿線にリボン狀に人口が増加して行く。又面積の擴大と共に大小の新しい中心即ち盛り場が出来る。

田園や緑地が都會の郊外にリボン狀の放射線の間に残ることは望ましいことであり、是を何とか維持することを考へねばならぬ。交通機關の發達を都市計畫の見地より統制する必要がある所以である。

3. 田園都市又はジードルングの發達 我國には其の模範的なものは殆んど無いと云つてもよいが斯くの如き氣持を以て大都市の郊外に小都市又は住宅地が經營開發せられて居るのを見ることが出来る。

4. 衛星都市の發達 大都市の附近に中小の都市が段々發達して來ることは顯著な事實である。其の中小都市は住宅地とし或は工場地とし或は別荘地とし或は遊覽とし其他種々の特色を有する異つた種類のものであるが、恰も太陽の衛星の如くに發達して來る大都市と衛星都市の間には田園が介在して誠に望ましい發達情勢である。

## 三 統制方法

以上述べた様な地方分散の傾向があるのを更に何等かの手段方法を加へて是を促進することが大都市の發展を統制し抑制する一の途であらうと思ふ。

一九二四年「アムステルダム」に於ける國際都市計畫會議の決議は大都市發展の統制方法に關する一の方針を示したものと考へられるのでこゝに是を御紹介申上げ度い。

(一) 大都市の無制限な膨脹は望ましくない。過大都市の發達狀態に鑑み都市の發展に對し警戒せねばならぬ

(2) 過大都市の發生を防止する一の方法として、衛星都市を設け分散せざることを考慮すべきである。

(3) 家屋が無限に連續し膨脹するを防止する爲に都市の既開發地域が農學、園藝、牧畜等の用途に供せらるゝ緑地帯を以て圍繞せらるゝことは望ましいことである。

(4) 交通の急激なる發達殊に自動車及乗合自動車の發達は都市の局部的たると都市相互間たるとを問はず將來の交通問題に對して特別なる注意を拂ふ必要を生ぜしめたのである。

(5) 大都市殊に大都市が接近して存在する場合又は大都市の周圍に數多の小都市が存在する場合には、其の發展の爲地方計畫を準備する必要がある。地方計畫の樹立に當つては(2)(3)(4)の事項に就て特に注意を拂はねばならぬ。従つて此の地方計畫は單純なる都市擴張計畫であつてはならない。區域全體が連續的に全部開發せらるゝことを豫防する様な設計であることを要する。

(6) 地方計畫は弾力性を有し、事情の變化に應じ隨時變更し得るものとする。然し變更は公益上必要ある場合に限り行はるべきものである。

(7) 都市計畫又は地方計畫に於ては其の計畫が効力ある限りは一定の目的を有する地域として定められた土地は必ず其の用途に供せらるべきことを確保し得る權限を與へられねばならぬ。

都市發展の統制方法は吾々が學問的研究によつて理想的方法是幾多容易に考へらるゝものであるけれども、愈々是を實現に移すと言ふことになるゝと其處に幾多の困難が伴ふものである。茲に於て私達は最も實行し易い方法を先づ考へることが肝要であらうと思ふ。

## 地方計畫

大都市と其の周圍の衛星都市の發達を合理的ならしむる爲に、一都市だけの都市計畫でなく、數十都市を一團のものとして綜合的に計畫することが必要である。是が地方計畫であるが是を更に廣く押し進むれば國土全體に其の開發利用の計畫を定むるもので是を國土計畫と呼んで居る。

地方計畫に於ては土地利用方法の制限、道路、鐵道其他交通網の計畫と其の統制、綠地、勝地の保存、各種公共施設の統一的計畫等を其の内容とすべきものであるが、土地の利用に對する強力なる制限は今日の我國に於ては實現する上に、相當困難があり考究を要するものがあると思はれる。

地方計畫法の制定と其の實行は望ましいものと思ふけれども、我國の今日の事情に適したものを採ることが最も大切である。

## 交通機關の統制

交通機關が都市の發展に密接不離の關係にあることは申上げるまでも無いことであつて、都市計畫上から此の統制を考へることは刻下の急務である。

都市計畫の見地よりすれば各種の交通機關を合理的に配置しなければならぬし、其の網の作製には都市發展の將來を按んじて慎重なる考慮を拂はなければならない。又其の「スピードアップ」の如きは都市の形成に影響する所が最も多い。我が東京に於ける交通機關は都市計畫と離れて發達して居る様に見られることは遺憾至極である。今春議會を通過した交通事業調整法は都市計畫と交通事業とを結びつける一の使命を有するものと見られる。

## 工場の新設の統制



工場地方分散の傾向を助長する爲又人口の集中を防止する爲に大都市内外の一部地域に工場の新設を制限することが考へ得る問題である。又地方未開發の地域にして工場に最も適當したる土地には何等かの方法を講じて工場を誘致することも考へられる。朝鮮に於ては工場敷地造成の爲に土地收用法を適用し得る様に最近法制を立てられたと聞いて居るが、是も其の方法の一である。

### 大都市を環る公有緑地

大都市の内外に多くの緑地を保存することは、最も望ましいことである。大都市の周邊にある田畑山林等を其の儘緑地として保存する爲民有地に權利の制限を行ふことを主張する論者もあるけれども、今日我國の情勢では殆んど實現困難なことであらうと思はれる。寧ろ是は國又は公共團體に於て買上げて所有權を移して保存することが比較的容易に實現するであらうと思はれる。

歐米各國の大都市を見ると何れも其の外周に廣大なる公有の緑地を所有して居る。「モスクワ」、「ベルリン」の如き其の模範的のものであつて「ロンドン」の如き最近更に廣大なる環狀緑地の獲得に多大の經費を投じて居るのである。

此の緑地の公有獲得について我國の現在の都市計畫法制は遺憾の點があるので、其の改正を斷行して是の實現を容易にすることは刻下の急務であらうと思はれる。而して此の計畫は實現一日早ければ夫れだけの利益があるであらうと思ふ。

都市計畫東京地方委員會に於ては此の會議に別に發表せられた様な公有緑地帶設定の計畫を立て居るのであるが、其の實現は努力を要するものあることは勿論であるが必ずしも困難な問題ではなからうと考へる。

其の詳細な計畫案は東京地方委員會の發表を御研究を願ひたいのであるが、此の緑地の獲得は宅地を除いた田畑山林を買ふのであつて、買收後は其のまゝ是を小作に付して置くことにすれば農家も困らないであらうし、小作料収入もあがる

譯である。或部分は運動場とし、或は動物園とし、或は學校園とし、或は工場會社従業員等の農園とすることも出来る。學校とか試験場は此の環狀緑地の中又は附近に持つて來れば萬事都合がよからうと思ふ。

## 二 防空上の見地から要求せらるゝ都市構築

封建時代に於ける城下町は大體戰爭を考へて城の防備を基礎として都市計畫が樹てられ町が出来て居つた様に思はれる。

飛行機の發達は戰爭の方法に一大變化を齎らして、遠く後方の本國重要都市を襲撃することが必然の勢として考へらるるのである。従つて是に對する防備を都市構築の上に於て考へねばならないことになつた。防空上から都市計畫、都市構築に付て要求せらるゝことは極めて多方面に亘つて居るので、其の總べてを此處に申述べることは出来ないが、其の最も重要な問題に付て申上げたいと思ふ。

### 一 都市内部の分散疎開と空地の保持

都市内の空地が都市民の保健上重要な要素であることは言ふ迄もない。特に我が木造家屋の都市にとつて平時の火災は勿論空襲時の火災のことを考ふれば猶一層重要である。更に空地率が増大すれば増大する程空襲に依る投下彈の命中率を減少し得ることは當然である。防空上の見地から都市内の空地の保持は愈々重大性を加へた。然るに都市の現狀は是に反して年を追て空地が填められつゝある。今根本對策をとることが極めて重要である。空地は公園綠地等面積のものが一番良いのであるが各個の家、工場等につきて相當の空地をとることが更に必要である。本年春の議會を通過した市街地建築物法改正にも此の問題を取上げて第十一條に一項を加へた。

「主務大臣必要ト認めルトキハ空地地域ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ニ付床面積ノ敷地面積ニ對スル割合及敷地ノ疆界線ヨリノ距離ノ限度ヲ定ムルコトヲ得」

即ち市街地建築物法に依れば、原則的に用途地域の指定があれば夫々空地保持の規定があるけれども、更に是以上の空地を持つことを定めることが出来る様になつた譯である。空地地域の眞の趣旨を徹底する爲には相當廣い範圍に亘つて、此の空地地區を指定する必要がある。殊に郊外方面未建築地には今からは是を用意しておけば密集を避けることが出来て立派な住宅地が出来る。勿論此の規定はもとから無いわけではないが運用に不便があつたのをやりよくしたものである。

尙建築物法の關係法令の改正に依つて工業地域の密集を緩和する爲全體としての空地率を三割から四割に改正したいと目下研究中である。

## 二 防火地區の擴張

防空上からの理想から言へば都市の中心部は全部を防火地區として耐火建築物とすべきものと思ふけれども、我國の現状からは相當困難があり、又今日に於ては物資の統制を受けて居るので、實現不可能であるが、此の問題は今日から研究しておかねばならない。

## 三 防火區劃の設定

廣い道路、路線式防火地區、川、公園、廣場其他の綠地高架建造物等によつて圍繞せられた防火區劃によつて都市を適當に區劃することは、火災の延焼を防ぐ上に於て非常に必要である。

函館に於ては其の大火災後の復興計畫に於て是が實現を見て居る。

## 四 木造家屋の防火的處置

我國の都市は其の大部分が木造家屋である爲、西洋諸國に比し又支那に比しても防火的には缺陷が多いのである。木造家屋は燒夷彈にも普通の爆彈にも又瓦斯彈にも悪い。しかし是を全部耐火構造とすることは到底むづかしい。只最も恐るべき燒夷彈に依る火災をなるべく小範圍に止める爲、何等かの工夫が無いかと色々研究せられた結果が此の木造家屋の防火的處置である。即ち隣地に接近して建てる木造家屋又は相互に接近して居る建物は、其の近接して居る壁とか軒とかの部分で耐火的なもので作る様にするのである。鐵網モルタル塗とか、耐火木材とか、石綿「スレート」等の類でかこつてお隣からの延焼を防ぐことである。多少建築費が増嵩するけれども已むを得ない。是は東京の如き空襲を受ける恐れのある都市に今後建築する建物に此の規則を適用するのであるが、場合によつては既設の建物にも之を適用して改造を命ずることを研究中である。

## 五 地下道、隧道

防空の爲には地下室が非常によいのであるから、地下の連絡歩道とか、隧道にするとかして平戰兩時を兼ねて使ふことを考へたい。

## 六 水利施設の充實

我國都市の構成上水利施設の充實は最も急務である。水道に就ては成るべく水源地とか配水池とかが散在して居ることがよい。増設するときは成るべく離れた所に水源を求めて貰ひたい。配水池も多い方がよい。又各配水幹線は連絡して欲

しい。出来れば相接近した都市の間ではお互に水道幹線を連絡する様にしたい。又水道の使へない場合を豫想して都市各所に相當量の清水を貯溜する貯水槽の設置を奨励して居る。是は水道の無いとき飲料水を得る爲であり又消防用水を得る爲である。

各個の家に簡易な貯水槽を設けることや井戸の保存を圖りたい。公園、廣場等に池や泉水をなるべく設置したい。又噴水の如きも防毒上からも極めて望ましいものである。

#### 七 架空電線の地下埋設

#### 八 密集地區の整理

#### 九 重要建築物の防空的考慮

東京に於て中央官衙は之をなるべく集合せざる方針をとられたのであるが、防空上から言へば分散するがよいと思はれる。又將來は官公署學校等はなるべく耐火構造とするがよいと思ふ。民間の建築物も人の多く集るもの或は特に重要なものは耐火建築物とすることが必要であると思ふ。

石油タンクの如きものは將來新設のものは地下に入れる様にしたい。たゞ極く小さいものは地下でなくてもよい。是は最近に内務省令として出すことになつて居る。又建築物の色も白色は避くべきである。大きい建築につきては内務省令に依つて是を制限することになつて居る。又形の變つたものも是を避けることにしたい。飛行機の目標となり易い爲である。建築物の色彩や偽装につきては今後尙研究を要するものがある。

#### 十 公共防護室と私人の防護室

鐵筋コンクリートの建築物には其の建築物に居住する人を收容するに足る防護室を作ることと規則に依つて強制せられ

ることになる筈である。又大工場等も防護室又は之に代るべき施設をすることになつて居る。公共團體は政府の補助を得て公共防護室即ち通行人とか老幼者、病人を收容する防護室を作ることになつて居る。しかし有事に際しては是だけでは到底充分ではないので、各個人はなるべく其の家に防護室を作ることが必要であらうと思ふ。防護室が出来なければ有事に際しては防空壕を掘るわけであるが平素から其の用意が必要である。即ち適當な空地を保存して置くことが肝要である。

#### 十一 土木建築都市計畫等に關し防空上の指針

一軒の木造の家を作るにつきては又道路を作り是を舗装をするにつきては又橋をかけるに付ても防空上の考慮が必要である。都市計畫につきては各方面から防空上の考慮を拂ふべきであるが、是等に關しては折角研究中である。

### 結 語

最近「ドイツ」に於ては劃期的に都市の改造を實行に移して居る。即ち國內縱横に走る自動車大道路の完成、「ジードルング」の徹底的實施、都市中心部の疎開の爲、建築物の取拂と空地の設置、「ベルリン」市内縱横斷大道路の設置、高度の容積地域の實施等着々として理想都市の實現に進みつゝある。

「ロンドン」に於ても郊外環狀綠地帶設置の爲二百萬「ポンド」の經費支出を實行しつゝあり、尙目下は市内道路網の革新的改造案を練つて居ると聞いて居る。

都市計畫は國家百年の大計の一に屬し、平戰兩時を通じて其の使命は極めて重大である。私達は其の責任の重きを感じるのであるが、一日の喻安を許さない。大に努力して其の任務を果したいと希念する次第である。

# 朝鮮に於ける都市計畫の特異性

朝鮮總督府  
内務局土木課長

榛 葉 孝 平 君

朝鮮の人口は約二千三百萬人でありまして、其の約八割は農民で占めてゐるといふ程の農業國であります。然し工業の伸展に連れまして都市集中の傾向を生じて参りました。尤も内地に於きましては、大正九年の市部人口が總人口に對し一八%であつたのが、昭和十年には三二・七%を示して居るのであります。之に對し朝鮮に於ては、大正九年に於ける市部人口は總人口に對し僅かに三・四%に過ぎず、昭和十年に於て漸く七・〇%に増加したる状態でありまして、總人口に對する市部人口の割合は、内地の夫れに比較致しまして餘程少ないのであります。然しながら市部人口の増加傾向は内地よりも急速であると謂ふことを示して居るのであります。殊に友邦滿洲國の建設は朝鮮の地位に著しき變革を來すに至り、大陸發展の基地として産業の興隆は定に目覺しく、各種大工場の建設相亞ぎ、躍進朝鮮の面目日に新なるものがあります。又支那事變の勃發は尙一層斯様な趨勢に拍車を掛けるに至つたのでありまして、之が爲に益々都市人口の膨脹を招來し、市街の建設擴張を必要とするに至つたのであります。斯かる情勢に對應する爲に、曩に昭和九年に朝鮮市街地計畫令が發布せられまして、既に京城府外十六都市に付市街地計畫區域及道路計畫の決定を見、其の一部のものは事業を實行に移して居るのであります。然しながら朝鮮に於ける都市は、内地に於ける都市とは相當の差異があるのでありまして、從て之に對する計畫及事業共に自ら内地のものと多少異らざるを得ないのであります。

就きましては朝鮮に於ける市街地計畫並に市街地計畫事業の特異性を法制上、氣候風土上、民度及慣習上の三點より觀察致しまして聊か御話申上げたいと存します。

## 一 法制上より見たる特異性

韓國政府時代迄は何れの部門に於ても制度が完備して居ませんでした。都市に付きましては何等の制度なく全く無秩序、無統制であつたのであります。市街地の改善に初めて手を染めたのは總督政治始政以後のことでありまして、或は訓令或は告示に依りまして従前の亂雜不整なるものを規正することに努めて來たのであります。更に大正十年以來京城釜山、大邱、平壤其の他發展の度著しき地方、或は甚しく不衛生なる都邑に對し、統一した都市計畫を樹て、當面の必要に應ずることとしたのであります。今日皆様が御通行になる京城の街路は、何れも明治四十三年總督府始政以後に整理改善せられたものであります。斯様に一定の目標を立て、進みますものゝ、當時は未だ依るべき法令がなかつた爲に、實行上不利不便がありましたので、都市計畫に關する法令制定の必要を痛感して居たのであります。斯くて昭和九年六月に至りまして、愈々朝鮮市街地計畫令の發布を見るの機運に到達したのであります。

本令は其の精神に於ては素より内地法と異なる所はないのであります。其の内容に於ては朝鮮の實狀に適應するやう考慮せられたる點が相當多いのであります。以下簡單に法制上から見た特異點に付御説明申上げること致します。法令上から見た特異點は大體六つあります。

(一) 第一は内地の都市計畫法と市街地建築物法とを綜合し、一つの法令となしたことであります。之は内地の如く別箇の法令と爲すを可とするや、朝鮮の如く統一するを可とするや、其の是非に付ては議論の餘地ありと存じます。然し都市計畫と建築物取締とは不可分關係にあるといふ觀點から、兩者を併せて一體と致したのであります。

(二) 第二は本令は既成市街地の改良よりも、寧ろ其の擴張と新たな市街地の創設とに重きを置いて居る點であります。朝鮮は前申上ぐる通り從來農業一本槍の土地でありましたが、漸次工業が興つて参りまして、或は地下資源の發見、或は水力電氣の開發等に依り、想ひも寄らぬ僻地に大工業地が出現するといふ狀況で、殊に滿洲事變以後は種々の工場が盛に朝鮮に進出する情勢でありますので、無人の境に新市街を形成するといふ事例が少くないのであります。又羅津の如く僅かに數十戸の農家の點在するに過ぎなかつた僻村が、滿洲への物貨の大吞吐港となつた如き事例もあります。

以上の様な次第でありますので朝鮮の市街地計畫令は既成市街の改良よりも市街の擴張と新市街の創設とに重きを置きて居るのであります。

(三) 第三は土地區劃整理に付組合施行を認めなかつたことであつたことであります。之は朝鮮に於ては不在地主が多い場合が尠くないのと、今日の所では未だ内鮮人の風俗習慣の相違、其の他此の種事業に對する智識及經驗に乏しく、合組組織は殆ど不可能に近い爲に組合施行を認めず、一人施行共同施行の外は、總て市街地計畫事業として行政廳に之が施行を命ずることと致したのであります。

今日迄朝鮮に於て體驗致しましたところに依り、區劃整理を行政廳が施行する長所とも謂ふべき點を挙げますれば

- 一、組合組織に要する複雑なる手續を省略し得ること
  - 二、組合施行の場合に比し比較的容易に優秀なる職員を集め得ること
  - 三、組合組織の場合の如く議論百出する虞なく迅速に事業を遂行し得ること
  - 四、換地交付、工事費負擔金の賦課等は他に制肘せらるゝことなく公平に行ひ得ること
- 等でありましたが、今日迄行政廳に於て施行中の土地區劃整理は全鮮に於て四府一邑に過ぎませんが、其の成績は極めて

良好でありまして、何れも圓滿に事業を遂行し、地主に於ても行政廳に於て土地區劃整理を施行せらるゝことを希望する傾向が著しいのであります。

(四) 第四は市街地計畫の地方機關は之を設けず、總督が立案して府會議會又は面協議會の意見を聴き、總督府内に設けてある市街地計畫委員會に諮問して總督が決定することに相成つて居ります。従つて市街地計畫の調査立案は總て總督府に於て統制致して居る次第であります。

(五) 第五は市街地計畫令の内に特別税の規定を設けなかつた點であります。内地の都市計畫法に於ける特別税に相當するものが朝鮮市街地計畫令中に存在しないことは奇異に感ぜられるかも知れませんが、之は地方税に關する一般地方制度上の課税權に依り特別税を賦課徴收せしめ様とする方針に依るのであります。

(六) 第六は建築物の取締に付ては、朝鮮の特種事情を考慮し、構造設備の規定を實情に副はしめたことであります。一例を挙げますれば、朝鮮は冬期非常に氣温が低下致しますので、朝鮮式家屋は總て防寒的方面を重視し所謂温突なる種類の構造設備を有するのであります。従つて建築取締に付て各種の制限を緩和致して居ります。又朝鮮には地震が無いと申して差支ない所でありまして、煉瓦造建築物に付ては防火的效果をも考慮し、其の高さの制限を緩和して居る等であります。

## 二 氣候風土上より見たる特異性

(イ) 氣温 朝鮮は大陸の影響を受けて寒暑共に相當に烈しく、北鮮の山野地帯では攝氏零下三十度以下に降ります。京城に於ける最低記録は零下二十三度一分であります。斯様に寒氣酷烈なる爲朝鮮式家屋は總て防寒の爲に温突の構造となつて居りますから、家屋の建坪が小さく、一宅地の敷地が二十坪以内のものが多く、従つて密集し易い傾向になり

ます。由て緑地を適當に配置する等の考慮が必要です。又二階を溫突とすることは不可能であります關係上朝鮮式家屋は殆んど全部平家建であります。

冬期地盤の凍結する程度を見ますと、北鮮會寧地方では深さ一米八〇迄凍結し、京城地方では一米五〇、釜山地方では〇米六〇乃至〇米八〇程度となつて居ります。左様な關係上上水道鐵管の埋設は、北鮮地方では二米五〇南鮮地方では一米以上としなければなりません。

(ロ) 降雨量 降雨量は釜山より木浦に至る南海岸地方は年雨量千四百耗程度で、内地の中國地方と似て居ますが、北方に進むに従ひ雨量減少し、北鮮地方では八百耗以下となるのであります。

年雨量は斯様であります、其の降り方が極めて不均等でありまして、大體七月を中心にして三ヶ月位の間に年雨量の大部分を降らすのであります。内地に於ては六月の梅雨と二十日前後の颱風に依る降雨と別々に來るのでありますが、朝鮮に於ては七月が梅雨季で、颱風に依る豪雨も同時に襲來するのであります。従つて朝鮮の洪水量は内地の洪水量の約二倍に近い數字を示して居ります。斯様に一時の降雨量が多いといふことは市街の下水計畫に大なる關係がある譯であります。

斯くて十月以後四月頃迄は殆んど降雨を見ないのであります、従つて朝鮮の河川の渇水量は、其の割合が内地の渇水量の十分の一に過ぎない結果となります。此の事は上水道計畫に至大の影響を及ぼしまして、朝鮮の水道の多くは貯水池に依らざるを得ないこととなり、又其の貯水池は内地に於けるよりも規模を大にし、貯水量を多くせねばならないから、内地の場合よりも餘程多額の工費を要することになります。

(ハ) 降雪 朝鮮は寒氣の甚しい割合に降雪の量は僅少でありまして北鮮に於て二尺、中部以南に於ては五寸以下の程度であります。之は空氣が乾燥してゐる關係でありまして、従つて雪に對して特別の顧慮を要することはありませぬ。

(ニ) 風向風速 風向は冬季は北又は北西夏季は南風であります、全鮮四季を通じて西又は北西の風が最も多いのであります。

京城などで内地人が家屋を新築するのに冬季のこのみ考へて夏季のことを思はず、西及北を塞ぐ場合が多いのであります、之は甚だしい誤であります。

颱風の際の風の強さは内地の如く甚だしいことは少く、風に依る建築物の被害は餘りありません。唯雄基及羅津は冬季非常に烈風が吹き荒び、内鮮を通じて有数の強風地方であります。此等強風の多い都市に於ては、街路の幅員を特に大にすると、又植樹帯を設くる等の處置を考へて居るのであります。

(ホ) 地震 朝鮮にも地震のあつた記録があると云ふ説もありますが、然し人體に感ずる程の地震に逢つたと云ふ話を聞きませぬ。之は朝鮮の都市の建築物に大なる關係がある譯であります。

### 三 民度及慣習より見たる特異性

前に申上げます通り朝鮮の總人口の八割は農民であります、更に又其の八割が小作農であります。即ち總人口の六割が小作農といふこととなります。之を以て見ましても農村の豊かでないことが分ります。或人は之は朝鮮の農民が働かないからだと申します。勿論之には様々な事情がありませうが、私は之は氣象風土の關係が少くないと思ふ者であります。農村と都市とは深い關係があることでもありますから、此の點に付て少しく申上げて見たいと思ひます。

朝鮮には約百七十萬町歩の水田がありまして、二千二百萬石程の産米がありますが、此の水田内灌漑の便のあるものは甚だ少くないのであります、總督始政以來灌漑事業の普及發達を圖つて参りました。今日に於ても水利灌漑の便あるものは三割弱でありまして、他の七割強の水田は全く天水に依るのであります。然るに朝鮮の降雨は曩に申上げた通り頗る



不平均で、七月を中心とする雨季以外は殆ど降雨が無いのであります。従て四月の苗代、五月の植付時節から旱魃に苦しむのは普通の例であります。順調に雨の降らない年には兎作となるのでありまして、年に依りますと頼みにして居た雨季に雨が無いことが屢あります。

内地では旱魃の年には凶作が無いと謂はれて居ますが、朝鮮は之と反對に洪水で困る様な年は一般には寧ろ豊作であるのであります。それは洪水の害は水利灌漑の便のある三割弱の水田の一部に留り、他の七割強の水田の大部分が助かるからであります。

私共が田舎を旅行しますと、他の地方では既に植付けを始めて居るのに、或地方では未だ田面が耕されずに去年の稻株が其の儘あるといふ所を見受けます。何故耕さないかと聞きますと雨が降つたらば耕すといふ返事でありまして。成る程若し雨が降らなければ折角耕しても徒勞に歸すると云ふ考かも知れませぬ。朝鮮では以前には水田に肥料を用ひなかつたのであります。肥料をやつても旱魃に遭へば全く無駄になるといふ譯でありませう。

本來人間といふ者は欲深く産み付けられたものであります。若し働けば働く程儲かるものならば働かぬ筈はありません。然るに朝鮮の農民は右の如き事情でありますから、一生懸命に働く氣分にならなかつたものではないかと思はれます。其の上昔は政治が非常に宜しくなかつたから、其れ等が因となり果となつて、農民の疲弊を致したものに相違ありません。

又冬季寒氣が烈しく二毛作の出来るのは南鮮地方に限ります。又地盤が深く凍結するといふことは、畑作に非常な障害であります。併し朝鮮の農民は今後は益當局の獎勵に従ひまして、農作の改良に努め、且又副業に勵みまして、漸次生活が豊かになつて行くことと思ひます。

從來地方農民の狀況が斯の如くでありましたから、之は必然的に都市にも反影せざるを得ませぬ。今日京城の人口は七

十萬(内内地人十三萬人)と稱せられますが、其の内一ケ年の收入三百圓以下の所謂細民階級の數が、總人口の五割一分を示してゐます。又土幕民と稱して地面を掘下げ、其の上に簡単に屋根を葺いて原始的の生活を爲す者が、京城府内に約一萬六千人餘り居ります。此等は勿論今後各方面の盡力と自己の發奮に依つて、漸次向上して市街改良の痛と爲らない様になることと思ひますが、今日に於ては細民階級の多いこと、土幕民の少なからぬことは都市計畫上忘れてならぬ事柄であります。又此等細民達は随分高い所でも平氣で住んで居ります。之は其の服裝と履物に大なる關係がありまして、内地人の服裝と下駄や足駄では到底出来ぬことであります。又從來入浴といふ習慣がありませんから、水の使用が極めて少ないことも高い所を厭はない理由であります。斯様に高い所にも居住する人達があるといふことも計畫上考慮に入れて置く必要があります。

唯今、水の使用量が少いことを申上げましたが、之に關聯して序に水道の給水普及率のことを申上げますと、内地では全體を平均しまして給水普及率が六〇%でありますが、朝鮮では之が三五%に過ぎません。將來は此の率が増加して行かなければなりません、現在の所では之を念頭に置いて水道計畫を樹てゝ居る次第であります。

次は墓地のことですが、朝鮮は古來土葬の習慣でありまして火葬は近來多少行はれるに至りましたが、未だ極めて少數であります。

又其の墓地に付ては非常な關心を有して居りまして、墓地の地相が良くなければ子孫が繁昌せぬといふ堅い信仰を持つて居ります。風水子に地相を觀て貰つて其所が宜しいとなれば、距離の遠近等意に介しない有様であります。従て墓地は都市計畫の大きな問題の一つであります。之は將來は漸次火葬の習慣に移つて行く必要があると思はれるのであります。

以上で朝鮮に於ける都市計畫の特異性の大要を終つた次第であります。最後に最近定められました一つの特異點を申上げて結末と致したいと思ひます。

それは工業に必要な土地の収用問題でありますが、前申上げました通り最近朝鮮に於ける工業の勃興は著しいものがあります。工業には必ず土地が入用であります。所が何か工業が興るらしい様子が見えますと直ぐに土地の思惑が行はれまして、起業に對し非常な障害を與へるのであります。

之に對し土地収用令の適用を必要とするといふことは殆んど朝鮮の輿論であります。従來では或る特定の工業に對する外之が適用せられませぬ。

此の非常時局に於て、斯かることでは到底國運の伸展は期せられませぬ。由て最近朝鮮市街地計畫令に於て収用令の適用の出来る様に定められたのであります。即ち市街地計畫區域内に於て一團の工業用地造成を爲す場合には収用令を適用し得るといふことに定められたのであります。然らば何人が工業用地造成事業を行ふかと申しますと本則としては道、府、邑面等地元公共團體が其の任に當ることに考へて居ますが、必要に依つては國自ら之を行ふこともあれば、特許を受けた會社又は私人が行ふこともあるのであります。

右の如くして造成した工業用地の管理及處分に付ては、嚴重なる條件の下に監督するのであります。従つて工業用地造成事業經營者は、公共の爲に盡すといふことの外には、利益も得なければ損失もないといふことになるのであります。兎に角之に依て今後工業の振興に裨益する所甚大なるべしと存するのであります。

## 經費の合理性と必要性

元東京市助役  
元秋田縣知事

菊 池 慎 三 君

### 一 都市の經費の膨脹に就て

都市の經費は殊に膨脹の趨勢が著しい。他の地方財政よりも中央財政よりも都市の經費は、急激な増加膨脹をして居る。所が此の事は少しく分析して考察する必要がある。第一都市そのものが膨脹増加するが爲に、經費も亦増加をする。我國の都市は例外なく膨脹發達をして居る。町村が市制を施行して市となるものがある。市域を擴張し町村を併吞するものがある。市の人口が増加する場合がある。斯様に都市そのものが膨脹擴大し都市人口が増加する場合に、都市の經費が増加膨脹することは、寧ろ當然である。第二我國の經濟力は顯著なる發達擴大をして居る。近年に於ける日本品の世界進出に依つて經濟力の擴大したことや、所謂生産力擴充に依つて經濟力は擴大強化されつゝある。中央財政も個人經濟の増大するに對して、都市財政が停滯する譯はないのである。第三我國の都市の施設は尙整備の途中にある。近代的城市施設が世界文化の水準に達する爲に、經費が増加することは必然の勢である。

斯様に都市の經費は膨脹増加して居るのであるが、都市財政の國民經濟中に於ける地位、中央財政私經濟との比較に於て擴大増加して居るか、又擴大増加する傾向にあるか。第一に中央財政に對する地方財政の割合は、第一流の文明國に於ては次第に地方財政が中央財政に近づき、次では之を凌駕する傾向が認められた。併し各國中央財政は軍備大擴張の時代

に入つて軍事費が急激に増加したことや、大戦後の國債激増に因る國債元利償還額の増加、又はソヴィエツト共產主義國に於ては、國營事業が極端に擴大されたので、一概に謂ふことを得ない有様である。第二に私經濟との關係に於て國營事業又は都市の公營事業は増大する傾向にあるか。一時は國營又は公營事業は漸次に増大する傾向に在つた。國家社會主義都市社會主義も主張せられた。公益企業は公營たるべきものであると考へられた。獨逸の如きは此の方針に従つて大戦後に於て『市町村仕法』の制定を見たのであつたが、實際に大して實行を見なかつた。共產主義を採るソヴィエツト聯邦を外にしては、其の後各種企業、國營又は公營の主張は、幾らか下火となつた感がある。併し企業統制資本の自由經營を制限する傾向は強いのであつて、國營又は公營でもなく、私營企業の下に強度の國家の統制に服する經營が認められる風が多い。公私共同經營といふ特種の形態でもなく、株式會社であつて唯役員や事業經營に付國家の強度の統制に服する。政治特殊會社國策會社である。製鐵合同、電力國家管理、滿洲電信電話國際無線電話、東北振興、東北電力等の例があるのである。國營の電話事業も再三其の計畫があつたので、特殊會社の事業となることが豫期せられる。此の傾向に相伴ふものは都市に於ける交通統制の前途である。都市が統制合同した交通事業の主體となるかどうかは、相當論議があらうが大勢は都市が何等かの形に於て發言權を有して事業に参加する形の特殊會社の方向と思はれる。將來立法の發達は之を會社の形式でなく、新らしい特別公共團體の形に發達すべきものであらうけれども、差當りの所は、特殊會社の方向に進むものと豫想せられる。此の如く都市公營事業は曾て主張せられ又は期待せられた程、擴大することはない。都市公營全盛又は萬能といふやうな傾向は認め得ないと思はれる。従つて公營事業の擴大に依る經費増加も大した事はないと想像される。併しながら芥川賞で名を擧げ更に『麥と兵隊』の作者として最近の流行兒である火野葦平の『糞尿譚』で、民營の糞尿採取事業を買収して市營とする事が、題材となつて居ることに見ても市營事業民業公營の方面が、極めて多いことは忘れてはならぬ。

經費膨脹は如何なる都市でも如何なる時期でも免がれることの出来ない現象傾向であるか。不景氣の時代には都市の經費は緊縮減少せざるを得ない事もある。膨脹發展する都市でなく、現状に停滯し又は衰微没落の傾向に在る都市では經費は増加しないこともある。之は我國に於ては極めて稀に見るのである。町村が市制を施行する例は多いが、市が町村になる例は一つもない。併し江戸時代に於ける各藩の城下町は、多くは府縣廳郡役所警察署所在地となり、又は地方産業の中心地として發達を續けたのであるが、中には此等の條件に恵まれず、維新以降衰微没落して町とし村として餘命を繼いで居るものがある。經費は繁榮に向ふ都市と衰頹期に在る都市とは、自から方向を異にするを要する。勿論衰頹没落の傾向を挽回するが爲の振興事業を計畫する場合に別であるが、到底繁榮發達の見込のない場合に於ては其等の都市の施設事業は、消極的であり手控へをして負擔の軽減を圖ることが當然である。反之將來に亘つて膨脹發達の勢すまじい都市に付

【本稿の要旨】都市の經費は他の地方財政よりも中央財政よりも、膨脹の度合が著しい。公營事業増大の傾向は認め難い。時期に依り都市に依り經費膨脹に差異がある。豫算編成難と財政方針の行詰まりは地方財政窮乏を意味しない。歴史的に且他地方に比して現在の内地地方財政が窮乏して居るとは認め難い。小學校教員俸給未拂は財政窮乏と必ずしも相伴はない。人口増加に依る經費増加と收入増加と景氣變動に依る收支増減が財政困難を來すことがある。外形課税の税制と收益課税の税制の改變によつて、地方財政は困難を経験した。軍備縮小に依つて地方財源は擴大された。地方財政交付金の分配は大中都市に對して不公平である。小都市論に拘らず小都市を虐待する。農山漁村と都市の公共施設は歐米に比して、前者は優り後者は劣る。議會は經費を抑制する機能を失つて、之を膨脹せしめる傾向を有つ。收入と支出を對比して自ら收支に責任を持つ責任政治財政自治の意義價值。經費の合理性を確保する機構組織として豫算制度の改善、決算審査の現状と地方財政會計検査機構の整備、英國地方會計検査官制度、必要ならざる經費に依る地方税賦課を適法なりとする行政訴訟等を考慮すべきである。

ては、所謂百年の大計といふ迄ではなくとも、前途を達觀して積極的な計畫を必要とする。從來の經驗に依れば各地の新興發展の都市に於ては、概して其の事業施設は必要に對して遅れがちであり、且市勢の進展に追從して常に後手後手を打つて居る傾向である。一歩先んじ都市の發達膨脹を誘導する。施設計畫が確然として居り施設の整備を以て誇りとなし得る都市の例は殆ど聽

く所がないのである。

都市の奢りを戒め農村の勤儉實業を推奨することは、古來政治の要道であるので、世間往々都市の經費の膨脹が著しいことを以て、都市が贅澤をして居るとか、濫費放漫なるやり方をして居るかの如く、都市に對する反感攻撃を表示する例が多いのであるが、經費の膨脹は我國都市の特質に基づき、都市の任務の遂行の爲必要であり合理的であることを明かにして誤解を防ぐ必要がある。

## 二 財政難財政窮乏又は財政行詰まりに就て

地方財政の窮乏とか地方財政の行詰まりと云ふことが、地方財政問題地方經費問題の高調せられる原因である。夫故に地方財政の窮乏とはどういふ情勢を云ふのであるか、其の實相を明かにすることを要する。所が此等の主張は餘程政治的な氣持が含まれて居ることに注目すべきである。元來人の欲望には限りがない。地方財政に對する需要も亦殆ど限度あるを知らない。夫故に豫算編成に當つて各方面の注文要求を一々計上して見ると、現在豫算の數倍數十倍に上つて、到底現在の限られた財源を以て賄ひ得られないのである。併し此の如き豫算編成難は如何なる財政にも、中央財政にも比較的富裕と云はれる地方財政にも常に見る所で、此の現象を以て地方財政難であると云ふことは、適當ではない。多くの場合には新規要求増額要求の僅かに何分の一かを充せば十分なので、歳入と照し合せて所謂豫算査定をして、收支を適合すれば足るのである。次には特定の地方團體に於て從來やつて來た財政方針が行詰まつて來た。強く云へば財政方針の破綻であつて、何等か方針の變更をする必要が生ずる。元來夫の時々の當局者が最善の努力をするのであるが、限りある財源限りある方法を以て各方面の注文に對するのであり、或はよくある例であるが、一定の仕事の初年度の額は少額であるので、之を認めて將來は増大する。即ち一時の瀬縫糊塗をした惡結果が破綻することがある。政治行政に於て或る時の當局者の

やり方に行詰まりが來ることは、通例の事であり、當局者自ら適當に方針變更既定計畫の改定を爲し得る場合は格別、行き懸り上自ら爲し得ない時は當局者は其の地位を退くべきである。當局者の更迭即ち政變に依つて、新しい事態に適應する方針措置が講ぜられるのである。即ち特定の地方財政の行き詰まりは、當局者更迭の理由とはなるのであるが、眞の地方財政の行き詰まり窮乏ではない。地方團體は永久の生命あるものである。地方團體が支拂能力を失ふことを許されない。現在に於ける内地地方財政が夫れ程、窮乏行詰まりとなつて居るか否かは、之を歴史的に比較し、之を外地方財政と比較し、歐米地方財政と比較して、現在の内地地方財政が貧弱であり、特に窮乏行詰まつて居ると見るべき理由はない。内地地方財政の窮乏行詰まりと云ふことは、専ら政治的理由から高調せられて居る。

内地地方團體は明治維新以降七十年間漸次發達進歩して來た。地方の經濟上の實力地方財政の基礎が七十年間に薄弱化したと見るべき理由はない。又内地地方團體と外地朝鮮臺灣の地方團體と比較して何れが貧弱であるか。夫が特に内地地方財政に限つて窮乏行き詰まりが高調せられるのは、内地には地方の利益を代表する代議士があり、選舉戰術として特に地方財政窮乏を高調し、豫算分捕をする必要があるからであつて、政治的理由に出づるのである。

地方財政窮乏の動かし難い證據として、小學校教員俸給の未拂と云ふことがよく謂はれる。所が不思議な事には、小學校教員俸給の未拂問題があつて、市町村吏員俸給の未拂問題はない。實際に於て小學校教員の俸給だけ拂はないので、市町村吏員の俸給は拂つて居るのか、或は双方共拂はないのか、又はその何れの場合もあるものであるか分らない。併しながら小學校教員俸給の未拂は、必ずしも市町村財政窮乏と相伴ふものではない。教員俸給の未拂は單に町村會計事務の取扱が當を得ないか、農村金融機構の不備に外ならぬ。眞の財政困難な市町村で赤字が續出し、翌年度歳入繰上に依つて決算をする所でも、毎月の俸給支拂は支障なく續けてやつて居るので、教員俸給の未拂如何は財政困難の證據ではないのである。且教員俸給未拂問題を文部省や府縣の學務部が問題として、地方財政監督の内務省や府縣總務部が知らぬ顔をして居

るのも、眞に之を根絶解決する考のないことを示すものである。

経費の増加は當然財政困難を來す譯ではない。経費の増加の原因の存するときには同様に収入も亦増加する。従つて収入増加に比較して経費の増加が多額であれば、收支の均衡は破れ豫算は編成難となり、財政困難となる。所が都市の増加人口は從來の人口に比して常に資力が乏しいのである。外來移住者でも、新たに生れた子供でも、又都市の膨脹する郊外の新市街場末の街でも、概して其の都市の最も資力の乏しい所である。従つて若し人口増加に比例して都市の経費を膨脹せしめたならば収入は必然不足する。幸ひ多くの経費は人口増加に依つて必然的に増加するを要しないので、人口増加に依る増収の範圍に於て経費を按配し得るのである。例之東京市は隣接五郡八十二町村を合併し、二百萬の人口が五百萬となつた際、豫算は六千萬圓が三千万圓を加へて九千万圓となつた程度で、市域擴張即郊外の貧弱團體合同に依つて別に市民負擔に變動困難を來すことがなかつた。

景氣の變動殊に物價騰貴の際に於ける経費は、膨脹増加をする。併し例へば人件費の如きは、物價騰貴が相當繼續した後、増俸増給旅費諸給與定額改正を見る有様で、相當時期の差がある。又物價騰貴に依る収入増加も、之に依る民間収入が増加した後、所得収益の決定を見る順序である。収入増加が遅々として發展する都市に必要な積極的施設の経費を支辨するに困難を感じる。経費は經常的に固定する傾向があり、人件費の如きは新規採用者が多い爲當初は人員に比して経費は少くてすむが、勤務年限が長くなると共に平均給は自然に高まつて来る。例へば東京市電の従業員人件費は電車市營後二十年程度を経、一般の勞銀は低落し不景氣のドン底となり市電財政の極度の窮乏時代に達して、却て従業員一人當経費は最高額に上つて居つた。之を整理低減する爲に従業員給料更改の方法として、二千萬圓からの退職手當を給與する驚ろくべき愚策を講じ、二億圓に上る市電公債に更に一割近い無效投資額を増加し、監督官廳は此の如き不條理な市債を許可した。二たん膨脹した経費は整理減少することは困難であるが、景氣變動に依り収入減少の爲人員整理行財政整理節約が、

イヤでもやつて行かねばならない。元來如何なる場合に於ても不合理無用の経費は、許されない譯であるが、必要に迫られない場合に於ては、既定経費の合理性の検討や行財政の整理改善は行はれないで、収入減の爲止むに止まなくなつて始めて行はれるのが實情である。経費の増加は經常費の増加が財政的には特に抑制すべきであり、臨時費の増加はさほど抑制する必要はない。都市の建設は莫大なる資本投下を必然とするもので、起債に依る臨時費大事業は永年に亘つて都市の振興發展の基礎を作るのである。臨時費は景氣變動によつて容易に打切繰延べられるのであるが、經常費の減縮は人員整理を伴ふのが普通で實行に困難を來すのである。事變下の地方財政も専ら資金物資の關係から臨時費の繰延節減をして居るので經常費は却て増加して居るのではないかと思はれる。

景氣變動に依つて受ける地方財政の影響は、税制の如何に依つて差異を生ずる。我國の地方税制は曾ては定額外形課税の制度であつた爲に、歐洲大戰後の好景氣時代に於て、物價騰貴によつて経費は急増したに拘らず、地方税収入の増加は遅々として居り、地方財政は極めて困難であり、必要な公共施設も講ずるを得ない有様であつた。大正十五年の地方税法制定を前後として、國稅營業税が營業收益税となり、地租免租地に對する地方税課税方針が變更される等で、地方税収入は景氣の如何に因る収益の増減に伴つて伸縮する制度となつたのであるが、間もなく世界的不況時代となつて、地方税収入は激減し経費の緊縮節約に努力しても追付かず、地方財政の一般的赤字續出を見るに至つたのである。地方財政の困難行詰まりは地方の疲弊とか其の他の原因でなく寧ろ主として此の税制改變に原因して居るのである。將來地方税制の改正を見る場合には、幾分外形課税を加味する方向に進むべきであらうと思はれる。

### 三 地方財政救済問題特に交付金問題

地方財政に付ての朝野の關心は近年深まつて來た。地方財政問題は政界の最重要問題の一である。殊にワシントン軍縮

條約ロンドン軍縮條約に依つて、軍備縮少の爲財政に餘裕を生ずると共に、之を以て國民負擔の軽減を圖る。其の負擔軽減は専ら地方稅負擔の整理軽減に充てたのであつた。此の意味に於て地方財政は、最近十數年間最も惠まれて居つたのである。蓋し日清日露の大戦の時代にしても、或は更に溯つて明治初年全國に亘つて小學校の創設を爲さしめた場合にも、當時の國情は國費を以て補助し分擔することは、到底爲し得ない所であつた。所謂文明開化富國強兵の實を擧げる爲に、國の經費は地方財政地方施設の如何を顧みることが出来ない。小學校教育は全然地方に一任する。併し當時の貧弱な地方財政に於て當時の當局者は、千辛萬苦して地方團體の任務を果し、日清、日露の銃後施設にも、戦後經營にも或は義務教育年限延長にも、着々として其の實績を擧げ得たのである。又歐洲大戰後の空前の好景氣時代に於ても、地方財政は極めて苦しい有様であつた。地方收入に弾力性がない、當時の地方の諸稅は概して定額課稅であつた爲に、貨幣價值の變動好景氣に依る自然増収が極めて少なかつた。歐洲大戰中及其直後の都市農村を通じての繁榮の時代に於て、經營施設すべきものは甚だ多かつたに拘らず、地方財政の賄ひ得る所は極めて微々たるものであり、各種の公共施設都市施設の要求は極めて強かつたのである。道路法都市計畫法市街地建築物法は此際制定せられたのであるが、當時に於て實行し得られる見込は極めて乏しい有様であつた。後藤新平さんの東京市長時代に、東京市の諸施設を整備するに付て、差當り八億圓の財源を要する。各方面の緊急施設を計つて所謂八億圓計畫があつたのである。之を支辨すべき實際的の財政計畫は立て得られない情勢であつた。大震災の後の復興計畫を定める際に於ても、幹線道路の舗裝維持修繕が可能であるか否かが問題となり、帝都復興審議會に於て伊東巳代治伯の如きは、東京市其の當時の稅收入を以てしては到底幹線舗裝道路の維持修繕も覺束ないと云つて、數字を擧げて復興計畫縮少を痛論したのである。元來我國に於ては多年道路施設や都市計畫施設が遅れて居り、自動車交通の發達社會の進歩と伴つて此等の施設の不備缺陷が著しく目立つて來たのであつた。即ち歐洲大戰の戦後經營として道路法都市計畫法が制定せられ、大規模に道路都市計畫施設を遂行する必要機運となつたのである。

るが最初は容易に之に必要な財源を得ることは出来なかつた。地方財政の眞の困難な時代は巨額の支出を要する新任務が生じた場合に存する。明治初年に全國に亘つて小學校を新に設置して行く場合は、大事業であり相當に困難であつた。小學校教育義務年限延長の場合も同様である。近く青年學校義務制の實施を見ると之も同様に大事業である。歐洲大戰後の好景氣時代に於て、都市人口の激増、都市郊外の發達に伴ふ教育施設の充實、各種の社會的施設を創始するの必要、自動車交通の發達に伴ふ道路の改良の必要等、各般の都市施設の必要が痛感せられたので、東京に於ける後藤市長の所謂八億圓計畫を見ても、瓦斯疑獄の豫審決定に於て、東京市會の一巨頭は東京市施設の改良の爲今後七八億圓程度の事業を七ヶ年繼續事業として遂行せしめ様と目論見だことが出て居るのを見ても當時の形勢が分る。此の如く東京市の近代施設の爲數億の大計畫を要することが、一般に認められて居つたのである。然るに此の如き事業が本當に行はれたのは、組織的な計畫順序に依つて爲し得たかと云へばさうではなく、大震災の復興事業として斷行し得られた。我國の首都東京市の近代的都市施設の整備は全國都市施設の充實改善を刺激して、近年著しい成績を見るに至つたのである。顧みて見ると道路法都市計畫法が制定せられても、當初數年間は事業は一向捗々しくなかつた。限りある財源は夫までに他の諸經費に奪はれて、新しい都市施設の支辨に充てることが出来なかつた。數年を経て之には帝都復興事業の刺激が多いと思はれるが、各都市の道路都市計畫施設が大に行はれるやうになつた。全國に於ける道路改良も所謂時局匡救事業又は失業救済事業として、實行せられたものが、道路の改良事業中の可なり重要な部分を占めて居る。

地方財政問題は地方財政の困難窮乏と云ふこと、地方農村の窮乏困難と云ふことと混同せられ又は相互に利用せられて政治的に高調せられて來た。即ち地方財政交付金問題は、單なる地方財政問題でなく農山漁村の救済振興といふ方面が重要部分を占める政治問題である。地方財政交付金一億三千萬圓は、地方財政からは收入科目であるが、中央財政では軍事費を除いては、最巨額の經費である。所謂地方財政の調整をする爲國庫より相當の交付金を支出すべきことは、數年來當

局者學者政治家の間に、極めて賑はしく且組織的に研究論議をせられたのであつた。而も殆ど例外なく地方財政調整交付金賛成論であつて、之に對する批判は皆無に近いのであつた。然らば交付金理論は完全にして缺陷なきものであつたらうか。之を経過的に默検して見ると、岡田内閣の内閣審議會の中間報告に基き窮乏町村交付金として二千萬圓を計上したのが、昭和十一年度である。而も此の二千萬圓中九百萬圓又は千二百萬圓は臨時義務教育費補助金を振替へたので、新規計上は八百萬圓又は千百萬圓に止まるのである。之が十二年度に七千萬圓として提案せられ、議會の要望に屈して三千萬圓を追加して一億圓となり、更に十三年度に於て一億三千萬圓となつたので躍進的な増額である。元來地方財政調整交付金として内務省案は五千萬圓又は七千萬圓であり、政黨の提案亦之に従つて居つたのである。七千萬圓は地方税總額の一割に當るのである。之に三千萬圓宛二回に亘つて増額したのは、何等計數上の正當なる根據に基づくものではなく、衆議院の要望に屈從した結果に外ならないのである。何等信念根據の存することが認められないのである。元來地方財政の情勢を云へば殺人的不景氣時代は過ぎて、地方財政は窮境を脱したのであつて、財政難は年一年と大に緩和したのである。逆に中央財政から云へば赤字公債累増の困難な情勢である。會て義務教育費國庫下渡金が遞増したのは、ワシントン條約ロンドン條約の結果軍備縮小に依つて國民負擔の軽減を爲し得る財政上の餘裕を生じた爲であつた。然るに地方財政交付金の急増は、軍縮條約廢棄に依つて軍備擴張時代となつて、赤字公債累増するの時である。財政的に見て不合理を極める交付金増額と云はざるを得ない。計數を要件とする財政經濟で七千萬圓を以て足れりとする交付金が議會の要望に屈して倍額に近い増額をして、而も尙根本的解決ではない。中央地方を通じての税制改革其他根本的解決を爲す迄の暫定施設であるといふのである。七千萬圓でも足りる、一億三千萬圓でも不十分であると云ふのでは、交付金理論の薄弱不安定等を驚ろくべきである。而も此の如き形勢を來した所以は、専ら馬場財政が地方税の大部分を國税に取上げた關係もあるが、表面的には二億九千萬圓の交付金案を以て國民を瞞着しやうとしたが爲に、本來ならば七千萬圓計上を以て宿年の願

望到達であるとして満足すべき者が、鑿くことを知らず増額を強要するに至つたのである。或は當時軍事費の巨額な計上に對する陰然たる對抗又は捨鉢の意味がなかつたとも云へない。財政當局者に信念を缺き議會に引きずられて倍額近い額までに増額せしめられたことは、財政紊亂財政方針破壞の虞れのある稀に見る所の惡例と云ふの外はない。交付金は地方振興の積極施設でなく、消極的な負擔軽減である。ニューヂールの如き建設理想を缺いて居り、前途に光明の乏しいことや、一萬餘に分散して一億三千萬圓の支出の効果の霧散して薄弱であることや、地方財政自身の經費節約負擔軽減の努力工夫を阻害する弊害も指摘せられる。地方振興の施設としてなら他に一層有効適切な方法が存し、最少の費用を以て最大の効果を擧げる原則からも大に疑問とせられる。

交付金理論に於て地方經費の中には、國家的の性質を有つ經費が多いのであるから、一定の割合の交付金を交辦するの當然であると論議する場合には、都市の經費も一緒にして力説せられる。然るに交付金を分配するに當つては大都市は全然顧みられない。大都市に付ては都市の膨脹發達、都市の繁榮財源の豊富といふ點に付て交付金を分配するを要しないと云ふのである。都市と農村に於ける地方税の輕重比較は形式的表面的の税率比較であつて、都市生活の本質を顧みない。義務教育費下渡金は教員俸給の分擔が本旨となつて居るけれども、其の上に都市と町村とに理由なき不公平な差別待遇をして居る。東京市の新市域八十二町村に對する交付金二百七十萬圓が、市域擴張によつて市をなした爲に百七十萬圓となる計算である。此の激變を避ける爲に法律を制定して十年間に漸減する規定が出来たのであるが、現在の交付金制度は教育費下渡金よりも更に一層都市就中大都市に對して、不公平であり、不合理な不都合な制度である。教育審議會總會の答申案には國民學校教員俸給費は國庫負擔と爲す建前とすべしと云ふので、若し之が實現する場合に於ては、教育費交付金に付ての都市町村間の不公平不合理は改善し得られる。

都市計畫の基本問題として極めて有力である所の小都市論田園都市論者は、大都市に於ては市民一人當經費が小都市よ



りも遙に高くついて國家經濟上個人經濟上不經濟であると云ふ。之に付ては正確な統計的調査を必要とするのであるが、大中市の經費が小都市のそれよりも市民一人當に付き不經濟であるとの計數は、必ずしも得難いのではないかと思はれる。或は大中市に於てはより高度の市政サービスより複雑の市政サービスが要求される。サービスの程度によつて經費も違つて來て、經費の多少はサービスの如何と對照さるべきである。少くとも一人當經費の多少を以て大中市の弊害を主張する理由としては、力強さが乏しいのではないかと思はれる。唯一つ電話の費用は大都市に於て著しく高くなるといふ點、電話の時價に照して思ひ合される。大中市と小都市又は町村との對比に於て此等の點よりも、我國に於て壓倒的な信條となつて居ることは、大中市が負擔が輕いと云ふことである。都市生活の性質を考慮に入れて、課税比較をする必要があるが、一般的には都市集中の惡弊も大都市膨脹の弊害も茲に存する。税制改革も交付金制度も此點からは非せられると云ふ。大中市の膨脹を抑制することが、望ましいかも知れないのであるが、然らば帝國の増加する人口を何處に收容するのか。大陸進出や海外移住の途が大に開かれるのは望ましいが、尙内地に於ける増加人口は農山漁村に振向け得られるものではない。大都市の膨脹の弊害が痛論せられるけれども、生産力擴充軍需産業の振興は必然に大都市を膨脹せしめる。小都市が多數に作られ健全な發達を爲さしめ得られることが望ましい。即ち大都市に集まる人口を、小都市に分散するの具體的施設を講ずること、ロンドンカウンチーカウンスルが大規模の住宅經費で、新たな小都市を創建した例やニューデールに依る失業救濟事業としてワシントン郊外に、グリーンベルトの新都市を建設中であることなどは、從來の田園都市經營と異なり、國家公共團體の行政施設である丈に注目すべきであり参考とすべきである。我國の交付金制度其の他の中央財政々策が、大中市を虐待冷遇するのは、大中市に對する反感に出づるのであつて、不合理不公平であるが、之を以て大中市の膨脹を抑制する間接手段であると、善意を以て解することも出来ない。假に大中市は別としても、工業の地方分散によつて人口が地方に集中すれば、町となり都市となる。農村振興がなくとも地方振興を圖ればよい

のである。新しい小都市に付て何等の指導も計畫もなく、單に市制施行の上申を待つて僅かに調査を始める位である。全國に於て市街化の傾向ある町村に付て、其の發達の前途を豫想し適切な計畫を定め、健全なる小都市に進む如く誘導する政策があつて然るべきではあるまいか、然るに現在之を誘導しない位ではない。却て町村が市制を施行すると、町村の當時よりも義務教育費下渡金の二三割を減ずるといふ不合理な手段を以て、小都市を財政的に抑壓する方策を採つて居るので、小都市振興方針からすれば甚しい矛盾である。

#### 四 都市經費の前途

我國の中央財政方針は都市殊に大中市冷遇、農山漁村に極めて手厚い行き方であるが、之を世界的に概観して見ると、我國の農山漁村の如く公共施設の整備した所は、世界に類を見ない。小學校の如きは世界最優良の施設である。文化の發達普及都市生活と農山漁村の生活との差異も、我國の都市農山漁村の間には、世界的に見て最も少ない有様で、我國の最も注意すべき強みであると思はれる。所が、都市特に大中市の公共施設は、嘗に歐洲の古い都市に比し、北米の近代都市に比して見劣りがする丈ではない。中南米南洋東洋に於ける新世界の新しい都市植民地都市に比しても、遜色が無い。此點に鑑みて我國都市は大に積極的な方針を立て、經費の膨脹に省みず、歐米近代都市のレベル以上に都市施設を整備する必要がある。而も其の財源は一般に信ぜられる所では、我國内に於ても農山漁村に比して遙に都市の方が低いと稱せられる。(此の考方に無條件に賛成し得ないのであるが茲では姑らく論及しない)。之が爲に交付金に於ても甚しく虐待せられ疎外せられるのであるから、市民の負擔を増加せしめても、都市施設を積極的に整備することに努力すべきであらう。

都市の經費に付て固有事務論委任事務論は、財政論者の好んで用ふる事であるが、市政の現實の問題としては、其の區



別の如何に拘らず合理性必要性を考ふことが適切である。防空施設費軍事保護費等の時局に依る費用が、固有委任何れの事務に属するか、職業紹介事業は國營に移されたが、轉失業対策に必要な事業起興、生産力擴充に必要な技術者養成職業補導等所謂國策の線に沿ふ施設は、固有事務であるか委任事務であるかに拘らず、補助金交付金の有無に拘らず、國の現状に鑑み都市の情勢に應じて、最善を盡す必要がある。何れは急要を告げて来る公營住宅施設、復員に伴ふ歸還兵士に對する施行、歐洲大戰後の公共團體の任務を參考として、施設すべき事項は極めて多い。或は國民の體位體力の増進健康増進の施設、或は統制經濟の強化に伴ふ職場分配の變化等に際して、躊躇する所なく緩急を圖りて必要な經費を支出する用意が要る。

夫ならば經費膨脹は必然であるが、其の支辨の途があるかどうか。如何なる限度まで負擔力があるか、急激なる増加をしては困難を生ずる。併し我國の經濟力は異常なる進展をした。日本品が世界市場に汎濫するに至つた實力は、専門家當局者までも其の實狀を見て始めて理解した。滿洲事變以來實驗した經濟財政の力で見ても、大に信念を強うしてよい。此等の狀況から推斷して都市各般の積極施設は、大膽に都市發達の前途を豫想して、所謂百年の大計を按じ、前途を見透して施設計畫すべきであり、之に伴ふ合理的な必要な經費は、必ず支辨する財源が獲得し得られることは疑ひを容れない。財政は個人經濟を基礎とするものである故に、個人經濟の情勢に適應することを肝要とする。即ち發達繁榮する都市は市勢發展の情勢に従ふべきである。貧弱窮乏の團體に付ては其の分に應ずる財政を考ふべきである。勿論災害に罹り又は衰頹窮乏に陥らうとする傾向に對して、之を復興し振興發展する積極的の施設は別である。一般の經費は共に貧弱窮乏團體に當然其の經濟力に適應することを心懸けるべきである。窮乏貧弱であつても世間並の費用を支出する。帝國の地方團體として收入の如何に拘らず或施設或支出は絕對必要であるといふ考へ方は失當である。交付金理論は此點に付て批判を免かれ得ない。

## 五 經費の合理性必要性を確保する方法

抽象的に云へば眞に合理的に必要な經費であるならば、必ず之を支辨する方法が存すべき筈である。經費が眞に合理的で必要であるか否かを判斷することが出来れば、合理的な必要な經費は計上し、不合理 unnecessary 經費を削除すれば、經費問題は盡きる。合理的な必要な經費は幾ら膨脹増加しても何等恐るゝに足りないことと云ふことが出来る。此場合に於て經費が合理的で必要であるか否かの判斷は、單にその經費のみを眼中に置くべきではない。其の時期に於て當該財政主體が、其の任務遂行の爲に支出することが、一切の事情環境條件を考慮に入れて好ましいか否かに依りて決すべきである。經費が必要であれば之を支辨する收入を得なければならぬ。收入を調達する苦痛不利益に比較して尙其の經費を支出することとに依りて受ける利益の方が、多いものと認められる場合は、其の經費は是認せられてよいのである。地方的施設の影響結果は直接的であり、見積り易いと云はれ、所謂利益原則を適用し得る範圍が廣いと云はれる。即ち經費の必要性合理性は其の經費支出に依りて到達せられる結果を精確に調査評價することが極めて必要である。且又同一の目的を到達するにも、其の手段方法は所謂最少の勞費を以て最大の効果を擧げることが期すべきである。經費問題は會計の検査決算の審査又は行政成績の検討の機構運用に依りて、常に正道に引き戻し能率を擧げしめる必要があるのである。

經費は或時期に於ける財政主體が其の任務遂行の爲に支出するのである。經費の要否合理性は常に具體的な場合に周囲の情勢と照し合せて判斷すべきである。經費支出を認めるか否かを決定する手續としては、各部局の責任者から豫算要求をし財政當局者が財政狀況と照し合せて取捨の意見所謂豫算査定をし、首腦者が裁斷を下して豫算編成を終つて、議會に提出して審議を経て確定する。元來議會制度の起源は租税の徵收に付て納税者の代表が承諾又は同意をすることから起つて來たのである。従つて議會制度は理事者の豫算要求に對して消極的な態度を以て莅み、修正削減を本務とするやうに觀

念せられ、又地方議會の最初の頃も帝國議會の開會當時も、豫算の大削減をした事例があつた。然るに各國議會の大勢と同じ様に、特定の費目特定の問題に付ての態度は別とし、豫算の全體に付ては概して之が各部各課の利益を強調して増大を要求する傾向が在り、議會は豫算抑制の機關でなくして寧ろ豫算増大の機能を有して居る。即ち議會は納税者の代表者として公益上の立場から經費膨脹從つて之に必然的に伴ふ租税増徴の傾向を抑制するよりも、此の如き一般的利害を代表するよりも各議員の關心は専ら地方的部分的利害に付て強力であり、經費の膨脹増加の勢を煽る形勢にあるのである。

夫故に議會の豫算審議權に増額修正をする權限を認めるとか、又は豫算に付ての發案權を認めるとか、財源が乏しくとも經費だけは膨脹して止まぬこととなり、財政紊亂を來さなければならぬ。是故に從來地方議會には増額修正の權限を認めても帝國議會には、此權限を認めなかつたのであると小川郷太郎博士は説明して居る。地方制度の改革に依つて地方議會にも増額修正を認めないこととする當局の方針であると云ふ。併しながら豫算増額修正が認められず豫算の發案權がなくとも、議會は其の政治的勢力を利用して、理事者をして經費を計上せしめ又は追加豫算を提出せしめる事が出来るから、手續の面倒が幾分差算を來すけれども議會の勢力に依つて經費を膨脹せしめる實際の動きには、變りはないと思はれる。行政は元來各種利害を比較斟酌すべきものであるが、一般的利害公益上の見地は兎もすれば利害稀薄である。力弱い爲に顧みられず地方的部分的の利害が特に高調せられて、大局の利害を忘れ勝となる。此傾向が財政の大局を忘れて各部局の經費増加が膨脹を餘儀なくして、財政難を來さしめるのである。上は閣僚大臣から下は一小部局の當事者まで、所謂豫算分捕に熱中するのが之である。斯様に財政膨脹は必然の勢ひであるから、財政の將來に付て責任を持たしめ、紊亂すれば其を整理し、困窮すれば自ら打開せしめると云ふ財政の獨立自存を認めることが、絶對的に必要な事であり、責任政治地方行政の健康性の爲、依頼心無責任に依る地方行政地方民心の墮落を防止する必要がある。交付金論者は財政自治を破壊するの危險に付て用意が足りないのではないかと思はれる。

併しながら都市行政の部面は廣いのであり、専門的の検討と事務事業管理經營に科學的な合理化を心懸くべきであり、監察制度能率増進の制度等に市役所の組織機構に意を用ふことが肝要である。且市の經費支出は利權獲得の好機會として市政腐敗發獄發生の根源を成すので、此の點に付ても組織的に間隙に乗ぜられない。工夫、不正不徳の議員政商の跋扈跳梁を防止する必要がある。

豫算の様式に於て同一事業に屬する收支を一見比較する途が缺けて居り、殊に收入を伴ふ事業複雑な公益企業に於て資本勘定收益勘定の區別が明かでないことは、現行制度の不備缺陷である。豫算制度の整備改善は經費の合理性を確保する意味に於ても、考究工夫せられる必要がある。決算の認定は豫算の議定と共に、地方議會の最重要の職分であるが、十分に行はれて居らない。地方經費に付ては不當違法の支出が表面的には少しもないかの如くである。國の會計に付ては會計検査院があり、帝室財務に付ては帝室會計審査局が在るに拘らず、地方經費を専門的に審査する機構がない。一般監督官廳があるが會計検査には何等爲す所がない又爲し得ないことは經驗者の認める所である。仍つて地方經費の合理性必要性を確保する爲には、地方會計検査の専門機關を設ける必要があると思はれる。

英國に於ける地方會計検査官制度は、極めて嚴格なもので、違法不當の支出と認定した場合には、責任者に賠償を命ずる。異議があれば控訴上告をする制度である。先年ロンドンの一區ポブラーと云ふ労働者の多い區で、失業手當を支給する額が不景氣になつて物價生活費が下落したに拘らず、其の儘据置いたのが検査官は之を不當と認定して、賠償を命じた。労働黨は舉黨一致之を攻撃する。控訴審では検査官が敗訴となつたが、上告審は上院であり保守黨側は検査官を支持して不當支出なりと確定した。此の事件は當時に於ける英國の社會上政治上の極めて重要問題であつた。夫で想ひ出す事は我國に於て失業救済事業に登録労働者を使用する場合の賃銀は、市場の賃銀より一二割低い程度に定まつて居つたが、市場の賃銀は不況の結果急落したので、登録労働者の賃銀も切下げやうとして何回か試みたに拘らず、労働者の陳情に敗

けて其の據置いて、市場賃銀より高い賃銀を失業者に支拂つて來た。而も之を不當支出なりとする者は無い。不當違法の支出をするときは場合によつては背任罪を構成する。背任罪の成立如何は刑法上微妙な關係があるが、犯罪は成立しない場合に於ても不當違法支出と認定された場合には、之を矯正せしめる又は賠償せしめる制度まで考慮するのでない、經費の合理性必要性は確保せられない。決算に付て單に警告をする、嚴重なる注意通牒を出す云ふのが、精々の所であつては或支出の當不當或經理が必要か否かは單に議論に任せて置いては水懸論となつて際限がないので、殆ど無關心に放任せられるのが從來の例である。

市制第十六條に依れば市は其の必要なる費用及從來法令に依り又は將來法律勅令に依り市の負擔に屬する費用を支辨する義務があり、此の支出に對し財産收入使用料手数料過料過怠金其の他法令に依り市に屬する收入を充てる、仍不足あるとき市税を賦課徴収することが出来る。即ち必要なる費用の爲でない市税を課することが出来ない規定である。彼の所謂大名旅行市會議員の觀察旅行が必要なる費用であるか否かを検討し、一般世間で云ふ如く又監督官廳が指摘する如く不當の支出、名を調査に藉りた不當支出であるとすれば之を必要ならざる費用とし、之を理由として市税賦課に關する異議申立及行政訴訟を爲す途がないであらうか。行政裁判所の判例は支出の不當不法を理由として課税の不法不當を訴求し得ることを認めて居る。美濃部博士は此の判例を不可として居るのであるが、若し行政判例に依つて大名旅行費を必要ならざる費用とし、之を包含する經費支辨の爲の市税賦課を違法なりとし得るものとすれば、大名旅行を公けに非難し得るので市政革新の途が開ける。經費の合理性必要性を公正なる裁判々斷に依つて確保し得られる。原案執行を指揮する場合や起債制限外課税新税設定の許可に當つて、經費の合理性必要性を監督官廳は検討批判するのであるが、近來の傾向は漸次嚴密な審査が望み難くなつた様である。結局經費の合理性必要性を確保し、都市財政の健全なる發展を圖るには、關係者の德義心良心や輿論の監視に任せ得ないのであつて自動的に之を防止し抑制し得る強力な制度機構整備の必要がある。

## 都市經費の實證的考察

大阪市助役  
關西大學講師

森 下 政 一 君

(一)都市經費研究の必要とその困難(緒言) (二)地方費中における都市經費の地位 (三)都市經費膨脹の特異性 (四)國政事務費の増高と地方財政の貧困化 (五)財源難に因る一般行政活動の行詰 (六)都市の大小と經費の關係 (七)都市經費と經濟力の關係 (八)都市の特殊性と經費の關係

### 一 都市經費研究の必要とその困難(緒言)

地方財政特に都市財政については從來から概して財源論が中心となつて論議されて來た傾向がある。從て都市殊に大都市ではその財源が農村に比べて豊富であるとの事實をのみ捉へて、直ちに大都市財政の富裕性を云爲されて來たのが常であつた。然し乍ら、これは明に盾の半面觀に過ぎない妄斷であつて、決して都市財政の全貌を盡したものでないことは論を俟たない。否むしろ量出定入の公經濟原則から云つて、經費方面の究明こそ先づ第一に論議さるべき筈であり、殊に大都市財政の實相把握の正確を期するには是非ともその經費方面の觀察が必要である。然らば何が故に從來財源論が中心とされ、經費論が比較的疎んぜられ來つたか。惟ふに財源論は税制を中心議題としてゐる關係上全國畫一的に論議を進め

得るに反して、経費問題は各地方特有の政治的、社会的特殊事情によつて掣肘せられる處が多いから経費の使途も區々に被れてゐて、その内容を詳にするには各都市の行政的實情に通曉することを先づ必要な前提要件とし、而もそれを整理する豫算決算の區分方法が、各都市不統一になつてゐる關係もあり、その上に全國的な資料としては、内務省地方局編の「地方財政概要」の外據るべきものゝ見出されない現状では、都市経費問題の實證的研究は甚だ困難を伴ひ、徒らに勞多くして功少しとの譏を免れないので今日迄一般にその研究を回避され來つたものと思はれる。以下貧弱なる資料を綜合して都市の経費を現實の數字を通して一通り素描して見たいと思ふ。

### 二 地方費中における都市経費の地位

都市の發展がもたらす財政現象として都市経費が地方費中において逐年重要な地位を占めつゝあることは、周知の事實であるが次表によつても明である。

第一表 地方費中において占むる都市経費の地位<sup>1)</sup>

區分	明治三一年度		昭和一二年度		膨脹指數	
	百分比	純歲出	百分比	純歲出	明治三一年度	昭和一二年度
府	四三	四一、七二〇千圓	二八	五八三、五一千圓	一〇〇	一、三九九
市	一一	一一、二八〇	四六	九四六、二〇四	一〇〇	八、三八九
町	四五	四三、四四三	二六	五二六、一一六	一〇〇	一、二一一
村	一〇〇	九六、四四三	一〇〇	二、〇五五、八三一	一〇〇	二、一三一
計						

即、都市の完全自治制が布かれた明治三十一年には全國地方費總額の僅か一二%しか占めてゐなかつた都市経費が昭和

<sup>1)</sup> 本表は地方財政概要による。

十二年度には四六%を占め地方費全體の約半額に達してゐる。而も都市経費の膨脹割合は府縣町村のそれを遙かに凌駕し八十三倍にも昇つてゐる。これは町村の都市化と都市への人口集中とによつて市部の抱擁する人口が著しく増加した爲にもよること勿論である。即、明治三十一年當時の都市數と市部人口とを昭和十二年のそれと比べて見ると次表の通り都市數では僅かに五十二市であつたものが百四十五に増加し、市部と郡部との人口の分布狀態も市部は一一・七%から三五・二%に増加を見てゐる。

第二表 市部、郡部人口分布狀態の變遷

年次	市數	人口		人口一〇〇〇中割合	
		市部	郡部	市部	郡部
明治三十一年末	五二	五、三〇二、五四五	四〇、〇九七、四六五	一一・七	八八・三
昭和一二年度	一四五	二五、一〇九、四〇〇	四六、一四三、四〇〇	三五・二	六四・八

註 明治三十一年は都市年鑑、昭和十二年は内閣統計局推計人口による。

そこで今、人口増加を考慮外におく爲に一人當経費をとつて比較して見ると次の表を得る。

第三表 人口一人當経費の膨脹 (明治三十一年度は決算、昭和十二年度は豫算)

區分	明治三一年度	昭和一二年度	膨脹歩合	物價昂騰率
府	・九五	八・一九	八倍六	
市	二・一六	三七・六八	一七倍四	
町村	一・二三	一・四〇	一〇倍	二倍三八

註 一、地方財政概要による。

註 二、物價昂騰率は日本銀行調査東京卸賣物價指數(明治三十三年十月基準)による。

即、人口一人當經費について見ても、市の膨脹率が最も高く十七倍強になつてゐることが判る。尤もこの間に一方物價は二倍強に上昇してゐるから、これに物價的修正を加へ、昭和十二年度の經費を明治三十一年度の物價に換算して見ると、結局市では人口の増加する割合以上に更に實質的に約八倍の膨脹を見たことになつてゐる。これは人口の増加と經費の膨脹が正比例するものと假定しての極めて素朴的觀察たるに止まるのは勿論のことであるが、大體において後に述べる様に都市における市民の文化生活の向上と經濟活動の進展に伴ふ各種施設費の出現を暗示するものでこの著しい都市經費の膨脹現象は、結局明治維新以來の驚くべき國運伸張を象徵するものに外ならないと云ふべきである。

### 三 都市經費膨脹の特異性

然らばどんな經費が膨脹して來たのか、以下經費の内容について觀察し、都市經費膨脹の特異性を見ることにする。

第四表 地方費の膨脹とその分野 (明治三十一年度は決算、昭和十二年度は豫算)

費目	明治三十一年度				昭和十二年度			
	府	市	町	村	府	市	町	村
教育費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
土木費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000

費目	明治三十一年度				昭和十二年度			
	府	市	町	村	府	市	町	村
衛生及病院費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
勸業費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
社會事業費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
警察又ハ警備費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
役所及會議費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
電氣瓦斯費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
都市計畫費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
公債費	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
其他	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
計	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000

註 地方財政概要による。

即、明治三十一年と今日との間における經費分野の變遷を見ると、府縣では昔は土木、警察、教育費を中心としてゐたものが、今日では勸業方面の分野が著しく發達して來てゐることが判り、又市では電氣、瓦斯等の公企業の勃興の外に衛生費、社會事業費及之等に伴ふ公債費の分野が著しく向上しつゝあり、而も保健社會事業費の膨脹率に至つては實に驚くべきものがある。尙町村では舊態依然として教育費が大半を占め、役場費がこれに次いでゐる有様で、只膨脹率では社會事業費が目立つて注目を惹いてゐるに過ぎない。

そこで都市經費膨脹の特異性としては、府縣が獨り勸業費において伸びつゝあるに對し、市は社會、勸業、衛生の方面

において全面的に發展しつゝある點を注目すべきであつて、この傾向は都市經費將來の動向を暗示するものであるとも云へよう。このことは都市財政を論ずる上においては是非共頭におかねばならぬ事實であると思ふ。何となれば斯くの如き財源を伴ふこと少き諸經費の膨脹せんとする事實は、後に述べんとする國政事務費の膨脹と相俟つて今日迄都市財政を窮乏に導き來つた處であり、且將來財源問題を適當に解決せざる限り愈々都市財政を窮迫に陥れんとする危険性を孕んでゐると云つてよいからである。

#### 四 國政事務費の増嵩と地方財政の貧困化

地方財政困窮の根本原因が、財源を伴はざる國政事務費の激増にあることは、萬人周知の事實である。茲に國政事務費と云ふのは、法令により國家から公共團體たる市町村及國家機關たる吏員に委任された事務即、團體委任と機關委任の事務の外に、國家の事業に對する市町村の費用負擔をも含めたものである。この問題については既往においてもかなり重視され、昭和四年の地方制度改正に際し、從來市町村の機關に對する委任が單なる命令や訓令通牒一本で行はれてゐたのを將來は市町村に對する團體委任と同様法律又は勅令を以てするを要することに改正されたが、その後における實際問題としては、國費節減の餘波はヒシヒと市町村への國政事務の擴大となつて迫りつゝあるのが實情である。

今、六大都市における此の國政事務費が一般行政費總額に對して占めてゐる割合を見ると次表の通りである。

第五表 六大都市費中主要國政事務費の推算（昭和十二年度豫算）

區 分	東 京	大 阪	京 都	名古屋	神 戸	横 濱
教 育 費	千圓 七、七五三	四〇、四四〇	四八、四三三	二、〇二二	三、〇六一	五、六二〇

土 木 費	二二、四八六	二、三三三	一、八七六	二、八六六	五、三三八	三、七〇一
衛 生 費	一五、四九〇	三、三六〇	四、六六六	五、一五九	一、四三三	二、六六六
勸 業 費	六、三三三	一一一	八	二〇	七	一
社 會 事 業 費	六、四四四	二、四七六	一、四七六	七、七三三	一、三三三	四、四四四
都 市 計 畫 費	二二、二二二	一、二二二	一、三三三	五、〇〇〇	二、二二二	二、三三三
應 計 費	六、〇〇〇	二、五五五	一、一〇四	一、二二二	一、二二二	七、七三三
合 計	一八、八八八	二、二二二	一、八八八	三、三三三	一、七七七	三、三三三
一般行政費に對する割合	六割四	六割三	七割二	七割六	五割八	六割六
支出に伴ふ特定収入	二、三三三	一、七七六	三、三三三	三、三三三	四、四四四	二、〇〇〇
差 引 純 負 擔	二、一五五	六、四四四	一、四四四	一、六六六	三、三三三	一、六六六
市税總額に對する割合	一倍五	二倍二	二倍九	二倍六	二割四	二倍七

註 特別市制要望理由書による。

即、六大都市においてすら一般行政費の六割乃至七割迄が國政事務費に屬しており、而もその財源として特に與へられてゐる補助金、交付金及使用料、手數料其他事業に伴ふ収入は僅々二割内外に過ぎないから、これを控除した市の純負擔は實に市税總額に對し一倍三乃至二倍餘に達してゐる有様である。

以上は大都市經費中の國政事務の靜態的地位を述べたのであるが、この國政事務費の都市財政壓迫の實相をより明確に把握する爲、次にこの國政事務費と固有事務費とが如何なる膨脹振を示してゐるかの動態的觀察を試みることにする。これには「地方財政概要」がこの目的の爲の參考資料として不完全なるため、残念乍ら全國的な資料を得難いので、例を大阪市にとることをお許し願ひ、明治三十一年完全自治制施行以來の數字について眺めて見ることにする。

第六表 大阪市における國政事務費と固有事務費の膨脹(決算)

事務別	國政事務費			固有事務費	國有事務費中企業關係經費を除きたるもの
	狭義	廣義	計		
明治三十一	市費(七七八) (100)	四六、五五五 (100)	一、二九一、九七三 (100)	二、二六〇、八八六 (100)	二、一三二、八八六 (100)
同 三 六	一、一四一、六三三 (141)	一、一四一、六三三 (141)	二、四三三、六〇六 (188)	四、二〇一、五八六 (186)	三、〇六九、七〇三 (144)
同 四 一	二、五八二、〇〇一 (226)	一、五八〇、三三〇 (134)	四、一六二、三三〇 (322)	五、一三三、九〇九 (227)	三、〇〇三、七五五 (141)
大 正 三	二、四四七、一三三 (213)	一、四四〇、一六六 (120)	三、八八七、二九九 (302)	四、一三三、九〇九 (186)	一、二一〇、一三六 (56)
同 八 三	五、四四七、四〇六 (226)	三、四四七、四〇六 (111)	八、八九四、八一二 (226)	三、四四七、四〇六 (83)	三、〇〇七、〇〇〇 (134)
同 一 三	一、一四〇、〇五五 (121)	三、一六八、〇一六 (277)	四、三〇八、〇七二 (100)	三、一六八、〇一六 (92)	一、一三九、〇五五 (95)
昭 和 四	一、五八二、〇〇一 (134)	三、一六八、〇一六 (277)	四、七五〇、〇一七 (110)	三、一六八、〇一六 (92)	一、五八二、〇〇一 (134)
同 九	一、五八二、〇〇一 (134)	三、一六八、〇一六 (277)	四、七五〇、〇一七 (110)	三、一六八、〇一六 (92)	一、五八二、〇〇一 (134)
同 〇	一、五八二、〇〇一 (134)	三、一六八、〇一六 (277)	四、七五〇、〇一七 (110)	三、一六八、〇一六 (92)	一、五八二、〇〇一 (134)
同 一	一、五八二、〇〇一 (134)	三、一六八、〇一六 (277)	四、七五〇、〇一七 (110)	三、一六八、〇一六 (92)	一、五八二、〇〇一 (134)
同 二	一、五八二、〇〇一 (134)	三、一六八、〇一六 (277)	四、七五〇、〇一七 (110)	三、一六八、〇一六 (92)	一、五八二、〇〇一 (134)

註 一、國政事務費中狹義とは主として強制負擔の委任事務費を指し、廣義とは主として隨意負擔の委任事務費を指す。但し大阪港は市營港なるを以て港灣費を固有事務費中に計上せり。

二、括弧内は膨脹指數を示す。

即、右の表によれば明治三十一年から昭和十二年度迄の間に國政事務費は、實に約六十倍に達してゐるに拘らず、自治公共事務たる固有事務費は四十二倍になつたに過ぎず、而もこの固有事務中には電氣、水道等の所謂公企業自體の經費を含んでゐるから、これを除算して一般行政關係經費のみについて見ると、固有事務費は僅々十二倍となつてゐるに過ぎない。この事實は法令上確認された法文上の自治は、現實の財政活動としては、極めて貧困化された姿となつて現はれてゐることを物語るものとして極めて示唆深きものがある。我邦代表的大都市たる大阪市において斯くの如きものありとせば全國市町村における實情亦推して知るべきである。從來から往々にして國家豫算を組む際各省が新規事業を起すには、僅少な補助金を市町村に與へて經費の大部分を地方團體の負擔に轉嫁すると云ふ方法を極めて巧妙なる豫算要求上の戰術と考へ、大藏當局亦國費の膨脹を免れんとするの餘り、地方費への壓迫を敢へて默認し國費を要すること少なければ一も二もなく承認すると云ふ甚だ不合理不正極まる編成方針で臨んで來たことを屢々耳にするのであるが、この永年の慢性的惡慣行がある様ではいくら法規の末節を改正しても到底市町村財政は浮ばれず、茲に國政事務費の地方財政壓迫と云ふ自治の畸形兒を生んだのが現状である。かかる状態では大都市と雖もその自治體としての自主的活動は不可能であつて、單なる國政事務執行の行政機關としての機能しかもち得ない。そこで都市をして眞に驕足をのばして活動せしめるには、どうしても相當思ひ切つた國政事務費の國庫分擔制を敢行せねばならぬ。而して、これは獨り大都市のみならず地方財政全般に亘る根本的な救済策である。今や國政事務費の合理的國庫分擔制要求の聲は、全國地方團體は元より識者間より澎湃として起りつゝある時論であると云つてよい。而して先年馬場財政下において企圖せられた地方財政調整交付金制度の如きは、比較的富裕なる大都市住民の負擔増徴によつて地方の一般市町村財政を救済せんとするものであり、昨年度より實施されつゝある臨時地方財政補給金制度は同じく大都市々民の負擔において地方農村住民の負擔軽減を企圖せんとするに

過ぎぬから、茲に云ふ國政事務に對する一般的なる國庫分擔制ではない。この問題は將來における地方財政改善の根本策として残された重要課題であり、將來政府當局と雖もこの問題を解決せざる限り、地方財政の根本的救済は到底達成せられないことを自覺されてゐることと思ふ。

五 財源難に因る一般行政活動の行詰

都市たると町村たるとを問はず、地方公共團體には凡そ二つの使命が負はされてゐる。一つは自治體本來の活動として自主的に市民の文化生活を向上發展せしめんとする所謂自治的的使命であり、他は國家行政の一機關としてその統制下において國家目的を遂行せんとする所謂行政的的使命である。而して前者の代表的な顯現として都市、殊に大都市における電氣水道等の公企業を擧げることが出來ると思ふ。この公企業活動こそ今日大都市財政の上に最も顯著な特異性を與へてゐるものであることは、何人も異論のない處である。そこで都市の經費を公企業經費と一般行政經費とに大別してその分野と膨脹振を観察して見ると、そこには公企業活動の旺盛なるに反し一般行政活動の相當行詰つた姿を發見する。只茲でも「地方財政概要」が不完全な爲、全國的資料を得られなかつたので、残念乍ら已むを得ず例を大阪市に求めることにした。

第七表 公企業一般行政別經費の分野とその膨脹 (大阪市決算)

(其の一) 事業別 (資料参照)

區分	明治三一年度		昭和一二年度		分 野		明治三一年度を 一〇〇とせる膨 脹率
	明治三一年度	昭和一二年度	明治三一年度	昭和一二年度	明治三一年度	昭和一二年度	
一般行政經費	三、三四五、八五九圓	九七、〇七八、二四六圓	八八五	五四二	二、九〇一		
役所費	一五四、七八四	四、五七七、九六九	四一	二六	二、九五八		

土木費	一七八、七三四	五、八八六、二八九	四七	三三	三、二九三		
都市計畫費	一	一四、二六七、八六七	一四	八〇	一〇、八七二		
下水道費	五一、二九三	五、五七六、四四八	一四	三一	四〇八		
港灣費	一、七五五、〇五〇	七、一五三、〇七三	四六四	四〇	三、四六二		
教育費	七〇八、七九二	二四、五三九、一七三	一八八	一三七	六、一三四		
保健費	九二、〇七二	五、六四七、三〇一	二四	三一	三四、七〇四		
社會事業費	九、六〇四	三、三三二、九二八	三	一九	三、一〇三		
産業費	一	二、一六七、二〇九	一	一二	六、七五二		
其他費	七六、一一〇	二、三六八、五八四	二〇	一三	一八、九二三		
公債元利支拂	三一九、四二〇	八、九二九、六一七	八四	四六	三、二五二		
公企業經費	四三三、九五三	五、四〇五、四六八	一一五	三〇二	一〇、九四一		
電氣事業費	一	八、二七九、六四〇	一	四六	四、七七七		
上水道費	二五四、五七二	七、八八〇、六	六八	一			
其他費	一	一七九、〇〇七、八六三	四七	一〇九			
公債元利支拂	一七八、三八一	一、〇〇〇	一〇〇〇				
合計	三、七七八、八一二	九七、〇七八、二四六圓	八八五	五四二	二、九〇一		

先づその膨脹率について見ると、完全自治制施行の明治三十一年度以來昭和十二年度迄の間に、公企業費が一八九倍に上つてゐるのに對し、一般行政費は此の間二九倍になつたに過ぎない。従て昭和十二年度においては、全經費の約半額は公企業費で占め、公企業活動の優位性を物語つてゐる。今參考の爲外國都市の一、二の例をとつて見ると、一九三四年度



のニューヨーク市歳出總額七億四千七百萬弗中公企業費は僅かに約二千萬弗に過ぎず、九割八分迄が一般行政經費で占められて居り、又一九三六年度のベルリン市豫算について見ても總經費六億九千萬マルク中、公企業費は僅かに九千百萬マルクであつて、全經費の八割六分迄が一般行政費で占められてゐるのを發見する。これは一面においては米國では公益企業の民營主義が行はれ、獨逸においては公私協同經營主義が採用せられてゐる等公益企業經營上の根本主義を異にしてゐる國情の相異にもよるが、他面これ等の都市における歳入の分野を窺つて見ると、これ等の都市が強て企業方面に力を伸ばさずとも一般行政方面に充分驥足を伸ばして活動し得るに足る充分な獨立稅源が附與されてゐると云ふ實に羨ましい事實を發見する。即ニューヨーク市でこの一般行政關係經費たる七億二千七百萬弗の經費を支辨する財源中、その約七〇%に當る五億四百萬弗迄が不動産課稅を目標とした一般財產稅及特別稅で賄はれて居り、又ベルリン市においても一般行政費約六億マルクに對しその七六%に當る四億五千六百萬マルクの租稅財源を保有してゐる。只獨逸では歐洲大戰後租稅制度は漸次中央集權化した結果、このベルリン市の市稅中約二割は財政調整法によつて國稅及邦稅の一部が交付金として分與され、残り八割が市の獨立稅となつてゐる。何れにしてもこの兩市の事例は附加稅を主とし極度に制限を加へられ半身否全身不隨化した他力本願の我邦地方稅制に對し確かに他山の石たるを失はない。蓋し地方財政における利益原則から云つて地方自治體の各種施設によつて恩惠を受くること多き市内不動産に對し自治體が獨立課稅を行ひ、これを更に施設擴充の財源とすることは極めて合理的と考へられるからである。保健、衛生、勸業、社會等一般行政關係各方面において我邦の都市施設が歐米諸都市に比べて遙かに遜色あるを免れないのは蓋し偶然ではないと云はねばならぬ。

次に前掲の公企業、一般行政別經費の膨脹を更に經常費公債元利支拂、臨時事業費に細分して觀察して見ると一層一般行政經費の行詰りを示唆するものがあるのを覺える。

第七表 公企業、一般行政別經費の分野とその膨脹 (大阪市決算)

(其の二) 經常費、臨時費別

區分	明治三一年度	昭和一二年度	分 野		膨 脹 率
			明治三一年度	昭和一二年度	
一般行政	經常	一、〇三三、三七四圓	三〇六	三三二	三、〇四五
	公債	三一九、四二〇	九五	二二二	六、七五二
	臨時	二、〇〇四、〇六五	五九九	四五七	二、二一五
	計	三、三四五、八五九	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、九〇一
公企業	經常	一五二、九九四	三三三	四五九	二四、五五九
	公債	一七八、三八一	四一二	二三八	一〇、九四一
	臨時	一〇一、五七八	二三五	三〇三	二四、四五四
	計	四三二、九五三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一八、九二三

即、公企業費においては、經常費、公債費、臨時事業費の如何を問はずその膨脹は何れも企業活動の旺盛化を意味するものとして財政上少しも恐るゝに足らぬが、一般行政費において公債費の膨脹が最も大きく、經常費の膨脹がこれについて居り、又その分野においても公債費が著しく多額を占めて來たと云ふ現象は決して好ましくない事實であつて、結局一般行政經費發展の將來性が著しく減殺されてゐると云はねばならぬ。代表的大都市たる大阪市においてすら斯くの如き状態なりとすれば、一般市町村の状況亦推して知るべきであらう。

以上を以て大體都市經費の膨脹を中心としてその財政難の一斑を明にしたつもりであるが、尙觀察の角度を變へて昭和

十二年度豫算における六大都市経費中人件費物件費の分野について見ると、次表の如く大體において各都市間に一定の類型のあることが見出される。

第八表 昭和十二年度六大都市人件費、物件費（當初豫算）

市 別	總 支 出	内		譯
		人 件 費	物 件 費	元 利 支 拂
東 京	一六、四三三、四七五 (100)	四、六五五、九六六 (28.3%)	八、七二一、八九三 (53.1%)	三、〇五五、五一六 (18.6%)
一 般 行 政	八、五八三、一五五 (100)	一、七〇三、六二〇 (19.9%)	三、〇九六、五九〇 (36.0%)	三、八八二、九四三 (45.1%)
公 企 業	二、三三三、九〇〇 (100)	六二一、七五五 (26.7%)	二、五七五、五二九 (110.3%)	一、一三六、六二六 (49.0%)
大 阪	一五、一三三、五五五 (100)	三、八六六、六〇一 (25.5%)	六、八五三、一一四 (45.3%)	三、七五三、八三九 (24.9%)
一 般 行 政	六、七五五、七四九 (100)	一、九二九、五五五 (28.5%)	三、〇〇五、四九五 (44.5%)	二、八二〇、七四九 (41.6%)
公 企 業	二、三三三、九〇〇 (100)	四、九三六、〇五五 (211.5%)	二、〇〇五、四九五 (85.7%)	一、〇〇五、四九五 (43.1%)
京 都	一五、一三三、五五五 (100)	八、一〇〇、六六一 (53.6%)	一、七二八、八九〇 (11.4%)	五、三〇三、八六五 (35.1%)
一 般 行 政	一、二一六、四四三 (100)	五、〇〇五、四四五 (411.7%)	三、三九八、二二〇 (279.4%)	一、四〇二、七七三 (115.2%)
公 企 業	一、〇〇五、四四五 (100)	一、四〇二、七七三 (139.5%)	一、〇〇五、四四五 (100.0%)	七、〇〇五、四四五 (695.5%)

名古屋	一般行政	二七、一六、一三三 (100)	七、一〇、〇四五 (二七)	一三、二八、六二三 (四九)	六、五七、四五五 (四三)
公 企 業	一、一四、四八七 (100)	四、四六、六二二 (三〇)	四、六八、五七四 (四一)	三、二九、九六二 (一九)	三、二九、九六二 (一九)
計	二八、三一二、四七〇 (100)	一〇、七五、七五二 (二)	一七、九三、九九九 (四六)	一七、五八、六四一 (四六)	九、八七、〇一五 (三六)
横 濱	一般行政	一、九七、五八八 (100)	五、二四、三五四 (二七)	五、五七、〇五五 (二八)	八、八七、〇五五 (四五)
公 企 業	一、一四、九二五 (100)	二、七二、一五六 (二三)	四、〇六、五九七 (三三)	四、七二、一五六 (四一)	四、七二、一五六 (四一)
計	三、一二、五一一 (100)	七、九五、九六〇 (三)	九、六四、一五二 (三三)	一三、五三、〇七六 (四三)	一三、五三、〇七六 (四三)
神 戸	一般行政	一、〇一、〇二六 (100)	八、二二、三九七 (二)	一、〇一、〇二六 (一〇)	五、二二、三九七 (八)
公 企 業	二、八八、四九五 (100)	五、六九、七四六 (一〇)	一、八八、四九五 (六)	四、八八、四九五 (一五)	四、八八、四九五 (一五)
計	三、八九、四五二 (100)	一三、九二、一四二 (四)	二、八九、四七一 (一)	一〇、〇一、〇二六 (一七)	一〇、〇一、〇二六 (一七)

註 一、括弧内は百分比を示す。

二、東京、京都、大阪は學區經濟を含む。

こゝで注意せねばならぬ事は六大都市の経費中、物價の變動による影響を感受することの最も強い物件費が僅かに横濱市の例外を除き何れも總経費の半額以上を占めてゐる事實である。これは物價昂騰の趨勢にある最近の情勢から云つて現在並に將來において都市財政の上に相當強度の重壓を加へんとしてゐることを意味するものと云はねばならぬ。

次に経費と最も密接な關聯性を有してゐるものに二つの要素が考へられる。一つは人的要素即人口であり、他は物的要素即經濟力である。そこで以下甚だ不完全ながらこの二要素と都市経費の關係について考察を進めて見たいと思ふ。

# 六 都市の大小と経費の関係

人口の都市集中は世界的傾向であると云はれてゐるが、我國は今日世界において人口百萬圓を超ゆる超大都市が、三十  
七市ある内で四市を占め米國の五市に次いで世界第二位にある程だから人口の大都市集中の現象については世界的に見て  
も決して引けをとらないと云つてよい。

第九表 各國の人口階級別市町村人口の割合

國	調 査 年	總 人 口	人口一〇〇に對し左記各階級市町村人口割合				
			一萬未満	一萬―二萬	二萬―五萬	五萬―一〇萬	一〇萬以上
日 本	一九三五	六九、二五八、 千	五四・一	九・〇	六・二	五・三	二五・三
イ ギ リ ス	一九三一	三九、九五二	二五・七	八・四	一一・九	八・八	四五・一
フ ラ ン ス	一九三一	四一、八三五	六一・七	七・五	八・四	六・七	一五・七
ド イ ツ	一九三三	六五、一八九	五〇・七	六・〇	七・七	五・四	三〇・二
イ タ リ ー	一九三一	四一、一七七	四九・五	一四・〇	一二・六	六・六	一七・三
ソ 聯 邦	一九二六	一四七、〇三五	八四・一	三・八	二・三	二・八	六・五
米 國	一九三〇	一二二、七七五	五二・五	五・〇	七・〇	五・三	二九・六

註 日本都市年鑑による。

概、一般に人口の都市集中が都市経費の膨脹を招來することは極めて常識的に肯かれる命題であるが、この事は都市経  
費の絶對額についてそうであるばかりでなく、人口一人當りの経費においても大都市になればなる程大きくなると云ふ事

實が内外多數の人々によつて提唱されてゐる。尤もこの事實は人口階級の區分の仕方や、年度を異にすることによつて變  
動を免れ得ないからその結論の正確を期する爲には數ヶ年に亘る累年の研究を必要とすること勿論であるが、今試みに昭  
和十二年度について見ると、大體においてこの提唱が我邦都市経費の上にもあてはまることを發見する。

第一〇表 都市の大小と経費の関係 (昭和十二年度豫算)

區 分	純 歳 出	人 口	一人當歳出	都 市 數
五 萬 未 滿 の 市	二六、五六八、五九八	一、六三三、九〇〇	一六・二六	四四
五 萬 以 上 の 市	六九、八九六、二二五	四、〇〇三、八〇〇	一七・四五	五八
一〇 萬 以 上 の 市	七四、九〇五、一一九	三、四〇九、〇〇〇	二一・九七	二二
二〇 萬 以 上 の 市	五四、九三一、八〇九	二、三八九、八〇〇	二二・九九	一一
小 計	二二六、三〇一、七四一	一、四三六、五〇〇	一九・七九	一三五
大 市	七一九、九〇二、七九八	一三、五三一、五〇〇	五三・二〇	六
計	九四六、二〇四、五三九	二四、九六八、〇〇〇	三七・九〇	一四一

註 一、地方財政概要による。

二、人口は昭和十二年十月一日内閣統計局推計による。

そこで更に都市の大小と経費との相關關係を明にする爲に前記純歳出の内譯を窺つて見ると、人口一人當の總ての都市  
経費が都市の大きくなる程只單純に量的増加を來すのではなくて増加する経費もあれば増加せざる経費もあり、明に経費  
分野の上に質的變化があることが見出される。

第一一表 都市の大小と一人當經費の分野 (昭和十二年度豫算)

費目別	五萬未満の市					五萬—一〇萬					一〇萬—二〇萬					二〇萬以上					小計	六大都市	計
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓					
教育費	四・八四	五・〇六	五・三四	五・二一	五・一五	七・四五	六・三九	三・二八	四・九二	四・八	一・一八	四・九二	四・八	一・一八	四・九二	四・八	一・一八	四・九二	六・三九				
土木費	一・八三	一・六九	二・三四	一・四三	一・八五	四・四九	三・二八	四・九二	四・八	一・一八	四・九二	四・八	一・一八	四・九二	四・八	一・一八	四・九二	三・二八	六・三九				
衛生費	二・二二	二・四五	三・四〇	四・二七	三・〇八	六・四八	四・九二	四・八	一・一八	四・九二	四・八	一・一八	四・九二	四・八	一・一八	四・九二	四・八	一・一八	四・九二				
勸業費	・五一	・五八	・五七	・三六	・五二	・四四	・四四	・四四	・四四	・四四	・四四	・四四	・四四	・四四	・四四	・四四	・四四	・四四	・四八				
社會事業費	一・〇三	・九三	・八九	・七九	・九〇	一・四二	一・一八	一・一八	一・一八	一・一八	一・一八	一・一八	一・一八	一・一八	一・一八	一・一八	一・一八	一・一八	一・一八				
電氣瓦斯費	・一二	・二三	・七九	・二六	・五九	八・七一	四・九九	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	四・九九				
都市計畫費	・〇四	・六七	一・四五	一・七八	一・〇五	三・一一	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七	二・一七				
役所及會議費	一・六九	一・五二	一・六六	一・四九	一・五八	二・〇二	一・八二	一・八二	一・八二	一・八二	一・八二	一・八二	一・八二	一・八二	一・八二	一・八二	一・八二	一・八二	一・八二				
警備費	・二四	・二九	・二七	・二七	・二七	一	・一二	・一二	・一二	・一二	・一二	・一二	・一二	・一二	・一二	・一二	・一二	・一二	・一二				
公債費	二・五一	二・九六	三・八一	四・七九	三・五三	一五・五四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四				
其他費	一・二三	一・〇七	一・四五	一・三四	一・二七	三・五四	二・五一	二・五一	二・五一	二・五一	二・五一	二・五一	二・五一	二・五一	二・五一	二・五一	二・五一	二・五一	二・五一				
計	一六・二六	一七・四五	二二・九七	二二・九九	一九・七九	五三・二〇	三七・九〇	三七・九〇	三七・九〇	三七・九〇	三七・九〇	三七・九〇	三七・九〇	三七・九〇	三七・九〇	三七・九〇	三七・九〇	三七・九〇	三七・九〇				

註 一、地方財政概要による。

二、人口は昭和十二年十月一日内閣統計局推計による。

即ち、教育、土木、勸業、役所、警備費等の諸經費は人口一人當りについて見ると、都市の大小に拘らず大體同額に止つてゐるが、電氣、瓦斯等の公企業經費や保健衛生費を始め、都市百年の大計とも云ふべき都市計畫事業費並公債費等の

一人當り經費は、都市が大となればなる程愈々大となつてゐる。而して六大都市についても全般的に經費が多いが以上の傾向は特に強く現はれてゐる。これは教育費等ではその施設や教育内容が大體全國劃一的に行はれてゐる爲、その經費は専ら都市人口の多寡によつて制約されてゐるに反し、保健衛生、社會事業等の經費については大體人口の都市集中に伴ひ必然的な社會的害惡の豫防、治療並に進んでは、市民生活の向上の爲の諸施設が要求せられる結果、大都市となればなる程人口増加の割合以上に經費の量的並質的な加速度的増高を餘儀なくされることを暗示してゐる。

然らばこの質的な施設の加速度的増高を餘儀なくされる都市の限界は何處にあるか、換言すれば、人口が何萬以上に達すれば大體斯かる施設の増高現象が起るものであるかと云ふことが、我々の次に知り度いと思ふ題目である。そこでこの間の實情を明にする爲に全國の都市を人口の大小に應じて六大都市以下五つの階級に分類し、その市の有する施設との關係を表示し、これによつて都市の大小と各種施設の普及状態との間に如何なる關係があるかを觀察して見ることにする。

第一二表 都市の大小と各種施設の普及状態 (昭和十二年度)

區分	市					小計					五萬未滿		
	數	施設を有する市の數	市數より見たる普及率	數	施設を有する市の數	數	施設を有する市の數	市數より見たる普及率	數	施設を有する市の數		市數より見たる普及率	
區分	六大都市	六	八三五	一〇〇六	一	一一	二七三	一〇〇六	一	一四	三九	五八	四四
	二〇萬以上	一	二七三	一〇〇六	一	一一	二七三	一〇〇六	一	一四	三九	五八	四四
	一五萬—二〇萬	八	一三一	一〇〇六	一	一一	二七三	一〇〇六	一	一四	三九	五八	四四
	一〇萬—一五萬	一	二七三	一〇〇六	一	一一	二七三	一〇〇六	一	一四	三九	五八	四四
	五萬—一〇萬	一	二七三	一〇〇六	一	一一	二七三	一〇〇六	一	一四	三九	五八	四四
小計	六	八三五	一〇〇六	一	一一	二七三	一〇〇六	一	一四	三九	五八	四四	

區 分	六大都市						小 計	五萬未滿
	一〇萬以上	一〇萬—二五萬	二五萬—五〇萬	五〇萬—一〇〇萬	一〇〇萬—二五〇萬	二五〇萬—五〇〇萬		
上水道	一〇〇六	一〇〇一	一〇〇八	一〇〇四	一〇〇三	六四〇	四二〇	
下水道	一〇〇六	四五五	三八三	三六五	四一九	五三	〇〇	
公益質屋	一〇〇六	九一〇	八七七	六四九	八三二	六四九	五二〇	
住宅	一〇〇六	七二八	七五六	六四九	七四九	一四八	一四六	
卸及小賣場	一〇〇六	五五六	六〇五	四三六	五九三	七四	五二	
病院	一〇〇六	八一九	七五六	六四九	七三〇	二六五	一二五	
都市計畫	一〇〇六	一〇〇一	一〇〇八	一〇〇四	一〇〇三	一七〇	〇〇	
共同宿泊所	一〇〇六	六三七	六二五	二八四	五二六	二一二	九四	
託児所	一〇〇六	三六四	八七七	二八四	五二四	二五五	三一八	

註 日本都市年鑑による。

即ち、この表を見れば判る様に、大體都市人口が大きくなればなる程電氣、水道等の公企業は因より下水道、公益質屋住宅、市場、病院、共同宿泊所、託児所等各般の施設が普及して來るのであつて、殊に人口十萬以上の處に一線を劃して見ると、そこには明にそれ以下の都市に比べて著しい普及率の向上を發見する。即ち、普通人口統計上十萬以上の都市を

我々は大都市と呼んでゐるが、その用語は決して實質的意味においても不用意な言葉ではなく、それ以下の所謂中小都市との間には、都市施設の上において大都市と呼ばれるに相應しい丈の格段の相異を有することが明にされ得る。即ち人口十萬以上の市では何れも總て上水道を有し、又都市計畫事業を施行してゐる外、住宅、病院、市場、公益質屋、共同宿泊所、託児所等の社會施設をもつてゐるものが大體半數以上に達してゐるが、人口十萬以下の都市では實に寥々たるものである。尤も中小都市にあつても上水道事業と公益質屋とが比較的普及されてゐる事が窺はれるが、この内後者については別に理由がある。それは昭和二年八月公益質屋法が施行せられて以來政府が積極的獎勵策をとり來つた處、元來この施設は相當多額の資金を要する爲多く富裕都市に偏在し勝であつたので、打續く經濟界の不況による一般地方民の窮乏に鑑み政府は昭和七年度以來、所謂時局匡救事業の一として多額の獎勵費を支出した結果各地にその新設を見たものであることを注意せねばならぬ。

以上は大體において都市の任意的施設を中心としてその都市の大小との關係を述べて來たのであるが、以下主なる國政事務を中心として都市の大小との關係を觀察して見たいと思ふ。

(一) 教 育

先づ國政事務の大宗とも云ふべき義務教育の方面では、大都市と一般市町村との間にどんな相異があるかと云ふと學童數の膨脹率が大都市において特に高率であると云ひ得る。

第一三表 大都市における學童數の増加率

全國市町村立小學校兒童數(尋高を含む)	昭和九年		昭和四年		増 加 率
	一、一五七、八五六	九、八六〇、六二九			

大阪、名古屋、神戸、横濱、市立  
小學校児童數

	昭和九年	昭和四年	増加率
	六七四、〇六四	五三一、八七〇	二六・七三

註 一、六大都市中より東京市、京都市を除いたのは兩市共此の年度間に市域の擴張があつた結果、これを入れると六大都市の増加率は八四・〇六%となり他との比較上不都合を生ずるからである。

二、大日本帝國文部省年報(昭和四年一十年)、六大都市教育(學事)要覽(昭和十二年度)による。

即ち、昭和四年から同九年迄の五ヶ年における學童の増加率は、全國市町村平均では一三・二六%に過ぎないが、四大都市では二六・七三%で約二倍強を示してゐる。従つて小學校經費の如きも左表に示す通り、六大都市中でも年々三百萬圓の累増を見つゝある現状である。而も教育上最も弊害の多い二部教授が次表によつて大都市程ひどく、殊に六大都市において最も甚しいのを見ることは實に寒心に堪へなう。

第一四表 二部教授の割合 (昭和十二年度)

市 別	六 大 都 市	二〇萬以上 (一〇〇市)	一〇萬—二〇萬 (二三市)	五 萬—一〇萬 (五八市)	五 萬 未 滿 (四八市)
總 學 級 數	三〇、三八七	五、七六九	八、二六四	九、七三四	四、五六四
二 部 學 級 數	二、七二八	一八六	二六二	五二	二六
一〇〇學級中の二部學級	九%	三・二一%	三・一七%	〇・五%	〇・五%

註 日本都市年鑑による。

尤もこの六大都市の二部教授率の高いのは、大阪市内における昭和九年の大風水禍によつて受けた創痍が未だ完全に癒えぬ爲にもよるが、一面には裏に述べた様に學童の増加率がすばらしく高い爲主として財政上の理由によると云つてよいと

思ふ。

第一五表 六大都市小學校經費

市 別	昭和十三年 度 豫 算			平 均 毎 年 度 増 加 額		
	人件費	物件費	學校建設 市債元利金	人件費	物件費	學校建設 市債元利金
東 京	三〇、八八六、〇五五圓	四、七四〇、五三〇圓	八、一八六、六六六圓	六、三三三、五七二圓	一四、一四〇、七六六圓	五〇、六六六、七六六圓
京 都	三、五二二、三八三圓	一、五〇一、九六〇圓	二、〇六八、〇六六圓	七、一八八、四八六圓	二、〇〇〇、〇〇〇圓	一八、八〇〇、〇〇〇圓
大 阪	九、四九五、一〇九圓	一、五五五、九五一圓	三、五九六、六六三圓	四、四〇〇、〇〇〇圓	五、五二五、五二五圓	三三、六六六、六六六圓
横 濱	二、一〇一、一七三圓	三、三三三、三三三圓	二、四九六、七六六圓	四、九〇八、二二二圓	九、八四〇、〇〇〇圓	六、七五〇、〇〇〇圓
神 戸	三、五七五、〇〇〇圓	三、三三三、三三三圓	一、三三三、三三三圓	四、九六六、四三三圓	一〇、五九六、七六六圓	一七、六六六、六六六圓
名 古 屋	三、五八六、九六六圓	四、四四四、四四四圓	一、四四四、四四四圓	五、〇〇〇、〇〇〇圓	一八、八八八、八八八圓	三三、三三三、三三三圓
計	四二、七七一、四九五圓	八、八四四、〇元	一九、〇一〇、〇〇七圓	三七、六三三、三三三圓	一、四四〇、四四四圓	二、六六六、六六六圓

註 一、本調は學區の經費を含む。

二、人件費欄教員給は本給額を掲げ其他は本給額以外の人件費を掲ぐ。

三、毎年度増加額は兒童の増加數を基礎とし概算推計す。

四、學校建築は凡て市債によるものとし償還金は平年度額を掲ぐ。

五、六大都市小學校經費並國庫下渡金に關する調(東京市調による)。

今例を大阪市にとつて見ても、昭和十三年度普通經濟歲出豫算の四割五分迄教育費で占めてゐる。殊にその膨脹率は大したもので、毎年一萬數千人の學童が遞増して行く結果、これを收容する物的設備として年々四、五百萬圓を投じ十數校の新校舍を建築せねばならぬ上に、搦て加へて財政上憂慮に堪へないのは、これに伴ふ教員給其他の爲に年々六、七十

萬圓の經常費の遞増を餘儀なくされると云ふ事實である。而もこれ等の經費に對する財源は極めて少額の國庫下渡金あるのみであつて、その大部分は市稅收入に依存せねばならぬ。大阪市においても二千三百萬圓の市稅中六割五分に當る千五百萬圓はこの教育費に喰はれてゐる。尙參考の爲義務教育費中の教員給に對する國庫下渡金の割合を昭和十三年度豫算について見ると、次表の通り六大都市への支給率は約二割であつて、全國町村平均の五割に比べて著しく低率である。

第一六表 教員給と國庫下渡金の割合（昭和十三年度）

種 別	六大都市	其他都市	都 市	計	町	村	合 計
小 學 校 教 員 給	三、六四八、五八八圓	三、八八七、二五五圓	五、五五九、二五三圓	一、三〇八、九七〇圓	一、九七、三三九圓		
國 庫 下 渡 金	七、四〇〇、六八三圓	七、八八七、一七二圓	二、五二六、八八四圓	六、六六三、四四三圓	八、四〇〇、〇〇〇圓		
割 合	三八・二%	三八・二%	二五・七%	五・七%	四・七%		

註 六大都市小學校經費並國庫下渡金に關する調（東京市調）による。

次に近く義務制が實施されんとしてゐる青年學校教育の狀態を昭和十一年四月末現在について都市と町村とに分けて觀察して見ると次表の如く町村の方が都市より遙かにこの種教育が普及してゐる。

第一七表 青年學校教育普及の現状（昭和十一年四月末日現在）

	市	立 町	村	立	計
學 校 數（總人口一萬人に付數）	一、四〇六・六二	一四、九三七・三二一			一六、三三四・九四七
生 徒 數（總人口一萬人に付數）	二六九、三九九・一一九	一、七五八、一一八・三七七			二、〇二七、五一七・四九三

經費豫算額（總人口一人當額）

四、四〇五、四六〇・一九四

二、三三四、三八一・五〇三

二七、八二九、二七〇・四〇二

註 一、日本都市年鑑による。

二、人口は昭和十年の國勢調査による。

即、青年學校の生徒が人口一萬人中都市では一一九人に過ぎないが町村ではその三倍以上の三七七人もある。而も青年學校教育該當者の全人口に對する割合から云ふと昭和五年の國勢調査では、十五歳から十九歳迄の青年が全國人口に對し九・七%であるに對し六大都市では一四・二%を占めてゐるから結局青年學校教育該當者の多い大都市において却て現在ではこの種教育が普及してゐないことになる。

だから一度義務制が實施された曉には大都市における青年學校經費の膨脹は極めて顯著なるものあるべく、この問題は都市財政擔當者の直面してゐる頭痛の種である。要するにこの問題は小學校の義務教育費と併せて根本的に今日財政上の對策を樹立すべき時期に立ち至つてゐるのではないかと思はれる。蓋し青年學校の義務制が實施されると、小學校へ入つてから徴兵検査を受ける迄の青少年の教育は凡て市町村に義務付けられることになるから、何とか國家において財源附與の方策を講じなければ人口集中の特に著しい大都市の財政等は、この義務教育費文によつて破壊されさうであると云つても過言ではないからである。

## （二） 道 路

次に都市における國政事務中特筆すべきものとして道路の築設並その維持管理を擧げることが出来る。この經費も亦教育費に次いで都市經費の重要部門を占めて居り、殊に尤大なる都市計畫事業の進捗につれて、その竣功道路の維持管理費の負擔は年と共に累増して行くことは一般市町村では見られない六大都市特有の現象である。さればこれを左表によつても

明な様に六大都市は全國都市における道路の管理面積の四割と云ふ大きい部分を占めて居るにも拘らずその管理道路總面積に對する鋪裝道路面積の割合は他の一般都市の一割内外であるに對して四割強に達しその鋪裝の普及振において六大都市は他の一般都市を遙かに凌駕してゐるのである。

第一八表 都市別管理道路面積と鋪裝面積 (昭和十一年度末現在)

市別	道路面積 (平方米)				計
	總面積	管理面積	千分比	鋪裝道路 (平方米)	
六大都市	九五、四六八、〇九三	九五、四六八、〇九三	一〇〇	八、八五六、七三三	二〇萬以上 (一〇市)
	三、三三三、七三三	八、八九六、二七七	六八	二、七四四、三三六	
二〇萬以上 (一〇市)	四、八九六、〇四五	四、八九六、〇四五	一〇〇	三、四四五、九九六	一〇萬—二〇萬 (二二市)
	六、九八八、八七三	六、九八八、八七三	一〇〇	四、〇五一、三三〇	
一〇萬—二〇萬 (二二市)	六、九八八、八七三	六、九八八、八七三	一〇〇	四、〇五一、三三〇	五萬—一〇萬 (五八市)
	三、三三三、七三三	三、三三三、七三三	三三	四、三六六、三六六	
五萬—一〇萬 (五八市)	三、三三三、七三三	三、三三三、七三三	三三	四、三六六、三六六	五萬未満 (四八市)
	八、八九六、二七七	八、八九六、二七七	八三	二、八四七、八〇八	
五萬未満 (四八市)	八、八九六、二七七	八、八九六、二七七	八三	二、八四七、八〇八	計
	二九、九二一、三三三	二九、九二一、三三三	一、〇〇〇	二八、四七六、八〇八	

註 一、括弧内は市の管理面積に對する鋪裝道路面積の千分比を示す。二、日本都市年鑑による。

惟ふに六大都市は一般市町村とは異り、道路法によつてその市域内における國府縣道以下全道路の築設はもとより、その維持管理費の負擔を義務付けられてゐるのであるから、その義務を完全に遂行し行くが爲には、例へば地租や家屋税の附加税の課税について、一般市町村とは別に大都市に對し課税の優越性を許容するとか、何等かの方法でその財源についても國家が相當の考慮を拂ふのが至當であると考へる。然るに現行地方税制の下ではこの點に對して何等の考慮が拂はれてゐないのみか、六大都市の市域内においては、道路管理上何等の負擔もしてゐない府縣が、地租附加税において市より

も課税の制限を遙かに擴大されてをり(府縣は本税一圓に付八十二錢市は六十六錢)、更に車税が府の獨立税となつてゐるが如きは曩に述べた彼の米國都市が利益原則の建前から、不動産課税たる一般財産税を都市の獨立税として保有してゐるのに對照し、甚だしき不合理と云はねばならぬ。

### (三) 傳染病豫防及治療と汚物掃除

次に以上述べ來つた教育費、土木費と併せて都市の三大經費の一つと云はれてゐる保健衛生費の中、代表的な國政事務費として傳染病の豫防及治療費と汚物掃除費とを擧げることが出来る。今昭和九年度の豫算についてこれ等の經費を都市の大小に應じ比較しその人口一人當をとつて見ると次表を得る。

第一九表 都市の大小と傳染病豫防治療費及汚物掃除費 (昭和九年度豫算)

市 別	六大都市	二〇萬以上 (一〇市)	一〇萬—二〇萬 (二〇市)	五萬—一〇萬 (五八市)	五萬未満 (四八市)
傳染病豫防費 (一人當)	三、三七五、九三三	三、九〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
傳染病院及隔離病舎 (一人當)	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇
汚物掃除費 (一人當)	八、三三三、三三三	八、三三三、三三三	八、三三三、三三三	八、三三三、三三三	八、三三三、三三三
其 他 (一人當)	六、〇八七、三三八	五、八〇〇、〇〇〇	五、八〇〇、〇〇〇	五、八〇〇、〇〇〇	五、八〇〇、〇〇〇
計 (總額)	二二、〇〇九、一七五	二二、〇〇九、一七五	二二、〇〇九、一七五	二二、〇〇九、一七五	二二、〇〇九、一七五

註 日本都市年鑑による。

即ち、この種經費についても大體大都市程一人當經費が大きく、六大都市において殊に著しいものがあることは曩に保健



衛生費全體について觀察した時と同様であるが、都市においては人口の集中に伴ふて都市特有の生活環境の悪化を來し社會的害悪も多いが、一方その救済の爲には亦相當の努力が拂はれてゐると云ふことは次の事實によつて立證し得ると思ふ。即、昭和十年の十種傳染病の發生率は概して都市において患者の發見される機會が多いことによるが、兎に角都市が人口一萬人中三四・三八人を占め全國平均の一九・八八人に比較して遙かに多いにも拘らず、その死亡率について見ると逆に都市が一八・一二%で全國平均の二〇・二二%より低下してゐる。これは明に都市が町村よりも一層傳染病豫防並治療施設の充實に努力を拂つてゐることを意味してゐるものであつて、前述の都市の大きくなる程一人當經費の大きくなることを反面から裏書して呉れてゐると云つてよいと思ふ。尚汚物處理費についても同様であつて、例を大阪市にとつても毎日々々排出される塵芥の量は三十萬貫に上り、その處分費として年々支拂つてゐる經費は實に百萬圓を突破してゐる。誠に人多ければ事多しとの諺通りである。

(四) 救護費と失業應急事業費

次に都市の社會事業中救護費と失業應急事業費とについて述べて見よう。先づ都市の大小に應じて救護を要する人々の分布はどうなつてゐるかを見る爲に、人口一萬人中の要救護者數をとつて見ると、次表の如く都市の内には恐らくその地方々々の特殊事情によつて多少の例外はあるが、大體生存競争の激しい大都市程社會の落伍者も多くなるのが道理であるから、要救護者の分布割合が多いことになつてゐる。その結果人口一人當の救護費も大都市になる程多額に上り六大都市において特に多額を占めてゐる。

第二〇表 都市の大小と救護費 (昭和十二年四月一日現在)

市 別	六 大 都 市	六大都市以外の大都市 (一〇萬以上)(三三市)	中 都 市 (五萬—一〇萬)(五八市)	小 都 市 (五萬未満)(四八市)
救 護 費 (總額 一人當)	三、二五二、五七八 圓・二四〇	七五九、六九一 圓・一三三	四九七、九五九 圓・一二四	一九〇、九一〇 圓・一〇八
要 救 護 者 數	八四二、九四五	七四、三六六	一七、七五五	一一、九六六
人口一萬人中要救護者數	六二四	一二八	四四	六七

註 日本都市年鑑による。

次に大都市における失業應急事業費は政府の補助獎勵策につり込まれて、今日迄相當多額に上り少なからぬ都市財政への壓迫となつて來てゐることは否定出來ないのであつて、今、昭和十二年度の豫算について見ても大都市になる程人口一人當の失業應急事業費は多額に上つてゐる。

第二二表 各市一般労働者失業應急事業費 (昭和十二年三月三十一日現在)

市 別	六 大 都 市	二〇萬以上 (一〇市)	一〇萬—二〇萬 (二三市)	五 萬—一〇萬 (五八市)	五 萬 未 滿 (四八市)
一 總 人 當 額	二五、五五六、九四二 圓・一八八九	二、〇六六、五五一 圓・八六五	一、六〇〇、〇六三 圓・四六九	六五六、九六五 圓・一六四	一一八、九二七 圓・〇六七

註 日本都市年鑑による。

これは大都市には失業群が発生するのをその特徴としてゐる爲であつて、少し古いが昭和五年の國勢調査の結果から見ても有業者人口千人中失業者の占むる割合が郡部では七・四人過ぎないが、市部に於ては著しく高く二二・九人を占めてゐる事實はこの間の事情を示してゐる。

第二二表 都市及郡部の失業人口

地 域	全 國	郡 部	市 部	大 阪 市
失業者	三一九、八二三	一六九、五〇七	一五〇、三〇六	二九、九七三
各地有業人口千に對し失業率割合	一〇・八	七・四	一二・三	二七・四

註 昭和五年國勢調査による。

以上を以て都市の経費と最も密接なる關聯性を有する人的要素即人口を中心として、都市の大小とその経費の關係を觀察した結果、結局大都市になればなる程その固有事務の方面たると委任事務の方面たるとを問はず、大都市なるが故の経費が多額に上る爲、一人當経費は遞増すると云ふ結論を得た。そこで以下経費に影響を及ぼすと考へられる他の要素たる物的要素、即經濟力と経費の關係について考察を進め度いと思ふ。

### 七 都市経費と經濟力の關係

都市の經濟力が都市経費の上に如何なる影響を及ぼすか、云ひ換へれば都市の經濟力と経費との間には一體如何なる相關關係があるかと云ふ問題は、我々が常に知り度いと思ひ且興味を惹かれる題目ではあるが、元來この經濟力なるものが極めて複雑な諸要素の混合物であり、各都市の特殊事情が質的に甚だ相異してゐる結果、一律にその本體を突きとめ得ない關係上その経費との關係についても遺憾乍ら人口と経費との關係程判然として來ないのである。従てこゝには極めて貧弱な資料によつて素朴的な觀察を試みたに過ぎないことを特にお断り致し度い。

先づ六大都市を始めとして商工業の殷盛な代表的大中都市を列舉して見ると、申し合せた様にその人口増加率が著しく高率であつて、何れも全國平均増加率一五・九%の二倍乃至五倍以上になつてゐることを發見する。

第二三表 商工都市における人口増加<sup>1)</sup>

都 市	十年間増加率(%)	摘 要
東 京	四三・三	帝都
大 阪	四一・四	商工業繁榮 貿易都市
京 都	三〇・八	商工業繁榮
名 古 屋	四〇・九	商工業繁榮
神 戸	二九・五	商工業繁榮 貿易都市
横 濱	三六・七	商工業繁榮 貿易都市
八 幡 橋	六三・五	製鐵所
小 倉	五三・八	造兵廠其他新興工業
濱 松	四九・九	工業繁榮
川 崎	三九・三	工業繁榮
延 岡	九〇・六	新興人絹工業地
戸 畑	七九・六	新興工業及漁港
全 國 平 均	一五・九	

即、都市の經濟力は先づその都市人口を著しく増加せしめ、この人口増加と云ふ現象を通じて間接的ではあるが、都市経費の上に前項において述べた様な大きい影響を及ぼすものであると云つてよからうと思ふ。尤も考へ方によれば人口そのものが一つの大きい經濟力を意味すると云つてよいと思ふが、こゝで云ふ經濟力とは人口以外の物的要素を指すものと御承知願ひ度い。

そこで次に人口を通じての間接的影響と云ふことを離れて經濟力が経費の上に何等かの直接的な作用を及ぼすものではない

<sup>1)</sup> 本表は大正14年及昭和10年國勢調査による。

いだらうか、即云ひ換へれば、人口がたとへ少くとも経済力がより旺盛な都市では、その都市の経費はより大きくなると云ふ様な關係はないか。次の資料は六大都市だけのもので甚だ不充分であるが、経済力を示す要素として第三種所得額、生産高、貿易高、手形交換高、會社資本高、土地賃貸價格、家屋賃貸價格の八要素をとりその六大都市間における分野と六大都市純歳出との關係を表示して見ると次の表を得る。

第二四表 六大都市の経済力と純歳出

市 別	大 阪	東 京	京 都	名 古 屋	神 戸	横 濱	計
人 口 (一二年)	1,111,000 (1,111)	1,211,000 (1,211)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)
第三種所得 (一二年)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)
生 産 高 (一二年)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)
貿 易 高 (一二年)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)
手形交換高 (一二年)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)
會社資本高 (一二年)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)
土地賃貸價格 (一二年)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)
家屋賃貸價格 (一二年)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)
純 歳 出	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)	1,111,000 (1,111)

註 神戸は縣費負擔を除く。

即、右の表について見れば判る様に、経済力の大きい都市ほど大體その純歳出も大きく、殊に注目を惹くことは、人口の少い神戸市が経済力において優つてゐるが爲に、人口の多い京都市よりもその純歳出が大きいのではないかと云ふ印象を直感する。これは或は偶然の結果であるかも知れないが、経済力と経費との相關關係について何事かを物語つてゐるのではないからうかと云ふ暗示を、我々に與へて呉れてゐる様にも思へる。

### 八 都市の特殊性と経費の關係

最後に前項の経費と経済力との關係に關聯して都市の特殊性が如何に経費の上に反映するものであるかの問題を考へて見度いと思ふ。

この問題も前と同様各都市の實情を調査した上でなければ貧しい資料のみから輕々しく結論を下し得ないこと勿論であるが、一つの拙ない試として、超大都市を除いた我國の代表的な商工業都市五市と、港灣並軍港都市五市、遊覽都市四市を選びその経費の分野を比較して見ると、極めて素朴的ではあるが次のことが云ひ得らるのではないかと思はれる。因みにこの場合京都市を除く五大都市を除外したのは、五大都市の経費分野がほぼ同一であり、而もこれ等の都市の経費が甚だしく巨額に上つてゐる爲、こゝに觀察を試みんとする三種類の都市は夫々の中に五大都市の一つ或は二つが加算されることによつて、その特殊性を抹殺される結果となるからである。只京都市のみは代表的遊覽都市としてこれを加へることにした。

第二五表 都市の特殊性と経費の分野 (昭和十二年度豫算)

種 別	商 工 業 都 市	港 灣 軍 港 都 市	遊 覧 都 市
教 育 費	五、〇三四、七八六 (二二六)	四、三一六、一五七 (二五六)	九、二三一、五七八 (一七四)
土 木 費	二、二三五、一四一 (九八)	一、二五五、一六〇 (七四)	三、二八〇、〇五一 (六二)
衛 生 費	四、四七七、九二〇 (一九二)	二、五六八、六四一 (一五二)	五、九一七、七二九 (一一二)
勤 業 費	二八八、五五六 (二二)	三九一、八九〇 (三三)	一、九七五、九九九 (三七)
社 會 事 業 費	一、二八六、〇六四 (五五)	八三七、七六七 (五〇)	七五〇、二一八 (一四)
電 氣 及 瓦 斯 費	一、一六三、九二八 (五〇)	一	一三、三六七、九九五 (二五)
都 市 計 畫 費	二、二五六、四六二 (九七)	三〇七、六八四 (二八)	四、〇九四、八三三 (七七)
役 所 費	一、六五九、九四一 (七一)	一、一二六、二八九 (六七)	二、〇四七、八〇八 (三九)
警 備 費	一三七、三三九 (三)	一七四、四九八 (一〇)	三七、五〇七 (七)
公 債 費	三、三五〇、四五六 (一四四)	四、八三三、三〇七 (二八七)	八、一四〇、〇二七 (一五四)
其 他 諸 費	一、四三五、五二四 (六一)	一、〇六〇、七一〇 (六三)	四、一二四、一三二 (七)
歳 出 總 計	二三、三三五、九一七 (一〇〇〇)	一六、八八二、一〇三 (一〇〇〇)	五二、九六七、八七七 (一〇〇〇)

註 一、地方財政概要による。

二、本表に掲げた都市左の如し。

1 商工都市—福岡、静岡—八幡—八王寺—濱松

2 港海軍港都市—長崎、横須賀、呉、佐世保、清水

3 遊覧都市—京都、奈良、松江、別府

即ち、先づ教育費が重要な地位を占めてゐることは共通な現象であるとして商工業都市では土木、衛生、社会事業、都市計畫事業及公企業等の経費が重要な地位を占めてゐるが、遊覧都市では比較的衛生費が多いに反し社会事業費の如きは殆んど見るべきものがない。尚港灣都市では衛生費が比較的多額を占めてゐるのが注目される。

以上甚だ不完全乍ら都市経費に關する基本的な諸問題につき實證的考察を試みたつもりであるが、何分資料が不充分であり推論に或は思ひがけない誤謬を犯してゐるかも知れないことを心密に恐れ大方の御叱正を乞ふ次第である。

三 特別議題報告内容

# 事變と都市厚生（社會・衛生）對策

厚生省衛生局長

林

信

夫君

此度第六回全國都市問題會議の開催せらるゝに當りまして「時局下に於ける都市の厚生對策」と云ふ題の下に御話を致すやうにとの事で御引受いたしたのでありますが、御承知の如く厚生省は支那事變の勃發後國事多端の眞只中に、國民の體力の向上を圖ると共に國民の福祉増進を期すると云ふ二大目的をもつて新設を見たのでありまして、直接事變に關係する諸施設は勿論、將來國家發展の基本に關し今日より企劃經營することを要する各般の事項が多々あるものでありまして、而も此等の諸施設は都市にのみ限らるゝものではありません爲めに、特に都市の厚生對策と云ふ事にも限定いたし兼ね且つ極めて多岐に亘りますので、甚だ勝手ではありますが「時局下に於ける厚生行政の重要問題の二三に就て」と云ふ様な意味合で御話申上げることが許して頂き度いのであります。

## 第一 軍人援護並傷痍軍人保護對策

而して此等數項目に就て申上るに當り、先づ第一に皇軍に對し心からの感謝と敬意を表し、軍人援護並傷痍軍人保護に

就て執りつゝある對策を申上げ各位の御協力を御願ひ致し度いと思ふのであります。

支那事變以來我が皇軍の海陸に於ける勇戰奮闘は、我等國民の感謝感激措く能はざるところであります。此の間名譽ある戦死を遂げられ、或は傷つき、或は病魔に襲はれた幾多の勇士と其の遺族並家族及び出征軍人とその家族に對し、凡ゆる方法をもつて銃後の後援を完うし、感謝の赤誠を披瀝いたしますことは我々の光榮ある責務であります。

### （一）軍事援護事業

從來銃後の後援は、軍事扶助法、入營者職業保障法、軍人援護資金其の他民間の各種の援護團體に依つて實施せられて居つたのでありますが、時局の推移に伴つて益々此の事業の重要性が加へられて來たのであります。御承知の如く軍事扶助法は、兵役の大任に服する者をして後顧の憂なく安んじて其の責務を完うせしむる趣旨をもつて制定せられ、現役兵の入營、下士官兵の應召、傷病若は死亡又は傷病兵の死亡の爲め生活すること困難なる者に對して扶助を行ふものであります。此の爲めに要する經費は昭和十一年迄は大體年三百萬圓程度でありましたが、事變以來急激に増加し本年は大體十ヶ月分として五千四百二十萬圓を計上してありまして、本年一、二、三月の平均は扶助戸數三拾二萬戸百十八萬人一日十八萬五千圓となつて居ります。

軍事援護としては此の扶助法が其の中樞を爲して居るのでありますが、これのみでは實際上色々の不便不都合があるのであつて、例へば内縁の妻等は扶助し得ず、又臨機の措置を講ずることが六ヶ敷しい爲めに之れを補充し、又扶助階級への轉落を防止する爲め積極的方法を執り得るやう助成費一千萬圓を計上して、生業援護に重點を置き、要援護者の勤務精神振作に力をいたす方針をもつて扶助法と相俟つて銃後の守りに遺憾なきを期しつゝあるのであります。

又召集解除又は除隊となつて歸郷する軍人をして速に生業に就かしめることは、名譽ある軍人の矜持を保たしめると共

に、歸郷軍人を繞る各種問題の發生を防止する所以であります。政府は此等歸郷軍人に支障なく原職に復歸せしめる方針の下に、生業費又は就職準備費を給與し、必要ある時は生業に就く迄の期間の生活費をも補給することとしたのであります。本事業は銃後援護の有終の美を濟さしめる重要要件であり、隣保相扶の精神を基調とする意味合から道府縣の事業とし七百萬圓の經費を計上して之れを助成する建前を採つて居るのであります。

又遺族將來の問題として、其の遺兒をして獨立自營能く其の家名を維持するに足る素地を與へる事の肝要なるを認め、遺族の子弟にして學費に乏しい者に對しては、之を補助して中學程度の學業を修め得るの途を開くと共に、出征軍人家族及戦歿者遺族の身上及家事一切の相談指導の爲めの機關として、百萬圓の助成費を支出して道府縣市町村に軍事援護相談所を設置することゝいたして居るのであります。

以上は軍事援護事業の概要でありますが、之れ等の總經費は七千二百三十萬圓の巨額に達して居りまして、萬一その運用と精神を誤りますれば影響するところ極めて重大でありますので、その適正を期するに細心の留意をいたして居る次第であります。

## (二) 傷痍軍人保護対策

次に傷痍軍人の保護問題でありますが、本年一月傷痍軍人保護対策審議會を設け其の根本対策を決定すると共に、四月には傷兵保護院を設置して専ら本事業を管掌することゝいたしたのであります。

傷痍軍人は皇國の爲め身命を擲つて砲煙彈雨の戦線に馳驅せられたる名譽の戦士であります。従つて本事業の目途とするところは此等軍人に對し官民舉つて感謝の至情を效し、醫療、職業保護其の他各般の方途を講じて其の心身の恢復を圖り、適職に就かしめ、是等勇士をして郷に在つて更に奉公報國克く國民たるの本分を盡すに遺憾なからしめんことを期す

るに在るのであります。而して本事業は其の内容甚だ複雑多岐に亘り且つ幾多困難なる事項を包含致して居るのであります。特に其の恒久的成果を收めんが爲めには、傷痍軍人をして其の矜持を保持せしめますと共に、自主獨立の精神を振起せしめ、又一面國民をして感謝優遇の念を昂揚持續せしむることが最も肝要とするところであつて、實に本事業の基調を爲す精神であります。

傷兵保護院に於きましては、敍上の趣旨に基きまして、各般の施設を講じて居るのであります。その中心を爲すものは醫療及び職業の保護であります。醫療に付きましては本年度に於て結核療養所二十五ヶ所、溫泉療養所十ヶ所、精神保養所一ヶ所を建設の準備中であり。後にも申上げ度いと存じますが、結核的疾患の蔓延は朝野の久しく憂慮しつゝある問題でありまして、之れが治療と豫防方法の確立は社會衛生のポイントであります。既往の事實に鑑み、今次の事變に於ても相當多數の發生を見るものと豫想せられますので、此の結核療養所の建設は急を要する工事として着々進行せしめて居るところであります。右の外醫療につきましては最寄の官公私立病院又は溫泉等に患者を依託し、又は患者の自宅に於ても療養しうる方法を講ずべく總經費三千萬圓をもつて専心その進捗を圖つて居るのであります。傷痍軍人の職業問題であります。傷痍軍人の多くはその傷痍の爲めに作業上の能率を阻害せられ、幾多不利の状況にあるのであります。而もその殘存能力をもつて國民經濟に貢獻する爲め、その役割を盡さんとすることは社會に生くる人として當然の願求でありますから、この希望に添つて再教育を爲す爲め、大阪福岡の二ヶ所に國立職業再教育所を建設し、東京に於ては財團法人啓成社の設備を擴張し、斯界の専門家を聘して傷痍軍人の各特殊性に基く職業指導を爲し短期且つ輕度のもは關係府縣に於て之を爲さしめ、且つ各府縣には傷痍軍人職業指導員を配して各人に適した職業を斡旋し、必要に應じては義肢、作業補助具を交付し、且つ作業場の設備を改廢して就業に便ならしめ、もつて前途に希望と光明を持たしめ愈々奉公の精神を堅持せしめんとし約三百五十萬圓を計上してゐる次第であります。申す迄もなく此等の事業は國民一般の深

き理解と永続的感謝なくしてはその効果を収め難いことでありますので、此の機會に各位を通じて一般の一層の支援を衷心より希望して止まない次第であります。

茲に謹で申上げ度いことは去る三日軍人援護につき有り難き勅語を賜り且つ巨額の内容を下賜せられ皇恩無涯恐懼感激の至りであります。就きましては恩賜財團を組織し從來此種事業團體の活動を、統制強化し以つて大御心に添ひ奉るべく準備中でありますことを御報告申し上げます。

次に厚生省の他の施設につきまして國民保健對策、勞働力の保全と勞資調整對策、職業對策及國民生活安定對策の數項に別つて申上げ度いと存じます。

## 第二 銃後國民保健對策

今や支那事變は一ケ年を経過し長期應戰の體制に入りました。云ふ迄もなく本事變は抗日の勢力を以つて立つところの根源を破壊し東洋の赤化を防止し眞に日支共存共榮東洋永遠の平和を確立せんとする我國是の遂行でありまして、近衛總理大臣の云はれました通り、此の事たる我等が今日之れを解決せざれば吾等の子孫が更に大なる困難の下にいつれの日に解決するを要するものでありまして、此の日本國民の歴史的大事業を吾等の時代に於て解決することは寧ろ今日生を享けたる吾等の光榮ある責務であることと思ひますとき、更に覺悟を新にして、凡ゆる國力を此の目的の爲めに統制強化し、その最高の能率を發揮することを要するは固より言を俟たざるところであります。而して所謂國家存榮の基礎たる國力とは物心兩方面の綜合渾一したる力でありまして、世界各國興亡の跡を尋ねるものは物資饑なれば國運隆昌なるべしとは斷じて申されないのであります。然し乍ら近代科學戰に於ては直ちに先づ物資の需要は急激且つ巨額によるのであつて、かの日露戰爭に於て我軍の砲彈の使用は百萬發と云はれて居るのでありますが、マルヌの戰では僅一週間にそれだけ

を使つて居るのでありまして、今や我國に於ても戰時經濟體制を整備し、必要物資を統制し、その使用を制限し、その價格を定め、或は生産を擴充する等、あらゆる角度から物資資源の涵養並動員につとめつゝあることは各位の御承知の通りであります。

然し乍ら如何に多くの物資があれども之を動かすのは人であります。従つて人的資源に缺くところがあつては折角の資源も實の持ち腐れであります。一度戰爭が起れば幾多の勇士はこれを戦線に送ります。而も國內では急激な人の要求が起つて來ます。今試みに世界大戰當時獨佛兩國の動員狀況を見ると、獨乙は男子總數三千四百萬人中千三百二十五萬人を佛國は二千萬人中八百萬人を即ち各男子の三九%—四〇%を召集してゐるのであります。今若しかくの如き召集が日本に於て行つたと假定いたしますれば、昭和十年國勢調査による我内地の男子總數は三千二百萬人でありますから、この要求を充す爲めには十八歳より五十歳迄の男子が一人残らず應召することとなり、國內には働きのある男子は居らないと云ふ事になるのであります。而も獨乙ではその五一%五百二十三萬人、佛國ではその七一%四百五十八萬人が死傷してゐるのであります。

支那事變は長期戦に入りソ聯との國境問題は漸く一時的小康を得たりとは云へ、世界の形勢は如何に動くか豫斷を許さざる今日誰か我國に獨佛の如き動員が來ないと斷言し得まじやうか。此れを思ひ彼を考へ我國民の健康状態を見るとき果して之に應じて遺憾なしと云へませうか。況んや長期戦に亘るに従つて強健の人々を送り出した後の者の人的資源の培養こそは最も重要な國策であらねばなりません。

申す迄もなく、凡そ國民の保健状態は此の國の文化の水準の表現であります。蓋し保健状態の良否は其の國の氣候風土をはじめ凡ゆる社會施設例へば上下水道設備、醫療組織、衣食住等の生活様式、物品配給組織、工場作業場の衛生設備、勞働條件生活環境は固より國民の衛生的關心の深淺、國民所得の程度社會事業の徹底等一切の綜合的結果に外ならぬから

であります。従つて之れが向上の方策に至つては決して二三にして足るものでないことは理の當然であります。諸君と共に我國民の保健の現状を觀察しつゝ二三の重要事項につき厚生省の爲しつゝある施設の概要を申し上げ度いと思ふのであります。

## (一) 結核対策

人口の高い増加率は國家の經濟的政治的發展の最大の原動力であります。文明各國が過去四十年間にその出生率に於て著しい低下を示してゐるに引かえて我國は其の低下率極めて低く各國の約二倍の出生率を持続してゐることは國家發展の基礎條件に於て勝れて居ると云ふことが出来るのであります。誠に喜ばしいことではありますが、一度此の死亡率を見ますと全く此の趣を逆にいたし残念ながら各國に飛び離れて高く且つ極めて微弱な低下をしか示して居らないのであります。

殊に結核は其の死亡原因の首位をしめ(一萬分の二〇・七)あらゆる階層に浸潤し昭和十一年の死亡實數は十四萬五千六百八十人と云ふ未曾有の記録を示して居りますが、結核患者の數は死亡者の約十倍と推定せられ吾國の患者數は百四十萬を超え、五十人に一人の割合と見ることが出来るのであります。然し潜在性患者を加へますれば、その數は驚くべき多數に上るべく、本病の蔓延こそは實に國民的疾患として保健上の痛心事であると申さねばなりません。

今東京市の或る區に於ける小學校兒童一萬五千人について、ツベルクリン反應の結果その陽性率は、平均三八%一四であります。年齢の進むと共にその率を増し、十五歳では五〇%を示して居り師範學校生徒五八%、中學校六三%東京帝國大學醫學部新入生(昭和十二年)については七二%に達し又官立大學及專門學校學生々徒の死亡、病氣退學、休學中結核によるもの五三%教員退職者については六〇%を占むる様の状況であります。これらの陽性のものは環境の影響をうけ

ていつ發病するかも知れない待機の状況にあることを思ひますと轉々寒心に堪えざるものがあります。歐米諸國に於ても嘗ては我國の如き蔓延を見たのでありますが、年と共に豫防の實績を収め、過去二十年間に多きは其の半數以下に減少せしめ得たに拘らず、我國のみは殆んど舊態依然、而も二十歳より二十四歳の青壯年者の本病による死亡が錐狀の銳角を示して居ることは國運の盛衰に關する重大事項であると存するのであります。

政府は以上の状況に鑑みその豫防撲滅に腐心しつゝあるのであります。先にも申した通り諸種の施設相俟つに非ざれば二三の方法をもつてしては此の目的を達成することは到底出来ないものであります。直接の方法として先づ結核豫防智識の普及啓發を行ひ又豫防相談事業を擴大して早期診斷と家庭内結核患者の療養指導をなしつゝあるのであります。現在日本放送協會の納付金による健康相談所百ヶ所、簡易生命保險關係のもの二四ヶ所並後に御説明致すべき保健所法による保健所はこの事業に當りつゝあるのであります。

然し乍ら現に發病せる人々の治療並これ等の人々よりする病毒傳播は極力之を防止せねばなりませんので、昭和十二年以降十ヶ年間に道府縣市立等の公立療養所に於て二萬五千床、除役軍人の爲めの國立療養所を五ヶ年に二千五百床、健康保險關係の療養所千七百床を建設し結核病床三萬床を増設することを計畫し、既設のもの一萬餘床を合せ四萬床以上を設けることゝなつたのであります。我國としては劃期的對策と申すべきでありまじやう。然し歐米各國が年々の死亡者と同數の病床を設けて素晴らしい成績を収めつゝあることを思ひますれば、將來一層の増設計畫を要すべく或見方から申しますならば我國の保健問題は一に結核撲滅にあると申してもよいとさへ考へられ民族將來の爲め舉國本病の撲滅に努めねばならぬと思ふのであります。

## (二) 花柳病



我國現在花柳病の蔓延状況については正確なものはその本質上得難いのでありますが、性的行爲にも比較的染らない壯丁検査の場合の結果に依れば此の十年間の平均は千人に付十人の割合であります。一般國民について普通産院に入院せる妊婦について見るも又結核相談所に來たについて検査しても、一〇—一二%でありますから識者は實際は更に相當高率の蔓延状況にあると見て居るのであります。殊に本病は戰時並戰後に於て交戰國に激増することは歴史の教ふところであり、歐洲大戰當時にも如實に患者数の増加したるのみならず戰後乳幼児の本病による死亡が最高を示してゐるのであります。

一度本病にかゝれば直接の健康損害は固より不妊流産、遺傳毒失明、精神病、低能等の原因となり、現在國民のみならず將來の國民體質に及ぶ影響の極めて大なるものがあり、軍に於ても充分之れが完治に留意せられつゝあるところでありますが、一方内地に於ても遺憾なきを期するを要するをもつて一般に對し豫防智識の普及を圖ると共に本年四月主務大臣は市又は其の他必要と認むる公共團體に對し花柳病治療所の設置を命じ得ることとし一定の國庫補助を出して（三十四萬圓）軍事上重要都市三十市に對し九十餘ヶ所の設置を命令し、代用診療所（一七八）と共に藝妓、娼妓、酌婦、女給私娼等（藝七九、〇〇〇、娼四四、〇〇〇、酌八五、〇〇〇女一二、〇〇〇、私二五、〇〇〇）に一齊診療を行ふこととし接客業者の自發的保健組合二千有餘の活動と相俟つて躍進的取締を勵行せんとしてゐるのであります。

以上結核と花柳病とは今日の集團的都市生活がその温床である關係から特に各位の留意を促した所以であります。

### （三） 其の他の保健狀態

其他我國の一般的健康狀態即ち急性傳染病發生状況、寄生虫、トラホームの蔓延状況、近視の増加、平均壽命の短命等凡そ文明各國に比して一として良好のものはないのであります。殊に乳兒の死亡率は各國の約二倍を示し（昭和十年百分

一〇、七、英五、七、獨六、八）如何に母性の健康乃至榮養とその衛生思想の啓蒙とが必要であるかを思ふのでありますが、尙ここに附言致し度いことは國家非常の際傳染病の發生に對し格別の留意をなしいやしくも銃後諸活動に齟齬を來さることでありまして、大陸との交通の頻繁となるにつけ政府は事變以來防疫陣を強化し、特に外來傳染病の浸入防止の爲め、海港檢疫、航空檢疫を嚴にしつゝあるものであります。今日多數の都市に於ては直接都市の監理の下に上水道の利用を爲して居りますが、不幸昨年は大牟田市に於て水源汚染の爲め、赤痢患者一萬一千名、死亡者五百と云ふ爆發的發生事件が起り、都市生活者に多大の不安を感じしめたのであります。その原因が復舊工事の不完全の爲め汚水流入の間隙あり偶々番人宅に赤痢容疑の幼兒がありて主治醫は之を單なる消化不良として汚物處理の注意に缺くところありし爲めに、家人の汚物洗濯によつて源水を汚染したるものと推測せらるゝに至つたのであります。時々の取締報告によりまして屢々水道水源等の番人に保菌者を發見しつゝあるものであります。時局下格段の御留意を願ひたいのであります。

### （四） 醫藥制度の改善

以上我國民の保健狀態の或る點に關し御説明を申し上げましたが、これら疾病の治療方面としての醫藥制度は、國民保健政策の最も主要なる部門を占むると共に、他面國民の日常生活と緊密なる關係を有し且つ國民生活安定の方面より見て重大なる問題であります。

抑々醫藥制度の目標は、全國民が正しい醫藥を受けうる爲め十分なる手段と保證が與へられ又これによつて全國民の健康が増進せられ體力の向上に寄與するところがなくしてはならぬのであります。

此の目的の實現の爲めには、一方に進歩せる醫學と、醫師の社會奉仕的精神が必要であり、他面醫藥施設を整備し之れが利用上の機會均等が必要であります。

然るに我國の醫療は開業醫を根幹として發達し其の間若干の補足的修正を加へて今日に至りましたが此の間社會情勢の變化は歳と共に著しく又保健政策、社會政策の見地よりしましても現在の醫療制度に對し充分なる檢討を加へることを必要とする状態に立ち至つたのであります。

今具體的に其の二、三の例を申上げて見ますと先づ第一に醫療機關の不統制と其の偏在であります。昭和十一年五月末現在の調査に依りますれば醫師の大部分は都市に集中せられ農村に於ける醫師の数は逐年減少し、現在無醫町村の数は三千二百有餘の多數に上り即ち全國町村中の約三割は醫師の居らない町村であると云ふ状態であり、其の反面都市に於ける醫師の数は著しく過剰となり開業難、經營難をも來して居ると云はれて居る有様でありまして、都鄙の間醫療を受けるの機会に於て甚しく不均衡の状態にあるのであります。而も之等の醫療機關の診療状態は開業醫を始め官公立診療所、各種施設に附屬する病院、診療所、社會事業施設の輕費又は無料の診療機關、産業組合法に依る組合診療機關等がありまして其の間統制を缺き醫療能率上の浪費を伴ひ場合に依つては種々の摩擦をも生じ易い傾向があるのであります。

第二に醫療費の方面より見ましても現在の醫療費は醫學の進歩と醫療内容の向上よりして必ずしも高きに失しないかも知れないのであります。現に先程申上げました通り無醫村が歳と共に増加して行く原因の一つが農村に於ける醫師の經營難にある點よりも推察出来るのであります。同時に又一般國民の經濟状態より察しますれば一般國民大衆は醫療費の負擔難の爲たとへ機關が充分整つてゐる處に於ても適當なる診療を受けることが困難となつて居ることも否み難き事情であります。

これらの實狀に直面して醫療機關の分布を是正し、その整備統制を圖り、醫療費の合理化を期し、本來の目的を達成するに充分なる制度を確立せんとして、目下醫藥制度調査會を設け衆智を集めて鋭意研究中であります。さし當つて全く醫療の手を持たざる地方に對し一定の補助を與へ今後五ヶ年間に七百五十の道府縣立診療所を設くる計畫の下に總額二

百五十餘萬圓を豫定して目下その實施中に屬するのであります。

又醫療費の負擔は今日の國民の所得より見まして之れを全部個人の負擔に歸せしむるに於ては、個人は充分なる醫療を受けるに困難なるのみならず、假令受け得たりとしても往々にしてその個人並家族をして窮乏轉落に至らしめる實狀にありますので先には工場鑛山の労働者の爲め健康保險制度を施行したのであります。此の度は一般國民の爲めの國民健康保險法を施行し相互扶助の精神に基き一定の國庫補助の下に（初年二年一人一圓、三年四年七十錢、五年以降五十錢）保險組合を組織して醫療費の共同負擔による醫療の機會均等と、危險分散を爲すこととし、それ／＼組合の組織中に屬するのであります。昭和十三年度には百二十組合五十萬人を豫定し、今後約十ヶ年に全國に普及せしむる豫定であります。

尙又商業使用人乃至俸給生活者の爲めの職員健康保險、船員保險についてもその實現方考慮中に屬するのであります。而して此の醫療に伴ひ缺くべからざる藥事制度につきましても前述の調査會に於て充分検討せらるゝところであり、時局下輸入の一般的制限に伴ひ藥品も亦その制限を受けるに至つたのであります。藥品はその本質上一定需要を減ぜしむる能はざるのみならず他のものをもつて代用せしむる事極めて困難であります。出來うる限り國策の線に沿ふは因よりでありますので、此際外國品使用の慣習を是正し、醫療上絕對必要にして而も内地に産せず外國に仰ぐの外途なきものゝ輸入に原則を置き、戦時藥局方を設けて極力國産品をもつて代用し、且つ國産の獎勵をなす／＼あるのであります。事變以來既に二三のものについては國産に成功し近く全く自給し得るに至つて居るのであります。

更に又物價政策に伴ひまして當業者と屢々協議を重ね卸賣並小賣につき既に兩三回の價格引下を行ひもつて時局下國民醫療に遺憾なきを期して居るのであります。

## （五）醫療關係者の徵用

次に戦時に際し人的資源の活用を十二分に發揮し國力の總動員に遺憾なからしむることは國家最高の要求であります。こゝをもつて第七十三議會に於て國家總動員法を制定し「戦時ニ際シ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ従事セシムルコトヲ得ル」こととし、之が準備として「帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ得ル」こととなつたのであります。然るに戦時に際しては軍に於て醫療關係者を要することが激増しますが、これらの人的資源は、平時に於ける國民の醫療を擔當するに必要な程度に存在するのでありますから、若しこれを無統制のまゝに放置いたしますれば、一は充分に軍の要求を充し得ないのみならず、銑後國民の醫療に支障を來しますので、平時より軍の需要と一般の醫療とを考慮して一應の計畫を樹立し置くことは極めて重要なことであります。

而し人的資源の遺憾なき發揮は各人の持つ能力に應じて御奉公申上ることでありますので、去る九月醫療關係者職業能力申告令を公布し醫師、齒科醫師、藥劑師、看護婦約二十三萬人に對し一定の事項につき四年間毎に期日を定めて申告を爲さしめ、政府は右申告に基いて常に關係者の狀況を明にすると共に一朝有事の際は、直ちにその必要人員を充足し得る計畫を樹立し、もつて内外の醫療に最善の途を講ぜんとして居るのであります。

#### (六) 積極的衛生への進展

以上國民保健の維持に關しやゝ消極的と見らるゝ事項並その豫防方面の事を申し上げたのでありますが、國家の要求は決して疾病の治療又はその健康の保持に止るものではないのであります。進んで大いに體力を増進し、如何なる困苦にも堪え得る強健なる國民を養成する點にあるのであります。從來保健衛生の問題はともすれば消極的色彩が濃く、疾病の治療並にその縁に沿ふた施設に重點が置かれ一般も亦健康の増進に關するよりは疾病の治療をもつて衛生問題であるかの如くに解し、豫防乃至健康増進の問題は第二次的と考へられ勝であつたと思ふのであります。然るに一度時局に直面すれ

ば戰士は固より凡ゆる方面に如何に多くの強健なる國民を要するかを痛感いたす次第でありまして、人々の健康は個人生活の根源であるばかりでなく、實に國家存立の絶對的必要條件であり、國家百般の施設の根基であつて、國民保健問題につき之を各人の私事として個人に任しておくと云ふやうな消極的態度を採ることは最早や許されざるところであり、従つて疾病の治療又は衛生上の取締の徹底を期することは勿論であります。が、深き國家的認識の下に進んで積極的に國民の健康を増進し、體力の向上を圖るの要切なるものがあるのであります。厚生省設置の主要目的の一つも亦實に此の點に存するのであります。

#### (七) 保健所制度

かゝる積極的目的を達成する爲めその指導並公衆衛生の調査研究の爲め財團の寄附に基き三百餘萬圓をもつて公衆衛生院を設立し、公衆衛生技術員の養成を爲すと共に保健所法なる法律を制定し大體人口十二三萬程度を單位として保健區劃を定め、國民の保健思想の啓發、衣食住その他各般の生活態様をその地方に適合せしめて衛生的の改善を爲し、公衆衛生婦をして各家庭を訪問せしめ、妊産婦乳幼児の衛生、各種疾病の豫防乃至相談に應じ、一般醫療機關と聯絡を密にしてもつて健康増進の地方中樞機關たらしむる爲め道府縣並特定の市をして今後十ヶ年間に全國に五百五十の保健所と千百の支所を設けしむる爲め總經費一千萬圓中三百四十萬圓は國庫之を負擔する豫定の下に着々建設中であります。

私は都市當局者が深く此の傾向を洞察せられその市の大小に従つて自ら進んでかゝる機關を設定せられ、市の保健行政がこの設備を通して市民に徹底せしむると共に常に市民のよき相談所として活用せらるゝに至らん事を願ふものであります。

## (八) 國民體力管理制度

而して積極的に國民體力の向上を圖る爲めには更に進んで各人の個性に應じてその心身の鍛鍊を敢行し、智情意を綜合したる能力を最も有効に動かし得る適格を造り上げねばなりません。

我國民の體力はこれを徴兵検査について見ますれば、年々甲種合格者を減少し、不合格者が増加しつゝあるものであります。その原因の主なるものは筋骨薄弱、結核性疾患、視力異常であります。結核については既に申上た通りであり、視力については吾國民の近視は中等學生については三六%を示して居り、此間獨逸青年團の來朝せるときにも、彼等の中には一人の近視者もないのに比べて、獨逸に送つた我青年團ではあまりに多い爲め近視の者を除外するに苦心したと云ふことを聞く様な状態であり、筋骨薄弱による壯丁の不合格は三割強を占めて居るのであります。此の趨勢は都會生活者に多いのであります。此間も體力管理制度準備調査の時に都會のものゝ田舎のものと同一の検査方法によりましたところ、その肉體的の力に於て都會のものが劣つてゐるのみならず、その力を發揮する堅忍持久の精神に於て甚しき差異を見たとあります。即ち東京生れ東京育ちの京橋區の十六才のものと、秋田生れ秋田育ちの山村のものとを比較しますと比胸圍に於て〇、四七以下のものゝ割合は三三、五%と八、三%との開きを持つ程筋骨薄弱者が多く、又同一體格のものゝ連續片足跳躍では半分しか出來ないと云ふ有様です。本月一日より實施するに至つた商店法も實は店員の健康保全の爲めであり、即ち政府は工場鑛山等の労働者の爲めには、工場法、最低年令法その他幾多の労働立法を制定して、その労働の保護に努めつゝあるのであります。商店の就業員については何等の規定もなかつたのであります。ところが毎年の徴兵検査の結果によると商業に従事してゐる人の體格が甚だ悪いのでありまして一昨年の結果では甲種合格率が一番低く逆に丙種が一番多いのであります。これはその初めから工場などと違つて割合に身體が悪くても商賣なら出來ると云ふ様な

事から割合身體の弱い者が商店に勤めると云ふやうな事も原因の一つと思ふのであります。

そこで都市に於ける物品販賣業と理容業について營業時間を制限し、原則として午後十時には閉店し且つ一ヶ月少くも一日の休日と與へることゝし、その餘暇の利用につき使用主の工夫を願つて彼等の修養勉學の便と體力向上の機會を與へ且つ又營業の合理化を圖らんとしたのであります。(繁華街は午後十一時、百貨店及五十人以上使用商店では女子及十六才未満の者の就業時間を十一時間とし月二回の休日とす。)

此間もある軍の方と話しまして、軍が一般國民に要求する體力の標準は如何なる程度にあるかと尋ねましたところが、適令の者は皆合格出來るやうにして欲しいと申されたのであります。一見甚だ無理な注文の様に思はれるのであります。が、私が先に引用いたしました戦時各國の動員の状況を想起しますならば正にその通りでなくてはならないのであります。て、體育の國民化を圖り、國民精神を昂揚し、何人も常に國家の要望に副ふべき健全有爲の資質を養ひ、急に赴くの自信ある體力の持主とならしむることを要するのであります。

かくの如き身體を養成するが爲めには色々な方法があると思ふのであります。その一つとして國民體力管理制度を實施すべく本年既にその準備調査を行つて居るのであります。

本制度は先づ國民の保健状態について出生より適齡に至るまで一定の年齢、例へば〇才二才四才八才十二才十六才十九才と云ふ年に一定の事項について身體計測、運動機能測定、精神機能検査、疾病及異常検査を行ひ、各人に體力手帳様のものを交付すると共に、各個人について適切な指示を與へこれを遵守勵行せしめて體力の向上を圖ると共にその結果に従つて保健對策を講ずる資たらしめんとするものであります。

## (九) 體力章制度

又他の一つの方法として體力章制度とも申すべきものを實施せんとして研究して居るのであります。

これは一つの體力試験でありまして、これに合格したものは認定證を與へ、特に青年としては此の試験に合格しなれば一人前の體力を持たぬものとなるのであつて、各人は自ら一人前の體力に達すべく練習すると云ふ點にその獎勵の目標を持つのであります。此の方法は現に外國では相當行はれ、ロシアの G・T・O システムもその一つであります。G・T・O とは「勞働と國防の準備成れり」と云ふ意味であるようでありますが、これは歩行、疾走、投擲、水泳、射撃等十八種目について一定標準を設けこれに及第した者に G・T・O 章を與へる制度でありまして、既に四千五百萬人の受章者があると云はれて居りますが、その爲同國では一九二七年より一九三五年に至る八年後には不合格者を十分の一に減じたと云ふことであります。

獨逸に於ても百八十萬人に體力章が渡されて居ると云ふことであります。厚生省に於ても十五才より二十五才に至る男女青年に對し夫々一定體力標準を定め、特に戰時軍の要求する行軍力、投擲力等を入れて一はもつて常に國民の體力を國家の要望に添はしめ一は各人の體力に對する自信と誇りを表示すべく計畫中であります。

### (十) 榮養問題

以上消極的乃至積極的方面の保健問題について愚見を述べたのでありますが、更に疾病を豫防し鍛鍊に堪え得る身體を作り上げる基本問題として、我々の身體を維持し發育せしむるに必要な榮養を如何にして工夫するかと云ふ重大問題があるであります。

内閣統計局の家計調査によりますと、總收入の内三三%—三八%は食費に費はれて居り、而も收入の少ない階級になればなる程食費の率を高め殆んどその大部分は之れに充當されて居るのであります。従つて食事の改善を圖ることは一は健

康上の重要問題であると共に又實に大なる經濟問題であります。

申すまでもなく人間にはその身體を維持するに必要なカロリー即ち必要榮養標準があります。而してその必要榮養を攝る爲め、各種食品について各々その榮養價を明にし、その調理法と組合せを考究して熱量のみならずその中に含まる蛋白質、含水炭素、脂肪、ビタミン等の含有割合の適正を期することを忘れてはならないのである。榮養が如何に我々の健康に重大なる關係を有すかは、これを世界大戰の實際について見ても明なところであります。戰爭中英國も獨逸も共に食糧の缺乏を告げ、戰捷の鍵は敵をして饑餓せしむるに在るとされた位でありましたが、殊に獨逸に於ては、終に食糧切符制度を行つて一人の一日消費量を制限し、一九一六年には都市に於ける一日一人の配當量は平時の三、六四二カロリーに比し一、三四四カロリーに減し、更に食糧難の頂點に達した一九一七年五月には一、〇〇〇カロリーにまで低下するに至りましたのみならずその含有割合等も考慮の餘裕がなかつた爲め國民の體力は著しく衰へ、發育不善を招き、病毒に對する抵抗力は減少して結核、胃腸病はその罹病率を高め、妊婦は早産、流産の憂目を見、産後の乳は出なくなり、女子は月經が止り戦線の軍隊も亦粗食の爲戦闘力を減殺せられ終に崩壊を見るに至つたと云はれて居るのであります。戦前モルトケ將軍が「戦はすして獨逸を滅亡せしめんとすれば獨逸の農業を失敗に歸せしめよ」との警句を吐いてゐましたが、事實獨逸は武器彈藥の不足によつて敗れたのではなくて、食糧の缺乏によつて破れ去つたのであると云はれて居ります。事實大戰中ウーレン市の小兒の死亡數は戦前の約二倍(一九一四—二八七〇。一九一八—四四三七)結核死亡者は二倍半(一九一四—一〇〇%一九一八—二七九、六%)にも増加してゐるのであります。

英國では一九〇三年の募兵に際し五人中三人迄も不合格者であつたので、時の募兵司令官モリス少將は「かくの如く虚弱者が多くなつては大英帝國の運命も最早や決つた」と嘆息せられました。その事が原動力となつて英國では學校給食の法令が制定せらるゝに至つたと云ふことであります。今や我國に於ても榮養の問題は一般の注意を喚起し、工場は勿

論一町村を舉て共同炊事榮養獻立を實施して以前よりは安い食費をもつて或は罹病率を減し、醫療費を半減し、作業能率向上の結果を見て居るところも少くないのであります。健康週間の實施に當り白米を廢めて胚芽米七分搗米の獎勵を爲したのも我國民の主食としての米の榮養價に對し、深く一般の反省を求めんが爲めでありました。申すまでもなく食物問題は感覺の問題であり、味覺の問題であると共に、理性の問題であり、而して我々の正しき理性の手が感情の奔放を統御するところに人間生活の尊さがあり、嗜好も習慣も教養に依つて是正されることを思ふとき、吾國民の健康狀態を想起して一般が深き關心を榮養の問題に持たれん事を望んで止まぬものであります。

### (十一) 都市衛生問題の重要性

人口の都市集中の傾向に關する研究は本會並に人口問題研究會に於て屢々熱心に討議研究せられて居るところでありまして今更絮説を要しないところでありますが、事實は只集中の一途を辿りつゝあり、昭和五年より同十年間の増加人口四百八十萬のうち二百九十八萬(六〇・二%)は六大都市の存在する府縣と中市の多數存在する福岡縣に増加し、又都市別に見ましても、市部に於て三、〇二九、一六九(一五・四%)を増加してゐるのに對し郡部に於ては僅に一、七七二、〇九一人(四・〇%)を増加してゐるに過ぎず、しかも我國出生數の約八割は農村に生れ出生率並自然増加率に於て郡部が市中より遙に高いにも拘らず人口の増加率は全くこれに反對してゐる有様でありまして、昭和十年内地人口六千九百二十五萬人中二千二百六十六萬人は市に、而して千三百萬人は六大都市に集つて居るのであります。而も更に人口の年令構成を見ますと、人口の年令構成の正常型は最幼者を底邊としてピラミッド型をなすのでありますが、市中に於ては丁度蛇が蛙を呑んだやうに十五歳より三十五歳までの構成がふくれ、農村は幼児と老年者が多く斷食をした御腹のやうに中部がへこんで居る上に都市乃至工場生活の爲めに傷められた人々の住家となつて居るのであります。

これを工場労働者の移動狀況と結核患者の蔓延狀態とを對比して見ましても明瞭にすることが出来るのであります。都市は産業の中心であり文化の中心であると共に又實に凡ゆる病氣の溫床でもあるのであります。私は以上いくつかの保健對策を申し上げました。是等の方策は各々その分野に於て相當の効果はあるとは云へ絶對的な緊要事は次の時代を荷ふべき國民によりよき環境を準備して置くことであります。都市の自然的膨脹への制限、都市住宅の改善、日の照る町田園都市の建設等健康都市計畫の樹立、若しくは工業の地方分散の必要が叫ばれるのも當然と肯かれるのであります。若し我國都市の保健狀態にして改善せられんか、そは單に都市の健全なる發展を期するに止らずして、實に我國民保健の改善を意味するものであります。

戦時に際し人口増加率の減少しますことは吾國に於ても又歐洲各國に於ても經驗するところでありまして、此度の事變に於ても相當の減少を見ることは豫想に難くないところであります。吾等はせめても我衛生狀態を改善して現代國民の體力の向上を圖ると共に乳兒の死亡率を減少せしめ次代を形成すべき心身二つながら強健なる國民を造り、吾等の祖先並吾等の努力の結晶を繼承せしめるに十全の方策を講ずること皇軍に送る銃後の責務であると思ふのであります。

私は現代我國の保健狀態を見て改善の要切なるものあるを認むると共に、又必ずしも大に悲觀しないのであります。蓋しテムス河が臭氣鼻を突きロンドン市がコレラの流行の爲めに、その三分の一の市民を失ひ下水道の完成に努力したのも今を去る僅に八十年前の事であることを思へば、此の六十年間西歐文化の吸收と維新日本の建設に他を願ひるの餘念なかりし我國が、今や自らの姿をふり返り東亞の盟主としての使命に燃え健康日本の建設に精進すべき時代を迎へんとしつつあるからであります。かくて國家發展の根柢たる人的資源の培養にして缺くところなきに至らば、假令巨額の物的資源を消耗し、國富の失ふところありとしても、之れを回復し、之れを増進せしめ、帝國の永遠なる發展を期すること必ずしも難事ならざることを確信し各位の熱心なる御協力を希望する次第であります。

### 第三 勞働力の保全と勞資協調整對策

勞働條件を規正して國家生産力の擴大強化を圖することは近代産業國家として重大關心事でありまして、平時に於ても幾多の勞働立法によつて産業の健全なる發展に努めつゝあるところではありますが、事變下銃後産業報國の要諦は、前線將兵に對し兵器、彈藥、被服等一切の軍需品の充實補給に萬全を期するにありまますが爲めに、急激なる物資の需要に應じ關係工場はその生産量の増加に迫られ、生産設備の擴張の如くならず止むなく勞働時間を延長するに至り、勞働者も亦憂國心の發露によつてその延長に喜んで追従することは、一時的現象としては當然の事と申さねばなりません。然し乍ら勞働時間の延長は、長期に亘るに従つて却つて生産量を減退せしめ、國家目的に添はざるに至りますことは歐州大戰當時に於て各國共に經驗せしところであります。「バーノン博士報告」

而して今や事變は長期體制に入つて居るのでありますから、此際誤れる勞働強化をなし勞働者を疲勞せしめ、作業能力を減退せしむることは極力之れを避けなければなりません。

即ち一は生産設備の利用率を高め、一は勞働疲勞の弊を矯め、永きに亘る生産力の維持増進の爲めに交替制度を採用することを必要とするに至るのであります。政府は一日の就業時間は原則として十二時間以内とし更に休日、休憩制度の勵行、保護職工並不熟練職工の災害防止及勞働者の榮養問題につき事業主の反省を促し、交替制度の實施を要望して、眞に長期戦に堪え得る體制の整備を指導しつゝあるのであります。

事變以來勞働者側にあつては勞資の紛争は擧げて平和と道義の手段に訴へて解決し、進んで全産業に亘つて同盟罷業の絶滅を期せんとし、事業者側に於ても自發的に紛議の起らざる様留意すると共に、應召従事者の處遇に努力を拂ひつゝあることは眞に喜ぶべき現象でありますが、然し乍ら事變下にあつては産業の種類によつて自ら跛行的隆替が起り、世界大

戰當時の各國に見るも、開戦當初は舉國一致の精神を發揮したるも、長期に亘るに従つてその態勢に弛緩を來し、生産力を阻害したる實例が少くないのでありますから、此際一層勞資一體産業報國の精神を實踐する爲め、事業主、従業員双方を含んだ全體組織の團體を設け、凡ゆる問題について懇談を遂げ、相互の完全なる理解と協力とによつて時局を乗り切る様獎勵に努め最善の努力を致して居るのであります。

### 第四 職業對策及國民生活安定對策

#### (一) 國營職業紹介所

國內勞務の需給を圓滑ならしめ産業の發展を期し生活の安定に資するは産業國家の當然の時務であります。時局下に於ては喫緊の要務であり、殊に國防充實の爲めの軍需勞務に對しその充足の敏速と適確を期し生産擴充計畫遂行に齟齬を來さざるは勿論、事變に伴ふ職業の轉換を容易ならしめ、以つて勞務の適正なる配置を爲すことは銃後重要施設であります。而して國民各人の資質と事情を考慮して成るべく各人をしてその適職に就かしむると共に、その需給の圓滑を圖る爲めには、全國を一つの統制ある支配の下に置くことが必要でありますので、政府は従前一地方一區域に獨立して存在して居つた職業紹介事業を統一して之れを國營となし、全國を四百の區に分ち、その各區域の中心に紹介所を設け、區域内市區町村長をして補助せしむる外小學校教員、青年團、在郷軍人關係者等より成る聯絡委員を一村平均五人の割で設け、中央からの命令は之れ等機關の密接ある聯絡活動によつて所期の目的の達成しつゝあるのであります。(本年度主として都市方面に二百ヶ所設置三百六十萬圓)

特に事變直後より陸海軍と協定して「軍需勞務要員の充足に關する取扱要領」を定め全國六個の募集區域に分ち傭員を

駐在せしめて實施して居るのであります。(充足數二十六萬八千人)

その他一般歸郷軍人の職場斡旋は勿論(三月より六月迄約五千人)陸海軍の人夫並作戰地行の工夫の(約一萬五千)要員を充しつゝあるのであります。

而して職業紹介事務に隨伴して、其の職業選決如何が永く將來に迄影響する年少者に對しては、その性能の特徴及身體の狀態を科學的に鑑査してその適職に赴かしめることは、その個人の爲めは勿論將來の國家産業生産力の保全に關する問題でありますから、醫師、心理學者たる技術員を置いて一切の相談指導に當らしめ、更に新しく小學校を卒業する者にして現下六大都市に就職を希望するもの二萬五千人にも及ぶ狀況でありますので、學校を歴訪してその適性判定と保護指導を爲しつゝありますが、職業紹介所の扱ふ人員の六割乃至七割が六大都市及軍需工業所在地に限らるゝことを思ひますとこれ等に對する社會施設生活環境の規制等は都市行政の重要案件であると思ふのであります。

### (二) 學校卒業者使用制限令

而して事變は急激なる勞働力を必要とすると共に他面需要關係に於て偏倚を來し工業鑛山業に關する學科を修めたもの採用について激しい競争を生じ、その結果としてこれ等卒業者が一部の工場鑛山に偏在し、現下最も必要な軍需品製産工場にあつても、最少限度の技術者をも得られない事情にあります。政府は短期技術員の養成を爲しつゝありますが、而も到底必要を滿すに足りませんので、そこで國策上最も必要とする方面へ配當する爲め、事業主の自由採用に放任することが出来ませんので、國家總動員法第六條に基き學校卒業者使用制限令を公布し、去る九月末日迄に事業主をして學校別、學科別必要人員を厚生大臣に申請せしめ委員會に於てその員數を査定して認可するの方針を採りつゝあるのであります、而もこの事は單に學校卒業者に付て起るのみならず、熟練工を始め特殊技能を有する職工の間にもより一層の爭奪が

起るのであります。これを規正しその適正を期すると共に、更に一層急速に要員を滿す爲めにはその各個の技能を調査し、その所在等を明にし技術工の保有適正配置、移動防止を爲し常に必要勞働力を把握し置くことが必要でありますので、この爲の職業能力登録制度を實施すべく準備中であります。

### (三) 物資動員に伴ふ失業對策

以上主として勞務要員の充足方面の事を申し上げましたが、御承知の通り事變勃發と共に對支貿易の杜絶を初め事變の影響により相當の失業者を出したのであります。然し一方軍需並に之れに關聯する事業の擴充に伴ふて勞働力の需要激増し、幸に之れが處理も順當に進め得たのであります。ところが長期應戰の體制となると共に、物資の統制は綿製品への制限を初め、皮革、銅、ゴム等廣範圍に及ぶの止むを得ざるに至つて、その影響は、各種の生産並配給部門に廣汎且つ深刻に及び、爲めに從來の事業を繼續すること困難なるものを生じ(一、三ヶ月後推定業主五六、〇〇〇、従業員三八六、〇〇〇)ますので政府は轉業に關し出來うる限りの指導を爲さんとして商工省に轉業對策部が設けられたのであります。目下のところでは尙一般も出來るだけの辛抱を致して居るのでありますが、轉業の事も又容易の事ではありませんので、止むなく生ずる失業者に對し救援の方法を講ずる爲め中央並地方失業對策委員會を設け、且つ主要都市には離職者相談部を置き、各方面と聯絡して轉職の斡旋指導に當ると共に(七、八月約二萬)軍需工場方面の採用標準即ち年齢體格等の緩和を求め、この種失業者の優先採用方法を講じ極力失業防止に努めて居りますが、職業の性質年齢體格等よりして、此の方面に振り向け得ざる人々の爲めには短期の技術講習を行つて、就職に便ならしむる様いたして居りますが、時局の變移に伴ひ最善の努力を要する問題でありますので厚生省に失業對策部を新設し、四百萬圓をもつて職業輔導、援産、内職指導をはじめ失業者中生活困難のものには生業援護費を交付し、又六百萬圓の豫金部資金を融通して生業資金の貸付、遠隔地就職者へ



の仕度金貸付、賃銀繰替資金に運用する等相協力して時局を乗切らんとしつつあるのでありまして、都市當局者の深甚の御留意を願ひ度いところであります。

以上重要事項の數點について申し上げましたが、時局下社會生活の安定と福利の増進の爲めには各種社會事業團體、救療機關、方面委員等の活動によつて生活困窮者に對する救護事業の徹底を期し、進んで國民の道義に訴へて地主、家主の自肅自戒を促し、地代家賃の騰貴を抑制し、一方急激に増加する都市の職工住宅を計畫する等各種の施設相俟つて銓後任務の遂行は、勿論事變後に於ける國家進展の基礎條件の培養に努めつつあるのでありますが、以上の事一として時局に對する國民の深き認識と確固たる國家的全體主義への理解なくしてはその効果を收め得ないものでありまして、此機會に一層各位の御協力を願ふと共に、時代の變遷と共に行政の重點の移行行くこと及び都市の行政に於てその轉歩が急速であることを指摘し度いのであります。

私は茲に重ねて一言を加へて私の講演を終り度いと思ふのであります。即ち、健康とは病氣をしないと云ふ事とは必ずしも一致しないのであつて、健全なる身體を持ち乍ら、爲すことなく呼吸してゐることには堪え難き生命の躍動を感じ、その活動力を活用すべき適當なる機會を與へらるゝ環境を持たねばならぬのであります。換言すれば健康は生命の充實發展を暗示し、從つて凡ての衛生施設や病院等をもつてしてもそのみでは健康なる國民は作り得ない。一個人一社會がそのうちに不安、失望を含むならばそれは健康とは云ひ得ないのであつて、健康保持の爲めに採用せらるゝ生活標準を何人に對しても保證する凡ゆる社會機關の發展統一、調和の内に眞の健康の存在することを強調して明日の都市の建設を待望する次第であります。

#### 四 特別報告内容

### 日滿支都市の文化的經濟的連携に就て

朝鮮總督府  
政務總監

大野 綠 一 郎 君

今度第六回全國都市問題會議が當京城に於て開催されました、一昨日より引續いてそれ〴〵御報告があり、又その御報告に基いて御討議がありまして、定めて非常なお疲れのことであり、又その内容に於ても非常に有益なる御收穫のあられたことと考へてをります。

實はこの會議が當京城府に於て催されるに付きまして、私にも何か出て報告をするやうにとのお話でありましたが、皆さんの如き専門的な研究を致してをる者ではありませんので固辭を致したのであります。然るに態々先般は市政調査會の理事であられる前田さんがお出でになられました、強つてお話をするやうにとのお話でありました。實は市政調査會の副會長堀切さん、前田さん、何れも私内務省に於て教を受けた先輩でありますので、固辭する譯に行かず餘儀なくお引受け致したのであります。但、皆様に申上げることには甚だ内容のないことでありまして、大いに恐縮致してをるのであります。殊に今日まで連日の有益なる會議の結果、又それに伴うてお疲れの所私がお話申上げるとは洵に恐縮であります。どうかほんの御挨拶を申上げるといふ意味に於てお聴取りを願ひたいと思ひます。

私にお話のありましたのは日滿支の都市の文化的、或は經濟的の連携に付てお話をしろといふことであります。併し

な譯でありますから、その問題に幾らか觸れながら御挨拶を申上げるといふやうな程度で、軽い意味に於ての御報告と申上げるより、たと御挨拶といふ意味に於てお聴取り願ひたいと思ふのであります。

申上げるまでもなく都市は社會文化の中心でありまして、又國家神經の中樞であります。従つて都市の盛衰といふことが國家の存亡に關すると申しても過言でないのであります。凡そ時代の最高文化を代表するものはその時代の都市であることはこれは論のない所であります。唐の文化の粹を長安の都に於て見ることが出来ます。或は我が朝に於て奈良朝、平安朝が我が國文化の中心であり、發祥地であつたのであります。又ローマの七丘の發達の跡を見、ローマ教の強大なるを見てローマ大帝國の強大と、その燦爛たる文化を見ることが出来るのであります。今日の都市を見ても同じやうなことが言へるのであります。その位置、人口、或は建築物、公共の組織、機關、これらを見ましても容易にその國の文化の程度、教育の高下、經濟上の狀態をも知ることが出来るのであります。素より都市ばかりが文化の標準であるとは申上げることが出来ません。地方との連絡に依りまして相俟ち相發達するのでありますが、兎に角都市が最高の文化を表はしてをすることは事實であると思ふのであります。

而してその國に歴史があり、變遷がありますやうに、都市そのものにも沿革と盛衰があるのであります。都市の文化的施設、或は經濟的施設、何れもその歴史を離れて考へることが出来ないものであります。即ち謂はゞその國の歴史の縮圖が重要な都市に現はれると言ふことが出来るのであります。都市を作るものは地圖の上に示された或る形であるとか、道路、建築物ばかりでなくして、その中に住んでをる人をも併せて、一切のものが一つ渾然たるものになつて、こゝに都市が考へられるのであります。従つて現在の交通關係であるとか、或は經濟的な發展ばかりを以てその都市を批判し、或は將來の計畫を樹てすることは都市計畫としてこれは完全であるとは言へないのであります。従つて私は都市の歴史を考へ、その文化的發達の跡を十分に考慮して初めてそこに都市問題の力があり、計畫が樹立せられ、圓滿なる發達と將來性を有つことにすることが出来ると考へてをるのであります。

日滿支都市の連携といふことが話題に上つてをる譯であります。申すまでもなく日本の都市は法律的には一つの人格を有ち、而して固有事務のほかに國家の委任事務を有つ組織になつてをるのであります。自治制が施行されて五十年非常に立派な發達をしてをるのであります。又朝鮮に於ても遂次これに近き程度の發達をしてをります。滿洲、支那に於てきましてもだんく制度が備はると思ひますが、これと申してもまだ滿洲の自治制度は幼稚であることは致し方ないのであります。従つて都市の整備の割合に完全してをるとは申兼ねるのであります。寧ろこれからの問題であると考へます。支那に於てはまだ全く法制上の關係は左程整備してをらんであります。この三つの、日滿支の都市を並べて考へて見ますと、一寸比較する上に於て法制上、制度上には頗る不都合を感じる譯であります。

或は都市の連携から申しまして、ずつと離れた、或はドイツの昔の自由都市のやうな關係を考へて見ますと、これは一つの國を成してをるやうな形になつてをるのでありますからして、これの連携、これの經濟的連結といふことは頗る判りよいことではありますが、左様な意味に於ける今日の都市としての關係に於ては一寸考へられないのであります。従つて都市問題に限局せずして國と國の關係、經濟的、文化的連携に歸着すると考へるのであります。たゞ都市といふものはさういふ法制上の關係は別にして、社會的にこれを見るならば、一つの地域に非常な多數の人が集つて社會的生活を營んでをるのでありますからして、左様な意味に於て有機的な一つの組織があり、それが文化的に或は經濟的に各都市それとの連繫を有つてをるといふことは考へられるのであります。

かゝる意味に於てその都市の經營、或は都市計畫の問題であるとか、又その内容に立入つて見れば上水道の問題、下水道の問題であるとか、教育の問題、或は今日言ふ防空の問題、綠地帯の問題、此等の問題に付てはお互に相關聯致してをりますので、これを相互に連絡して研究することは頗る意義のあることと考へてをるのであります。

今日の如く我々の理想は、所謂東亞一家の考へで、我が國の大陸國策が樹立せられ、それに依つて進んでをるのであります。左様な關係より致しますと、日滿支を一貫して大小都市の特色を考へ、その相關的關係を考へることは極めて有益なことに考へるのであります。殊に交通の發達に依り、又貿易の非常な殷盛に依りまして非常に都市と都市との距離が極く近接してをる譯であります。京城を飛行機で今日の十一時過ぎに發ちますと夕方五時過ぎに東京に着いて了ふ。朝鮮京を發ちますとこれ亦夕方東京に着いて了ふといふやうに非常に近い關係になりましたので、その間の連携、或は都市の經濟的な發展、或は文化的な諸種の事柄がその間に、お互の都市の間に生じ、而してその影響も容易に想像が出来るのであります。

そこで今日の都市相互の經濟的、或は政治的と申しますと、これは先程申し上げましたやうに、實は國と國との關係になるので、都市が自由都市のやうに政治的に別に關係することも餘りないやうに思はれるのであります。兎も角都市相互のさういふやうな色々の連絡に付きましては、これは或は數字に付て、或は又統計等に付て十分詳しくすることを必要とするのでと考へてをります。實は私に注文されましたお話も左様なことであつたかと思ひますが、その點は餘り詳しく研究してをりませんので、寧ろ御來會の諸君に於て十分御研究を煩はしたい事柄と考へてをります。たゞ私は先程申し上げましたやうに、この問題に關聯して申上げたいのは、寧ろ都市が文化生活を基調とすることは都市として如何なる關係を有ち、如何なる過去を有つてをるかといふことを先づ沿革的に考へる必要があると思ふのであります。これは極めて廻り遠い話のやうであります。我々が今日の現況から遡つて左様な沿革を考へ、左様な歴史を考へることに依つて却つて人と人との完全なる理解が出來、又都市と都市との密接なる連携が思ひ出だされ、そしてその連携も依つて來ることの遠いといふことから都市の連絡といふことも考へられ、國と國との連絡も考へられると思ふのであります。人間が歴史を離れてをることの出來ない限り、過去、現在、未來の時と離れてをることの出來ない限りは左様なことを考へ、過去に

於て如何なることがあつたかといふことを考へることは必ずしも徒爾でないと思ふのであります。

歴史を見ますと、我が國と大陸との關係は頗る古い關係にあります。我が國の上代文化が當時の古朝鮮の所謂新羅、百濟と非常に近い關係にあつた。對馬海峡を隔てゝをります。文化的にも、政治的にも非常な近い關係を有つてをたことはだん／＼文献に依つても知り得、又その他土地に残つてをる事柄に依つても知り得るのであります。又滿洲に最初の大國を作つた高句麗、これとも親しい關係にあつたことが分つてをるのであります。丁度昨日總督より朝鮮統治の全體に付てお話がありまして、併合後僅かに二十八年にして斯の如く朝鮮の統治が急展開し良好になつて來た事をお述べになりましたが、洵にその通りであります。これは産業方面に於ても教育の方面に於ても、所謂物心兩方面を通じて著しく變遷を致してをるのであります。殊に昨日もお話のありました通り、滿洲事變、又今次の支那事變に依りまして非常な變革を致してをるのであります。今日至る所朝鮮の人も皇國臣民としての自覺と矜持を有つて今日の時局に對處致してをるのであります。これは素より日韓併合の御詔勅、又大正天皇の御詔勅の所謂一視同仁の御聖旨を奉載して歷代總督が政治を致し、又官民一つになつて努力致した結果であります。併し更に根源に遡つて考へて見ますと、我が國と古朝鮮との關係は非常に近いものであつて、斯の如き内鮮一體の事實は或は寧ろ古代朝鮮と日本との關係に於て存在したといふことを考へますと、この今日の情勢は決して偶然でなく、固より歷代のその局に當つてをる者の努力、或は官民の協力といふことも決してその力の少いと申すのではありませんが、兎も角も歴史の必然性から申すと、所謂内鮮一體になるべき宿命を有つてをることを私は附加へて申したいと思ふのであります。

私は今日日本に於て或は古典の研究であるとか、或は歴史の教育であるとかいふことが喧しく言はれてをります。私共現實にこの地に参りまして、内地の人、又朝鮮に於てもさうであるが、殊に内地の方面に於て左様な研究が等閑にせられ、さうして何と申しますか、歴史教育の缺陷と申しまするか、一般の社會教育の缺陷と申しまするか、左様な事柄が

非常に痛感せられるのであります。詰り私共から申しますれば、内地の人々は頗る健忘症であります。それは何であるかと申しますと、我々の文献に現はれる時代に於きます聯関は別としても、既に文献に現はれてをる、歴史の上に明々瞭々になつてをる我が國と古代の大陸との關係を案外に忘れてをるのであります。朝鮮と日本との交渉と申すと、神功皇后と朝鮮との關係、これは誰も知つてをりますが、それを越えたと最早や文祿慶長役の秀吉の朝鮮に於ける役が直ぐに出て來るだけでありまして、その間の記憶を滅失致してをると考へるのであります。

それで私は左様な意味に於て少くとも我が國の古典、或は記紀の書物を讀んで見ましても、その古朝鮮に於ける大部分が我が國と大陸との交渉であるといふことを見て、實にその當時の我が國の國民の考へが大きかつたことに付て非常にその意を強うするのであります。諸君には既に御承知の通り素戔鳴尊が曾戸茂梨の所に在しましたといふことが書いてあります。これは色々専門の學者に異論のある所でありまして、「曾戸茂梨の處に居します」といふ所は色々な議論があるやうであります。現に朝鮮に於きましては江原道の春川を曾戸茂梨であるといふ説を唱へる人があり、又新羅の慶州が曾戸茂梨であつたといふ説を唱へる人もあり、色々學者に依つて説が異つてをるのであります。幣原博士の如きは新羅の都慶州であると唱へてをります。斯様に古來色々説がありますが、日本書記に現はれてをる朝鮮の一番初めが即ちそこでありす。

それから色々な事實が書いてありますが、神功皇后と新羅との關係になりましたから、丁度歴史を調べて見ますと皇紀約九百年から天智天皇の一千三百二十三年に白村江の役に於て日本が百濟を助けて、當時の新羅と唐と戦ひ、戦利あらすして兵を引いたのであります。その時まで約四百何十年の間といふものは、兎に角朝鮮に於て我が國の政治が行はれてをつたのであります。そして日本府を任那に置きまして、日本の或る今日から考へれば可成り尊い地位の方が來てをられたのではないかといふやうな考證もありますが、兎に角日本の人が來てそこに政府を作つてをつたのであります。

こゝに一々その歴史を私は申上げるものではありませんが、併し案外に内地の方々が、まあさういふことがあつたかなといふことを私が申上げる度に皆さんが吃驚して歸へられるから恐らく今日御來會の皆様の中に左様な方も一、二をられるかと思ひまして申上げるのであります。例へば今の新羅と我が國との關係は天日槍といふ新羅の人が日本に歸化して、その子孫から系統を引いてをるのが神功皇后であるといふことは歴史家の一致してをる説であります。又新羅と日本との關係は、これは恐らくこの會が終りましてお歸りの際或は慶州にお立寄りの方があると思ひますが、色々な事柄が今日に於て推測が出来るのであります。後程又慶州のことを申上げますが、新羅の初代の王様は朴赫居世、その次は脱解王といふのであります。この脱解王は大和の倭國、多波那國の王であるといふことが書いてある。恐くさういふやうな關係を示してをるのではないかと思ひます。それから脱解王の、今日で言へば總理大臣に當る顯公といふ者は矢張り日本から來たと書いてあります。これは學者の説に依ると舟の最も原始的なものは瓢箪を付けて海を渡つたさうであります。又朴といふのも朝鮮では瓢箪のことです。左様な非常に近い關係にあつたといふことが推測出来るのであります。これは推測であります。例へば百濟の關係になりますと、昨日總督からお話がありました。非常に近い關係にある。百濟はこの京城の直ぐ近くに廣州といふ所がありますが、そこに國を作つてをつたのであります。併し高句麗に伐れまして領地を失ひ、非常に困つて雄略天皇にお縋りした所が任那の領地である。熊津の地を賜ふ、百濟の玳瑁王といふ王様が雄略天皇ににお縋りして、その領地である熊津……熊川、熊州とも言ひますが、今日の忠清南道の公州であります。そこを賜つたのであるであります。爾來我が皇室の色々な庇護を受け、或は玳瑁王が死んだ後その第二の子供の文斤王を立てゝ位につけたとか色々な關係があります。これは諸君も御承知でありませうが、高句麗の遺跡が鴨綠江の上流輯安に好太王の碑があります。これには斯ふ謂ふ事が書いてあります。即ち「百濟新羅舊是屬民由來朝貢而倭以辛卯年來渡海破百殘□□羅以爲臣民」とあります。これは好太王即位の元年に當る年で、百濟征討の理由を述べ百濟を後援する我日本の勢力を驅

逐せんとしたものであります。その外色々日本との交渉が書いてあるのでありますが、兎に角朝鮮の歴史は割合に不完全でありまして、殊にこれは何處でもさうであるが、當時自分のほうに色々な關係から都合の悪い所は抹殺してをります。それが爲になか／＼本當のことが傳らないのであります。凡そかういふ碑文から見まして色々な複雑な交渉が想像出来るのであります。故に私は今日の滿洲國と我が日本との關係よりも、當時の百濟と我が日本との關係は遙かに深い關係にあつたと考へるのであります。

最後に百濟は今の廣州を追はれて、今の公州に七十年程をりました。そして高句麗に伐たれて今日の所謂扶餘と言はれてをります。泗沘城に遁れ、そこに百四十年程をつて新羅と唐の聯合軍に伐たれた。それを齊明天皇がお助けになり、阿曇比羅夫を遣はして伐つことになり、天皇は筑前の朝倉宮までお出でになられた。丁度この時の攝政が天智天皇様であらせられた。齊明天皇は朝倉宮で病を得られて崩御遊ばされたのであります。一度百濟は唐と新羅の聯合軍に破れてをる。今度は我が皇室に於て養育してをりました豐璋といふ王子に五千の兵を遣はして百濟の都に送り返したのであります。その時最初に來た唐の大將は蘇定方といふ有名な大將であります。これが今の扶餘の都を攻め落し、その戰勝の碑が今尙ほ扶餘に行きますとあります。それを石の塔に以て行つて有名な書家の懷素の字で刻付けてあります。今日の平濟塔がそれであります。その百濟の遺跡には唐の兵が這入つて非常に亂暴してをつたそうであります。今日平濟塔がそれやうな色々なものは残つてをりません。併しこれは記紀に依りますと、頗る詳細に書いてありますので略しますが、我々が扶餘を尋ねますと、丁度白馬江を横へて泗沘城が聳えてをりまして、如何にも山川糾帯にして非常によい所であり、洵に昔日の追憶の念に禁へないのであります。

斯様な譯でありまして、非常に近い關係があつたのであります。

これは朝鮮と我が國との關係を申上げましたが、兎に角大陸との關係は非常に近い。漢の武帝の外征の時に樂浪、臨屯

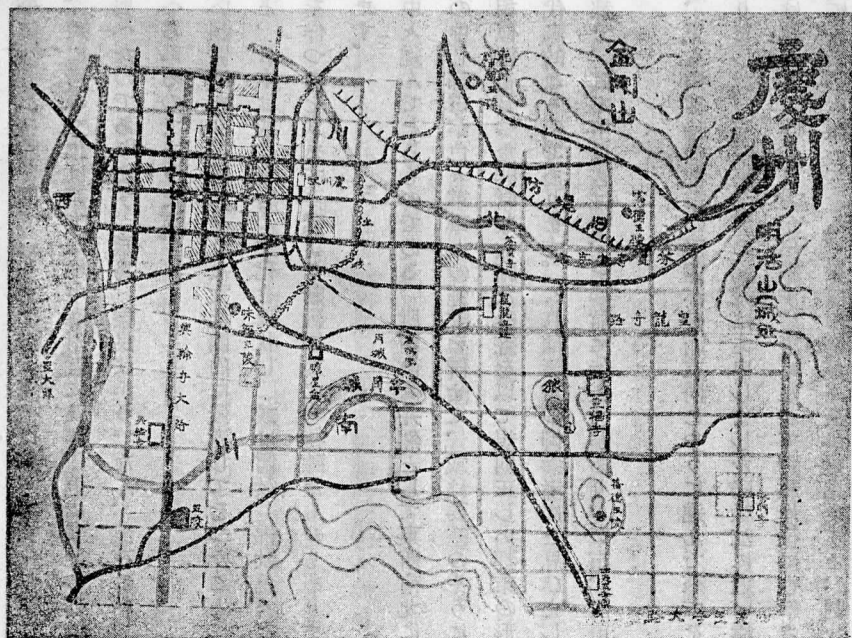
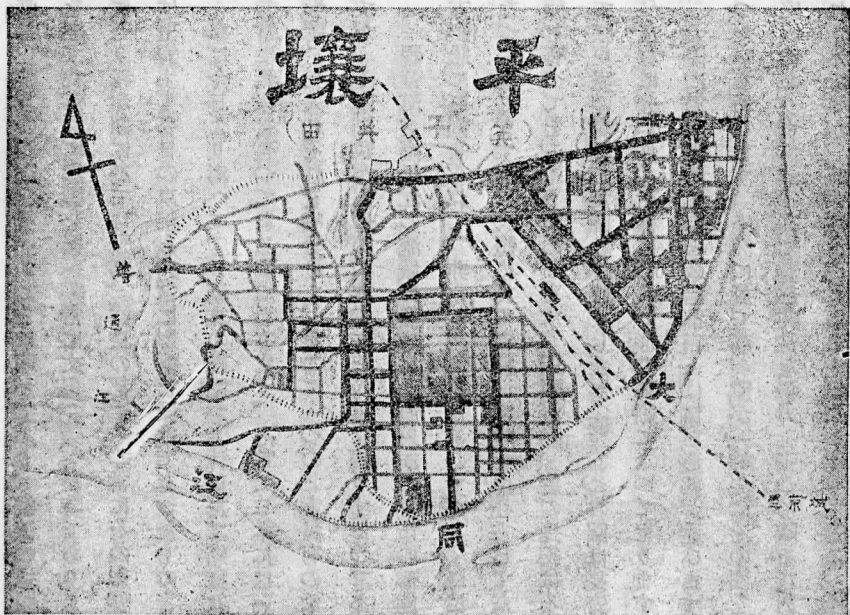
眞蕃、帶方の四郡を置いたことは明かであり、樂浪の遺蹟は平壤附近から段々出て参りますが、漢代以來隋唐文化が朝鮮を経て我が國に影響を與へ非常に文化の榮へた時であります。殊に唐の文化は西方は地中海附近に及び、更に新羅の都城に至り我が朝に於ては飛鳥、奈良の都にも非常にその影響を與へたのであります。飛鳥、奈良ばかりでなく、浪花の朝或は平安……今日の京都も非常に影響を受けてをつたものと考へられるのであります。

私は今日より考へて、日滿支の三國が上代に於て斯様な近い關係にあり、同じやうな文化圏内に發達してをつたことに非常に興味を有つてをるのであります。そして日本にはいと、日本は或は隋唐の文化を吸収し、或は儒教、佛教色々な影響を受入れそれを嚙分けて、そこに一つの日本特有の文化を作つてをります。素より新羅に於ても特殊なものもありますが、その點我が國に於て非常にその感を強うするのであります。

一體黃河、揚子江の流域に發達した漢民族の都市の形態は中々進んでをるものである。所謂街衢井然として東西南北に方眼狀に區劃せられて、非常な組織的なものである。政治上の中心城市が色々軍事上の施設を併せて、或は要塞のやうになつてをりますが、大體に於て官廳、宮殿を中心として左右相似型を有つた非常な大膽な計畫を以て規則正しい都市の形態を有つてをるやうであります。所謂洛陽、唐の長安はその代表的なものであります。これは諸君の御参考にと思ひまして歴史家の考證した圖を掲げましたが(圖示)この圖は長安の都で、眞ん中は宮城で、その前に朱雀通があり、東市、西市が左右に分かれ、斯様に細長い形の區劃になつてをります。

大體に於て經濟都市と政治都市とは自ら形態が違ひますが、兎も角當時の都市の形態が日滿支同じやうに進んで來てをつたのであります。滿洲に於て高句麗が一等先にその國を作りました。その高句麗の都城は先申しました鴨綠江に近い輯安城にありますが、高句麗が非常な勢力を張つて隋を攻めたけれども、勝つことが出來ず、唐になつて到頭最後に亡ぼされたんですが、高句麗はそれ迄に大體平壤迄來てをる。平壤に於て都を築いてをる。平壤の都が高臺から見ますと、割合





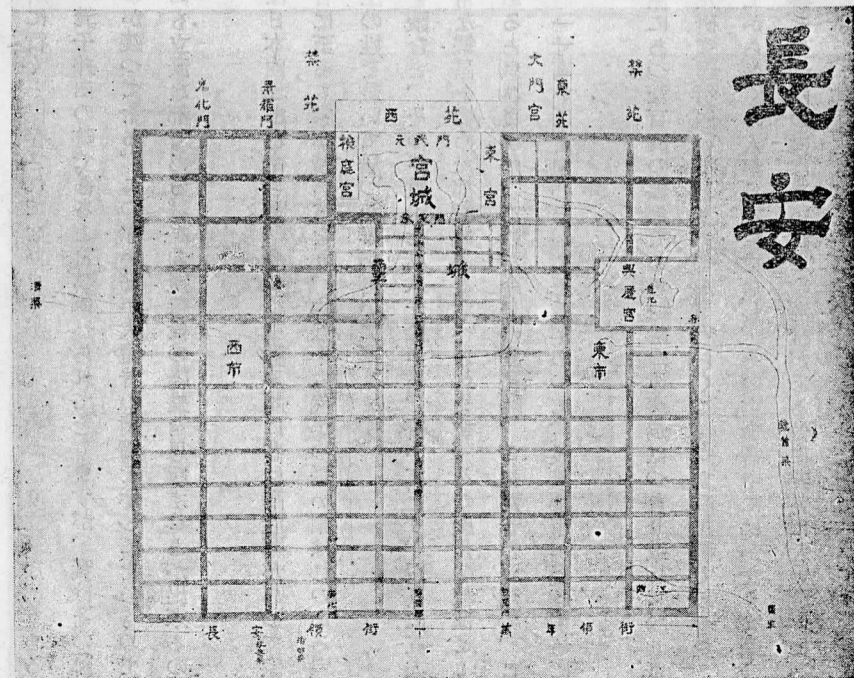
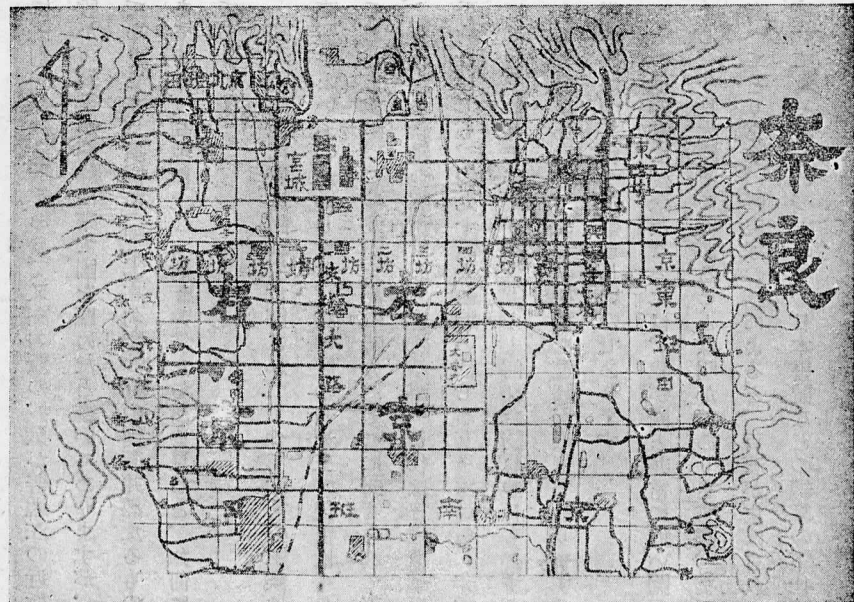
に區劃井然たる所があり、又高句麗の城壁が普通江の近所に行くど保存されてをりますが、兎に角かなり立派な都である殷から箕子が朝鮮に來て國を肇めたと書いてありますが、箕子井田の跡であると言ひ傳へられてをりますが、實はその跡であります。斯様に(圖示)高句麗の都の街衢井然たるものが残つてをる。この赤い筋が大體昔の街衢を示してをるものであります。高地に上つて街衢井然たる所を見ると、如何にも立派な都である。高句麗時代の隆盛を想起することが出来るのであります。

高句麗は遂に唐に討れて亡ぼされて了つて、その王族は日本内地に亡命した。今日埼玉縣入間に昔は高麗郡があつて家高麗村といふのがあります。高句麗の若光王の後裔は今日に至るも家が續いてをり、約五十六代かの長い謂はれのある家でありますが、この元明天皇の時分にそこに封ぜられて王の姓を載いて居つた事が書いてあります。

それから新羅の應州でありますが、これは三國遺事を讀むと、その戸數十七萬八千餘戸と、書いてをり、假りに五人平均としても、約九十萬人に近い都でありますから、非常な繁昌を極めた都であると考へられます。その慶州の都はこゝに書いてありますが、(圖示)……何れお訪ねの日も必ずあると思ひますが、これが今日の慶州驛、これが昔の慶州で、こゝに有名な芬皇寺があり、斯様に道路が出来てをります。一寸高い所を中心として王城があつて、段々都市が発達するに従ひ擴がつて行つた街らしいのであります。

その他非常に残念なことには、我が國と非常に近い關係にあつた百濟の舊都である扶餘の遺蹟がはつきり致して居りません。今日大體そこにあることは明かでありますが、まだ研究が行届いてをりません。恐らくこれは立派な都であつたと考へてをります。歴史家の話によると、百濟が亡ぼされてから多くの人が日本に亡命し、その亡命者中にはかなり文筆の優れてをる者もあつたので、日本書記などの編纂の下仕事をやつたのではないかと考證がある位に非常に近い關係にあります。





然らば我が國の都市の状況は當時に於てどうであつたかと申しますと、それ迄は簡単な宮殿であつた爲に度々都を遷すことがあつたが、我が國の國威が次第に張つてより奈良に立派な平城京が作られた。この平城京は長安と同じやうな形になつてをります。一體奈良の史蹟は、私は専門のことは存じませんが、勤王の志士であり、御陵を調べたりお寺の古文書を調べたり色々なことを調査してをられる北原武正といふ偉い人の調べに基いて、色々なものが明かになりました。この圖は他の學者の調べたもので書いてありますが、やはり大體に於て宮城を中心として、朱雀、大通、一條、二條、三條、一坊、二坊、三坊、左京、右京といふやうに道路が作られてをる。これは喜田博士の考證によると、支那の都は長方形になつてをる。我が國のは眞四角になつてをるから、慶州は寧ろ我が國の影響を受けて斯うなつたのではないかと言つてをります。これは今日の會議は専門家の御集りでありますから、私が申上げるよりもよく御承知と思ひます。

従つて斯様な都市なり文化の中心になつてをります奈良は、内藤湖南先生などの説によると殆ど當時の長安と大して違はない。例へば今日正倉院に残つてをる古文書の字を支那の人が調べた所が、これは歐陽詢の書いたものである。イヤさうでないと云つたら、確かにさうであると言つてをつたといふことが古文書に書いてあるさうですが、それ程詰り相互の關係が近い關係になつてをつた。

京城、開城はお話申上げる迄もなく城郭を以て圍らすやうな都市になつて参つたのでありますが、これはこゝでは申上げません。大體ヨーロッパの都市などに較べると、又大陸の都市もさうでありますが、段々都市を以て城郭とするやうになつた。我が國は少しもさういふことがありません。城壁はこれは北方民族の南下に備へるとか、色々治安の關係とか種々な關係から出來たのでありませうが、我が國は城郭的の都市のないことは我が國の特殊の事情と又我が國の一つの有難さであると思ひます。

それは沿革的のお話を諸君に御参考に申上げただけでありますが、斯様な三國の都市が大體同一の文化の下に共通の沿

革と發達を以て次第に進んで参つたものであります。従つて建築の様式も木造を基本とした建築であり、或は佛教藝術の力強い影響も受けてをる。これを歐米の都市に較べると著しき違を有つてをる。斯様にしてお互の文化が共通し、連繫し發達してをり、その共通の中に日滿支それ〴〵特殊の文化を以て進んで参つてをります。

そこで今日の狀況に付て一言簡単に申上げてお話を終りたいと思ひますが、今迄申上げたことは沿革的のことですが、今日の狀況を考へると、經濟的方面に於て、朝鮮の例を取つて見れば朝鮮が顯著なる發達……これは物心兩方面に亘つての發達であります。特に産業方面に付て申せば、今迄の原始産業から爛熟して工業方面に移行する近代産業に段々進んで來ました。それが爲に内地からも非常な資本、技術が流入し劃期的の發達をしたのであります。昨日も總督からお話がありましたが、今日日滿支の關係を政治的にも經濟的にも通觀しますと、その間に於て我が朝鮮の占めてをる地位の頗る重大なことを考へるのであります。今日事變は恒久戰に入つたと申して宜いと思ひますが、斯様な情勢下に於て、所謂日滿支經濟ブロックの結成が非常に大切なことになつてをります。地理的にも資源の上から言つても又國防の上から言つても半島の立場は頗る重要性を加へて來るのであります。我々は鮮滿一如と現總督初め申してをりますが、日滿不可分の關係から、朝鮮としては一章帯水の鴨綠江を距て、滿洲と接續してをりますが、左様な意味に於て滿洲との經濟的關係、文化的關係をお互に密接にしなければ、到底滿洲を我が國が助けてをる所謂日滿不可分の國策に副ふ所似ではないと考へてをりますが、今日の支那に付ても鮮滿一如を更に支那に伸ばして對支貿易増進を企圖してをり、色々と畫策致してをります。今日の朝鮮の林業問題、農業畜産その他の問題に付て、朝鮮の既に經驗したる經驗又技術を以て支那にも段々その發達を助成をして滿洲國と携へて支那の創設に協力したいと考へてをります。尙ほ又國防的に考へて大切なことは申す迄もな。

それから京城を中心として考へますと、或は大阪、神戸、北九州——北は新京或はハルビン又北京、天津といふやう

に考へますと、その中心地のやうな形になります。或は三國の生産、購買の關係資源の關係を考へると、京城はその眞ん中になります。而して朝鮮の地勢として三面海に圍まれてをる關係上、内地、滿洲、支那に對して最も利便を有つてをる。今日航空路が十重二十重に開發せられ、又今後に於ても開發されますが、又陸路の鐵道も段々發達して來る。近くは釜山から北京に直通列車が出來ましたが、更に複線にせられ、段々改良せられるに従つてその關係は次第に近くなると考へてをります。

昨日は總督からお話\*がありましたが、資源の關係から言へば或は金であるとか、又鐵も食鹽ながら莫大な量を有つてをる。その他内地にない諸種の金屬が段々ある。これらと又北支にある色々な資源と結付き、朝鮮に於て色々な仕事が出来ることが考へられるのであります。最も生産上に於て必要な動力が非常に豊富である。鴨綠江だけでも百四十萬キロ開發の餘力があると稱せられてをります。既に咸鏡南北道に於ては百萬キロに近いものゝ中六七十萬キロは開發されてをります。又人的資源に付てはこれは所謂チープレーバーで割合その方面のゆとりがあります。國防的な關係に於て大切なことはさつき申しましたが、今次支那事變に當りまして、數十萬の大兵が朝鮮の鐵道を経由して参つたことは御承知の通りと思ひます。左様な意味に於て非常な重要性を加へてをると申すのであります。

で私は今日の支那事變の情勢を考へて、先程申した日本の大陸に於ける色々な沿革を顧みますと、實は我々の先祖のやりかけの仕事を今日我々が新たに……或は飛行機とか、鐵道であるとか、汽船であるとかいふ道具は違つてをりますが、それを利用して新しい時代に適應する違つた形に於て我々がやつてをることをつく〴〵考へて、所謂歴史は繰返すといふか、左様な感じを深くするのであります。即ち我が國としては斯の如き宿命的の運命を有つてをることを考へてをります。それには内鮮一體を中核にして滿洲とは一體不可分になり、そして中支、北支を助けて行つて所謂東亞一家、八紘一宇の理想を實現せんとするを考へるのであります。昔に於ては支那の文化が北支に於て發達し、それが段々影響を及ぼし

\* 本誌前々號(第二七卷第五號) 南總督「朝鮮統治の要諦」參照。



それを吸収して独自の文化を發達して燦然たる或は當時の情勢から言へば長安、慶州、奈良といふ文化の華が咲いたが、今日に於ては日本が段々進んで来て、立派な文化、立派な産業を以て、朝鮮を足場にして段々進んで来るといふ情勢を考へてをるのであります。従つて各種の經濟の關係に於ても朝鮮が中心……といふと語弊がありますが……足場となつて大陸に伸びて行くのは當然であります。我々は農工併進と申してをりますが、嘗て朝鮮に於ては農業だけが全體に於て中心となつて進んで参りましたが、更に爛熟したる農業の時代を経て今日に於ては重工業、精密工業迄にも進んでをる情勢になつてをる。尙ほこのことは朝鮮が大陸の兵站前進基地としての必要性に付ては、昨日總督より詳しいお話があつたのであります。即ち色々の物資が幾ら澤山あつても、非常に窮迫せる場合にはその物資が直ちに今日の交通機關或は船舶、鐵道より持つて來ることがいつでも出來るといふ考へで期待してをることは出來ないのであります。従つて或る程度の修繕、補給はこゝで出來ることでない、大陸に於ける戦さに付ては勿論のことであります。その他の經濟上の仕事に於ても左様な問題に逢着するのである。その意味に於て極めて重大なることを申添へて置きます。

私は今日北京なり或は新京なり或は京城なりの都市のこの三つをこゝに取上げて考へて見ますと、今日の三つの國の産業狀態を象徵するやうな感じがするのであります。即ち城郭に圍まれてをる北京は所謂舊殼に圍まれてをる支那の産業であります。又曠漠なる原野に奔放自由なプランを建て、都市計畫を行つてをる新京の都市は新興滿洲の産業といふやうなものである。都市計畫と申しますが、新京に参りますと、都市計畫のやうな氣がする。内地及び朝鮮でもさうですが、一つのプランを建て、も既設の住宅を直し、動かし、そこに道路を作り工作物をこしらへることは、費用に於ても實際の工作に於ても骨が折れるのであります。何も無い所を白紙を以て事業を進めることは本當に都計畫らしい。それをやつてをる人はさぞ愉快であらうと、私は見て参つたのであります。左様な氣分がやはり都市に象徵されてをるものである。

又京城は段々周圍に伸びて参りました。これは昔の都城を中心として産業の發達によつて伸びて來ましたが、これ亦朝鮮産業を表現せられると見られない譯でないと思ひます。従つて我々は東亞の經濟ブロックとしてそれ／＼特性を發揮して、そこに相補給し、一つの組織を以て今日の世界の情勢に對處することが非常に必要であると考へてをります。素より既に高度に發達せる内地の産業の指導によつて進んで参ることに考へてをります。斯の如くして東亞經濟ブロック強化が徹底してこそ恐らく日滿支三國文化的提携により、この度の聖戰の目的たる東亞民族の大團結により東洋人の東洋を建設して、同文同種、數億の民族の福祉増進と文化の興隆によつて以て我が肇國の大精神である八紘一宇の精神の具現に想到致しますと非常に愉快である。又左様な仕事に於ける朝鮮の立場を考へますと、我が朝鮮の有する重大な責務を感じるのであります。

日滿支の都市の經濟的或は文化的連携に付ては先申上げましたやうに、今日の日滿支の都市の諸種の違つた點から申し異なる分母の上に於て分子を寄せたり引いたりすることが一寸困難であると考へてをりますが、併し都市の技術的或は上水道、下水道、衛生施設であるといふやうな意味に於て比較研究は非常に有益な事柄であると考へます。承れば今回の御會合には内地より多數お見えになつたことは勿論であります。或は大連、臺灣、滿洲各方面よりも御來會になりましたので、斯様な方面に於て十分なる御研究があられることと思ひ、更に又左様な意味に於て連携して進んで内地から色々進んだ施設を移し、又今日の都市が昔の……千年も、千何百年前もの都市に較べて、今日の諸種の文化施設に對應するだけのことを、新たに形成すべき時代ではないかと考へてをりますからして、左様な意味に於きます御研究も更に重ねられて行くことゝ考へてをります。

大體私の申上げますことは右様なことであります。要するに與へられました題目に付てほんの一寸氣の付いたことを申上げて御挨拶に代へた譯であります。多分各位に於かれましてはこの會の濟んだ後に於て何れ各地を御觀察になる

ことと思ひます。或は北鮮の頗る發達せる産業の狀態を現實に於て御覽下さることも必要であると考へます。或は更に歸途慶州にお寄りになつて、日本と當時の新羅との關係を御研究下さることも宜しいと思ひます。又出來ますれば扶餘の都に這入つて昔の我が國と百濟との關係を考へられ、左様なことを見て頂くことも結構であると思ひますが、朝鮮の狀況に付て十分なる御認識を有つて頂きまして、今後の朝鮮の發達に御利用下されば私の甚だ幸と存する所であります。甚だ詰らん話を申し上げまして御清聴を汚しました。

## 第二 第一部會報告討議

### 一 序 說

前篇記述の如く、總會第一日及第二日に亘り、第一議題に關して第一部會を設け一般會員の報告討議を行ひたるが、其の内容左の如し。

### 二 報告討議内容

#### 關東州州計畫令の特異性

内務省囑託 西村輝一君

關東州州計畫令は、本年二月二十一日勅令第九十二號を

以て制定公布せられたのでありまして、其の都市計畫法制

の系統に屬するものであることは、言を俟たない所であります。が、現行の都市計畫法制とは餘程變つた點があるの御座います。其の最も著しい點は、内地の都市計畫法を始め其の流れを汲む都市計畫關係の法令では、一つの都市若くは市街地の構築改良が各別に目標となつて居るのに反しまして、州計畫令では關東州の全體に亘る區域が對象となつて居ることでありまして、即ち州計畫令第一條には

本令ニ於テ州計畫ト稱スルハ關東州ニ於ケル市街地ノ構成、農耕地ノ創設又ハ改良其ノ他土地ノ利用開發ノ爲ニ必要ナル公共ノ利益ト爲ルベキ重要施設ノ計畫ヲ謂フ

と規定せられて居るのであります。

州計畫令が斯様に州の全體を對象とする方針で制定せられました理由に就きましては、先づ第一に關東州の特殊の事情を考へねばなりません。所謂特殊の事情と申しますのは

(一) 關東州は其の位置が滿洲の關門に當ると申しますか、其の咽喉を扼すると申しますか、全滿に於ける特殊の立場を有して居りまして、滿洲國の發達に伴つてその使命は極めて重大であります。

更に北支方面との關係に於きまして其の使命は益々重大性を加へようとする情勢にありますのに、其の地域は漸く内地の一府縣に相當する位のもので、廣瀾とは言へないのでありますから、僅かな土地でも夫々其の適性に應じて、利用開發の途を講ぜねばならぬので、之が爲には州の全土に涉つて綜合的開發計畫を樹つるの必要があるのであります。

(二) 關東州の區域は廣瀾とは言へないのでありますが、大連市を初めと致しまして西に旅順、北に金州があり、更に其の北郊には普蘭店、鏡子窩其の他の市街地が各所に點在して居るのであります。が、是等大、小の都市毎に各區域を劃して各別の計畫を樹てることは、關東州の全體の開發を圖る上に於て決して得策ではないのでありまして、都市と都市との連絡は、云ふ迄もなく其の間に介在する處の農村との關係に立脚して兩者がしつくりと相握り合つた所の、所謂全體的計畫を樹てることが最も必要であると認められたのであります。

(三) 以上二つの理由は關東州の特殊の事情に基いて居るのであります。更に今一つの理由は都市計畫が段々と

地方計畫乃至國土計畫に推し移つてゆく趨勢のあることであります。

我國の都市計畫法制の先驅となつて居ります所の、東京市區改正條例が制定せられましたのは、明治二十一年のことで爾來五十有餘年になります。此の半世紀の間に、都市計畫法は市區改正條例に代つて制定せられ又臺灣に於きましては臺灣都市計畫令が、朝鮮に於きましては朝鮮市街地計畫令が夫々制定せられまして、都市計畫法制は漸次充實して参りました。そして其の適用の範圍も亦次第に擴張せられまして、内地では殆んど全國的にその運用を見て居るやうな情勢であります。が、是等法令の總てが依然として都市又は市街地本位のものでありまして其の統制の效力は都市計畫區域又は市街地計畫區域の外には及ばないのであります。所が、今日の各地方に於ける形勢を觀ますれば、現行の是等の法令だけでは到底賄ひ切れぬのではないかと考へられる様になつて來て居ります。兩三年前には地方計畫乃至國土計畫が論議せられましてまだ一つの理念、一つの空想として取扱はれました様な事もありましたが、最早今日では夢でも

なく、又空想でもなく適當に法制化せられねばならない様な情勢にあるのであります。現に内務省内に於きましては地方計畫、國土計畫に就て本格的な検討が續けられて居る様な次第であります。

州計畫令の制定に當りましては、今日の此の情勢に順應してこれらの空氣を取入れたというのが又一つの大きな理由であります。

以上申述べましたやうな理由の下に、都市計畫法とは根本の出發點を異にして立法せられた州計畫令であります。が故に、其の自然の結果と致しまして兩者の間に規定の仕振りが相違して居ります事は當然であります。從來都市計畫法の運用の實績に鑑みまして、其の短を捨てて長を採ると云つた趣旨で改められました規定も亦少くないのであります。以下是等の點に就て申述べて見たいと思ひます。

(一) 前にも申述べました通り、都市と農村とを併せて全體的の計畫を樹てる事が主眼になつて居ります關係上、都市計畫區域とか市街地計畫區域と云ふ制度は置かれて居ないのであります。乍併都市計畫を否定する趣旨では勿論ないのであります。實質上から觀て都市計畫と農

村計畫とを併有して居ります關係上、別段に都市計畫區域や農村計畫區域などを法令上に認める必要がないと云ふに外ならぬのであります。

(二) 次に建築物の問題でありますが、現行の市街地建築物法では建築物を統制する爲に建築行為そのものを目標として規定せられて居る様に思ひます。臺灣の都市計畫令亦然り、朝鮮の市街地計畫令亦然りであります。州計畫令は土地の利用、開發から出發して居ります爲に建築物を建築する事は土地の利用、開發の一つの方法手段と見まして、地域制を初め建築物に關する規定は「土地ノ利用開發ノ統制」の題下に置かれてあります。さうして其の主なるものは無論用途地域制であります。此の用途地域に付きましては住居、商業、工業の三地域の外

新に農業地域が認められて居ります。是は州計畫令が農村の統制をも考へて居ります結果とも云へますが、此の農業地域を認めた事と、各地域共に必要に應じて特別地區を設定し得る事になつて居る點が、市街地建築物法と異なつて居るのであります。而して是等地域制の内容は市街地建築物法が命令に委任して居りますと同様に、州

計畫令に於ても亦關東局令即ち州計畫令の施行規則中に規定せられることになつて居りますが、今日はまだ發布せられて居りませぬから私より彼は申述べる自由は有ちませぬ。近く發布せられると思ひますから是によつて御承知を願ふ外ありませんが、大體に於て、現行の地域制に比べて大分變つた内容のものが出来るかと思はれます。

(三) 防火地區、風紀地區のことです。防火地區は關東州の建築物が多くは不燃質の材料で建築せられます爲に、その必要が少くないのと又風致地區制は從來運用せられないで都市計畫法中の條文は殆んど死文同様になつて居りますので、此の二つの地區は認められて居りませぬ。

(四) 風致地區と美觀地區であります。風致地區は都市計畫法中に又美觀地區は市街地建築物法中に規定せられて居りまして兩者併立して運用を見て居りますが、其の實績から觀ますと兩者の間に判然と區別が立たない様にも思はれますのと關東州の實狀を考へますと、寧ろ兩者を一つにした方が實際に適するといふやうな見地から、此の二つを併せて景觀地區と云ふ名稱になつて居り

ます。

用途地域も、此の景觀地區も、共に必要に應じて關東州の何れの場所にでも設定し得ることとなつて居りますが、之とは別に建築敷地として土地を使用する場合に於ける敷地の面積、空地の割合、其の他建築物の位置、高さ、構造設備等を統制する爲に必要な區域を設定することが出来まして、此の區域内に更に特別地區を設定して各種の制限を置き得ることになつて居ります。

(五) 次に土地の整理の問題でありますが、現行の法制では土地區劃整理と耕地整理(朝鮮では土地改良)と此の兩制度が併立して居るのでありますが、州計畫令では耕地の改良を目的とするものも、宅地の利用を増進する爲にするものも、總て土地整理といふ一つの規定で取扱ふ事になつて居ります。此の土地整理の規定は州計畫令では極めて基本的のもののみで、其の詳細は局令に委任せられて居ります。追々其等の規則が發表されることと思ひますが、從來區劃整理に就ては各方面から規定の改正が要望せられて居りますので、是等の點は關東州に於て事情の許す限り施行規則中に取入れられることと存

じます。

(六) 州計畫は關東州州計畫評議會に諮問して大使が之を決定するので、評議會が諮問機關である事は都市計畫法とは異りますが、臺灣都市計畫令と同様であります。又州計畫事業の決定は、大使の自由の權限になつて居ります。

(七) 州計畫事業の年度割決定の規定は、全然認められて居りませぬ。

(八) 州計畫事業は行政官廳に於て執行することを原則とし、公共團體を統轄する行政廳をして國の機關として執行せしむる所謂行政廳主義は認められて居らないのであります。

例へば大連市長が事業を執行するとなれば、それは國の仕事としてするのではなく、公共團體なる大連市そのものの事業であり、從て其の公共團體に於て費用を負擔する事は當然で、出來上つた物は公共團體の營造物となるのであります。現行法で行政廳主義を執つた事に就ては相當理由のある事には違ひないのですが、又一面から見まして實際の事情に添はない様にも考へられ、之を改

めたことになつて居ります。

(九) 土地收用の關係は現行の關東州土地收用令で一切賄ふやうに致しまして、都市計畫法に見る如き種々の規定の殆んど全部は、州計畫令には認められて居ないのであります。若し州計畫事業の執行に就て現行の關東州土地收用令で賄ふ事が出來ぬものがありますならば、寧ろ收用令其のものを改正せらるゝ事になるかと存じます。

(十) 州計畫令には財源としての特別税は認めて居ないのであります。是は其の必要を認めないのではありませぬ。税に關しては、他の法令に統一して適當な規定が設けらるゝ事と存じます。

以上大體に於きまして州計畫令の特異の點を申述べました。州計畫令は極めて基本的の條項ばかりで詳しい事は施行規則に譲られて居りますが、此の計畫令を根本法として他の關係法令を之に調和せしむる様にしたいのであります。終りに臨み重ねて申しますやうで御座いますが、今日は都市計畫から地方計畫乃至は國土計畫へと推し移つて参ります轉換期とも申すべき時でありまして、かう云ふ見地から觀ますれば、州計畫令は都市計畫令であり又農村計畫

令であり、同時に關東州の地方計畫法乃至國土計畫法であるとして御了承を願ひたいのであります。

# 關東州州計畫令 (勅令第九十二號)

## 第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ州計畫ト稱スルハ關東州ニ於ケル市街地ノ構成農耕地ノ創設又ハ改良其ノ他土地ノ利用開發ノ爲ニ必要ナル公共ノ利益ト爲ルベキ重要施設ノ計畫ヲ謂フ

第二條 州計畫及州計畫事業ノ決定ハ滿洲國駐劄特命全權大使之ヲ爲ス其ノ變更及廢止ニ付亦同ジ

第三條 州計畫ノ決定並ニ其ノ變更及廢止ニ付テハ關東州州計畫評議會ノ意見ヲ聞クベシ但シ大使災害其ノ他特別ノ事情ニ因リ緊急ノ必要アリト認ムルトキ及輕微ナル變更ヲ爲サントスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 關東州州計畫評議會ニ關シ必要ナル事項ハ大使之ヲ定ム

第五條 州計畫若ハ州計畫事業ノ決定シ又ハ之ヲ變更シ若ハ廢止シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示ス

第六條 州計畫事業ハ大使ノ定ムル所ニ依リ行政官廳之ヲ執行ス法令又ハ政府ノ命令ニ依リ施行ノ義務アル事項ニ付テハ其ノ義務者ハ大使ノ認可ヲ受ケ州計畫事業トシテ之ヲ執行スルコトヲ得前項ノ場合ヲ除クノ外公共團體又ハ私人ハ大使ノ特許ヲ受ケ州計畫事業ヲ執行スルコトヲ得大使ハ前二項ノ認可又ハ特許ニ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第七條 行政官廳州計畫事業ヲ執行セントスルトキ又ハ大使前條ノ規定ニ依リ認可若ハ特許ヲ爲シタルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ直ニ其ノ旨ヲ告示ス告示事項ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第八條 州計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ大使ノ定ムル所ニ依リ國庫又ハ關東州地方費其ノ他ノ者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

第九條 大使必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ州計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前條ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十條 第五條ノ規定ニ依リ州計畫事業決定ノ告示アリタル後道路廣場、河川、港灣、公園其ノ他大使ノ指定スル施設ニ關スル州計畫事業ニ必要ナル土地ノ境域内ニ於テ土地ノ形質ヲ變更シ、建築物其ノ他ノ土地ニ定著スル工作物ノ新築、改築、増築、大修繕、移轉若ハ除却ヲ爲シ、物件ヲ附加増置シ又ハ大使ノ指定スル樹木土石ノ類ヲ採取セントスル者ハ關東州廳長官ノ許可ヲ受クベシ但シ大使ニ於テ許可ヲ要セズト定メタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

關東州廳長官ハ前項ノ許可ニ州計畫事業ノ執行上必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

關東州廳長官ハ第一項ノ規定又ハ前項ノ條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

前三項ノ許可、條件及命令ハ第一項ノ土地物件ノ權利ノ承繼人ニ對シテ亦其ノ效力ヲ有ス

第十一條 州計畫若ハ州計畫事業ノ決定又ハ州計畫事業ノ執行ノ爲

必要アルトキハ當該官吏、吏員又ハ事業執行者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ他人ノ占有スル土地ニ立入り調査若ハ測量ヲ爲シ又ハ之ガ爲已ムコトヲ得ザルトキハ其ノ土地ニ在スル障害物ヲ變更若ハ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第六條ノ認可又ハ特許ヲ受ケントスル者其ノ認可又ハ特許ノ申請ノ爲必要アル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ行爲ニ因リ損害ヲ受ケタル者アルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ國庫若ハ關東州地方費、事業執行者又ハ第六條ノ認可若ハ特許ヲ受ケントスル者之ヲ補償スベシ

第十二條 州計畫事業ノ執行ニ付關東州土地收用令ヲ適用スル場合ニ於テハ州計畫事業ノ決定ヲ以テ同令第三條第一項ノ事業ノ認定、第七條ノ告示ヲ以テ同令第三條第二項ノ公告ト看做ス

州計畫事業トシテノ建築敷地造成ノ爲收用シタル土地ノ管理及處分ニ關シ必要ナル事項ハ大使之ヲ定ム

第十三條 大使ハ州計畫事業ニ因リ生ジタル營造物ノ管理者ヲ指定スルコトヲ得

大使ハ前項ノ營造物ノ維持管理ニ關シ必要ナル定ヲ爲スコトヲ得

第十四條 住所又ハ居所ノ不明其ノ他ノ事由ニ依リ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハザルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ公告ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ公告ヲ爲シタル日ノ翌日より起算シ二十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ前項ノ書類ノ到達アリタルモノト看做ス

第十五條 本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處

分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テハ行政官廳又ハ公共團體ハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ徵收金ノ先取特權ノ順位、追徴、還付及時效ニ付テハ徵收者ガ行政官廳ナル場合ニ於テハ國ノ徵收金、公共團體ナル場合ニ於テハ其ノ公共團體ノ徵收金ノ例ニ依リ

第十六條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外州計畫又ハ州計畫事業ニ關シ必要ナル事項ハ大使之ヲ定ム

第二章 土地ノ利用開發ノ統制

第十七條 大使ハ土地ノ用途ヲ統制スル爲居住地域、商業地域、工業地域又ハ農業地域ヲ設定スルコトヲ得

居住地域内ノ土地ハ住居ノ安寧ヲ害スル虞アル用途ニ、商業地域又ハ工業地域内ノ土地ハ夫々商業又ハ工業ノ利便ヲ害スル虞アル用途ニ、農業地域内ノ土地ハ農業、林業、牧畜業、鹽業其ノ他原始産業ノ利便ヲ害スル虞アル用途ニ之ヲ供スルコトヲ得ズ

第十八條 大使ハ衛生、保安、經濟等ニ關シ特ニ必要アリト認ムルトキハ前條ノ各地域内ニ特別地區ヲ設定スルコトヲ得

前項ノ特別地區ノ種類ハ大使之ヲ定ム

第十九條 大使ハ土地ノ狀況ニ依リ特ニ景觀ヲ保育スル必要アリト認ムルトキハ景觀地區ヲ設定スルコトヲ得

第二十條 大使ハ建築物其ノ他ノ土地ニ定著スル工作物ノ敷地トシテ土地ヲ使用スル場合ニ於テ其ノ面積若ハ敷地内ニ存セシムベキ空地又ハ建築物其ノ他ノ土地ニ定著スル工作物ノ位置、高サ、構造若ハ設備ヲ統制スル爲必要ナル區域ヲ設定スルコトヲ得

第二 第一部會報告討論

第二十一條 大使ハ土地ノ狀況ニ依リ特ニ必要アリト認ムルトキハ前條ノ區域内ニ特別地區ヲ設定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物其ノ他ノ土地ニ定著スル工作物ノ敷地若ハ敷地内ニ存セシムベキ空地ノ最小限度又ハ建築物其ノ他ノ土地ニ定著スル工作物ノ高サノ最低限度若ハ最高限度ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ特別地區ノ種類ハ大使之ヲ定ム

第二十二條 第十七條乃至前條ノ規定ニ依リ地域、區域又ハ地區ノ特別地區ヲ含ム以下之ニ同ジノ設定ハ州計畫ノ施設トシテ之ヲ爲スベシ其ノ變更又ハ廢止ニ付亦同ジ

第二十三條 大使ハ建築物其ノ他ノ土地ニ定著スル工作物ノ配列ヲ統制スル爲第二十條ノ區域内ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ建築線ニ關シ必要ナル事項ハ大使之ヲ定ム

第二十四條 第十七條乃至第二十一條ノ地域、區域又ハ地區内ニ於ケル土地又ハ建築物其ノ他ノ土地物件ニ關スル工事又ハ權利ニ關スル制限ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大使之ヲ定ム

第二十五條 土地ノ使用左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ行政官廳ハ相當ノ期間ヲ指定シ土地ノ區劃形質ノ變更、建築物ノ除却、改築修繕、使用禁止若ハ使用停止又ハ地上物件ノ收去其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

一 保安上危險ト認ムルトキ

二 衛生上有害ト認ムルトキ

三 本章ノ規定又ハ本章ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二 第一部會報告討論

一七五

四 地域、區域又は地區ノ設定其ノ他ノ場合ニ於テ從來ノ土地ノ使用ハ本章ノ規定又ハ本章ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反スルニ至リタルトキ

第十條第四項ノ規定ハ前項ノ命令ニ之ヲ準用ス

第一項第四號ノ規定ニ依リ措置ヲ命ズルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ通常生ズベキ損害ヲ補償ス

第二十六條 本章ノ規定ハ大使ノ定ムル所ニ依リ建築物其ノ他ノ土地ニ定著スル工作物ニシテ工事中ノモノ又ハ工事ニ著手セザルモ設計アルモノニ之ヲ準用スルコトヲ得

### 第三章 土地整理

第二十七條 本章ニ於テ土地整理ト稱スルハ土地ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ本令ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フコトヲ謂フ

一 土地ノ交換、分合、地目變換、區劃形質ノ變更又ハ水面ノ埋立若ハ干拓

二 道路、廣場、河川、運河、溝渠、堤防、溜池、公園等ノ新設變更又ハ廢止

三 前二號ノ事項施行ノ爲若ハ施行ノ結果又ハ土地整理ニ附隨シテ行フ土地整理施行地（以下整理施行地ト稱ス）ノ利用上必要ナル設備又ハ工事

第二十八條 土地整理ハ州計畫事業トシテ施行スル場合ヲ除クノ外大使ノ定ムル所ニ依リ土地ノ所有者其ノ他ノ權利者ニ限リ之ヲ施行スルコトヲ得

第二十九條 第六條第三項ノ規定ハ土地整理ニ付テハ私人ニ之ヲ適

用セズ

第三十條 第二十八條ノ土地ノ所有者其ノ他ノ權利者土地整理ヲ施行セントスルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受クベシ

第三十一條 大使前條ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示ス

第三十二條 州計畫事業トシテ土地整理ヲ施行スル場合ニ於テ大使必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ土地整理區域（以下整理區域ト稱ス）内ノ土地ノ所有者其ノ他ノ權利者ヲシテ第八條ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十三條 整理施行地又ハ其ノ上ニ存スル工作物ニ付權利ヲ有スル者ハ大使ノ定ムル場合ヲ除クノ外整理施行ニ對シテ異議ヲ述ブルコトヲ得ズ

第三十四條 第十一條ノ規定ハ行政官廳土地整理ニ關スル調査ノ爲必要アル場合、第三十條ノ認可ヲ受ケントスル者其ノ認可ノ申請ノ爲必要アル場合、又ハ第三十條ノ規定ニ依ル土地整理施行者（以下整理施行者ト稱ス）整理施行ノ準備ノ爲必要アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 整理施行者ハ整理施行ノ爲必要アルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ整理區域内ノ建築物其ノ他ノ地上物件ヲ移轉シ、除却シ又ハ破毀スルコトヲ得

前項ノ規定ニ適用ニ因リ通常生ズベキ損害ハ大使ノ定ムル所ニ依リ整理施行者之ヲ補償スベシ

第三十六條 州計畫事業トシテ土地整理施行ノ爲必要アルトキハ行政官廳ハ大使ノ定ムル所ニ依リ換地確定地及相當ノ期限ヲ指定シ

テ整理區域内ニ於ケル建築物其ノ他ノ工作物ノ所有者ニ對シ其ノ移轉ヲ命ジ又ハ其ノ占有者ニ對シ立退ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ因リ通常生ズベキ損害ハ大使ノ定ムル所ニ依リ州計畫事業執行者之ヲ補償スベシ

第三十七條 整理施行地ニ付漁業權存スル場合ニ於テハ整理施行者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ漁業權者ニ對シ整理施行ニ因リ通常生ズベキ損害ヲ補償スベシ

整理施行者ハ前項ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲シタル後ニ非ザレバ工事ニ著手スルコトヲ得ズ但シ其ノ損害ノ補償ヲ受クル權利者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ第五十條ノ規定若ハ大使ノ定ムル所ニ依リ補償金ノ供託ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十八條 整理施行區域内ノ土地又ハ其ノ上ニ存スル工作物ニ付權利ヲ有スル者ハ土地整理ノ爲受ケタル損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ズ但シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十九條 土地整理施行ノ爲道路、廣場、河川、運河、溝渠、堤防、溜池、公園等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ因リ不用ニ歸シタル國有地ハ無償ニ之ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付ス

土地整理施行ニ依リ開設シタル道路、廣場、河川、運河、溝渠、堤防、溜池、公園等ニシテ民有ニ屬スル土地ハ無償ニ之ヲ國有地ニ編入ス但シ大使ニ於テ特ニ指定スル土地ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十條 換地ハ從前ノ土地ノ地目、地積等位等ヲ標準トシテ之ヲ交付スベシ但シ地目、地積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハザル部分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スベシ

特別ノ事情ニ因リ前項ノ規定ニ依ルコト能ハザルモノノ處分ニ關シテハ大使ノ定ムル所ニ依ル

整理施行者ハ大使又ハ關東州廳長官以外ノ者ナルトキハ前二項ノ規定ニ依ル處分ハ大使ノ認可ヲ受クベシ

大使又ハ關東州廳長官第一項及第二項ノ處分ヲ爲シ又ハ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第四十一條 從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付登記シタル所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アルトキハ之ニ對スル換地ノ交付ハ其ノ權利又ハ處分ノ制限ノ目的タル土地又ハ其ノ部分ヲ指定シテ之ヲ爲スベシ

第四十二條 換地ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外第四十條第四項ノ告示ヲ爲シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ從前ノ土地ト看做ス

前項ノ規定ハ行政上又ハ裁判上ノ處分ニシテ從前ノ土地ニ專屬スルモノニ影響ヲ及ボサズ

第四十三條 賃借地ニ付土地整理施行ニ因リ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハザルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ賃借人ハ整理施行者ニ對シ解除ニ因リ生ジタル損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ賃借人ニ對シ損害ノ補償ヲ爲シタルトキハ整理施行者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ賃借人ニ對シ求償スルコトヲ得

第四十四條 土地整理施行ニ因リ賃借地ノ利用ヲ妨ゲラルトキハ賃借人ハ借賃ノ相當ノ減額又ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

土地整理施行ニ因リ著シク賃借地ノ利用ヲ増シタルトキハ賃借人

ハ借賃ノ相當ノ増額ヲ請求スルコトヲ得  
前項ノ請求アリタル場合ニ於テ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲シ其ノ義務ヲ免レルコトヲ得

第四十五條 土地整理施行ニ因リ地上権、永小作權又ハ地役權ヲ設定シタル目的ヲ達スルコト能ハザルトキハ地上権者、永小作權者又ハ地役權者ハ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第四十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 整理施行地ノ上ニ存スル地役權ハ整理施行ノ後仍従前ノ土地ノ上ニ存ス

土地整理施行ニ因リ地役權者ガ其ノ權利ヲ行使スル利益ヲ受クルコトヲ要セザルニ至リタルトキハ其ノ地役權ハ消滅ス

土地整理施行ニ因リ従前ト同一ノ利益ヲ受クルコト能ハザルニ至リタル地役權者ハ其ノ利益ヲ保存スル範圍内ニ於テ地役權ノ設定ヲ請求スルコトヲ得

第四十七條 第四十四條ノ規定ハ地上権、永小作權又ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第四十八條 第四十三條乃至前條ノ規定ニ依ル賃賃借ノ解除、地上権若ハ永小作權ノ拋棄、地役權ノ拋棄若ハ設定又ハ借賃、地代、小作料若ハ地役ノ對價ノ減額、拂戻若ハ増額ノ請求ハ第四十條第四項ノ告示ノ日ノ翌日ヨリ起算シ三十日ヲ超過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十九條 整理施行地又ハ其ノ上ニ存スル建物ガ登記シタル先取特權質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ第三十五條第二項第三十六條第二項第三十八條又ハ第四十條第一項若ハ第二項ノ規定ニ

依リ拂渡スベキ金銭アルトキハ整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スベシ但シ整理施行地又ハ其ノ上ニ存スル建物ニ付前記ノ權利ヲ有スル者ノ同意タルヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ規定ハ整理施行地又ハ其ノ上ニ存スル建物ガ訴訟ノ目的タル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス  
登記シタル先取特權者、質權者若ハ抵當權者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル金銭ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

前三項ノ規定ハ第三十四條ノ規定ニ依リ拂渡スベキ金銭アル場合ニ之ヲ準用ス

第五十條 整理施行地ニ付存スル漁業權ガ登録シタル先取特權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ第三十七條ノ規定ニ依リ補償金ヲ拂渡スベキトキハ整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スベシ但シ先取特權者又ハ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ整理施行地ニ付存スル漁業權ガ訴訟ノ目的タル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

登記シタル先取特權者若ハ抵當權者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル金銭ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第五十一條 數人共同シテ土地整理ヲ施行スル場合ニ於テ共同施行者ガ其ノ事業ノ爲ニ爲シタル借入金、其ノ利息其ノ他土地整理ノ施行ニ因リテ生ジタル債務ニ付テハ共同施行者連帶シテ其ノ責任ヲ任ズ但シ大使別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
國ハ前項ノ責ニ任ゼズ

第五十二條 土地整理施行ノ認可ヲ申請セントスル者又ハ整理施行

者ハ整理施行地ヲ管轄スル登記所ニ就キ無手数料ニテ土地整理ニ關シ必要ナル簿書圖面ノ閲覧又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得但シ登記所ハ必要アリト認ムルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ請求者ノ資格ニ關スル證明書ヲ提出セシムルコトヲ得  
第五十三條 整理施行區域内ノ土地及其ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ大使ハ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得  
第五十四條 土地整理ノ施行ニ關シ整理施行地ノ所有者其ノ他ノ權利者ニ屬スル權利義務ハ當該權利ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

本章ノ規定又ハ本章ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲シタル處分手續其ノ他ノ行爲ハ整理施行地又ハ其ノ上ニ存スル物件ニ付權利ヲ有スル者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス  
第五十五條 本章ニ定ムルモノヲ除クノ外土地整理ニ關シ必要ナル事項ハ大使之ヲ定ム

附 則  
本令施行ノ期日ハ大使之ヲ定ム

## 工業を基調とする都市計畫の再検討

都市計畫東京地方  
委員會事務官 高 橋 登 一 君

私は工業と都市計畫法令との慣例及び今後の都市計畫に就きまして、工業とどういふ結び方をして行つたらよいかといふ點に付て聊か所懐を述べて見たいと思ひます。

工業の發展と人口問題 我が國の人口は御承知の通り年々百萬人宛の増加を來してをります。この増加人口を處理して我が國運の隆昌を圖り、民族の繁榮を期しますためには、いふまでもなく生産事業の擴充を圖らなければならぬと思ひます。この生産事業の中心をなしますものは、申す

までもなく農業と工業であります。然るに、農業に於きましては、人口の抱擁力は非常に少く、工業のそれは非常に多いのであります。試みに大正九年から昭和五年に至ります十年間の我が國の有業人口の動きを見ますと、農業人口は一〇パーセントの減少を來してをるのであります。これだけに依りまして、我が工業の人口抱擁力は非常に大であることの一端が窺はれるのであります。我が國の工

業は近年重工業を中心として躍進的發展を遂げてゐるの  
ありますが、今次の支那事變の進展に伴ひまして、更に莫  
大なる進展を遂げると思はれますので、この方面から見ま  
すならば、所謂日滿支經濟ブロックの強化に従ひまして、  
今後の工業の發展は益々目覺しいものと考へるの  
であります。

**工業計畫樹立の急務** ところが工業の配置統制に付きま  
しては、今回の軍需に關するものは別として、國家に於て  
何等の統制指導が行はれてゐないと思ひます。つまり自由  
放任の結果は工業立地上最も有利な場所でありまゝとこ  
ろの大都市及びその周圍に集つてゐるのであります。

今昭和十一年の商工省統計に依つて見ますならば、所謂  
七道府縣に集つてゐる工場は、全國の五四パーセントにな  
つてをります。又工業生産額は全國の六五パーセントを占  
めてをるといふ狀況であります。斯の如く大都市に工業が  
集つてをる結果、先程も内務省の松村局長から御報告があ  
りました通り、國家としては富を大都市に集中せしめて地  
方の疲弊は餘り救はれないと同時に、過大都市を生むとこ  
ろの弊害ともなり又防空上の重大な問題となりつつあるの

であります。

そこで商工省に於ては先年來商工省の内部及び七道府縣  
を除きます各道府縣に地方工業化委員會を設けて、工業地  
方分散に乘出してをられます。又農林省は農村の工業化に  
付きまして、昭和十年度以來農村の工業に盡します専門  
技術者の設置、或は共同施設、或は生産品の販賣斡旋とい  
ふ方面に奨勵金を交付してをられると聞いてをります。又  
内務省に於かれましては、先程お話になりましたやうに、  
工業の地方分散といふやうな方面にも地方計畫を考慮中  
あるといふことを聞いてをります。これら關係方面の動き  
を見ますならば、工業に對するところの國家の指導統制は  
工業の地方分散といふ計畫を採りまして、漸くその實行の  
第一段階に這入つてをるのでないかと考へられます。又工  
業の地方分散は、都市の場合に於きましては、又農村の場  
合に於きましては、兩方面から要求せられてをるといふこ  
とが窺はれます。

併しながら、私共は各省が各々違つた立場から必要の工  
業計畫を立てになつて進まれることは如何であらうか。  
各省一團としての計畫を中央に於てお示し下さることが必

要ではないかと考へるのであります。さうして先づ統一あ  
る國家の工業計畫が出来て、工業に關するところの大方針  
地方に對する配置の指導統制といふことが出来まゝするな  
らば、非常に結構でないかと考へます。又工業自體から考へ  
ましても、生産品のダンピングを起すことなく、又減産協  
定などに依りまして辛うじて採算を保つといふことから解  
放されるのでないかといふことも考へてをる次第でありま  
す。斯ういふやうな大方針に基きまして、各地方の都市計  
畫なり、地方計畫を進めることが必要でないかと考へてを  
る次第であります。

**都市計畫の再檢討** そこで過去十數年に亘ります都市計  
畫の經過を振り返つて見ますならば、從來の都市計畫に於  
きましては、多くは漫然と膨脹發展の情勢を以て、將來の  
膨脹發展を豫測することが多いのでないか、或は自分の都  
市がどれだけの人口を持ち、どれだけの發展を遂げるであ  
らうかといふことは、餘り注意が屆かないで、道路網がよ  
く調査せずして決定されることが多くなかつたか、即ち、  
都市發展の原動力であるところの工業の將來の見透しが如  
何であつたらうかといふことを反省して見るが必要で

あらうと思ひます。殊に工業と一番關係のある工業地域に  
於きましてさへも、その廣さなどは十分その都市に立脚し  
て定めてない。それがために工業の發展が先に進んで、そ  
れに付て地域を變更したり、或は却つて地域制を避けて工  
場が逃出すといふことがありはしないかと考へます。從來  
の計畫は何故に工業に關心が深くなかつたかを考へますな  
らば、第一に先程申しました通り、我が國家に工業經營に  
關する統制指導がなかつたといふことが問題であります。  
そのために將來どういふ工業を以て進むべきかといふこと  
が豫想がつかない。次には從來都市計畫に携つてをる我々  
の問題でありますが、これは土木とか、建築とか、公園と  
か、或は法律事務といふやうな方面に關する人が大部分で  
ありまして、工業經營方面に關するスタッフを缺いてをる  
といふ點に、幾分反省すべき點があるのでないかと考へま  
す。

そこで今後は今申上げましたやうな都市計畫を立てます  
と同時に、都市計畫の關係者の中にさういふスタッフを入  
れて、都市計畫を進めることが必要でないか。殊に今具體  
化してをる地方計畫乃至國土計畫は、この點が中心になつ



て行くべきで、唯漫然と地方計畫とか、國土計畫とかで行けば、計畫だけは立派に行きますけれども、果してその内容が如何になりませうかといふことを考へるのであります。

然らば私の申上げました工業計畫はどういふ内容であるかといふことになりますと、我々素人ではその十分なる判斷に苦しむ譯でありますが、第一には日滿經濟ブロック内に於ける工業の指導方針、我が國に發展させなければならぬ工業種類生産數量、販賣方面、或は資源關係、かういふ方面にそれに對する國家としての根本方針を確立しなければならぬのであります。

第二にこれに基く工業立地の問題竝に地方分散を考慮しまして各地方に工業の配置計畫を定めて貰ひたいといふのであります。この工業立地の關係から参りまするならば、

こゝに關東地方に於ける所の現在の工業都市の分散を擧げて見ましたが、これはどういふ工業を一番有つてをるかといふことに中心を置きましてこゝに擧げたのであります。

(圖省略)立地關係から一寸眺めて見ますと、黄色の部分は群馬縣の北、八王子、平塚附近に集つてをるのであります。がこれは多くはこの邊の實情を見ますと養蠶が盛で桑園が

非常に廣い面積を占めてをるといふことに出發してをる。或は水の關係もあると思ひます。それから東京附近に紫色に擧げてあるのは重工業、機械工業でありまして、東京を中心と致しまして澤山の勞働力が得られ、熟練工は澤山供給出来る、或は大消費地に近い、電力が安い、又交通上非常に便利であるといふことに基因してをるのではないかと思ひます。又緑色の部分が、千葉縣方面にあるのは農業牧畜が多いのであります。この方面にミルク商品の産額が非常に多い。又茨城縣、栃木縣の工業、或は茨城縣の中央部に御影石、或は紡績の産地を有つてをるのであります。が、これらは大體縣廳の所在地に發展してをるのであります。大體色々綜合してこの立地に關する問題を解決したいと考へます。

又地方への分散から言へば、成るべく地方中小都市及びその附近を選べば現在の都市的施設を利用することが出来るし、その他立地の條件を考へますれば……こゝも殆ど中小都市を占めてをるが、これを利用して然るべきではないかと考へるのであります。かういふ中小都市を考へれば、それを圍つてをる農村の振興にも大いに役立つのではない

かと考へる次第であります。一方大都市及びその周圍に工業が集中致しまする爲に大都市の過大化を來し、共に弊害を生ずるといふやうなことがありますならば、さういつた場合に於きましてはそこに一定規模以上の工場を制限するといふやうな或程度の統制を加へる必要があらうかと考へるのであります。

擬てこの工業計畫の實現に付きまして一寸考へました點を二三申上げて見たいと思ひます。工業立地の第一は先程總督府の榛葉さんからもお話がありました通り、土地收用權を認めることが第一の問題ぢやないかと思ひます。併しながら大土地を收用するには、時價に依つて收用するのであります。その時價が上つてをるといふことであるならば結局何にもならないから、私はこれを抑へる、詰り工業適地の土地の暴騰を抑へることが必要ぢやないかと考へるのであります。フランス、ドイツに於きましても大體それと同じやうなことを實施致してをるやうであります。が、土地の暴騰を抑へることは非常に必要な問題ぢやないかと思ひます。昨日も釜山で一寸話を聞きましたが、釜山あたりでも、例へば或る工場を誘致する時には坪三圓位で買へた

所がその後に来る工業は地主が十二三圓に上げた爲に一つも來なくなつて、今五圓位に下つたといふことであります。京城もさうであらうかと思ひますが、土地の暴騰を抑へることが重要なことであると思ひます。これが決りますれば交通施設、或は水利施設、治水施設、或は學校施設、醫療施設を集中させてこの助成を圖ることが必要であります。又電力の供給も非常に豊富にして且つ安くする、勞働力も潤澤にして安い勞働力を供給することが出来るやうにする或は製品の注文及び販賣の斡旋といふやうなことも考へまして、こゝに工業の助成方針を確立することが必要ぢやないかと思ひます。

以上私は都市計畫の基本問題として國家の統制の下に工業の根本方針及び工業の配置計畫を確立し、これに基準を置きまして我が都市計畫を進める必要があるんぢやないかといふことを申上げた次第であります。更に都市計畫が國策の線に乗つて大發展するものかういふ方面からではないかと痛切に感じてをる次第であります。併しながらこの計畫を決定致しまして國運の隆盛を圖ります上にはどうしても現在の都市計畫及び市街地計畫では萬全を期するこ

とが出来ないと思ひますので、速かに地方計畫乃至國土計畫法の立法により、これが解決せられまして益々我が國の

發展と都市の發展とを企畫致されんことを切望する次第であります。

## 大道路建設の可否

咸興府會議員 大川市 二君

今日の都市計畫に就て大道路を建設することがよくあるやうであります。私のをります咸興府でも只今都市計畫の執行中でありますが、大道路は三十五メートルといふことになつてをり、既に一二線それがありますが、今日の都市計畫の殆ど基本となるものは東京や大阪でのさういふものを標準にしてをるやうであります。所がこの朝鮮は事情が異つてをる。それが爲に都市計畫でなくとも相當道路の廣い所は今日非常に困つてをるやうな状態もあります。さういふ状態でありますからそれを標準に取るのは有難くもないが、朝鮮といふ特殊事情を考慮しないで道ばかり廣く取つても人間の増率も加速度の増率はなと思ひます。それに付ては成程二十年先とか何とかいふこともありますが、

さういふことの爲にその附近に住つてをる者が泣かなければならないやうな状態もだん／＼あるやうであります。殊に今日は戰時統制の關係からガソリンは使用出来ませんが……この大道路は電車路と自動車路と區別されてありますが、或は戰爭でも終熄致しましたならば或は電車の方は殆ど運用しないでバスでやるではないか、今日東京では電車よりバスの運行がよいといふ論も聞いたことがあります。さうすれば尙更さういふ大道路にする必要はないのであります。

そこで、その都市計畫の委員となるべき人は先づどういふ人であるかと言ひますと、殆ど地方民、と言ひますと府會議員、商工會議所の議員で、あとの殆ど大部分は官吏が

主を占めてをる。所がその地方に始終をる人のほかはその任務を果したら辭令一本で何處に行くか分らん、さういふ人がやるのでありますから將來のことなどは考へずにやります。一方府會議員なり商工會議所の議員なりは永久にその地にをるから將來のことまで考慮してやるが、奈何せんさういふことになつて何と言ふてよいか知りませんが、終ひにその爲に困るやうになることがあります。それでそれに付ては今後さういふことのないやうに、地方の實情に應じて大道路の建設に付ては餘程各自もこれに注意して、無

用の經費を使はんやうに、又咸興の都市計畫に付ては道路の費用は坪一圓にしか付いてゐないが、それでは人が歩けるかどうかと思ひます。それは總督府からでも補助して呉れようといふことがある。併し果して補助して呉れるや否や、又拵へたにしても千載に悔を貽すやうなことになるはしないかと思ひます。故に大道路の建設に付ては餘程考慮すべきものであると思ひますから皆さんの御注意を喚起した次第であります。

## 朝鮮の都市に就て

京城帝國大學教授 鈴木武雄君

私、都市計畫の方は専門的に勉強を致してをりませんのでございますが、唯最近躍進を遂げてをります朝鮮の産業に付きまして聊か研究もし、又その發展に付ていろ／＼考へてをります者の一人と致しまして、その産業の據點としての朝鮮の都市といふものに付て、都市計畫といふものを

もう少し根本に付て批判と申しますとおこがましくございますが、考へ直して見たい、再檢討をお願いしたい、斯う思つてゐるものでございます。

都市計畫は最近その理論の方面に於ても行詰つて來たといふことが言はれてをります。さうしてそれが御承知のや

うに地方計畫にまで發展して、更に最近は國土計畫の必要が痛感せられてをるやうであります。私は朝鮮に住みます者の一人として更にこれがブロック計畫(Block Planning)にまで昇められなければならないものでないかと考へてをります。朝鮮の都市計畫は先程總督府の樺葉土木課長からお話がいきましたやうに、極めてまだ歴史の新しいものであります。さうして法制的に見ましても、内地のそれと違ひますことは、既成の市街地の整備よりも、市街地の擴大、或は市街地の創設といふやうなところに、その重點が置かれてゐるのであります。これは朝鮮半島そのものの産業的な地位、産業的な歴史といふものから當然さういふ特異性が附與されて來たのであらうと考へるのであります。

御承知のやうに朝鮮の産業は、滿洲事變が起ります頃までは、原始産業一本槍でありまして、殆ど米を中心とする農業をその根據としてをつたのであります。従ひまして朝鮮は公式的の文字通りの内地の……母國の植民地といふ地位にあつたのであります。即ち、内地の工業に對して原料を供給する、さうして内地の工業製品の販賣市場としての役割を有つ、さういふ經濟的關係の上に、内地の資本が主とし

て土地投資、農業投資の形で流入する、最も公式的な植民地形式にあつたのであります。従つて廣く見ました場合には、恰も都市に對する農村の如き地位に朝鮮はあつたのであります。でありますから、朝鮮に於て都市計畫は眞剣に考慮されない。又さういふ方面が發達しないのも當然の譯であつたのであります。

ところが昭和六年の滿洲事變を轉機として、更に詳しく申しますならば、時間がありませんから申しませんが、昭和四年の赴戦江の水力電氣の完成、それを原料とする窒素肥料、化學肥料の勃興轉機として、朝鮮の産業はここに急激に工業方面に轉換することになりまして、鑛工業の發展は素晴らしい勢ひになりまして、今日では農工併進になつて參りました。さうして支那事變が勃發致しますと共に朝鮮は産業的地位を以ちまして、大陸兵站基地としての役割を十分に發揮するようになつて來たのであります。さうして大陸兵站基地として朝鮮の地位が、今日の日滿ブロック經濟、或は更に擴大した日滿支ブロック經濟の下に於て最も強化させなければならない重要な地位であるといふことが、内外に認識されたのであります。そこで斯ういふ新

しい朝鮮の地域、殊に日滿支ブロック經濟といふやうな、大きな東亞といふやうな立場から見ました朝鮮、この朝鮮の都市に於て我々はもつと大きな計畫の下に、いろ／＼な施設が講ぜられなければならないのではないかとといふことが考へられるのであります。さうして今最も日本に於て痛感されてをりますところの生産力擴充が、遺憾なく合理的に遂行されることを期する必要があると考へるのであります。

朝鮮に於ける新興都市の勃興を形成するいろ／＼の特殊條件を考へて見ますと、その一つは水力電氣資源に次いで勃興しつつある咸興及び興南を中心とする一帯、これは赴戦江、長津江水電を中心として勃興した都市と考へてよいのであります。又圖們江を中心として端川、城津、吉州方面の新しい工業都市としての産業都市が勃興しつつあると思ふのであります。又寧越の炭田を中心として、その火力發電を原動力として、この方面にも亦現在には貧弱であります、斯ういふ一つの都市が發展する可能性が大いにあると思はれるのであります。又今一つは日滿支ブロック經濟といふものが發展して來るのに應じまして、朝鮮に於て

又都市の發展が促進されて來たのであります。京仁一帯北支に關する商品の輸出港としての仁川、さうして仁川に對する物資の供給地としての京城、この京仁一帯は日滿支ブロックの發展に應じて、更に益々發展する可能性があると考へるのであります。

今一つは御承知の北鮮三港であります羅津は全く日滿ブロックの結成に依つて、何にもないところに創設せられた港灣と見て差支へないのであります。この羅津を中心として北鮮三港が更に發展する可能性があると考へられるのであります。

さういふやうに、朝鮮に於ける新興都市の勃興を形成する特殊條件を考へて見ますと、日滿支ブロックの現狀が非常に重要な役割を演ずると思ふのであります。さつき申しました水力電氣資源の關係と申しまして、例へば鴨綠江電氣資源の發電、この結果新義州、鴨綠江、平北、あの邊一帯に更に現在の新義州とか、安東は大きなものになることが豫想せられるのであります。さういふことから致しまして、朝鮮の都市の將來を考へる上に於て、日滿支ブロック經濟の上に於て、朝鮮が如何なる地位にあるか、又産業

立地的に見て朝鮮に如何なる産業を起すべきか、非常な關係を有つて來ると思ふのであります。都市が工業の資源地であると共に、又農村がその原料を配給する基地であるのであります。日滿支ブロック經濟の中に於ける朝鮮の地位を日本的といふよりも、寧ろ全ブロック的な見地から合理的に考へて、計畫を立てて行く必要があるのではないかとさういふやうな意味に於きまして、ブロック計畫といふことが、我々朝鮮に住む者としては、痛切に感ぜられると思ふのであります。時間も餘りありませんので非常に急いで分り難かつたと思ふのでありますが、さういふ一つの問題を提供することに止めてこのお話を終りたいと思ひます。

赤松繁夫君 現在の半島に於ける都市に付きまして研究御發表がありました、南鮮方面に於きましては、人口稠

密、狹隘なる所に於きまして、黃海湖水化、支那に對する工業都市の建設、それが社會の貧困者を救ふところの南鮮方面の重大なる問題になるのでございますが、その問題にお觸れにならなかつた點は少し缺けてをりましてお急ぎでありますから、さうであると思ひますが、も一度御考慮をお願いしたいと思ふのであります。

鈴木武雄君 私、非常に急ぎまして……釜山、南鮮、木浦その他のことをお話するつもりでをつたのであります非常に急ぎましてそれを落してしまひました。誠に申譯ありません。

河村國助君 今、鈴木教授のお話に、鴨綠江水電のことをお話になりましたが、鎮南浦のことをお落しになりましたのは遺憾であります。

## 國土計畫制度を要求する根本問題

愛知縣都市計畫課長 眞坂忠藏君

最近我々の間で相當根強く主張を致されてをります國

土計畫に關しましては、先に文書を以て御報告申上げて置

きました、私の該報告は充分其意を盡して居らぬのを甚だ遺憾に思ふて居ります。私がこの問題を取上げて御報告申しました根本の理由は、今日の我が國に於きます都市計畫の制度、都市計畫の實際、農、山、漁村に於ける計畫指導の現状等を概観しまして、今日の人類が其經濟生活乃至精神生活に於て、明日のよりよき發展を希ひ、之を理想として現實化することに進みつつあるのでありますが、頗る疑問とせられるのであります。私は人類の都市生活と云ひ、農、山、漁村の生活と云ひ、精神、物質の兩方面に於て調和を得たものでなければならぬと思ふて居ります。従つて、都市或は農、山、漁村の發展を希ふ所の計畫指導の根本精神を其處に求め、都市計畫には之と關聯ある農、山、漁村の融合計畫の工作を要し、又都市と農、山、漁村とは夫々經濟生活、文化生活に於て均霑なる生成を希求せられなければならぬのであります。それが爲には都市と農、山、漁村とを地域的に打つて一丸として綜合的、具體的指導計畫を確立し、更に國策遂行の地方配分とも併せて考ふるときは、國土計畫の制度化を必至とするものと思ふのであります。

然るに農、山、漁村には綜合的開發指導を缺き、又都市との均霑、融合の發育を圖るべき方法がないと觀られます。獨り都市には綜合的計畫指導を都市計畫法に依つて成し得られる譯であります、今日の我が國の都市計畫制度は御承知の通り都市計畫區域といふ大體現在の市街地と之と一體を爲すと豫想せられる周圍に於ける將來の市街地たるべき區域を想定致し、此の都市計畫區域の中に各種の必要とする施設の綜合的計畫を、具體的に定めましてこれを實行致すのであります。此の都市計畫の指導方針を將來も尙踏襲すると致しますれば、只でさへ人と建物の集團である都市は愈々其密集に悩み、今日の都市特有の病弊は増々深まり行くことであるにせう。これは私が申さんでも各位に於ては先刻御承知のことでありまして、現在の都市、特に大都市の中には年と共にこの密集地域、不衛生地區、保安上の危險區域と云ふものが醸成されつゝあるのであります。私の居ります名古屋に付て見ましても、昭和十年國勢調査の結果に依りますと一人當り利用面積が三坪に充たぬ地區があります。五坪或は十坪未滿の地區は到る處に散在する現況であります。これでは都市計畫制度が折角住よい都

市、便利なる都市氣持のよい都市を建設する爲に在る筈でありますのに、却つて蟻隊に等しい人間の密住生活體を造る結果と相成るのであります。この現象は獨り名古屋市に限らず、東京、大阪等の大都市に於きましても同様の現状にあるのであります。斯くして私共が十數年來精進して來つた都市計畫は、都市なる人間の密住體をいやが上にも發育せしむることに、専心努力を拂つて來た以外に、物質的には別として、文化的には失ふ所はあるとしても、得る所は殆んど無かつたではないかと思はれるのであります。この様に都市の膨脹に拍車を加へつゝある反面には、都市以外の地方、即ち農、山、漁村に於ては資本、原料等の産業資源であるとか或は勞働力であるとかは、どん／＼都市に吸収され、都市の異常膨脹に反して經濟的にも亦文化的にも農、山、漁村は年と共に衰微の一途を辿るばかりであります。こゝに於て現行の都市計畫制度のみならず、國土啓發に關する制度の再検討をする必要があると思ふ次第であります。

竊つて我々人類の文化生活に於ける心理の動きを見まするに二つの方面があるのであります。都市計畫なり、或

は地方計畫なりの根本觀念をこの生活心理の上に置かなければなりません。

一つの動きは動的方面でありまして、日常の物質生活に於きまして出来るだけ便利であり、出来るだけ日常の物資に不足をしない便利な生活を遂げて行きたいと云ふ心理でありまして、そこに我々の集團生活があり、都市生活の型式が生成するのであります。

他の一つの動きは靜的、精神的方面でありまして非常に繁劇な活動の次に極く素直な、靜かな内省の世界を求めつゝあるのであります。此の欲求心理は人間の通有性で、都市生活の中に於ても物質文明建設の爲に全ゆる人工施設を欲求しつゝ他面には樹蔽の地、景勝の山水に接し閑佳なる境地を欲する。又都市的職能に従事しつゝ日曜、祭日の休暇を利用して田園の作業に親しむ希望を懸ける譯であります。其の生理生活に於ても日常の活動を續けた後には夜間の靜かなる休養を必要とし、大なる活動に由る疲勞を醫するには充分なる休養を攝らなければ次の大なる活動をそこに見出すことが出来ないであります。之を要するに我々の生活は常に動と靜、靜と動との兩面を有ち、之を反覆し

て人生の行路を進んで居るのであります。而かも動と靜とは調和が採れなければならぬ、つまり人類の生活は動靜一致の鐵則上に在るのであります。現代の都市計畫なり、或は地方計畫なりの指導精神の置き所も自ら釋然とする譯であります。そこで都市の中に於て動、靜兩面の施設を有する如く、都市と農、山、漁村とは密接な關係を有ち決して遊離してはならないのであります。それは都市と農、山、漁村とは現在の狀態に於て連繫せしめる必要があると云ふばかりでなく、今日の都市に靜的方面の施設を需要するやうに農、山、漁村に動的、物質的施設を充促することを基調とする指導精神を採らねばならぬのであります。之れを工場建設の實情に採りますと從來の凡ゆる生産工場は都市に集中せられ、資本、勞働は農、山、漁村より都市へ流入したのであります。最近に至つては工場を都市から地方に分散せしめる工作が考へられることになりまして、工場の組織の内容、業態、需給の關係、勞資又は原料の所在に依つては工場を或は大都市に、或は中小都市に、或は農、山、漁村に所在せしむることが適切であり、經濟的であり、利便であり、都市と農、山、漁村との機會均等を得しめるこ

とになるのであります。眞に國土開發の爲めに結構なことであります。而して農、山、漁村に於ける生産の擴充を圖り、勞資の充實を確保する爲めには之に必要な文化的指導機關の適當なる配在を望まねばなりません。農、山、漁村の天然資源は氣候、風土に恵まれた、我國としては實に豊富であります。川海に於ける魚介類、山野に於ける樹草等の加工、精製等に依る利用の未だ充分ならざるものがあります。之等の研究改善を指導する爲め各種の試験場、研究所等の充實、普及を圖り農、山、漁村の資源開發、經濟生活の向上の指導機關とせねばなりません。最近新聞の報導する處に依りますと從來不利用物とせられて居りました團栗は年産額五千萬噸に上るさうですが、埼玉縣の林業試験場では團栗の中に含まれてゐるタンニン、澱粉、其の他の有効成分を抽出する試験に成功し、工場を設置して之が生産に乗出すと云ふことであります。此種の農、山、漁村の天産資源の中に精製加工或は利用の未だ充分ならざるもの、需要の途の發見せられざるものが非常に多いのであらうと思はれるのであります。東北地方の荒救食物の利用は東北振興策の重大なる役割をなすと思ふものでありま

すが、之を東京の北里研究所で一部の研究をせられるのみでありまして、國家の振興策として東北各地の適當の地方に試験場とか、研究所とかを設置して荒救食物の利用の指導と生産の擴充を計るべきであります。又毒藥植物の利用の如きも東北地方の經濟生活と醫療との調和を得る點に於て大いに研究せらるべきものであると考へます。之を要するに都市の生産は文化の階梯に超越して過飽和の惱みを招來し、又農、山、漁村の經濟は文明の後塵を追ふて、勞資

の貧困に苦しむ現状でありましては、何ぞよりよき生活、よりよき文化の建設を望む人類の期待に背く現實に悲哀を感じざるを得ん哉であります。須らく國土の利用と啓發とは都市と云はず農、山、漁村と云はず、最良なる適地利用と、そして連繫あり均衡ある經濟的、文化的建設にあると思ひ、又之が計畫の樹立と實行とは適當なる制度の設定さへ得るならば必ずしも至難でないと思ひまして、本問題を取上げた次第であります。

## 都市計畫と地方計畫の諸傾向に就て

——頭で歩くな、足で歩け!!——

都市計畫三重地方  
委員 會 技 師

兼 岩 傳 一 君

國土計畫を論ぜられた後を引繼いてなるべく短かくせよといふ御要求もありますけれども、私、矢張十五分程頂戴しようと思ひますが、私の問題は都市計畫と地方計畫の相關々係、もう一つその傾向、いろ／＼な理由のあるところ

をお耳に入れたいと思ひますが、尙ほハッキリ私の申上げたいことは、頭で歩くな、足で歩けといふのが私の結論であります。つまり今回の第六回の報告を諸々拜見致しまして、例へば研究員の幸島禮吉氏の如きは「我が國に都市

計畫法布かれて二十年、既に都市計畫は行詰つたかに思はれる」と書いてをられます。又東京の石川氏は都市計畫を捉へられて「それは刻一刻いはゆる影の薄らぐ感に思はれてゐたのである」と言はれてをります。又坂本氏は「都市計畫が現在の儘であるならばそれは無用の長物に非ざれば難境上の人形である」といふやうに申してをられます。實際私共これに従事致してをりまして、それを考へてをります者にとつては、一部横行致してをります在來の悪いところだけを捉へるならば、それは明に理論的には畸形兒であり、又實行的には不具者であるといふことを私共認めるに吝かでないであります。

然らばそれはどういふ點か、どうしてさういふ點が出来たかは、地方計畫と都市計畫の兩方を見たいのでありますが、第一期の翻譯の產物として今でも可なり根強く残つてをりますが、空想計畫主義、パラダイス主義、或はユートピア主義、口に巧いことをいつて、大風呂敷を擧げて、恰も都市計畫一たび來りなば樂園來るやうなことを考へるのであります。今日尙ほさういふことを考へてをる人はどうしても誇大妄想病乃至空想病として大學病院にでも入院さ

せなければならぬだらう。咸興の大川氏は道路が廣過ぎると論じましたが、私は道路の如き問題でない、誇大妄想といつても、道路の廣いことを論じてをるのでないことをお断はり申上げます。それから第二期は計畫至上主義、アイディアリズム、これは内地の都市計畫でも計畫至上主義が薄らいでをると思ひますが、それは都市計畫法の第一條に「永遠ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進スルタメ」といふ大風呂敷があつて、實行は考へない、唯計畫さへ拵へればよい、實行を忘れた計畫主義でありまして、これは翻譯主義より一步前進はしましたが、その儘で行けば明に效果は薄らぎませうし、或は坂本氏の言はれるやうに難人形にもなるでござらうが、私の現在より將來にかけて力強くさういふものを否定して進まうとするのはリアリズム、現實主義であります。その主張を簡単に申上げると、第一は計畫は實行されるものでなければいけない。第二の主張は尙くも計畫を立てるならば、水道は水道、道路は道路、港灣は港灣、産業は産業、經濟は經濟といつたやうに、専門家の綜合技術が立たなければならぬといつたこと、であります。第三は計畫は悠々百年の計畫をやつてゐてはいけ

ない。緊急なる問題に應へなければならぬ。軍需工場が起つたらそれに應へる。防空の問題が起つたらそれに應へる。要するに現實緊急の問題に應へなければいけない。第四の主張は、凡そその計畫を實行するには、必ず區劃整理を行ふ。つまり道路至上主義ではない。公園だ、住宅だといふ個々の問題を一舉に片付ける區劃整理を必ずやらう、この四つにあります。

これをなほ簡単に要約致しますならば、都市計畫といふやうな言葉に我々は惑はされる必要はないのでありまして、神秘的なものと考へる必要はないのでありまして、その「都市計畫」の間に二字挿入致しまして「都市改良計畫」といふ風に考へれば、最も都市計畫の本體に副ふのではない。尚ほもう少し字を入れて、その都市の全體的な改良計畫だといふ風に考へれば、これは一番明瞭な、都市計畫が何を任務としてをるかを窺ひ見ることが出来るといふことを主張したのであります。

然らばその程度で満足するかといふと、地方計畫をその程度に論じまして一轉したいと思ふのでありますが、地方計畫に於きましても現在盛にユートピア的のものが出来ま

して、永遠にその都市は緑の田園を以て包まれなければならないとか、既に英吉利では試験済の問題でありまして、巧く成功していないところを捉へてこれを今更ら日本に持つて来て適用しようといふやうな、翻譯ユートピア説に近いものが横行してをります。

第二の計畫と致しましては、國土計畫といふことを主張する一派でありまして、計畫至上主義のやうであります。農村計畫まで含めて自分でやらう、それは行はなければならぬといふ主張と解釋したほうが宜しいが、國土全體にまで進まう、併し、それは現代資本主義の下に於て可能か不可能か疑問を有つので、矢張現實の急務を遂ひつつ、それを出来るだけ追駈けつつ、補充し、改善して、次の計畫を進めるといふことにありますが、さういつた計畫に賛同し得ないので、私は矢張り現實主義の地方計畫であります。それは都市と都市との連絡、計畫、改良、實行、二つの都市を類似的に連ねるならば連ねるで宜しい。要するに都市と都市との事業、大局的にいへば都市と都市との連絡改良計畫國道、軌道の問題、さういつたものを場當りにやらないで、専門技術を綜合してやるといふことで十分でな

いかと考へてをるのであります。

それが餘りに小さいと仰しやる方に二つ三つ質問致しますが、滿洲事變は誰が豫期し得たか、或は北支事變が起ることを三、四年前に誰が見抜き得たか、或は都市問題も、諸般の問題をよくも考へないでユートピアを擴げて、一體それがどうして實行出来るか、さういつたやうな反問を投げる程度に致しまして、尚ほ先程東京の高橋氏の工場立地の問題、それは先程佐野先生からさういふ風に工場を考へることは容易でないと言はれましたが、尚ほ重工業、輕工業と言はれるのが幾百、幾千のものがありまして、そんなものを一つ／＼斷定は出来ないで、それはどうするかといふお尋ねをして、最後に私は現行制度の諸施設を箇條書に申上げて話を終りたいと思ひます。

それは内地の現行制度の問題でありまして、朝鮮、滿洲、關東州、その他では既に一部分、或は大部分解決されてをるかと思ひますが、内地の現行制度の諸缺陷を五つ考へることが出来る。第一は計畫の實行から遊離して委員會制度があつて、委員會は調査計畫さへすれば、後のことは全然權利も義務もない。さういつた計畫至上主義の、實行から

遊離した政策が果して可能なりや否や、それから財源の問題が考へられてゐない。第三、計畫が総合的でない。同じ都市計畫でありながら、公園と土木が脱み合つてをるといふやうな小さい問題から、府縣廳各課の問題、官僚繩張主義、さういつたもの、第四は區劃整理の重要性が把握されてをらない。地主に委しておけばよい。實は自分がやるのが厭やで逃げてをるのでありますが、營利主義といつてをるが實を盡さない。第五は機構の問題であります。内地の上から下まで、内務省から始つて市役所まで一貫して、聊か實力主義から離れて遊離主義になつてをる。文官分限令が今日死物に化してをるに拘らず法科萬能主義が横行してをる現状である。眞に日本の都市計畫の影が薄くなつたといふ人は、影が薄くなつて宜しいが、我々は本格的に都市計畫を進めようとしてをるので、さういつた第三の實行の段階に於て、眞に國家の都市計畫行政を遂行し得るや否や甚だ疑問だと考へてをりますが、以上を以て私の報告を終ります。

## 地域制の分化に就て

朝鮮總督府技師 鳥井 捨藏 君

本年の三月に市街地建築物法が改正致されました、その結果用途地域制に於きまして住居専用地区、工業専用地区の二つの地域が採用されることになったのであります。又容積の統制に於きましては高度地区及び空地地区の二つの地区が採用されまして、従来市街地の統制上色々問題がありました、大きな問題の解決の上に非常に役立つことに至りましたことは、我々の洵に慶賀に堪へない次第であります。私はこゝに「地域制の分化」と題しましてこれらの問題に稍々觸れますと共に、更に商業専用地区制の問題と、それから用途地域と容積地域と、更に分類して見たいといふ考を有ち、これらに付て卑見を申述べたいと存するのであります。

先づ住居専用地区の問題であります、これは近く内務省令を以て公布されることゝ存するのであります。その内

容に立到りましてはこゝで論ずるまでもないのであります、住居地域と致しましては従来最も地域の統制が嚴重であり、又その効果の最も上つてをつた地域でありますからして、これに適ふべき住居専用地区としては、特に高度の純粋性を要求したいと思ふのであります。例へて見ますならば、特殊の住宅でありますとか……特殊の住宅と申しますと店舗兼用の住宅或は商店、旅館、共同住宅、下宿屋、寄宿舎であるとか、かういつたものを排除致しますと同時に、一番排撃する。尙ほ慾を申しますならば學校の如きも、中間に於きまして相當住宅地域の安寧を害する虞れがありますからして、これの如きも特に許可として特殊の吟味を用ひることが肝要と思ふのであります。併しながら都市計畫の目的は、かういつた特殊の階級のみを亡ぼすといふことを致してはならないのであります、大衆の福利増

進といふことを考へると更に一段とその統制を落しました所の専用地区を用ひる必要があるのではないかと考へるのであります。その専用地区に於きましては或る程度の店舗兼住宅、これは住居地域に於きまして日常生活を営む上に相當必要なものがあるのであります。これらは或る程度の希望に於て認める、又先程の共同住宅、下宿屋、寄宿舎、無論醫院、學校といったやうなものはこれを認めるやうにしなければならんと考へるのであります。特別地区と致しましては前者のやうな特に制限の嚴重なものを甲種住居専用地区とし、後者を乙種住居専用地区と致します事は生かして使ふ上に結構ではないかと考へた次第であります。

住居専用地区の制限に付きましてはこの位に致しまして次に商業地域の制度に付て述べたいと思ひます。現行の市街地建築物法に於きまして商業地域と住居地域との制限の差を先づ第一に申上げて見ますならば、工場に付ては或る程度の規模の取締の制限に差がある譯であります。即ち商業地域に於きましては常時使用原動馬力十五馬力以下の工場を認めてをりますが、住居地域に於きましては三馬力以下の工場しか認めてをらない。それから又特殊

のやうなものとしまして、自動車の車庫でありまして、これは實面積の合計が五十平方メートルを越す車庫は住居地域にいけないとなつてをります。又第三には劇場、活動寫眞館演藝場、又は觀物場は住居地域にはいけない。第四の待合貨座敷はいけない、第五の倉庫業を営むもの、これも住居地域にはいけないとなつてをります。これだけは住居地域と商業地域との用途制限の差であります。

これを今少しく検討して見ますならば、工場は別と致しまして、實面積の合計が五十平方メートルを超過する自動車の車庫、これを吟味致しますと、今日の自動車營業と申しますものは次第に大資本化をなして行く傾向があるのであります、この結果出張所、或は營業支所或は又最近行はれてをります所の駐車所の整備の如きものを採る傾向が非常に出て參りました。これに依りますと、自動車の車庫の爲に特に一定の地區に對しましてこれを商業地域とするやうなことが餘りなくなつたやうに見受けられるのであります。それから又劇場活動寫眞館、演藝場、觀物場更に待合、貨座敷の例に付て申しますならば、これは警察の風紀取締の結果、既に場所的制限をされてをるもので



あります。それに付きまして特に商業地域をこれに依つて統制するといふやうな意味合ひは今日の制度の上から行きますならば餘り必要を感じないのであります。

最後に倉庫業を営む倉庫であります。これは倉庫の作業の性質上、商業地域では具合が悪い場合があるのであります。一定の場合は未指定地域と稱してをりますが、さういふ地域、或は工業地域に於て行はれることが作業を助長し發展せしめる上に具合が非常にいいやうに思ひます。又内地に於てもさういつたやうにしてをる所が非常に多いやうに見受けられるのであります。これが二つの制度の差であります。住居地域内には一般の商業用建築物は何等禁止されてをらないのであります。又商業地域内に於きましては一般の住居建築物を何等禁止してゐないのであります。これらより考へ併はせますならば現行制度に於て住居地域と商業地域との用途上兩地域を區別して行く差は非常に少いと言へるのであります。

試みに一般の商店街であるとか、盛り場所といふものゝ構成に付て見ますならば、これは報告の中に色々と數字を上げて置いたのであります。殆ど商業地域にしなければ

ば用途上困るといつたやうなものは、その存在を認めないのであります。又その營業狀態を見ましても何れも小賣商店であります。而もその大部分は店舗兼用の住宅で營業してをる狀態であります。唯朝鮮は特殊の事情がありまして皆様が朝鮮人街にお出でになるとよくお見受けになると存するのであります。營業専用の商店が相當澤山にあります。併しながら何れも小賣商店でありまして、規模は非常に小さいものであります。而して非常に廣い幹線道路が都市の中に計畫され、これが實現致しますと、この兩側は從來住居が建つてをりましてもその生活を解消し、而して商業化して行く情勢は日常我々が目撃してをる所でありまして商業建築物、商業適地に對する執着性は非常に大なるものを認めるのであります。故に我々がさういつた幹線道路の兩側は商業地域として發達させたいといふ爲にこれを商業地域に指定するといふことは、現行制度の上から申しますならば先づその要がないと申して差支へないと考へるのであります。殊に商業地域に於きましては、これは容積の問題であります。空地が最も寛大なる取締を致してをります。敷地面積の十分の二の空地があればこれで宜し

いといふことになつてをるのであります。これは今日防空の必要の叫ばれてをる際に甚だ遺憾な數字でありましてこれらを考へましても八割に商業地域を都市計畫區域内に制定することは考へものであると存するのであります。

更に歡樂街、盛場といふものゝ組成を調べて見ますならば、これは大分趣きが異なつてをるのであります。飲食店が相當多いのであります。その他和洋品店、菓子店待合、遊戯場といふ用途が相當出て來るのであります。ここに於て我々が初めて用途上商業地として制限して行く必要が出て參りますのであります。この歡樂街、盛場と申しますと御承知の通り非常に多人數の集る所でありまして、その結果交通、衛生上色々な問題が起つて來ます。又他の部分の安寧を維持するに非常に重大な影響を有つものであります。都市の施設としては極めて重要な施設と考へるのであります。都市計畫法或は市街地計畫令に於きまして、先づ都市計畫の定義として述べてをります所の交通、衛生、保安、經濟に關し公共の安寧を有する重要な計畫といふ文字に概當するのであります。この完成を捨て、置くといふことは我々都市計畫上非常に遺憾であると存す

るのであります。宜しくこれらに寧ろ力を入れらるべきではないかと考へるのであります。

これに稍々似たものに遊廓、待合、貸座敷等の集團地區があるのであります。斯く考へて見ますと、我々が商業地域として保持しなければならんと考へるのは觀樂地帯だけでありまして稍々その必要を認めるといふのに都心部、經濟的中心部、盛場、商店街等が考へられるのであります。私はここに甚だ不徹底なる商業地域制度を改正致しまして、新たに商業専用地區の制度を設けて貰ひたい。そして先程申しました特殊の地區をもう少し強化し、普通住宅、共同住宅、下宿屋、寄宿舎、工場、病院、學校といふものを禁止、排撃することが更に一層必要ではないかと考へるのであります。而して一般の商業地域としましては更にこの統制を容積と用途の二つを分離致しまして、これが指定を餘り澤山やる必要はないと考へてをるのであります。商業専用地區はこの位に致しまして、次に工業専用地區に付て一言申したいと思ふのであります。工業地域といふものは無論工場の發達を我々冀つてをる地域であります。が、工場労働者の住居地域を見ますと、これは特に業務地

に近い所に居住することが非常に顯著でありますけれども適當に住居地域を入れなければならない、先づ一キロ以内に於てこれを入れることが理想ではないかと考へるのであります。それから専用地区に致しまする關係上從來のやうな大雑把な指定は出来ない。特に工業的に限られた所の極く小部分にこれを指定して、その統制をして許可して行く必要を認めるのであります。工業専用地区内に於きましては無論工場の誘致をやらなければならないのでありますが、一番我々の憂ひます所のもの、一番遺憾であると存するのは地價の暴騰であります。これを抑へることは是非共必要でありまして、この點朝鮮に於きましては初めの特別報告にもありましたやうに、一團の工業地の造成といふことを市街地計畫としてやり得るやうになつたのであります。その結果一つに收容出来るのであります、將來これが効果に付ては我々大いに期待してをるのであります。その他土地の購入斡旋、職工の周旋、その他有利なことをその地區に與へることも必要ではないかと存するのであります。この専用地区を採用せられました結果一般の工業地區とそれから未指定地域の區別が非常に少なくなつて來るのであります。

す。そこで私は未指定地の制限を或は指定區域を今少し擴大して用途上統制致し、そしてこれを一般工業地區と合體致しまして混合地區のやうなものを作り、相當廣範圍にこれを指定致しまして、これに依つて地域制に彈性を加へたいと考へる者であります。

次に用途地域より容積地域の分離といふことに付て意見を述べたいと思ひます。専用地區制の採用の結果特殊の容積がこれに要求せられることは論ずるまでもないことでもあります。又商業地域のほうに於て述べました通り現在商業地域として指定されてをり、將來は用途制限より容積の制限が最も寛大であることを狙つて指定されてをるやうに思ふのであります。このことは容積の爲に用途が犠牲にされてをるといふことになる譯であります。又特殊の地區に於きましては商業地區と雖も相當の空地を要求すべき必要も出て來る所もあるのであります、これらに付きましては用途の爲に容積が犠牲にされてをるといつた不合理が出て來るのであります。又今朝程からお話がありましたやうに國民の保健の上から申しまして少しでも空地が多くなけ

ればならぬ。然るに現在の地域制に於きまして空地制限に於て甚だ遺憾なことは、何人もこれが寛なることを狙つてをる所でありまして、これが解決に付ては二つの準備が考へられるのであります。更に防空上の必要を考へました場合には特にこれが必要を痛感するのでありまして、地域制は似たやうな用途のものを集團させるものがその目的であります、これは又一方防空上の甚だ具合の悪い條件を與へるのであります、その解決にも是非その分離を必要とするのであります。私は今日の時局に當りまして、用途地域と容積地域との分離の必要性を、特に強調致したいと

考へるのであります。

最後に専用地區制を採用する、又用途地域と容積地域の分離を必要とするといふことは、これが屢々叫ばれてをつた所でありまして、それらの地域をそれ／＼の用途の建築物の積極的助成、或は積極的助成を致します所の施設がなか／＼實現されてをらない現状であります。これではなか／＼これらの制度を完全にし、その効果を擧げて行くことは出来ないと思ひますから、特にこれが分離を強調致しますと共に、積極的助成に付て我々は努力をしなければならぬといふことを最後に付加へて終りたいと思ひます。

## 都市工業地の發展と専用地區

日本建築協會  
副會長理事 中澤 誠一郎 君

私は大阪市の工業地の中から二つの地帯を選びまして、その大正九年と昭和十二年との間にどういふ變化を來したかといふやうなことをば、搔摘んで申し上げます。これと工業地域内の専用地區制を少しく申上げたいと思ひます。

近代都市の勃興と隆盛は工業の發展を基礎としてをるのであります。大都市の外延的擴がり、或はその景觀の發展など、都市計畫的なものの發展動向は、主として工場の進出、工場の發展を樞軸にしてをるのであります。

而してその主要工業種別の推移及び規模の擴大、或は生産經營兩技術の進歩、或は産業組織の變遷、交通手段の發達と相俟ちまして、立地條件の變化を來してをります。工場の立地は比較的自由にこれを決定し得るに至つたやうであります。斯の如くにして今や各種規模工場の都市外周部への移轉と新築、或は大工場の特種利便地帯への集中殘存或は同種工場の地域的集合といふ風なものが、都市工場の推移發展に於きまして、何時も絶え間なく變化し、進んでをるといふ風に見られるのであります。

これを一定の區域内に付きまして觀察を致しますと、最近に於ける都市工業地の自然的開發過程は大體次のやうに考へるのであります。先づ都市外周の耕作地區が埋立てられて工場の建設が始まる。最初は地價が非常に安いのであります。次に増加しつつある工場間の空地に工場關係者住宅が建ち始める。この場合に地價が稍々騰つて參るのであります。次には居住者に依頼するところの商店の出現がありまして地價が高くなる。次には地價が高くなりまして、工場の新設が停滯し始め、工場の敷地分割、或は他に轉出する傾向が見えるのであります。從つて居住地化、或

は商店街化といふものが起り、次には都市部への合同合併、或は局所的都心の形成に依り、土地のより以上の發展が起る場合と、然らずしてその發展が停止、或は衰退する。而もより以上昂騰する場合と、益々低下する場合とに立至るのであります。現在大阪市に於ける如く、大體都市の軌道の敷設が一應完備して、飽和状態にあると見得るでありませう。道路網の開發も略々均等してをる場合に於きましては、工業地の推移過程は、上の見解に申上げましたやうに、主として地價、地代の變動を通じて行はれるといふ風に考へられます。

そこで大阪市に於きまして二つの場所を取りました。一つの場所は自然發生的な、極めて自由主義的な發展をして參りまして、今日ではこれが衰退の傾向にあるといふところを取上げたのであります。他の一つは完全ではありませんが、現在の法令の下に於きまして、出来る限りの恵まれた條件の下に於て出來ました工業地が、今將に非常に發展の過程にあるといふ所をば選んだのであります。先づ第一の地帯でありますが、この地帯を大正九年の現状で見ますと、これは報告書に詳しく載せて參りましたから、極く結

論だけを申し上げますと、その區域内の東の半分は自然に發生しました工業適地が、自然に放置せられた場合の工場敷地の將來をば現はしてをるのであります。大正九年にさういふ状態になつてをりました。ところがその當時に於きまして、恐らくその西の半分も同じやうな状態に發展するであらうといふことを期待されるのであります。ところがさうではないのであります。尙ほ空地が存在してゐるのでありますから、更に工場が建設せられ、尙ほ一層の工業地として開發せられるやに期待されるのであります。昭和十二年に於ける現状はさうではないのであります。歩行通勤距離内に居住を構へようとする工場關係者、或はそれらに對して住宅を供給して、自己の所有地を有利に經營しようとする地主の利益が一致して、ここに無計畫の貸家、小住宅の建築が先づ行はれ、一方地價、地代の昂騰が伴つて、工場の新設は益々困難になつて、空地は寧ろ住家に依つて蔽はれて、それに伴つて小商店が置かれ、食料品店、雜貨店が出來るといふ状態になつて參りました。斯ういふ状態の結果益々地價の昂騰を促しまして、遂には或る特定の工場を除きましては、周圍に殆ど擴張の餘地がない、或

はそこに工場を誘致することが出來ない状態に立至つたのであります。その結果一面から申しますと、その工場地帯内の一つの生活の豊富を來したのであります。一面近代工業の本當の生産的な能率が全然停滯致しまして、優秀な工業適地としては甚だ芳しくないといふ状態を呈して參つたのであります。即ち、例へば本地帯に於ける如く用水又は運輸の便宜上河川の利用を必要とし、或る程度經營の規模を持ち得るといふ大工場は自己の蒙る非常な不利益を忍んでそれ〴〵の利便地帯に集結し、他の一面に於きまして商店住家の櫛比するもの非常に悪い影響を與へつつ現存するといふ状態に立至つてをるのであります。これが先程申しました第一の區域でありまして、後は大阪府長良の工場の一帯であります。

次に申上げようとするのは第二の地區でありまして、これは現に隆盛な工業地として發展しつつあるところであります。これは大和田、十三の一部でありまして、その過般はまだ耕地であります。それを除きました四七パーセントは既に工場敷地になつてをるのであります。將來尙ほ一層の發展をすることが期待されてをるのであります。この地

帯は矢張水陸交通運輸上至便な所でありまして、而も地代が割合に安い、而も敷地擴張の餘地が非常にあるといふ風なことがいろいろ重り合ひまして、工業地帯の十分な立地要素を備へてゐるのであります。併しながら、そのほかにこの地帯がなせ將來も發展し得る、又今日さういふ風になつて來たかといふことを考へます際に、我々はこの要地が工業立地として發展し出してから、極めて短時日の間に、一舉にしてこれが工業地として發展した、而もその原因には、近年の軍需景氣の好調と都市區劃の完成といふことを見るのであります。實際に區劃整理が出來ましたのは昭和七年であります。これが不完全ながら近代的計畫的統制化の立派な發展を致してをります地區の状況であります。

併しながら、この地區は時の経過と共に同じく住家商店の優勢と、そこにある工場の相對的減少を來すことがないとは限らないのであります。これは先程申しました第一の地區に於きまして、極めてその杞憂が多いのであります。それに對しまして如何なる方法手段があるといふことを我々は考へて見なければならぬと思ふのであります。

斯ういふ現状に對しまして、幸ひ今回工業地域内の特別

専用地區といふものが出來たのであります。この問題解決のために工業所有地區のみが唯一の對象なりと思はないのであります。現在の經濟機構、或は社會情勢に於きまして取り得る最も可能な方法に於きまして、極めて適切な方法であると考へるのであります。従ひまして専用地區の出來ました地域制は、今後從來の専用地區制を破却して、積極的に都市形成の支柱となり、工業地區の完全な發展をば誘導し得るのでないかと考へるのであります。この専用地區を積極的に制定し得ることに依つて、地價の限りなき變動は餘程安定し得るのでないかと思ひます。安住の地を與へ、産業地の發展を増進するといふことに依りまして、工業施設の安全を確保し、公私の設備失費をば避ける、所謂都市計畫の實施をより一層完全にすることが出來るのであります。これが共に通勤者住居、これに對しまして同じく専用地區制限に對しまして、適當に配備されるといふことになりますれば、我々がこれまで見て參りました工業地區の發展が何時しか衰頽に陥れられるといふことが、極めて手近な方法に依りまして防止し得まして、工業地區をば長く將來の發展まで續けしめ得ることが出來るといふ風に

考へ得るのであります。先日來伺ひますと、當地に於きまして工場地經營が出來、土地經營が出來るといふことを伺ひましたが、洵に私共は啓發されるところが多いのであり

ます。内地諸都市の現状から行きまして、我々は今後この専用地區をば大いに活用せねばならぬと考へる次第であります。

## 工場の原動機馬力數算定の是正

愛知縣建築課長 井 上 新 二 君

最近愛知縣に於きましては市街地建築物法の地域制に依ります工場の原動機馬力數の算定を實行馬力數本位に改めることにしたのであります。この機會に御報告申し上げたいと思ひます。

御承知の如く市街地建築物法は工場に對して地域制にそれ／＼或る制限を加へてをるのであります。そして原動機馬力數を以て工場の規模を定める尺度としまして、その規模の大きなもの、即ち馬力數の大きなもの程周圍に與へる公害が大きなものとして、住居地域に於きましては三馬力迄、商業地域に於きましては十五馬力迄、未指定地域に於きましては五十馬力迄とし、それ／＼それより超過するも

のを制限してゐるのであります。然るに最近名古屋市の工業界を見ますと異狀なる發展を示しまして、殊に支那事變が勃發しましたことに依りまして、軍需工業が盛になり、益々これに拍車を加へ活況を呈して來たのであります。そしてそれ／＼の工場は原動機を増設しまして地域の許容限度一杯迄擴張して參つたのであります。現在では最早やこれ以上一馬力も増設が出來んといふ狀態に迄立到つてをるものが大多數であります。これは都市計畫の大乗的見地から見て致し方ないことゝは思はれますが、大多數の工場が斯く窮地に押込められてをる状態を見ては何とかして合法的に救済の方法はないものであらうかといふことを

考へさせられたのであります。

そこで原動機馬力数の取締の現状を考察致しまするに、現在内地各府縣に於きましてはこの原動機馬力数の算定は公稱馬力の合計數に依つてをるのであります。假令使つても使はなくてもその馬力數は制限されることになつてをるのであります。元々市街地建築物法の地域制の精神は周圍に及ぼす公害を考慮しての制度でありますから、馬力數の制限對象は實際に働く實効馬力數でなければならぬのであります。然るに實効馬力數の算定といふものは技術上取締りに色々な困難な場合がありまして、己を得ず公稱馬力數を以て制限の對象にしてをるのであります。

公稱と實効との關係はどうかといふと、大體に於て工場では公稱馬力數は實効馬力數より大であるのが普通であります。故に市街地建築物法本來の建前に戻しまして公稱馬力に依る不合理を是正して算定の基礎を實効馬力數に置くことに依つて一方窮境にある工場の幾分でも救ふことが出来れば結構だといふことで改正したのであります。

そこで實効馬力數を算定する一つの方法として電流制限器を使用することに致しました。電流制限機はモーターの

保護機としまして考察されたもので、從來より各工場で使用されてをるものであります。モーターがオーバーロードした場合自動的にスイッチが切れる裝置になつてをります。これを實効馬力數の算定に應用して工場に設置した場合はモーターの馬力數が幾馬力であらうとも、又モーターの數が幾らあらうとも、全部それらのモーターを一つの制限機に連結させて、その工場總體的に必要な電力量が制限以内であればよいのであつて、若し制限以上になつた場合には電流が餘計通る譯でありますから自動的にスイッチが切れることになる譯であります。さうして工場全體の機械が止まることになる譯であります。斯様にすることに依つて現在の工場の生産力を相當増大し得ることになるのであります。工場の作業工程を見てをりますと、或る機械が働いてをる間はその他の或る機械が休止してをり、その休止してをる機械が働き出すと、前の機械が休止するといふやうにお互交互にモーターが働いてをるのが普通であります。公稱馬力の合計數で行きますと、休止してをるものも、制限馬力數の中に這入りますが、實効馬力數で行きますと實際働いてをるものだけの合計數になりますから、從來行

詰つてをつたものも相當まだモーターを増設することが出来まして、生産力を増進することが出来るのであります。

工場に依りますと恐らく倍位まで擴張し得るものがまだあるのであります。さうしますと、愛知縣下に於て考へて見ましても年に數千萬圓の生産を増することが出来ると思ひます。又制限機の設置に依りまして從來よくあるベルトを廢しまして、それ／＼の機械に自由に又モーターを直結することが出来ますから、ベルトに依る職工の危害は非常に豫防されるのであります。この危害は殆どベルトに依る職工危害なのであります。工場法の上から行きまして非常に重大視されてをるのであります。

以上のやうな趣旨で愛知縣では實効馬力に依つて取締ることになりました。丁度今日十月十一日に縣令として公布することになつてをります。原動機用電流制限機使用取締

規則といふ規則を本日公布し、來年一月十一日から實施することになります。各府縣に御共鳴を得ることが出来れば、國家的に相當大なる産業の能率増進となることと思ひます。こゝでお斷り致して置きますが、これは強制的にするのではなく、從來公稱馬力に依つて取締を受けてをつても、その制限範圍でやれる工場は受ける必要はありません。何とかして實効馬力を以て制限の對象にして貰ひたいといふ工場の自由意思に依る希望に依りまして、設置するものであります。役所から強制的に強ひるものではありません。又電流制限器はさういふ大事なものでありますので、これが性能の檢定は慎重にやらなければなりませんので、通信省電氣試験所に於て殆ど責任を持つて頂くことになつてをります。

## 都市構成の單位區劃に就て

朝鮮總督府技師

山 岡 敬 介 君

私のお話は興味の薄い點があるかも知れません。御諒承を願ひます。

都市計畫の對象と致しますところの施設は非常に多岐に分れてをります。例へて申しますと道路、河川、港灣、運河、鐵道、上下水道といふやうな土木部門、更に地域、地區、建築の高度といふやうな建築の部門、或は農藝の部門、そのほか社會施設、斯ういふ風な凡ゆる施設を含んでをります。併しながら、理想的な都市計畫と致しましてはこれがどうしても総合的でなければならぬ。総合的でなければならぬといふことは、午前中に兼岩氏から既に強調されてをるので、ここに更に強調するまでもないのであります。併しながら、技術の専門が分れてをります關係、尙ほいろ／＼の部分が斯様に廣汎なために、これを一舉に決定することが難かしいのであります。併しながら、それがために互の部門が緊密な連絡を取らないと、都市計畫の本來の目的を達しないことになる。例へて申しますと、先づ都市計畫の基本となりますところの道路計畫を致しまする場合に於ても、單に交通といふ立場のみから道路等の配置を致しますると、他の施設例へば公園等を配置致します

る場合に喰違ひが起る。斯ういふ問題も屢々あるんぢやないかと考へられる。

大體道路計畫を致しまする場合、先づ交通の立場から考へるといふことは、最も必要なことではあるんでございませうが、幹線道路の配置、或は言ひ換へると間隔、これをどういふ風にするかといふことになりますと、寡聞に致しまして、まだ理論的な根據を知らないのてございませう。唯内務省で定めてをりますところの計畫論理といふやうなものがございませう。それに依りますと、電車、或はバスを含むところの幹線道路の間隔は、住居地域内に於ては五百米乃至一千米、その他の地域に於ては五百米を下つても宜しい、斯ういふ規程があるのであります。何分五百米から一千米の間であれば宜しいといふと、六百米で宜しいか、七百米で宜しいか、八百米で宜しいか、屢々判定に窮する場合があるんぢやないかと思はれるのであります。

併しながら、交通路線でありますところの道路が配置されますと、その道路と道路とに依つて圍まれたものは、一つのブロックを形成するのでございませう。又そのブロックは他の施設と合したものでなければならぬといふこと

が考へられるのであります。例へば公園、或は小學校、或は日用品市場といふ風なものの利用區域と併せて考へなければならぬのぢやないかと考へるのであります。そこで先づ幹線道路を決めるに致しましては、交通問題を考へるそれが電車、或はバスといふやうなものの通行する豫定線であると致しますれば、電車、バスの乗客に對する利便を先づ考へて見る。それから尙ほその道路に依つて建設されるところのブロックが、兒童の公園の利用區域、或は小學校の通學區域、或は日用品市場の使用區域、或は防空上の避難區域、或は防火區域斯ういふ風なものに合致したものであれば一番宜しいのであります。併しながら、それ／＼の施設に要するところの要件に付ては、多少喰違ひがあるぢやないかと思はれる。併しながら、その間にお互の中庸を取つたところの案で決めて行つたら一番いいぢやないかと考へられるのであります。即ち、道路を決めますに付ても、斯様な考の下に、以上申上げましたやうな施設を決めましたところの單位區劃と私は名付けてをるのであります。が、さういふやうなものを考へまして、これを相互的に計畫致します。それに依つて道路の間隔も必然的に決つて來

るのでないか、斯ういふ風に考へた次第でございませう。左様な考に依りまして、どれ位のブロックが適當であらう。斯う考へますと、大體五百米單位、斯ういふ程度が先づ中庸を得たところぢやあるまいかと考へるのであります。

大體五百米の間隔位の配置が適當ぢやないかと考へられるのであります。この道路内に圍まれたところの面積は二十五萬平方米、この中にどの位の人口が抱擁出來るかと申しますと、假りに一人當三十平方米と致しますと、八千三百人ばかりになります。尙ほ六十平方米と致しますと四千六百六十人、百平方米と致しますと二千五百人、斯ういふ風になるのでございませう。さうしてこのブロックの四隅に電車、或はバスの停留場を配置したい、四隅に圓が描いてございませう。彼處に電車、或はバスの停留場を配置する。(圖面省略)大體利用者の便利を考へると、停留場は近い方が便利、併しながら、都市が大きくなつて参りますと、停留場の間隔が餘り近いと平均速度が出ない、非常に鈍くなる。従つて町の一方から一方に参りますに、非常に時間が掛る。尙ほ電車の配車も餘計やらなければならぬ。従つて交通も輻輳することになつて参るのであります。大

體五百米の程度ではどうなる、斯うなりますと、一番部落の中心から何れかの停留場に参りますのが、一目遠い距離になります、これは格子状に細道路が出来てをりますと矢張五百米歩かなければならぬことになります。一時間四キロとすれば七分半掛る、この程度ならば我慢出来るんぢやないかと考へます。

次に公園配置上の問題からいつてどうか、公園配置上の要件は先づ第一に児童が利用致しますに付て、幹線道路を横切らないといふことが一つの要件、その次は距離の問題であります。距離の問題に付きましては、矢張内務省の標準に依りますと、児童公園の誘致距離は五百米以内、それから先づ二百五十米が中庸度である。それから少年公園に於ては八百米以内、中庸度は六百米である、斯う規定してをります、この案に依りましてこの圖に配しますと、一番遠い所は距離が五百米になるのであります。先づ公園の要件と致しまして満足が出来るんぢやないかと考へられるのであります。

次に小學校の配置であります、これもこの區劃内の中央に小學校を設ける。児童公園に接続して設ける通學上の

要件と致しましては、児童公園の場合と全く同じと考へられる。つまり幹線道路を横切る地點を避けること距離の問題でございます。これは全く児童公園の場合と同じであらうと考へられるのであります。唯この區域内に於て一學校を經營し得るかどうかいふ問題であります。そこで先程總人口を申上げたのであります、國勢調査の結果に依りますと、總人口の一五パーセントが學齡兒童の數になつてをるやうであります。勿論現在の朝鮮と致しましては、それよりも遙かに低い數なのではございますが、都市計畫が將來を對象とするといふことであると致しますれば、矢張義務教育になつた場合を考へておいていいんぢやないかと考へられます。斯う致しますと、先づ一人當の密度が三十分

平方米の場合には一千三百五十人の兒童が居る。左様致しますと大體二十四學級を形成する。六十平方米の密度の場合にはその半分の六百七十五人、十二學級を形成するといふことになりまして、大體一學校を形成し得るものではないかと考へます。但し、それ以上になりますと、例へば百

十平方米以上の場合には一學校を形成し得ると考へられるのであります。

次に公設市場の問題であります、これも中央に設けますと、七分半の程度で達し得るのでありますから差支へないと思ひます。

次に防空上の問題でございますが、昨日も計畫局長より都市計畫として考へなければならぬといふ點に付てお話があつたのでございますが、つまり歩行道路、或は消防道路、防護區間、防護地區、或は水道管、消火栓を配置するに付ても、ブロックが配置されてをらんと無駄が多くなる。大體幹線道路は防火道路として役立つ。なほ縦横十文字になつてをるものは、消防道路として消防自動車が入る道路になる。十字に切れた二百五十米の道路は防火區劃といふことにはせんかと思ふのであります。尚ほ適當に消火栓或は送水栓を配しますと、例へば一ヶ所道路に依つて遮斷せられまして、消火栓は使へるといふことになります。

さういふ細かいことは省略致しまして、尚ほ避難所でございますが、中央の學校と公園、これを避難所に充當すれば、大體普通四キロと致しますれば七分半でございますが

駄足であればもつと時間を短縮することが出来る、尚ほ理想をいひますれば、一步を進めて學校を耐火的なものにやれば、非常に安全でないかと考へられる。尚ほ貯水槽の問題であります、これは特に貯水槽としてでなく、學校のプール、或は四隅の廣場に設備しておくと、特に貯水槽の設備の必要もなくなると思はれるのであります。

勿論只今お話ししたのは、一例として申上げたのであります。都市の中心地の短かいものは四百米、或は六百米とか住宅地は加減してよいと思ひます。又實際上の問題として斯ういふ風に正方形に出来る場合は少いのであります。又地形上として出来難い場合もあるのであります、何れにしても斯ういふ風に総合的に考へて、諸施設を含んだものを一つの單位區劃と致しまして都市を形作つて行く、斯ういふ風に致したいと考へるのであります。區劃整理の施行の地區を定めます場合等に於きましては、なるべく斯ういふ風なものを中心と致しまして、總てのものを配置して行くといふ風に考へたいと思ふのでございます。

# 東京緑地計畫

都市計畫東京地方  
委員會技師

太田謙吉君

今日都市計畫並に施設の問題に付きましてその中私共が取扱つてをります所の緑地問題は、今日かうした關係に於て非常に重大な一つの事項と相成つて参つたのであります。一口に緑地と申しますけれども、併しながら緑地なる言葉は洵に簡單でありますけれども、これを實際的に、又技術的に見てこれを取扱つて行く上に於て緑地とはどういふものであるかといふことを見極を付けることは、これ亦比較的困難なことでありまして、又非常に興味の深い問題であると思ひます。併しながら今日はまだ法律的には緑地とはいふものであるかといふことは決定してをるものではありません。この緑地は防空上その他に必要であります。斯様に東京市に於ては緑地なるものはないのであります。東京地方委員會では昭和七年の八月に初めてこの東京緑地計畫協議會なるものを開催致しまして、爾後今日に

至るまで尙ほこの協議會は續行致してをります。この協議會の内容は内務省、警視廳その他關係官廳の關係職員が這入り、尙ほ東京市を初め埼玉、神奈川、千葉の三縣尙ほ東京市の關係者、その他經驗者を擁してこゝに東京緑地計畫協議會を開催し、目下色々な事項を審議中であります。大體東京の緑地計畫に付きましては決定致しましたやうな次第でありますので、さつとそのことを申上げたいのであります。この緑地の問題に就きましては只今申しました通りに昭和七年に初めて第一回の協議會が開かれましたので、その後九年、十一年の第四回、第五回の全國都市問題會議總會の席上に於て矢張りその當時までの概略が報告されてをりますので、今はそれから後に決定された事項を簡單に申上げたいと思ひます。併しながらもう一度緑地關係のこれが基本になりますから一應簡單に申上げて見たいと

思ひます。

この緑地を分けて三つの項目に致してをるのであります。が即ち、普通緑地、生産緑地、而して緑地に準ずるものと致しましてこの三段に分けられるのであります。この一番目の普通緑地といふのは主として一般に言はれる公園問題でありまして、及び公園に準ずる一般の狭い緑地、斯様なものを採擇致しまして明細に分類致したのであります。こゝでは申上げませんからどうか數年前のこの會議の報告に依つて御覽を願ひたいと思ひます。その公園問題及びこれに準ずる緑地に付きましては主として今日特に考へなければならんことは、この都市の内外に於きます神社、寺院の境内の整備問題であります。斯の如きことは今日まで誰もが當然のこととは考へてをりますものゝ、尙ほ且つ十分な所まで手が届いてゐないのであります。今日我が國の公園緑地の問題に對しましては、特に都市の内外に於きます神社寺院の境内の整備を特に重大視してお考を願ひたい。このことは私から申上げるまでもないことでありますけれども、特に私はもう一度申上げて置く次第であります。それから尙ほ一般の緑地と致しましては公開緑地の名前

の下に明細舉げてをりますが、これは山嶽地帯とか、或は海岸、河川、水邊等の景勝の土地であつて、それが將又公園的に利用せられるやうな場所を採擇致したのであります。さういふものが普通緑地の中に這入つてをります。

それから生産緑地とは田、畠、山林でありまして、當然農林業の地を指すのであります。特に生産緑地として這入つて来る上は都市計畫から更に進んで地方計畫に這入つて参らなければならん時に當りまして、この生産緑地の問題は、即ち農林業緑地としての問題は單に今日の一般農林行政から更に我々が特に都市問題と關聯して、農村と都市の文化構成の融合、或は都市と農村との經濟事情に關しまして特に大中小都市のその周邊に起つて参ります所の一般の農林業用地に對しまして、さういふ見地から特別な見地で這入つて行かなければならんのであります。さうした問題は勿論都市と農村との關係に於きまして經濟事情の調和を圖るといふこと以上に都市と農村とは感情問題からしてまでも融和を圖つて行かなければならんといふことまで發展して行くと思ひます。

斯様になつて行く時にさうした一般の問題からこゝに土



地そのもの、問題に就て都市そのもの、實際から更にその外郊に跨る所の農耕地といふものが特に一方が生産地であるならば一方が消費地である。左様な關係から致しまして、今日國土計畫といふことが農耕地の地理的或は土質といふことから考へて主として經濟上の觀點からする所の土地の利用に關する計畫を樹て、行くことが主眼點であるやうに考へますが、さうした關係から見ればかうした中小都市或は大都市に跨る農耕地は消費的な關係方面と關聯しまして、よく相互に調和的な考を以て施設を講じて行かなければならん、結局は農耕地に對する所の土地の利用に付ての積極化であります。

さういふやうな事情の下にこゝに生産緑地の項目を入れたのでありますが、更にその次の第三の緑地に準ずるもの、これは矢張り大體緑地の部類に這入りますけれども主として國土保安上から見まして、或は産業の上から見まして土地保安上の關係を特に考へなければならん、或は風致上の關係からして特にそこは保護しなければならんといふ一般に國土保安の上から見ました關係、斯の如き事柄を特に重視しなければならん所の場所、これに對し合理的に

取決められた場所、さういふ場所を緑地に準ずる場所として計畫したのであります。

かういふやうな關係で三つの種類をこゝに緑地として分類されたのでありますが、この緑地の分類に従ひまして、我々は東京の計畫を樹て、參つたのでありますが、先づその後に樹られました所の計畫は東京の大公園或は小公園の計畫であります。これは一部は今日立法の域に達してをりますけれども、相當他の關係と關係致しまして相當重大な問題でありまして、やつとこの計畫が出来上つたのであります、大體報告にありますから御覽を願ひます。

その次には尚ほ色々ありますが、特にこゝに大公園計畫それから更に色々見ますと、その次は公開緑地、共用緑地次は小公園、行樂道路、連絡道路の計畫案、その次は景園地の計畫案斯様に色々計畫案を樹てたのであります。所が東京を中心とした千葉、埼玉、神奈川の三縣に跨る所でありまして、只今私が申しました地方計畫の見地から中小都市を適當に割振らなければならんといふことから考へますと、而もその周外に當る農林業用地といふ適地を考へまして、更にそれ以外に風致景勝の土地であつて、どれよりも

先に却つて風致景勝の利用計畫を樹てるほうが最も適當であり、更にそれが自ら大中小都市を絶縁する所の一つの緑地帯となるといふ色々建前から計畫したものであります。これは當然現地に應じて考へたことでありまして、大體只今申したやうな理由の下に樹てられたのであります。その計畫から致しましてこゝにこの景園地計畫の一部としまして東京の大外周を一周致します所の斯うした環狀形の景園地を計畫したのであります。この環狀形の景園地は只今申しました大體の理由に基きまして東京といふものが、兎に角今日以上に大きくなることはもう誰しもがこれは重大な問題として考へてをるのでありますが、そのさうした過大都市をこれ以上に過大せしめないといふ理由から致しまして、こゝに環狀の景園地を採擇致しました。そしてこれを特に環狀緑地としまして今回大體御報告して置きましたからそれについて御覽を願ひたいと思ひます。

兎に角過大都市を防止する一つの對策としまして特に都市を絶縁する、そしてそれ以上に擴大することを是非共防止しなければならんといふ建前からこゝにあつた環狀景園地を計畫したのであります。その大きさ、その他今後の

處置も明細に報告にありますから、それを御覽願ひたいのであります。この環狀計畫はこの儘採擇されるかどうかこれはまだ未解決でありまして、或は歐米の例に倣ひまして斷片的にぽつ／＼と……ロンドンの郊外の如く斯うした緑地を見て行くか、或はベルリンの郊外の如く主として國有林野である所の大森林地を相當幅廣く緑地としまして取るか、色々考へまして、この大東京を敢て歐米に倣ふ譯でありませんが、斷續的に連絡した斯うした緑地を是非共必要とするといふので、目下これに對する對策を講じてをるやうな次第であります。或は土地の買収といふ問題もありませうし、その他色々ありませうけれども、結局用地買収といふことで行かなければならんと思ひます。

## 風致資源の開発と關係法規に就て

都市計畫山梨地方  
委員會書記

森 川 清 君

都市計畫の施設としての景勝美觀の保持は現行法としては、その市街地の建築美を主對象とするものは市街地建築物法に依る美觀地區、それから市街地の美觀を主たる對象としないところの景勝風致は建築物法を待たずして、獨立にその風致を達するといふことになつてをるのであります。斯かる制度の下に於きまして風致地區制度を實際に運用する立場に立つて感じました二三のことをここに申述べたいと思ふのであります。

抑々同じく人間生活の環境を美化するといふ目的を有しながら、その主たる對象が自然美であるか、又は建築美であるかに依りまして、法制上斯の如き距りのある取扱をなさなければならぬといふことは一つの問題であると考へるのであります。

蓋し美觀地區に關する法制は比較的よく整つてをりました

て、都市計畫法、市街地建築物法、勅令たる同施行令のほか、内務省令たる市街地建築物施行規則は、特にこれがため一章を設けてをるのであります。その規定されてをるところの内容も極めて強力な積極的なものであります。即ち地方長官は美觀地區内にある建築物にして、環境の風致を害し又は街衢を不體裁ならしむるものと認むるときは、その除却、改修、その他必要な措置を命ずることが出来るといふことになつてをるのであります。

然るに風致地區に關しては、都市計畫令施行法第十三條は、僅に風致維持に影響を及ぼす諸行為又は影響を及ぼす虞れある行為に對して、地方長官の認可を経て、府縣令を以て禁止、又は制限をすることが出来るといふことになつてをるのであります。斯の如くその規程するところは飽くまで既存風致の二字で従つて行為の禁止制限は、極めて消

極的な方向に向けられて、微溫的になつてをる譯であります。斯るが故に新たな風致資源の開発育成の如きは、夢想だもしてないかの如き觀があるのであります。従ひまして、これらに依つて作られたところの、全国各地の風致地區規則なるものは、大同小異、風致地區内の建物、その他の工作物の移轉、或は土砂の採取等をなさんとするものは知事の許可を受けなければならぬといふ、極めて千遍一律なものとなつたのであります。

もとより都市計畫法が、市制に則る市街地にのみ適用された時代には、都市の膨脹に依る郊外綠地の飽くなき蠶食を防衛するといった意味合から竝に單に防空々地を保存するといった程度の風致觀念から考へるならば、必ずしも無意味なものとは斷じ得ないのであります。昭和八年を契機として都市計畫法が廣く町村にも適用されるようになりましてので、如何にも實情の要求に副はないものがあるやうに考へられるのであります。と申しますのは、我が國が獨り山水の秀麗を以て世界に聞えるばかりでなく、全國到處に史蹟名勝で以て、内外客の來遊に依る繁榮を形作つてをるものが決して少くないのであります。斯かる小都市の

都市計畫の唯一の恩恵は、思ひきつた積極的な風致資源の保育制度の確立ではないかと考へるのであります。就中輓近に於ける我が國經濟力が未曾有の躍進を遂げ、吾人の生活々動の舞臺が日本内地といふ小區域から全アジアへ擴りつつある今日、新たな風致資源の開発保育を今より準備するが如き、決して尙早にあらずと信ずるのであります。

如上の意味に於きまして、風致地區制度の地方化とでも申しますか、風致資源の開発育成のため、新に強力法制の出現を希望してやまないものであります。

尙ほ昨日内務省の西村氏の報告されたところに依りますと、關東州の計畫令に於かれまして、美觀地區と風致地區を併せてこれを景觀地區とされてゐるさうであります。内容の詳細を承ることが出来なかつたので、美觀地區が風致地區に接近したものであるか、又風致地區が美觀地區に接近したものであるか、或は全然別個の觀念を以てせられたものであるか明かでないものであります。が、風致地區が美觀地區へ包含されたものであれば、私の考へた點に一步接近してをるものであると考へられますので、この點を意を表しておきたいと思ふのであります。

## 朝鮮特殊細民の處置に就て

京城府工營部長 長 郷 衛 二 君

都市に於きます細民街の改善に就きましては、都市計畫の基本問題と致しまして最も重要な問題であります。我が朝鮮の各都市に於きましては土幕民と言ひます獨特の細民階級があるのであります。この土幕民は河川敷、或は林野その他の官有地、又は私有地に對しまして無斷でその土地を占據致しまして一夜の中に小屋掛をいたし、これに居住するのであります。その後漸次これに加工し固着の傾向を採るのであります。その仕事は土工でありますとか、塵芥拾ひを主なる職業としまして洵に下級な生活をするのであります。それはその性質上、居を解いて他に轉ずる場合には、この土幕を十圓乃至十五圓で他に轉賣するのであります。これを買受けました者は更にこれに加工しまして漸次家屋の體裁を整へ、遂には三坪、四坪の朝鮮式の細民住宅を作り上げるのであります。斯様になりますと

地主から立退を要求致しましても立退き先のないことを理由と致しまして、又資力のないこと、又他より買受けたといふことを理由と致しましてその立退要求に應ぜざるのみならず、その狀況に於きましては益々轉賣が行はれ、遂には數百圓の値段となり、これが賣買に當りましては福德房といふ土地家屋の仲介業者が中に這入りましてこれを仲介致します。そして不法に無斷に占據しました土地の上にある家屋に對して、地上權があるかの如き不合法な商行爲が行はれるのであります。

従つて現在朝鮮内で土幕民と一般に稱へられてをります。が、土地を無斷で不法占據してをる窮民と申しまして、尙ほ内容が三つに分かれるのであります。これは私の分類であります。その第一種土幕民と申しますものは、土幕の生活をしなければ生存して行けない哀れなる敗殘

者、窮民細民階級者であります。第二種の土幕民と申しますものは細民階級ではあります。が、資力もあり、又相當の収入もありまして、敢て土幕の生活をしないで宜しい者であります。が、長らくの慣習と情性にと依りまして、又朝鮮に於きます住宅制度竝に借家制度の不備に依りまして住居を求められない爲、勤勞階級が第一種の土幕民の作りました土幕を買入れまして、これに加工して自分の住居に定めるといふ階級でありまして、これは教化善導と住居制度の改善に依りまして、土幕生活を脱却せしめ得られる所の階級であります。第三種と申しますものは土幕の名に隠れまして惡徳不法を敢てなしつゝあります有資産階級であります。

その何れにしましても一遍土幕民街が都市に出來ますと無秩序、無統制な發展を致しまして、都市に於きます風致美觀を損じ、市民の保健衛生上由々しき障害を生ずるのであります。又社會風教上許すべからざるものがこれより發生し、尙ほこれに加へまして土地を無斷で不法占據する惡習があるのであります。さういふ意味に於きまして、現在は左程喧しく言はれてをりませんが、私の見る所に於きま

しては、將來朝鮮の都市に於きます問題は土幕民を中心と致しました細民街の改造問題が最も大きい問題になるのではないかと想像するのであります。

斯様な土幕の制度が如何なる由來に依つて出來たかと申しますと、李朝の時代に於きまして窮民救濟を行ふ一つの手段と致しまして耕さない土地はその所有權の如何に拘らず、これを耕し、又これが厚生を努力をする者が居住して宜しいといふ布令が發布せられた時があるのであります。これは洵に善政でありまして、都市計畫に於て、かういふ便法が這入りますとやりよいのであります。が、かういふところが土幕民發生の遠因となつたのであります。たゞ歴史を按じて見ましても土幕といふ名稱は付けられてないのであります。が、今回の如き水害の起りました際、救恤しました場合の記録を見ますと遊民といふ字が澤山見受けられるのであります。これが當時の社會情勢と致しましてはこれが救はるべき施設が完備致してをりませんでした爲に、山に這入りましては火田民となり、都會に入りましては土幕民といふものが自然に出來たものと私は解釋してをるのであります。

併しながら大正の初期まではまだ土幕民の弊害は朝鮮内に於きましては左程大きくなかつたのでありますが、最近朝鮮各都市の人口が都市に集中する傾向が頗る顯著になりました、例へば京城に於きましても一年の増加人口三萬五千乃至四萬と言はれるのでありますが、その中自然増加は僅かに五千人程度でありまして、他は全部他の都市、地方から流入に依る増加であります。斯様な人口増加に對しまして、富有な階級は別と致しまして、細民階級に於きましては朝鮮在來の住宅制度の不備、借家制度の缺陷に依りまして適切な家屋を求めることが出来ないやうな事情に立到りつゝあるのであります。

例へば朝鮮では借家居住を非常に賤視する風があるのであります。又借家道德に非常に缺けてをります爲、家賃の取立は殆ど不可能であります。それで貸家を致す際には家主は傳賃と申しまして、一時に家屋建築費の三分の二位の金を預り、それを運用する利子に依つて當てるのであります。併しながら細民階級には到底斯様な多額の金を出して自分の住宅を求めることは殆ど至難であります。その爲に警察その他の目を盜みまして國有地私有地を冒して土幕を

營むやうになるのであります。

尙ほ中産階級以下の勤勞階級に於きましては矢張り同様な事情に於きまして、又長らくの朝鮮の習慣に依りまして住宅を求めることが困難な爲に第一種土幕民の作り出した家屋を安く買入れまして、これに加工して自分の住居に定めるといふやうになつて參つたのであります。第三種に屬する階級はその間に入りまして不法を敢てするといふやうなことがなり、益々土幕の發生を顯著ならしめて參つたのであります。

それで府内に於きます土幕民の増数は三千三百十六戸でありまして、その人口は一萬六千六百十四人でありますが、これに調査漏を入れますと恐らく四千五百戸、人口にしまして二萬三千と考へてをるのであります。尙ほその他土地の不法占據はしてをりませんが、所謂土幕民でない階級で土幕民同様の住宅が約四千戸存在してをるのであります。

それで今簡単に調査済の土幕民三千三百十六戸、一萬六千六百十四人に付て調べて見ますと、有職者九千三百五十八人、無職者七千二百五十六人になつてをります。従つて

一戸當りの居住者は二坪乃至四坪の小さな家に約五人の居住者がをるのであります。その内働いてをる者は二人八分になつてをるのであります。

この仕事を有つてをる九千三百五十八人の中には日傭労働者が大部分でありまして七千七百五人、所謂總數の約八割三分を占めてをります。残りの一割七分が馬夫、行商、職工、店員、會社員、金貸、飲食店、醫生、商人等が這入つてをるのであります。その月收は十圓乃至二十圓といふ所が一番多いのでありますが、第一種土幕民の哀れな階級の中には五圓を下るやうな者も澤山あるのであります。又第三種土幕民の不法を敢て致してをる者の中には百圓、百五十圓、中には數千圓の資産を有しながら土幕民の生活をしてをる者もあるのであります。これらの平均生計費を調べて見ますと、月二十二圓、一人一日當り食費二十二錢となつてをります。極貧の第一種の中には一日四錢乃至五錢といふ階級が又存在するのであります。

過去に於きましては京城府内に於きます土幕民の整理が約七回行はれたのでありますが、その當時は只今と違ひまして、細民街を整理改善致しまする十分の考慮が拂はれな

かつた爲と、もう一つは都市計畫的にも根本方針の樹立がなかつた爲に、大體に於きましてこれら土幕民を邪魔であるといふ簡單な理由の下に山の上に追ひやられたやうな結果になつたのであります。それ故皆さんが釜山乃至京城に於きまして高地に澤山の土幕民をお見受けになつたと思ひますが、これらは斯様な形で出来上つたのであります。只今私共はこれを都市の保健衛生、風致或は社會風教上に於きまして、又都市計畫を實施致しまするに付きまして一つの難點と致してをるのであります。

以上述べましたやうに土幕民はその生成の由來は朝鮮に於きます古來よりの習慣、並に社會施設の不備、これに加へまするに最近の都市人口の集中に依る細民層の増加したことに基因するのであります。斯様な意味に於きまして内地の各大都市に於きます細民街、又はイーストロンドン、ニューヨークに於きますスラブ街とその成因を一にする所があるのであります。一面に土地を不法占據するといふこと、或はこれが賣買されて行くといふ點、又これを利用して惡徳を敢てするといふ階級が出来てをるといふ點に於ては朝鮮獨特なものでありまして、これに對する方法としま

しては朝鮮獨特なものを考へなければならぬと思ひます。今これを弊害の方面から眺めますと、土地の不法侵害であり、相當大なる被害を受けてゐるのであります。又この土幕民の問題をこの儘放置して置きますならば、益々彼等は土地を不法占據する、所謂法を無視するといふ惡習を助長せしめるものとなるのであります。故にこの問題に考慮を拂はなかつたならば、大阪東京邊にもあるさうであります、或は内地の餘つた土地まで占據して了ふやうなことになるかも知れません。又イーストロンドンがロンドンを滅亡に導くのではないかと見られたやうなことが、將來朝鮮の土地に必ず發生すべきものと考へるのであります。

併しながらこれを同情的立場で觀察しますれば、都市が増大致しまするに付きましてはこれに従ひまして必ず多數の勞働力を必要とするのであります。現在朝鮮内に於きまする各都市の各種難多下級勞働力はその大部分が土幕民の提供してゐる勞働力であります。斯様な意味に於きまして彼等土幕民としまして一府民、市民でありますのみならず、その安き勞働力を提供することに依りまして現在朝鮮の新しく勃興しつゝある所の都市繁榮の一助を成してを

ると言はなければならぬのであります。尙ほこれに加へまして從來の住宅制度の不備、借家制度の缺陷、又過去に於きます社會教化救済對策の不備に基因致しまして、これらの階級が人口増加と同時に近來益々殖えたことを考へますと、土幕民街の改善整備は都市計畫として一つの重要な問題であり、又土幕民を教化し、これを善導致しますることは内鮮一體の立場に於きまして都市目體の責任であるとは私は感じてゐるのであります。従つてこの土幕民街の改善對策に當りましては、第一にはこれを朝鮮全體に施行せらるべき根本方針の樹立を必要とするのであります。京城のみが如何にこの方策を樹てまして土幕民を改善し、整備し、教化致しましても、他の都市よりの流入土幕民が絶えずる限り、これは挫折せざるを得ないのであります。それ故全鮮的に施行する必要を認めるのであります。

第二は社會改良事業として行ふべき性質のものであります、が、勃興しつゝある朝鮮の都市計畫の事業の中に一つの都市計畫事業としてこれが根本計畫を鮮内各都市が樹てることが必要であります。

第三は本事業の必要性としまして、これには必ず教化機

關を設置すべきことであります。

第四には朝鮮の特殊事情に鑑みまして警察力に依る取締を徹底強化することであり、

以上四原則を元として第一種、第二種、第三種の土幕民に對し、それらの階級のそれらの實質に應じまして、その都市目體の立場を考慮してそれらの對策を講ずべきものであると思ひます。

細かくは申しませんが、即ち第一種の土幕民に對しましては公共用地に細民地區を設定致しまして、これに統制ある收容を致しまして、教化機關、或は授産施設を併置して彼等を救済し、同時に追々授産機關に依つて彼等を向上させ、更生させることが必要であると思ふのであります。

第二種の土幕民に對しましては、これは悪いと知らずして土幕階級に這入つてをる人が多いのでありますから、我々は十分の同情ある考を有ちまして、細民地區として設定されました中に、安くして彼等の求め得られます程度に於きまして、土地を分譲致しまして、彼等自身の土地を有たせ、彼等の家を建てさせます。或はその細民地區内に公營の細民住宅アパートを建設致しまして、極く安い家賃にし

て……取れなくても宜いと思ひます……住ませ、これを指導し教化致しまして、家賃を拂ふことに依りまして土幕といふ名前を却せしめることが最も大切な根本方針ではなからうかと思ふのであります。

以上二つ共細民地區を設定することになるのであります、が、これは是非朝鮮に於きましては都市計畫事業としてこれを設定することを必要と認めるのであります。道路工場綠地とか、公園といふものは朝鮮に於きましては都市計畫事業として設定してありますが、細民地區を設定致しまして細民街を改善整備する、尙ほ將來に當つて細民階級に對します考慮を拂ふことが都市計畫事業としてせらるべきものであるといふ日の近からんことを私は希望するのであります。その收容致しまする土地を從來の如く山の上に追ひやるといふことを止めまして、平地の上に、都市の風致を害せず、又出來得ますならば勞働市場に近い點に分散的に細民地區を設置致し、彼等の勞働に出ます便宜をも考慮してやりまして収入を増させますと同時に地代、家賃を拂ひまして、土幕民でなく、普通の市民として相當の生活が出來る地區を選ぶことが都市計畫に従事致してをる者の責

任であると思ひます。これには國有地の拂下を受けますとか、又我々が區劃整理を行ふ時に、その地區内に於ける土幕民を收容致します所の全部を地主より提供させることが

## 滿洲國都邑計畫の現状

滿洲國內務局官  
房都邑計畫科長

沼田 征矢 雄 君

私、只今御紹介にあづかりました滿洲國都邑計畫一般に關しまして、お世話申上げてをる者でございます。滿洲國の都邑計畫の現状をお話する前に、滿洲國の都邑といふものが建國以前に於て如何に取扱はれてゐたかといふことに付て、極く僅かばかりお話申上げます。

建國以前の滿洲の都邑といふものは、これを大別しますと、三つに分けて考へることが出来る。その一つは南滿洲鐵道會社沿線に於ける附屬地、これに隣接してある滿人を主體として自然發生的に發達致しました、所謂城内と稱する部分、それから二三年前に買収致しましたところの、ソヴェットの舊北鐵に於ける部分、この三つに分けることが

出來ます。第一の滿鐵沿線に於ける附屬地は、滿鐵の大資本を背景に致しまして、都邑計畫及びこれの實行に對しても極めて立派な施設を持ち、又十分なる計畫が立てられてゐた譯であります。東支鐵道……現在我々は舊北鐵といつてをりますが……の沿線に於きますところの鐵道附屬地、これは帝政ロシア時分に於て立てられました北鐵、これは現在のロシアの觀念から申しましたならば、或は翻譯以前の、極く古い形式と考へられる、これに依つてぼつ／＼と建設をしたといふ部分、それから一般民度も低くありましたし、又軍政に依る苛斂誅求のために、經濟的に非常に傷められたところの全々都邑計畫から、新觀念から取殘され

た部分といふ三つに分けられると思ひます。これが柳條溝の爆彈の一發から滿洲國建設になりました。

滿洲國建設當初はどういふ情勢であつたかと申しますと滿洲國政府の機構は充實されてをりません。然るに、如何なる方法に於てこれをやつてゐるかと申しますと、現在は廢止されてありませんが、關東軍の特務部内に都市計畫委員會を置きまして、これと滿鐵の經濟調查會、それと滿洲國政府の一部と三者共同計畫の立案をする情勢でありました。ところが滿洲國も一年経てば矢張二つになります。誕生以後年を閲みするに従つて機構も整備し、又人員も充實され、國の一部分であるべき都邑計畫は、軍及び滿鐵に依存すべき理由はないといふために、滿洲國政府部内に都邑計畫を扱ふ機關、必ずしも都邑計畫のみを扱ふものでありませんが、日本の内務省のやうな民政部の中に、都邑計畫を扱ふべき一機構が設けられ、専ら都邑計畫竝にこれが具現化、即ち計畫の遂行に當つたのであります。尙ほこれに加へて滿鐵の行政權委譲がありまして、現在の都邑計畫は滿洲國が全面的に統制してやつてをる状態になつてをります。

都邑計畫を實行する上に於きまして、いろ／＼民權を拘束したり、或は強制的的の執行をやらなければならぬ問題が多々あります。これに關する法令としては、一昨々年滿洲國の都邑計畫法といふものが發布されました。本法と施行規則が同時に發布されなかつたのでありますが、一昨年未施行規則が出來て、大體法制の大意が出來上つたのであります。法の内容が聊か日本及び朝鮮と違つてをるやうに見えます。この法の特異性といふものに付て極く簡單にお話申上げます。

滿洲國の都邑計畫法は、日本に於きます都市計畫法、市街地建築物法を合せたやうなもので、朝鮮に於きます市街地計畫法と言はれるものと多分に似てをる點があると思はれるのであります。この法の中に盛り込まれてをります點で、最も重大な點は何處にあるかといひますと、計畫は立案せられなくても、これを具現化しなければ、計畫を立案した意味はない。即ち、この具現の方法として、滿洲國に於きましては、土地經營の方法を取つてをります。従つて土地經營に必要な土地は強制的に事業執行機關に買收せられるといふ點がなければ、事業に要する費用を捻出する

途が他にない。そこに於きまして、土地收用法が他にあれば、強いて斯ういふ條項を設ける必要はないかも知れませんが、生憎現在の法規の中には、土地收用法に該當する法規がないのであります。従つて土地收用法に該當する條項を法規の中に加へたのであります。

即ち、事業のため直接必要な土地を收用するといふのは當然であります。それ以外に更に事業に依つて利益を受くべき土地まで買収する權利を與へたのであります。併しながら相當強力な權能でありますから、これを凡ゆる人間に附與する譯にいかない。従つて斯の如き權限が與へられるのは、都市計畫事業を執行する執行者か、行政官廳に限られてをる場合になつてをります。これが著しく滿洲國に於ける都市計畫事業を簡便ならしめてをる點であると考へます。尙ほ計畫に關しては大體日本と同様の地域、地區制を採用してをりますが、場所柄と申しますか、特に都市の防衛といふ問題に關しまして必要な空地及び都市の周圍に於きまるところの綠地區の設定に付ては、極めて十分に考慮されてをります。現在盛に唱へられてをります防空といつたやうな關係に於きまして必要とする規程は、必要以

上と思はれる程に考へられてをります。尙ほ滿洲國に於きます計畫決定の方法であります。これは日本に於きますのと少し狀況を異にしてをりますので、地方委員會といふやうなものに附議される前に、軍事、交通、産業、凡ゆる各部門の代表者に集つて頂きまして、その計畫内容に關して各方面の意見を聞き、修正すべきところを修正し、各方面の意見が完全に綜合された計畫として原案が出来るやうに都邑計畫協議會といふもの、これは法律的には何等の權能もないものであります。内部連絡的のものとして、都邑計畫協議會といふものを設けたので、従ひまして都邑計畫を立案し、これを地方計畫委員に附議する前に、その都邑に關聯のある部門が悉く集つて、その計畫に對して推蔽することになつてをります。都邑計畫に對して各部門の意見を參考して、これで宜からうといふときに、始めて國務大臣の名前を以て地方委員會に附議するといふことになつてをります。

次に事業執行の方法であります。先程申し上げましたやうに、受益負擔を課し得る土地までも買収し得るといふことで専ら土地經營をやつてをる、この土地經營の趣旨と致

しましては、飽くまでも土地から擧つて來る収益が、受益者負擔金の觀念に該當するやうな觀念を以つてやつて居りますので、先づ事業費の一部は斯の如き經營を行ふために必要な土地の買収費及びその買収しました土地に道路公園等、或は下水等を施設すべく、斯かる施設費を起債に依つて取つてをるこの起債に依つて土地の買収、一時的の假施設をした後に、その土地を貸付けるなり或は賣却するなり致しまして、土地の收入を擧げるか、土地收入は更に還元せられまして、その土地の改良に用ひられ、又差當つて必要でない土地は、一時農耕に用ひさせる。即ち、都市計畫事業、都市計畫事業執行者が地主になりまして、小作料を取るといふやうな方法を用ひてをります。

この賣却代金貸付料といふものは、飽くまでもその觀念が受益者負擔金であるといふ點に重きをおいてをるのであります。事業執行者が特に儲けるといふやうなところまで考へてをりません。將來土地經營を行ひますために、事業執行者が必ず土地經營事業を行ふことになりません、非常に不公平な、又不當な結果を生ずることになりますので、先程申し上げましたやうなことで、都市計畫經營者は行

政官廳にのみ豫定されてをる。従つて都市計畫事業費の査定方法は認めてをらない譯であります。

極く大體をお話申し上げましたんですが、現在斯ういふ意味に於て都市計畫法の施行せられてをる都邑は八十ござい。又この八十の都邑の内今申上げましたやうな都市經營の方法に依つて事業を經營してをる都邑は二十七ござい。この事業費の起債は、事業經營者の起債で、現在滿洲國內で都邑に於てやつてをるものはありません。悉く滿洲國の事業であります。この起債の基は、特に國が斯ういふ事業のために提供すべく都市特別會計に依るべきものと及び一般國債銀行がその土地を擔保にして貸出をしてをる金で事業をしてをり、兩者合せて今年度までに四千五百萬圓今から三年後でございますが、六千七百萬圓、政府の臨時都市特別會計に依る既定額は一千三百五十萬圓、豫定額は三千三百萬圓といふやうな數字になつてをります。極くあらましのことであります。これを以て私の講演を終ります。

## 都市に於ける屎尿處理問題に就て

咸興商工會議所理事 土 谷 惟 一 君

私の話は研究報告ではないのですが、今回の會議に於きまして多數の研究報告を拜見致しまして凡そ都市の衛生問題の中で最も重要と思はれます屎尿の處理問題に付て一言もありませんので、甚だ遺憾に感じ、俄かに思立ちましてこの演壇を汚すことに致したのであります。

昨日來色々御講演を承りまして大變參考になつたのであります。都市生活の健康を最も脅かす消化器傳染病の腸チフス、赤痢、或は蛔虫、十二支腸といふやうな腸内の寄生虫病は我が日本は世界列國の中で一番多いのであります。昨日頂戴致しました印刷物の水島博士の表を見ましても歐米各國に於きましてはこの種の傳染病はだん／＼減つて參つて、變てなくなるだらう、即ち「消え行く病」と言はれてをりますが、我が國はこれと反對にだん／＼殖え行く……「殖え行く」病でありまして、年々チフス、赤痢の

爲に多數の人命を落し、これに要する費用は實に莫大であります。又蛔虫なども一般の素人は極めて簡単に考へてをりますが、朝鮮では百人の中七十人乃至八十人はこの蛔虫を有つてをるのであります。内地に於きましても農村等に於きましては矢張りこの位の寄生物があると思はれるのであります。日本の人は何か少し氣に食はないことがありますと「虫が好かない」と言ふ、こと程左様に腹の中に必ず虫があるとしてありますが、凡そ蛔虫位吾人の健康を害するものはないのであります。恐らくあなたの方の中でも多數腹の中に蛔虫を有つてをられ、蛔虫の有つてをられない方は果して幾人ありやと私は思ふのであります。この蛔虫は一回や二回の虫下しでは容易に下るものでないのであります。私はこの席で蛔虫のお話を長くする時間を有ちませんけれども、この蛔虫の人體に及ぼす影響を醫學的に説明

すると實に恐るべきものであります。今朝も林衛生局長のお話がありましたが、日本は結核と蛔虫がなければお警者は現在の半分で十分であるといふことを衛生學の大家は申してをりますが、斯の如く恐るべきこの消化器の傳染病のチフス、セキリ、蛔虫といふものは専らこの屎尿に依つて傳染するのでありますから、この屎尿の處理が都市の衛生上最も重要であることは申すまでもないことでありますけれども、然るにこの屎尿が完全に處理されてをる所の都市は極めて少いのであります。私この五月頃内地の都市十數ヶ所を廻つて色々調査し、拜見致しましたが、この屎尿の處理は何處の都市も十分によく出来てをらないのであります。東京でも京橋附近に參りますと、夜間小便を下水に捨てゝをります。容易に汲みに來ない爲に火野蓋平の書いた「屎尿譚」を見ますと、内地の大きな都市に於きまして屎尿の處理問題に對して全く衛生を度外視してをることがよく窺はれます。

話は變りますが、この京城でも便所のない家屋がまだ恐らく一萬戸以上あらうと思ひます。然らばこの屎尿の處分問題は左様に難しい問題であるかと申しますれば、決して

さうではなからうと思ひます。大小便をよく混合して夏ならば十日乃至二週間、冬ならば一ヶ月以上長く溜めて置きますれば、地熱醗酵に依つてチフス、赤痢の菌は勿論、一番強い所の蛔虫の卵も完全に死ぬのでありますから、要は一定期間この屎尿を溜めて置いて醗酵してから肥料に用ふれば宜しいのであります。斯様な簡便な處理法が一般の都市で容易に行はれないことを私は遺憾に思ふのであります。

先年發表されました内務省の高野式の便所の如きは頗る簡便で而も効果的な面白い方法と思つてをつたのであります。が、内地の各都市に於きましてこの種の便所はどれ位普及されてあるか、又その成績はどういふ風であるか、さういふやうな點を私は厚生省の衛生御當局竝に今回の首脳部の方、或は一般の皆様方に教を請はんが爲に實はこの演壇に上つたのであります。厚生省の方が今お見えにならないやうであります。内地の中小都市に於きまして何かこの屎尿の處理方法に付て特別の御研究をなされ、又御實施になつてをります特殊の方法でもあれば私共にお聞かせ願へれば、單り私ばかりでなく一般の方々が大變御參考にな



ることだらうと思ひます。それで私はそれをお願い致したいと思つて上つたのであります。

尙ほ尿尿の處理問題はどうか本會議がもつと重要な問題としてお取上げにならんことを私は切に希望する次第であります。

次にもう二、三分間お話ししたいと思います。朝鮮に於ける都市計畫問題に付て少々申述べまして皆様にお諮り致したいと考へるのであります。近來我が朝鮮の各地の都市建築は滔々としてセメント萬能に進化して參つてゐるのであります。セメントは會社、銀行、役所、ビルディングといふ大きな建物には結構であります。併しこのセメントは耐震耐火、或は長く持つ、所謂丈夫本位であるといふ以外には衛生上の見地から見れば甚だ面白くないのであります。殊に個人の住宅の建物に於きましてはセメントの一重の壁は夏は暑く、冬は寒く、お負けに濕氣を吸収するから健康から考へて甚だ面白くない。で朝鮮の都市計畫令に依ります所の建築法を見ましても、矢張り内地同様に耐震耐火外觀といふほうに重を置いてありまして、衛生上の考慮が餘り拂はれてゐない憾みがあります。勿論朝鮮

は内地と事情が異つてをりまして、地震の心配がないのでありますから、このほうの考慮は必要がないのであります。そこで私は成るべくこの朝鮮では煉瓦を使ふことを主張する一人であります。衛生上の見地から申しますれば、この建物の構造はセメントが一番悪いやうでありまして、セメントより煉瓦が宜しい、煉瓦より土、土より植物性の板、紙のほうがいゝのであります。殊に朝鮮では各地の都市々々に行つて見ますと、この建築の式は皆異なつてをります。これは即ちその土地の請負業者、或は大工がその郷里の建築様式に囚はれてをる證據でありまして、鹿兒島の建築様式をその儘北朝鮮に持つて來てをることが少くないのであります。どうぞ私は朝鮮に於きましては専ら冬の期間が寒いのでありますから、成るべく保温に意を用ふることが必要である。それには今のセメントは餘り面白くないのであります。保温に意を用ひるといふことは個人の經濟ばかりでなくして、國家的に見ましても燃料の節糸上極めて必要なことであると私は考へるのであります。どうかさういふやうな譯でありますからして、朝鮮の都市商店街その他中小住宅の建物の様式基準といふものに付きまして

本會の如き機關が中心になられまして、もう少し研究して貰ひたいと思ふのであります。これが私の要望する所で

ります。

### 咸興市街地計畫建築敷地造成事業に就て

咸興府土木課長 涌澤元三郎君

標題に掲げました事業は、朝鮮に於ける市街地計畫事業として一種特殊なる方法を以て執行致して居りますが、其の概要を申し上げます前に極く簡単に咸興の概念に付申述べたいと存じます。咸興は當地京城を距ること北方約三百五十キロの地點にありまして、朝鮮に於ける大工場都市興南に隣接し城川江を隔て、咸興大平野に望み咸鏡南道廳、稅務監督局、地方法院其の他諸官署、諸會社、銀行等の所在地で、現在區域内人口は六萬壹千餘人、最近五ヶ年間の平均人口増加率は七%でありまして、目醒しい新興躍進を示して居ります。此の原因は多々ありますが其の重なるものは、昨日鈴木城大教授の御説明にもありました様に、咸興の奥地に赴戰江、長津江の大發電所（二發電所合せて五

十四萬キロ）の完成、之に伴ふ隣接興南に於ける各種化學諸工業の勃興及咸興は東朝鮮の中央部に位し、爲に政治的には行政の便とする所甚だ多く、従つて諸官署の設置皆此の地に集り、起業的には大發電所の完成、城川江の水質、工業用水に最適し且つ豊富なること、其の他政治的中心地點たる等を挙げ得るゝと存じます。府に於きましては之等の情勢に鑑みまして、随分と放膽的な都市的施設を施行して居りますが、之より報告申し上げます建築敷地造成事業の如きは其の一つであります。即ち人口僅かに六萬餘人の小都市たる咸興に於きまして、六百貳拾壹萬餘圓の債務を起し之を財源と致しまして、前述の事業を目下施行しつゝあるのであります。本事業は昭和十二年度以降四ヶ

年繼續を以て施行するもので、其の概要は現在市街の東端に在る威興停車場を約六百米後退移轉し、市街を此の方面に向つて擴大せしめるものであります。地域の總面積は八拾貳萬參千七百坪であります。地域全部を埋立致しまして道路、廣場、公園、市場、下水道等の設備を施し且つ土地區劃整理を行ひ、土地の壘としての利用價值を増進し、併せて市街の體裁を整へんとするものであります。而して本事業は鐵道及停車場の移轉並に土地埋立等の爲巨額の經費を要し、隨て地主の負擔甚だ、過重となること及從來の農耕地が一躍市街地となり、土地の利用價值に一大變化を來しまして、事業施行後の價額が施行前の價額に比例しない、従つて一般施行の區劃整理の方法に依るのでは公平なる換地を行ふ事が極めて至難である等に鑑みまして、區域全部の土地を一應府に於て買收し、若し買收不能の場合は市街地計畫令(第六條第二項)の定むる處に従つて收用する事に致したのであります。即ち之が特殊性のある點であります。然るに買收が至難であらふと存じました處、評價の適正なると又地主の理解よろしきを得まして、諸事順調に進み只今では僅に一名八八九坪の買收が未解決になつて居る

のみであります。

事業費豫算	
事業費總額	六、二二一、二七七圓
内 譯	
鐵道移轉補償費	一、五一〇、〇〇〇圓
土地買收費	一、八六九、三一八圓
地上物件移轉補償費	一七〇、〇〇〇圓
盛土費	一、四四六、六〇〇圓
道路費	一六四、〇〇〇圓
諸工作物費	七〇、〇〇〇圓
事務費	二四二、三四〇圓
雜費	一〇、〇〇〇圓
借入金利子	七二九、〇一九圓

事業費豫算は右記の通りです。而して事業費の財源は前申しました様に總て起債であります。其の償還財源は事業完成後の土地賣却代金を以て充當するものであります。土地賣却に付きましては償還の安全を期しまするために、東洋殖産會社と賣買契約を結びまして、完成土地の約二分の一金額に致しまして約參百萬圓に相當するものは豫め處分濟となつて居るのであります。殘地に對しましては舊地主其の他から日々豫約賣買を申込んで居る様次第

で、一般府財政には絶對に累を及ぼさない見込であります。

以上簡單ながら之を以て御報告を了ります。

## 都市照明法制定に關する提唱

社團法人照明學會  
都市照明委員會

伊 藤 大 二 君

照明學會は過去二回に亘り東京市の街路、公園、運動場等公共照明の施設の現状を調査し、本會議總會に於て之が完備統制について二、三提案する處があつた。

今夏時局下の都市計畫の見地より再び東京市の道路照明の現況を調査し、同時に大阪、名古屋、京都及福岡の諸都市についても同様の調査を行つた處、其の施設個々については逐年改善進歩の跡を窺ひ得るが未だ前提案の理想よりは遙かに遠い事が認められる。従つて其の將來の動向については此の際再検討の要あるを痛感せる次第である。

一面我國未曾有の非常時局に際會し國民の體位向上の問題が叫ばれる、今日、公園運動場の夜間利用に對する照明施設完備も亦當面の問題にして、之等は都市當局者は勿論一般市民も深く研究の上健全なる發展を招來せしむる爲、相

協力して眞摯なる努力を傾倒すべき秋であると信ずる。以下三度之等諸問題に關して報告提案を爲し、全國都市問題會議の御盡力を俟つ次第である。

### 道路照明の現状並に將來への考察

今夏照明學會各支部が我國主要都市たる東京、大阪、名古屋、京都及福岡の各市に於ける重要路線の道路照明施設實情を調査せる結果は次に示す通りである。

市	調査路線延長 (軒)	道路照明施設ある 區間の延長(軒)	普及率 (%)
東京	二〇八・二	一二九・七	六二・三
大阪	一三六・四	一四・二	一〇・四
名古屋	七三・五	三〇・四	四一・三
京都	八七・三	三〇・九	三五・四
福岡	四〇・〇	七・〇	一七・五

即ち第一表は各都市重要路線の道路照明普及率を比較せるものなるが、此等諸都市にして五〇%を超すものは殆んどない現状である。東京市に於ては其の數値六二・三%を示しをるも、重要幹線道路として選びしものは國道、指定府縣道中交通量相當大なりと認めらるゝ區間のみにして、郊外に屬する部分を調査範圍より除去したるを以つて、之亦他都市と選ぶ事なき感がある。

而も之が施設、照明狀態よる見る時は當該都市の道路照明施設として甚だ寒心に耐へぬものがある。例へば東京市に於ては、照明の普及率に於て過去四ヶ年間に一〇・三%の増加を見たるも、既往の施設については何等改良進歩の跡を見ず、重要幹線道路の照度は其の照明設備あるものに於てすら依然として極めて低く平均一ルクスの域を脱せず夜間交通の不安、輸送能率の低下し居るは眞に遺憾とせざるを得ない。一面都市防空の見地より道路照明施設を見て警戒警報の發令と同時に直ちに規則に定めらるゝ減光、遮光を實施し得るものありや或は空襲警報發令と同時に一齊に消燈し得るものありや、此の燈火管制施設に至りては一段完備統制の要を痛感する次第である。

次に東京市につき道路照明器具の型式を見るに上向柱燈型あり、下向懸垂型あり、一燈用あり、二燈用あり同一系統に於てすら短區間毎に其の様式を變へ、或は同一個所に於てすら兩側に於て其の様式を異にし、乃至は片側の缺除せる等其處に何等統制を見ない。

一方市設私設兩街路燈の同一步道上に設立せるもの或は電柱街燈と私設街路燈とが同一目的に向ひ重複施設されて居るの二重投資あり、電力經濟より考ふるも統一を要するものゝ一つである。

此の現状の依つて來る處を考察するに、我國の道路照明と云へば町内組合又は町内會と稱する一種の交隣團體の建設維持するものが大部を占め、一般も又之等團體の施設する裝飾的設備を以て道路照明なりと解する向の多い狀態である。而も設備を有する道路の多くは商店街として活動し得る區域にして、新興商店街として發展しつゝある區域には建設せられ行くも、商店街として成立たぬ區域は四年前の調査と全く變化なく、何等進歩の跡を見られず、殊に交通上重要と思料せらるゝ幹線道路に於て其の傾向著しきを認むるのである。換言すれば營利を目的とする私的團體の

施設に依る爲に交通上重要な路幅の廣い幹線道路夜間交通上危険な場所として放置されて居るの現状にある一方道路行政を律する爲の道路法規あるも、夜間の道路施設に對しては何等言及さるゝことなく、上記結果を傍觀せざるを得ぬは誠に遺憾至極である。

時恰も支那事變の發生より都市防空を一段重要視さるゝ秋に際し都市防空を第一に考慮せる都市計畫の研究さるゝに於ては、燈火管制は勿論交通上、保安上市民の福祉を計るべき公設道路照明に對する確たる方針、並に私設街燈の管理に關する根本策を確立するの急務なるを信ずるものである。

### 燈火策制を考慮せる道路照明器具の標準

道路に能率良き經濟的照明を實施せんには、下向器具にして路面へ多く投光する適當なる配光を有するものを撰定すべきである。此の型式は同時に上空への投光量少く都市暈光の原因が相當除去せらるゝを以て、都市防空上にも最適の方法と思料せらる。

然るに今回の東京市に於ける道路照明調査結果を見れば

上向街路燈が一燈用、二燈用を併せ四四%に達し、下向燈とし統計せられたるものと雖も其の大部が上空へ投光する型式のものである。街路燈が上部へ投光する事は建築物の上部を明るくし、街を賑盛に見せしむるを以て、街の繁榮を企圖する商店街の照明施設としては上向乃至上部へ投光する型式の街路燈の要求せらるゝも亦止むを得ない。然りと雖も、建築物の高さ一〇米以下の一般商店街に於ては上向燈器の必要なく、殊に交通道路に於ては照明能率の向上暈光の減少點より考慮し、懸垂式下向燈器を以て標準とすべきである。

街路燈一基に取付くる電燈數としては設備費の安價維持の簡易より一燈用を推奨すべきも、主要商店街に於ては都市美の見地より二燈用上向燈器使用も認むべきであらう。之を要するに都市の道路照明器具としては主要商店街を除き一般には防空の見地より下向器具を以て其の標準となすべきである。

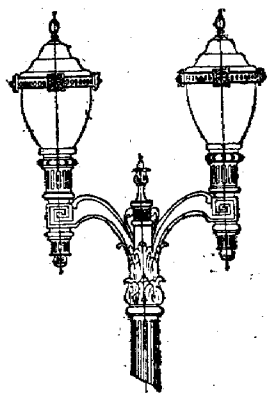
次に燈火管制に際しての街路燈の減光、遮光設備を見るに其の完全なるものは皆無にて、演習に際し、グロoupを取外して電球を交換し又は消燈し或は不體裁、非能率的遮

光裝置を間に合せに取付くるの状況である。警戒警報發令に際し、一瞬にして完全なる管制を爲さんには常時其の設備を有し、發令と同時に切替へ得る如くするに如くもの無く、之に對する推奨施設は第一圖に示す通りである。

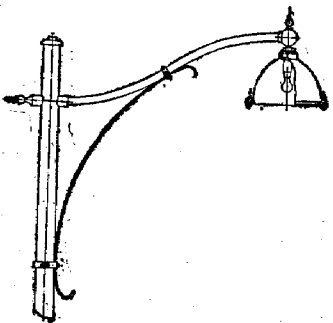
操作の簡易及外觀上、同一グループ内に二種の電球を備へ切り替へ得る如くするを良しとすれ共、燈火管制規則による上空への遮光制限より不可能であり、一方大型グローブに遮光裝置を爲すことは事實上困難である。依つて警戒

管制時に殘置するものは、第一圖に圖示せる如く獨立せる設備とし、切替點火するを推奨するものである。

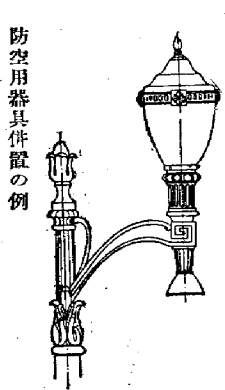
次に燈火管制規則により道路面積に對する殘置燈の割合が規定され居るを以て、一路線に於ては幅員と燈柱間隔とより殘置燈の最小間隔は決定さるべきである。依つて第二表を參考とし、常時之を決定しおき火急の處置に誤り無きを期し度い。



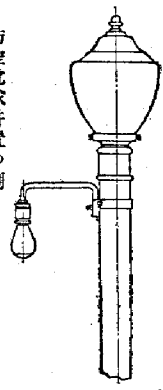
防空電球併置の例



平常時管制時併用器具の例



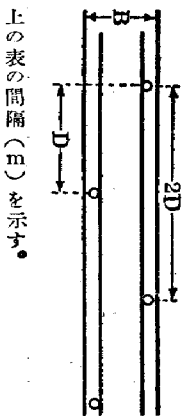
防空用器具併置の例



防空電球併置の例

第二表 警戒管制乙程度街路燈殘置基準

B 全幅員(m)	D 街路燈の最小間隔(m)		
	五燭	八燭	一〇燭
五	六六・七	一〇六・七	一三三・三
八	四一・七	六六・七	八三・四
一〇	三三・四	五三・三	六六・七
一二	二七・八	四四・四	五五・五
一五	二二・二	三五・五	四四・四
一八	一八・五	二九・六	三七・〇
二〇	一六・七	二六・七	三三・四
二二	一五・二	二四・二	三〇・四
二五	一三・四	二一・三	二六・七
二七	一二・四	一九・八	二四・七
三〇	一一・一	一七・八	二二・二
三三	一〇・一	一六・二	二〇・二
三五	九・六	一五・三	一九・一
四〇	八・四	一三・三	一六・七



上の表の間隔(m)を示す。

〔註〕警戒管制時に街路燈を殘すには燭光を小さくし、燈間隔を詰めるのが便利である。

最後に道路照明は平常状態、減光遮光の警戒管制状態、更に空襲管制下の消燈の三段に於ては點滅操作し得るを理想とするも、現在の配電方式に於ては街路燈のみ單獨に制御することは一般には不可能の状態にある。

然りと雖も不可能を以て之を放置すべきものに非ずして、少く共幹線道路の照明は交通の安全、輸送能力發揮の點より考慮し一瞬に管制し得べき施設の完備を望むものである。

### 公園、運動場の照明施設完備の問題

我國未曾有の非常時局に際し、厚生省が主體となり、最近國民體位向上の問題が全般的に取り上げられ來りたるは邦家の爲慶賀に堪へぬ處である。然るに健康的な空氣綠地に遠ざかれる都會人に對し體位向上の爲に大切な公園運動場の施設は餘りにも少く、特に其の恩恵に浴せしめる必要のある屋内勤勞者の斯かる施設に接し得る夜間の状態を考ふれば自ら慄然たるものを禁じ得ない。此の都會人の健

康の素たるべき公園にて良照明を施されたるものは東京市に於ては僅少にして、公園は夜間徒らに不安恐怖をいだかしむるのみならず、時には犯罪事故の温床たるの感さへあるは遺憾の極みである。公園附屬の運動場に於ても使用者の最も多かるべき夜間の照明施設の完備せらるゝものは殆ど無く、僅かに芝、濱町の二運動場が擧げらるゝに止り、而して其の照明状態は一平方米當り僅々一ワット以下の貧弱なるものにて、斯かる状態にては運動が却つて疲勞危険を豫想せしめる惧れなしとしない。斯くの如き低位の照明にても、其の設備あるにより夜間の利用者が逐年増加の状態を示せるを見れば公園、運動場の夜間照明施設完備の急務なるは今更贅言を要せざる處である。前回（京都）總會に本學會より提出せる報告を参考に之れが完備の一日も早からん事を切望する次第である。

### 都市照明の制定

以上、道路照明の完備統制の問題といひ、公園、運動場の夜間利用の照明問題と云ひ、之等公共照明の問題は法律の定むる處により始めて實現し得るものにして、本學會は

茲に次の提案を爲すものである。

#### 提 案

都市照明法を制定し

- 一、重要幹線道路には完全なる照明設備を爲されし
  - 二、道路照明に警報の發令と同時に燈火管制規則の定むる處置を迅速に實施し得る施設を常時完備されし
  - 三、公園、運動場には夜間照明を完備し、市民の利用を容易ならしめ體位向上の目的に添はれたし
  - 併せて本會より第四回本會議に提案の主旨に基き
  - 四、道路に面する燈火の輝度は交通安全なる程度以下に制限し、眩輝を除去せられたし
  - （註、道路照明は勿論、道路に面する商店の裸燈の眩輝も交通の安全上除去する事）
  - 五、國民精神總動員の秋に際し神社、帝國議會議事堂、官公衙の夜間投光照明を實施し、國民精神の向く所を示し國家意識を高揚せしめられたし
- 以上都市照明法の制定に對し、本會議の御盡力を切望する次第である。

## 第三 第二部會報告討議

### 一 序

### 説

前篇記述の如く、總會第一日及第二日に亘り、第二議題に關して第二部會を設け、一般會員の報告討議を行ひたるが其の内容左の如し。

### 二 報告討議内容

## 京城府の經費に就て

京城府會第一部會副議長 濱 田 虎 熊 君

我が京城府は昭和十一年四月から行政區域擴張と同時に市街地計畫令の實施に依りまして、人口は一躍四十萬より六十四萬となり、今日に於きましては七十一萬に達してゐるのであります。横濱神戸に次ぐ大都市となつたんであります。従ひましてその經費に付きましても非常な膨脹を示してをるのであります。大正三年の府制實施當時に於きま

して僅か三十七萬圓の經費でありましたものが、その後非常な膨脹を遂げまして、昭和十三年度の豫算に於きましては一千七百七十五萬圓、これに特別會計を合しますと二千七十五萬圓、當初の經費の五十六倍といふ數字を示してをるのであります。他に第一部特別經濟、第二部特別經濟を合しましたならば、二千四百三十三萬圓といふ非常に膨脹

した経費に上つてをるのであります。斯かる五十六倍もの経費を以て將來京城の都市が果して賄ひ得るものであらうかどうか、この経費は妥當性を有つてをるものであるか、これが私の研究せんとする概要であるのであります。同時に第二に於て教育費の動向、教育費の財源に付て多少申上げて見たいと思ふのであります。

昭和十三年度の豫算一千七百七十五萬圓、一般會計に於て斯の如く膨脹したのであります。大體これを如何なる方法に依つて、その多いか少いかを觀察するか、それに付ては或は内地の六大都市と比較し或はこれを人口に依つて比較する等色々の方法があると思ふのであります。遺憾ながら實務に當つてゐない關係上、その材料を持合せません。私の調べたものではありませんが、或る材料に依りますと、大體人口一人當りに致しますと、大正三年は一圓四十六錢の経費であつたのであります。所が昭和十三年度に於きましては、二十九圓四十錢に膨脹してをるのであります。斯の如く膨脹したといふことは、結局市街地計畫令の實施、所謂都市計畫令に基く幹線道路計畫、區劃整理事業の爲であります。昭和十二年度には十五圓何某にしか當つ

てゐないのであります。斯様な見地から言ひますと非常な膨脹になるのでありますけれども、一面これは京城府の資力といふものと経費といふものは必然的に並行するものであるといふ觀念を有つてをりますが故に、大體の標準を戸別税にとり京城府に於ける資力を標準としましたならば、どういふ状態になるかと申しますと、大正三年度に於ては戸別税の資料がないのであります。昭和十一年度の資料に依りますと、資力千圓當り、大正十一年は七十二圓、昭和二年五十圓、昭和七年八十三圓、昭和十二年百十三圓といふ數字を示してをるのであります。又一面京城府の生産額を標準としますれば、千圓當りに付て見ますれば、大正三年は四十三圓の経費を使つてをるといふことになるのであります。大正十一年になりますと三十六圓、昭和二年五十圓、昭和七年八十六圓、昭和十二年六十二圓といふことになるのであります。昭和七年度に於ける京城府の生産額は六千萬圓でありましたが、昭和十二年度に於ては一躍一億六千五百萬圓約二倍半といふ生産額の増加を示してをるのであります。又一面戸別税の資力から見ましたならば、昭和二年、七年、十二年と殖えてをるのであります。これ

は所謂個人所得から斯様な結果になつてをりますが、一面これは京城府に事業會社が勃興するといふ趨勢にあるのであります。

會社資本の状況を調べて見ますと、昭和七年に於て六百十一社、その拂込資本六億三千二百萬圓でありましたが、昭和十二年には一躍一千四社、その拂込資本は十三億三千六百萬圓となつてをります。斯様に所謂京城府が經濟的に於て自然人より法人に於て斯の如き状態を示してをることは、一面に於て京城府の生産増加と共に、消費都市より生産都市に移行し、經濟都市への具體的現はれであるのではないかと考へてをるのであります。

以上のやうな状況を内地の東京、京都、名古屋の三都市に比較して見ますと、所謂特別會計一般會計全部を入れ込んだ状態から見すれば、東京は人口一人當り六十二圓、京城は六十三圓、名古屋五十三圓といふ経費になつてをります。これは昭和十一年度の例でございすから、昭和十三年度の所謂京城府の豫算から比べまして、尙ほ京城府に於ては餘裕があるのではないか、勿論内地に於ては或は電氣事業、乗合バス等色々の公企業の経費が含まれてをります。

すけれども、斯様に比較致しますと、京城府に於ては水道を一般經濟として計上してをります。併し内地に於ては殆どこれは特別會計になつてをり、又一面京城府に於ては教育費は特別經濟となつてをります。併し内地に於ては一般經濟に含まれてをる。従つてこの教育費、水道費を除いて、又電氣瓦斯或はその他の特別經濟を除きました経費の負擔を比較致しますれば、これは昭和十一年度のものであります。人口一人當り東京が六圓五十錢、京都五圓、名古屋六圓、京城三圓七十錢といふことになるのであります。斯様な状況でありまして、結局我が京城府の経費は餘裕を有つてをり、又今後に於て施設する色々の事業費を支辨する餘裕があるのではないかと考へてをるのであります。勿論内地都市に於きましては公債費は非常に膨脹してをりますが、京城府に於ては、今日一般會計として公債額全部が五百萬圓に過ぎないのであります。將來市街地計畫を實施し、それから色々これに伴ふ経費を負担致しましても尙ほ餘裕ある財政状態ではあるまいかと考へてをるのであります。

次に教育費の點に付て多少申上げて見ますが、教育費

の支辨といふことに付きましては、内地各都市に於ても非常に苦心してをるやうであります。一般會計の三割が教育費に充てられてをるといふ實情から考へましても、朝鮮は御承知の如く、内地人教育、朝鮮人教育の二つに分けられてをりまして、内地人教育に於きましては獨り小學教育のみならず、女學校、中學校、商業學校、實業學校斯様に中等教育の分野が第一部經濟に這入つてをるやうな關係から致しまして、その經費の負擔も内地都市に比へまして非常に多くなつてをります。

先づ第一部經濟、小學校の經費に付て檢討を加へますならば、大正三年度に於きましては……尤も人口も少なかつたのでありますが、内地人五萬五千人でありましたが、昭和十三年度に於きましては十三萬人、斯様に増加してをるのであります。それから又兒童數に於きましても、大正三年には六千人でありましたが、昭和十三年度に於ては一萬九千人に増加し、人口増加率より兒童の増加率が多いといふことになつてをります。これは勿論朝鮮の都市に於きまして何處にもある例であります。最初内地人は腰掛的にやつて來ましたが、最近になりましては段々と腰を落着け

る、從つて最初の人口の割合は一戸當り三人幾らであつたが、四人幾らといふ數字を示してをるのであります。人口の割合以上に兒童の數が殖える状態になつてをりまして、我が京城府に於きましては、年々約一千人の兒童が増加するのであります。そこで私共は先年大體十箇年間の見透しをつけまして、どういふ状態になるかといふことを檢討して見ましたが、昭和二十年に到りますれば、毎年三十學級の學校を一校づゝ作らなければならん。さうしなければどうしても兒童を收容することが出来ない状態になるのであります。所謂京城府の第一部經濟の財政と致しましては、學校建設といふことは臨時的經費といふよりも寧ろ經常的性質を帯びてをると言ひ得るのであります。從ひましてその經常費に於きましても、大正三年が一人當り二圓二十錢の經費でありましたが、昭和十二年度に於きましては五圓三十錢といふ數字を示してをるのであります。昭和二年から昭和十二年の間の一人當りの經費と申しますと殆ど同額といつてもいい位でありまして、これを戸別税の資力千圓當りに致しますと、大正十一年に十三圓十錢、昭和十二年に十二圓六十五錢で、殆どこれは資力當りの經費か

ら申しますれば、同様の状態になつてをるのであります。勿論そこに京城府當局として苦心を拂はれた點は、大體兒童收容一學級當り幾らにするかといふことが基本問題であつたと思ふのであります。昭和四、五年迄は五十四、五人、内地の各都市の例を見ましても大體五十五人位が一學級の定員として妥當としてをつたのであります。併し京城府の實情から申しますと、どうしてもそれではいけないといふことになり、一學級六十人を收容する。この六十人は將來に於て殖やさなといふ建前から行きました爲に、經常的經費の増加といふことは、一學級の兒童の増加といふ意味に於て變更がなかつたものと考へていふと思ひます。

而して臨時的經費に於きましても、昭和二年頃に於きましては毎年平均五萬圓位の増加で済みましたのが、昭和七年頃になりまして七萬圓となりまして、その後は二十七萬圓となつてをるのであります。從ひまして經常的性質を有つ臨時的經費の支辨といふことはそこに非常に學校經營上苦心を要する點があると思ふのであります。假りにこれを内地の東京、名古屋、京都等に比べて見ましても、東京は人口一人當り二圓八十五錢、京城二圓七十五錢、名古屋三

圓十錢、斯様な状態にあります爲に、京城府に於ては經常費負擔に於て約七割、十割餘計に支出してをると言ひ得るのであります。勿論これは職員俸給の加俸などもありまして、それが經費を増した原因であると考へますけれども、斯様に小學校費に於て負擔をしてをるのであります。而して中等學校費に於ては、毎年人口一人當り二圓十錢乃至二圓九十錢の經費を支出してをるのであります。これを内地の都市に比較して見ますと、東京市は一人當り十三錢、名古屋市は六十五錢、京都市七十八錢で、中等學校費に於て斯かる懸隔があるのであります。

斯様な見地から申しますれば、私はどうしてもこの第一部經濟の將來の經費問題を考慮する上に於て、中學校、女學校、商業學校その他の中等學校はどうしても、これを本來の使命に基きまして、道立に移管する必要がある。これは當然の結果ではないかと考へるのであります。

時間も參りましたから簡単に申上げますが、同時に教育費の財源に付きましては從來戸別税を以て唯一の財源としてをつたのでありましたが、第三種所得税が創設されまして、附加税に變更され、而も補助金として年々増加

する見込みはない状態であります。又先程申上げましたやうに、内地各都市は所謂都市に於ける所得を以て教育費の支辨が出来ますけれども、朝鮮の教育費は組合費といふ建前から戸別税のみを以て支辨する。従つて個人のみである所謂法人に對しましては何等賦課することが出来ないのであります。京城府の如きは年々會社が非常な勢ひを以て増

加して行くさうして會社の事業収益もある實情がありますが、全然法人より税金を徴収することが出来ない、所謂教育費の財源を得ることが出来ないといふことは、朝鮮の教育費問題を解決し、考慮する重大な問題ではないかと考へるのであります。

以上を以ちまして私の報告を終ります。

## 朝鮮に於ける都市經費の動向に就て

京城帝國大學教授 小 田 忠 夫 君

只今御紹介に預りました小田でございます。私の御報告申上げる題は「朝鮮に於ける都市經費の動向に就て」といふのであります。それはこの報告書の中にその内容を詳しく書いて置きましたから、唯こゝではこの報告を出すに當つての考をちよつと申上げて見ます。

私の考察しようと思つたことは、朝鮮に於ける都市の經費の社會的な傾向がどのやうになつてをるかといふことを考察しようと思つたのであります。その結果に於て

非常に一般的な事例を以て、抽象的な机上論でありますからして、公共的な實務に當られてをる皆さん方の前に出すには非常に不完全な點があると思ひますが、その邊は御勘辨を願ひまして、大體の結論を申上げることに致します。私の見ましたのは、朝鮮の都市の財政に一般社會に於ける一般的な傾向がどの程度に反映してをるかといふこととそれから朝鮮の都市の財政が、どのやうな特殊な性質を有つてをるかといふことを見ようとしたのであります。さ

うして第一に一般的の傾向を見る爲に色々な材料があるのであります。大體都市に於ける人口の増加、財政の膨脹所得の集中傾向といふことを取りまして、それが近代都市の傾向になつてをるかどうかといふことを見たのであります。私の使用しました統計の範圍に於ては、朝鮮の都市の人口増加は内地或は先進國家ほど激しくないのであります。併し漸進的ながら進んでをる。例へば大正九年の人口調査から昭和十年の人口調査を見ますと、府内人口は大正九年は全人口の三、四%に過ぎないのであります。昭和十年には七、〇%に進んでをります。この人口の集中傾向と都市財政の膨脹は關聯して來ますが、その財政の膨脹も矢張り、これに劣らずそれ／＼増加してをるやうであります。大正九年度に於て、全鮮地方費に對する都市經費の割合は九、一%に過ぎなかつたのであります。昭和十一年度の統計を見ますと一九、八%約二割に進んでをるのであります。

斯ういふやうに人口、經費の増加といふ一般的傾向の外に、所得の集中といふことは、人口の集中よりもつと激しいと言はれてをるのであります。按て朝鮮はどうなつて

をるかといふことを見る爲に、朝鮮の所得統計を見たのであります。これに依りますと矢張り全鮮に於ける都市の所得割合は非常に大きい割合を示してをる。例へば第一種所得額は八四・九%、第二種所得額は九二・五%第三種所得額は五五・一%といふやうな譯で、全體を通じて見ますと約六割近くの所得が私の調べた時は十七府でありましたが、この十七府に集中してをるといふ傾向を有つてをります。斯ういふ結果に於て朝鮮の都市も亦現在の社會一般の傾向に合致した性質を有つてをると見られますが、然らば朝鮮都市の經費の特殊傾向はどういふ所にあるかを見ようと致しまして、甚だこちづけがましいことではありますが、大體現在に於て朝鮮經濟一般の特殊性と言はれる點を見ますと産業が一面に於て非常に低い農業的な段階でありまして、さういふ傾向が強いと同時に更に他面に非常に高度化された内地に於て最も進んだ企業が、その地盤を利用してこゝに作られてをる、この低産業と高度産業が並存してをる傾向であると言はれてをります。

第二の傾向としては、朝鮮の産業と内地の産業との相剋それを如何に調整したらいいか、これが現在朝鮮に於ける



經濟の特殊なる問題と言はれてをりますが、そんな悩みが同時に財政に於て或は幾分あるのぢやないかといふことを見ようと思ひまして數字を擧げて見ましたが、さうするとこの大都市所得の關係を第一に見ますと、その所得の分布状態或は經費の都市間の配分關係或は所得と經費に對する割合或は稅收入の經費に對する割合等を捉へて見たのでありますが、それに依りますと、大都市といつても京城が最も優れてをりまして、それ以外の都市は京城と比べるとその差異が非常に激しいといふことが分るのであります。所得の分布状態なんかを見ましても、大體に於て京城が全富力の半分近くを有つてをる傾向が見られるのであります。その他の都市は非常に低い割合であります。低度産業と高度産業が並存してをるといふことが、特に激しくこゝに現はれてをるのではないかと考へます。この點はどの社會に於ても現はれる相であります。朝鮮に於ては特にそれが激しいのぢやないかと思ふのであります。それらの數字は報告書の中に申上げて置きましたから、それに依つて御承知を願ひたいと思ひます。

次に朝鮮産業の特殊性として、内鮮間の産業の相剋とい

ふやうなことがあるのであります。この問題も都市財政の中にどういふ風に含まれてをるかといふことを見たのであります。それはつまり負擔の問題に於て、内鮮間の負擔關係はどうなつてをるかといふことから見ようと思ひましたが、その關係は一般經濟に關する限り、特別經濟は別と致しまして、一般經濟に關する限りに於て可成りその懸隔が激しいといふことが見られるのであります。

さういふことからして、この朝鮮に於ける都市經費の問題もこれらの二つの關係を調整する。つまり經費に於ける支出の部面、負擔問題は兩者の間に非常に懸隔があるといふやうなことがある。更に又大小都市に於ける施設が違つてをるといふことからして、これらの間の調整をし、その施設がいゝならば、その儘現存せしむる方法を取り、大都市京城から見ても必要であるならばその儘にして置くとか或は又それが不合理であるならば、それを調整する方向に進まなければならんと考へられるのであります。さうしてそれと同時に朝鮮に於ける産業の開發といふことから言へば朝鮮の民度を向上さして、負擔の合理的な調整を圖つたならばいゝぢやないかといふ簡單なる結論を見出した譯であります。

ります。洵に簡單でありましたが、これだけ申上げて置きます。

ます。

## 受 益 者 負 擔 金 に 就 て

元山府會議員 南 百 祐 君

受益者負擔金の問題は、朝鮮に於ては初めてであり、私も平素研究したこともなく、又それを研究するやうな學究的の頭も有つてをりませんが、唯平素府會に於て都市の經費に付て論議してをる一端に付て、事務局に若干の私見を質疑的に言ひたいといふ位のことです。ここに立つた次第であります。故に平素の研究を皆さん權威者に發表するのではなく、直感したことを皆さんに懇へて、これが我が朝鮮に於ける都市の聲となれば幸ひと存じてをります。

御承知の如く都市計畫には必ず道路網とか區劃整理とかが行はれるのであります。この中、道路網に付ては幹線道路とか枝線道路が新たに計畫され、その性質に應じてそれ〳〵稅を負擔するのであります。道路に面してゐる府民が負擔すべきものは所謂受益者負擔金であります。これ

を受益稅とか坪數割とか言ひます。これは内地に於ては市條例、朝鮮に於ては各府條例に現れてそれ〳〵賦課するのであります。私は數年前から内地の五六萬乃至七八萬の都市を主として見てをりますが、それらの都市では受益稅條例によつて賦課する所もあれば、或る所では附近の一般受益者に寄附金として負擔させるものもあります。併し都市計畫によつて寄附によつてその計畫が確立することが出来ない爲にどうしても條例によつて賦課しなければならぬことになつてをります。その條例によると内地方面では全體の費用の約五割を受益者負擔金として受益者に課稅し他は起債をする。その施行年限は最長が五ヶ年最短期は二、三年であります。而して都市の發展又都市計畫を促進する上に於て大なる助けになるとの理由から最短期を以てやるのが

通例のやうに見受けられるのであります。これに付て私の意見があります。御承知の通り都市が發展する半面には中産階級以下の生活上の抵抗力の弱い者はその都市からどん／＼退却しなければならぬ。即ち新たに道路を作ることになれば受益税を一時に負擔しなければならぬ爲に負債が殖えて来る。例へば幹線道路に隣接した所に住居するものは一時に幹線道路の舗装費とか改修費の半額を負擔してそれを二、三年内に拂はなければならぬ。若しこれを拂はなければ、條例によつて強制執行も受ける。已むを得ず今迄安定して生活してをつた土地を捨てて生活力の低い所に退却するのが通例であります、これは都市計畫上の一缺陷ではないかと思はれます。

そこで私は道路網に對する受益者負擔金は低利資金を國庫より借りて、十五年二十年の長期間に亘つて受益者に對し年賦で拂はせることにしたならば極めて安全にその土地に住むことが出来、又假令退却する者があるにしても幸福を蒙つて退却出来ます。左様な狀況でありますから、受益者に對する負擔金はなるべく五割以内に縮めて貰ひたいのと課税年限を最長の年賦にして貰ひたい。少くも十年か

ら十五年位に延長して貰ひたいといふことを痛感するのであります。

次に平素私等の感ずることは、道路を舗装されることはそこに面してをる土地所有者又は建物所有者が利益を受けるのであるから、受益税を拂はなければならぬといふのであります。併し實際上道路を舗装して貰つた爲に却つて迷惑を感じるやうなことが大分あります。成程いいことではありまするが、半面には府民の中で迷惑を受ける者も大分ある。而してこれが實際上の利益の相當の部分を集めるものはどういふ者かといふとそれは交通業者詰り自動車業でありますから、私は數年前より道會或は府會に於て、これら、交通業者にも同じく受益税をかけるやうな法令或は具體的に法的にこれを具現することは出来まいかといふことを屢々主張した次第であります。昔から斯ういふことを言つてをる。絹の着物を著てをる者は養蠶家でなくて、他の人であると、これと同じやうに道路に面してをる者が受益税を拂ひますが、本當の受益者は他にあることが、都市計畫上の道路網に付ての一つの矛盾ではないか、従つて自動車業者も受益者として課税するのが本當ではないかと主張

したいといふのであります。

以上の二點に對して朝鮮に於て法令となつて現れたなら

ば仕合せと思ひ、一言私見を申し上げた次第であります。

### 非常時局下に於ける都市の新經費に就て

元東京市助役  
元秋田縣知事

菊 池 慎 三 君

貴重なお時間を私が再び費しますことは恐縮であります。が、兎に角申込が、ないさうでありますから、時間迄の間先程申上げました問題の残したことを一二申上げたいと思ひます。

都市の經費は必要な經費でなければならぬ。これは市制に明文があるのであつて、私はその必要な費用を支辨するのに税外収入を以てし尙ほ足りない場合には税金を取つていい、これは市制の原則になつてをります。その必要不必要は人によつて議論が違ひます。そしてその必要な經費は時代や時によつて色々變つて来る。必要な經費に關する市制の條文と市制第二條の公共事務の規定とは相互相對照して御覽になると、文字上では、必要な經費は公共

事務に相當するやうに所謂委任事務は法令、勅令によつて市の負擔に屬する費用のやうに見えるのであります。が、法令勅令によつて市に負擔を命じたもので、必ずしも固有事務で公共事務でないものもあります。その兩方の規定を相對照しますと、その見解は特に相違つたものぢやないか、それでよく都市問題に付て固有事務論と委任論が國家との間で補助金、交附金を要求する場合の政治上の言葉として常に利用せられる言葉なのであります。併し現實の場合に於てはその事務、新たに必要の生じた經費に付ては必ずしも固有事務、委任事務の區別を論じてをれないものではないからうかといふやうな感じがするのであります。

例へば最近時局によつて必要を生じた費用を回顧して見

たい。事變が起つてから後、防空に關する費用は總ゆる手段を以て國民がそれに參加しなければならぬ。その防空、大きい意味で國防、言はば國防は國の費用、國家がそれを擔任してをればよい。併しこの間の戦争の状況は單に皇軍が戰つてをるのではない。固より國民もそれに參加しなければならぬ。況や國民の作つてをる公共團體もそれに加つてやらなければならぬ。防空費が國家から命令した所謂委任事務であるが、別に委任される費用ではない、委任されるとされざるとに拘らず、今日に於て防空に關する相當の施設をやる、都市が實行する防空關係の費用には自ら限度がありますが、防空に關する費用は都市として極めて必要な費用であることは疑ひないものであります。で勿論斯様な制度が漸次整備するに付て、國家は防空法を整備する、或は防空法の施行に關聯して防護團を施設する、そして都市の費用を以て實行するに付て、或るものは國費が直接やり、或は國費がこれを補助するといふ制度の整備が漸次なつて来るのではないか、そしてその時分にはその費用に付ての國家の命令の仕方或はこれの費用は公共團體の負擔であると命令して來ると思ふが、その制度の出来る

のを待つてをれない。事變が起つて以來各都市がそれのその分に應じて盡してをられる状況は大したことを思ひます。又軍事救護に關する色々の事業に付ての色々の費用は、軍事救護費、軍事扶助法といふ制度は國として無論定つてをる。その意味に於て國政事務である。併しこれも單に國政事務である軍事救護・軍事扶助・軍事扶助等は國の仕事である。公共團體の都市としてそれはしないでもよいといふものではない。都市に於ては、その場合にそれを補助し、援助し、或は軍事扶助の費用、軍事救護の費用等に付ては、これは法律の規定によつて執行することが出来るが、時として實情に適しないものがある。或は制度に洩れたものがある。或はその取扱等に何等か不満足な點がある。それはその部分に付て民間の色々の軍事救護の團體に於てもそれの施設をするのであります。而も尙ほそれら色々のものに付て洩れる所が満一あるとすれば、それは都市公共團體が當然國家の爲に盡すべきものである。又私は現實に都市に於ては盡してをられるに違ひないと思ふ。町村に於てもその通りであります。さういふことは國家非常時に於ては法律規定が何であらうと、それよりも現に必

要なことは疑ひないのであります。併しそれが爲にうんと増税してもよいといふことにはならない。その緩急順序その他の點に付ては十分に審査し、そしてその都市の力に應じて施設をする、これは現に行はれてをる。で行く／＼はさういふことが恒久的制度として漸次納つて行くであらうと考へます。これが都市の新經費に就て、さういふ傾向もあるといふことを申上げたかつた一つであります。

もう一つは斯ういふ傾向が出て來てをる。最近の色々の事柄は長い間、例へば市に於て職業紹介の事業は市町村に經費させてをつたが、それが國營に移されて、國營事業になつて來た。それならば職業紹介問題に付ては市は無關心であつてよいが、市町村公共團體は黙つてをつてよいと言へば、私は必ずしもさうではない。職業紹介といふ仕事は國營になつた、職のない國民に何等か職業を與へなければならぬ。職業を心配しなければならぬことは疑ひないことである。併しながら時局によつて産業上の變動が現れ、所謂轉業問題、失業問題が起る。これに付ての扱ひ方、これは國が極力を盡してをりますが、國だけの力では目的を達し得るものではない。國家の所謂總力戰、國民全體の

力でない、豫期以上の成績を發揚せしめることは出来ない。軍需工業者もそれ／＼心配する。民間の各事業主もそれ／＼相當に考へるのでありますが、それと同様にやはりそれらの間の斡旋をし、或は原動力となり、その他の諸施設をなすといふ所に市町村の任務がある。國民の如何なる者にも、職業を與へそして適當に營ましめることは總ゆる政治の根本であります。市町村公共事務の當然の範圍と考へてよい。職業紹介事務が國營に決定したからといつて、廣い範圍に於ては職業紹介事務は市町村からなくなつてゐないといふことを申上げるのであります。

それから尙ほその職業の問題に付ては、今日から後に於ては、經濟産業の情勢が變つて來た。都市經濟が複雑になつて來た。それに付て國民の職業分配を考へなければならぬ。東京などでは以前は、例へば景氣のよい時分には工藝技術學校卒業者は各事業方面で自由に揀擇出來たのであります。今日は學校卒業者の分配に付ては政府で心配しなければならぬ。行先の職を考へてやるといふ形になる。従つて職業分配に付て制度そのものを根本に考へ、學校配置に付て、どういふ種類の學校を作るかに付て考へるので

ありますが、さういふ事柄も國民全體に付て適當な分配をしなければならぬ。又もう一方から申しますと、これは寧ろ第一議題に屬するかも知れませんが、所謂都市計畫の基本問題として大都市、小都市間の人口分配を如何様にするか、農村人口問題をどうするか、それらのことを考へた場合には農村はその農業に於て國民の職業を求めやうとしても中々容易でない。或は不可能とは言へないとしても中々困難である。農村に於ては増加する人口を吸収する力は少い。さうして見ると農村振興と申しても、農村を農業によつて振興させることは出来ない。工業の地方分散でありますが、農村の本質を失はしめないで、小都市のやうな形にする。そして今は市でなくても將來市となるかも知れない、市の母體となるやうな町……將來人口が増加し色々の工業が發達して來れば必ず町になる。後々に市になるやうな状態になる。これが地方小都市になる。而して地方の農村中心である小都市を振興せしむべきものである。所が今迄内地に於ても朝鮮に於てもさうであつたと思ひますが、人口が自然に三萬位になつて來ると市制施行を申請して初めて政府はそのことを考へてやる。さういふことよりも人

口の分散問題、國民の職業問題だけ考へて見ると、寧ろ積極的に將來市となり得べきものに付ては、その發達方法を講ずべきものではないか。

日本の人口は世界的に土地の面積に比較して多い。又日本の國都中に増加する人口を從來の如く都市に集中させることは面白くないのでありますから、さうすれば地方の中心となる小都市それに付て何等か積極的方策を執らなければならぬ。所が今迄は無計畫・無方針で唯市制申請を待つて處置してをつた。それを計畫的に改めて行くのが都市計畫の問題ではないかそこに行く第一議題になつて了ふのであります。さういふ意味合で經費をその地方の小都市に於て考へる。又政府の側に於てもそれに對する積極的な指導計畫を立つべきものではないか、經費はさういふ方面に漸次膨脹増加して行つて、日本國民の主要な部分をさういふ意味で地方の中心都市に吸収し得るならば、國家全體の人口分配・職業分配も適當に出来るではないかと考へる。

段々時間が参りましたので、これだけ申上げて終りと致します。

## 公企業會計に就て

大阪商科大学助教授 竹 中 龍 雄 君

公企業會計のことに付て御報告させて頂きたいと思ひます。何故斯ういふ題目を選んだかと申しますと、實は私のほうの機關紙に一度斯ういふ短かいものを取扱つて見たのでありますが、これを學問的に研究して見る時間がありませんでしたので、これに關聯して考察しなければならぬものがあるのであります。それは公企業會計に付てのことです。今一つは公企業の會計検査のことです。今日は公企業會計に付て補足的の意味で簡單に申上げて御報告させて頂きたいと思ふのであります。時間も限られてをりますので……或は専門的に一々御説明申上げなければならぬ点があるかも知れませんが、時間の都合上その専門語は常識的の言葉で説明することを省かして頂きたいと思ふのであります。

公企業會計に付ては色々な見地からこれを研究すること

が出来ると思ひます。併し何と申しても一番重要なのは、會計學的研究と行政學的研究であるのであります。前者の會計學的研究は、東京商科大学の太田哲三教授が最近政府の委員をせられまして、實際の経験を土臺にして、非常に貴重な貢獻を爲されてをります。所が行政學的研究の見地から見た公企業會計に付ては私の寡聞の爲とは思ひますが、皆無のやうに考へるのであります。而してこの公企業會計は、會計學的研究だけでは問題が解決されない、是非行政學的研究が必要となるのであります。さういふ意味で行政學的問題はどうなるかといふことに付て簡單に報告させて頂きたいと思ひます。

もう一つお断りして置かなければならんことは、私は學徒としての立場からして主として、その問題に付て理論的な研究を致し、今一つは我國の現行の慣行、制度なりに付

て批判的な研究をして見たいと思ふのであります。時間がありませんでしたならば、後に日本の制度に對して批判を致し、而して如何にしたらいふかといふことに付て申上げるつもりで準備して参りましたけれども、或は後の點は觸れることが出来ないかと恐れてをりますが、兎に角出来るだけ報告させて頂きたいと思ひます。

私企業は利潤の獲得を基本目的としてをりますけれども、國家その他の公共團體の基本目的は収益の獲得に非らずして、公共利益の充足といふことであります。従つて國家その他の公共團體の會計整理に於ては原則として損益計算の必要が存しないのであります。又官公企業に於ても収益の獲得はその經營上の基本目的を構成してをりません。併しながら官公企業は國家又は地方自治體の財政政策上の必要からして収益主義的に經營されることがあり、尠くともその自立的經營を行ふのが普通であると思ひます。然るに官公企業の収益主義的經營に對して公共統制を行ふ爲には官公企業に付て損益計算を行ふことが必要であります。又官公企業の自立的經營を行ふ場合に付て見ましても資本主義社會に於ては一時的損益の發生は不可避であります。

現にロシアに於てもこの損益發生といふことを分けてをるのであります。況や資本主義國家に於ては一時的損益の發生は不可避であります。斯かる損益が若し發生し、自立的經營を行はんとするならば、次の會計年度以降に於ては可及的速にこれを補正することを要するのであります。併し矢張り損益計算の實行といふことが必要であります。若も損益計算の實行をしなかつたならば、自立經營と言つてをりますけれども、その中に理論上からして容認し得ないならば、色々の要素が這入つてをります。損益計算を行はないならば、そこに何と申しますか、悪い意味に於て利用し易いのであります。この方面の準備が日本に缺けてをるのはないか、公企業といふ方面に付て、實體方面に對する調べが少し足りない。さういふ點が缺けてをるのではないかと思ふのであります。この點は後に少しく觸れて見たいと思ひます。唯私企業に於てはその基本目的たる利潤獲得の最重要手段として損益計算が行はれるのに對して、官公企業の經營に於てはその公共統制の必要上並にその行政効率若くは經營能率増進の一手段として損益計算が行はれるのであります。同じことを行ふが、その指導目的が違つて

をるのであります。又別な點に付ては、私企業に於ては固定資産の減價償却が行はれてをりますけれども、公共團體に於ては固定資産の減價償却を考慮しないのが普通であります。これは理由のあることであります。然らばどういふ理由があるかといふことに付て御説明申上げたいのであります。時間がありませんから、これは省略させて頂きます。一般論としては左様でありますけれども、官公企業に付ては減價償却といふことは矢張り私は必要であらうと思ふのであります。行政事務一般に付ては減價償却といふことを考へる必要はないと思ひますが、公企業會計に付てはその必要が生じて來るのであります。細かい點に付ては残念であります。省略させて頂きたいと思ひます。

斯様にして官公企業會計は形式的乃至技術的に私企業會計と近似してをるのであります。併しながら官公企業會計と私企業會計との間には若干の點に付て基本的な相違が認められるのであります。先づ第一に考へ得る點は、資本の調達方法並に利益の處分方法の相違を指摘することが出來ます。私企業に於ては自己資本が中心的地位を占め、借入資本は附屬的のものに過ぎないのであります。官公企業

の資本の大部分を構成してをるものは、その利用に付て制限が存してをる所の借入資本であります。その結果私企業に於てはその資本の利用が自由であるけれども、官公企業はこれと全く趣を異にして、その資本の利用に付て多くの制約を受けるのであります。利益處分に付て見ましても、官公企業は私企業の場合には認められない所の種々の拘束を蒙るのみならず、處分された利益の歸屬者に付ても兩者は必ずしも一致しないのであります。例へば官公企業に於ては私企業に於ける株主のやうなものは存在致しません。假令利益處分の結果収益が當該公企業の外部に放出される場合に於ても（多くの場合は利益處分の形式を採らず豫算を以て豫め當該公企業の經費たらしめられるが）その歸屬者は國家又は地方自治體の一般會計若くは他の部課に過ぎないのであります。決して個々の私人に歸屬致しません。官廳會計と私企業會計との根本的相違の一は、官廳會計に於ては基金勘定並に豫算勘定といふものが設けられるのであります。所が私企業に於ては最近斯ういふものが設けられるのであります。併しそれは不可缺のものではなく、任意的なものであります。その點に於て違ふのであります。

こゝに注意すべきは損益計算の行はれる官公企業會計に於ける基金勘定並に豫算勘定は損益計算の行はれない一般官公營事業若くは行政事務の會計に於けるそれと趣を異にしてをるのであります。これに付ても細かいことは省略させていただきます。

又官廳會計は金錢會計であるけれども、私企業の會計は金錢會計に限局されてをらないのであります。その結果私企業に於ては損益計算を行ふ爲めに財産計算が行はれるのであります。所が官廳會計に於てはそれは問題にならないのであります。一般論として左様に言ひ得るのであります。但し官公企業會計はこの點に於て官廳會計を離れて私企業會計と非常に似通つてをるのであります。これらの點に付ても申上げたいのであります。時間がありませんから省略させて頂きまして、報告のほうでそれを補ひたいと思ふのであります。

もう一つ重要な點は、企業簿記と複式簿記の關係であります。これは屢々同一視されてをりますけれども、兩者はこれを區別して考へなければならのであります。現に公共團體の會計整理法として複記式は日本で行はれてゐない

のであります。ドイツその他の國に於てはこれが行はれてをるのであります。日本でも明治二十三年以前には複記式を行つてをりましたが、兎に角それから以降は止めまして、複記式は採用しないやうになつてをります。左様な譯で公共團體でもその會計整理法として複記式に依つてをるものが多いのであります。企業簿記に依つて官公企業の會計を整理してをるものは僅少であります。併しながら公企業會計の整理は宜しく企業簿記法に依るべきことは言ふ迄もないのであります。勿論公企業會計は會計技術でなく、一つの行政技術でありますから、私企業會計をその儘鵜呑みにすることは出来ないものであります。この區別をはつきりしないので失敗した例はアメリカ及びドイツに非常に其の例が多いのであります。これらの事例を學べれば非常に興味のあるものがありますが、これも時間の都合で省略させていただきます。

ドイツの有名な會計學者であるワルプや私の見た限りに於て最も優れた本を書いてをりますテイニス氏等が指摘してをりますやうに、官廳簿記法に依りまして一定の工夫を施します時に損益計算が可能であります。現にドイツ

に於ては歐洲大戰前より企業會計に適應せしめられたる種々の形式の官廳簿記法が考案されてをります。さうしてこれを學者は *gehobene kameralistische Buchführung* と呼んでをります。何と譯していいか、今の企業簿記に適應せられた官廳簿記といふ意味であります。これに對して公企業の本質に適合するやうに私企業簿記の修正せられたものを *angepasste kaufmännische Buchführung* と總稱してをる。

斯ういふ風に趣旨に於て違つてをりますが、その他のことは一切省略させて頂きます。それならばこの二つの内どれを採つたならばいいか、これは一概に斷定されなと思ひます。何故かと申しますと、各種事業の技術的、經濟的な特殊性なり又は企業の規模如何に依つて變るのでありますから、どつちがいゝとは言はれない、一概にこれを斷定すべきではないと思ひます。現にナチスドイツに於ては市町村制の中に於てどちらを採つてもいいといふ風に決めてをります。それは非常に面白い遣り方で、その形式はどういふ風にするかと申しますと、アイゲン・ベトリープのベトリープス、ザッツングに於て *gehobene kameralistische Buchführung* 若くは *angepasste kaufmännische Buch-*

*führung* の孰れかを撰び政府の承認を求める。理窟から言へば企業簿記といふものは採らないのでありますし、併し絶対にさうしなければならかと申しますと、そこ迄は會計學的、行政學的な研究から見ますれば、企業に關する限り一様に私企業であらうが、企業簿記を採るといふ結論に達するのであります。所がこれは行政的の技術でありますから行政事務一般と調和を採らなければならのであります。さういふ意味に於きまして寧ろ官廳會計を採るのがいいのではないかと思ひます。時間もありませんから、それらの詳しいことは省略させて頂きますが、唯この問題を基礎として私が主張して見たいと思ひます點は、斯ういふやうな行政技術の問題は法律やなんかで公定さるべきまのでなく、大體の標準、基本的な目的指導原理を與へるならばその指導原理に基いて行政技術の發達といふやうなものは、寧ろ市町村に發達さすべきである。さうでなくして例へば勅令を以て一定の豫算形式まで規定して了ふと、政府のほうで以てそれを變へることが出来なかつたならば、行政技術の發達は止つて了ふのであります。さういふ傾向が財務技術にも見られるのであります。過去五十年の歴史に付

て見られるのであります。これを部分的に實證して見たいと思つて努力してをりますが……況んやさういふ行政技術の點まで政府で規定して了ふといふそれ自體に付ても色々な缺陷が考へられますが、そのことに付ては既に時間も參

## 羅津府土地増價税に就て

朝鮮總督府内務局 高橋貫右君

羅津府の土地増價税に就て御報告申し上げます。

昭和十二年六月羅津府尹の申請に對しまして朝鮮總督府はこれを認可しました。外國の事例は別として内地外地を通じて土地増價税を設けましたのは大連及び羅津に於てこれを見るのみである。朝鮮に於て初めて土地増價税を新設しなければならなかつたといふのはどういふ理由か、ここに羅津府の特異性が見られる譯であります。滿洲國が發達しますに連れて我が國の政治經濟軍事各方面の一大變革を見、昭和七年羅津を京圖線の終端港として指定するといふことが發表になりました、從來の一寒村が一朝にして表立

りましたので、どんな缺陷があるかといふことは省略さして頂きたい。唯行政技術に付てその社會的理由を容易ならしめる爲に色々な措置を工夫して頂きたいのであります。

關になるといふ非常な變化であります。そして滿洲と内地との交通機關の關係を見ても、下關から大連を経由する交通路に對し、下關・朝鮮釜山を経由する路線のほうがより近い、更に又敦賀・羅津を経由して新京に到る線が最も近いのであります。滿洲と内地とを聯絡する最もよい方法は交通時間の短縮にあるといふことが言へるのであります。その他羅津はソヴィエト・ロシアに接壤してをり、ウラジオストクには飛行機で僅か二十分で到達することは、羅津の特異性を物語るものであります。

羅津は國策上の必要に依り創設したる都市であります

關係上、その建設については政府に於ても強力なる助成援助をなすこと勿論であります。公共團體としての存立上相當なる財源を必要とするのであります。即ち人口三十萬を目標とする市街地計畫、更に人口八十萬を收容するに足る都市の建設のためには巨額の經費を要するに拘らず、新設都市である關係上その財源は極めて薄弱であるのであります。經常收入の基本たる府税について之を見れば總額僅かに四萬圓、他の府の經常歳入に對する府税の割合約三〇%に對し羅津府は僅かに一%に過ぎず、又府税中の地稅附加税について見ましても、府内六方に對する税額は四百二十六圓に過ぎない狀況であつたのであります。他の稅收入について見ましても土地區劃整理施行中でありましたる爲、假建築は從つて撤去せねばならぬ運命にあり、工事施行済の地域にも急速に本建築をなし難い事情がありましたる爲、住民の生活が安定せず生産の見るべきものも無く、經常經費を經常歳入を以て支辨することが困難なる狀況でありましたが、歳入缺陷補填の途は一に低廉なる地價の修正を行ひ、少なくとも他府と同率の地稅附加税を賦課すべきではあります。特に羅津に限り急速に實現し

難い爲之に代るべき方策として同府が終端港として決定したるに依る土地價格の昂騰に對し、所有者に應分の負擔をなさしめるは負擔の均衡を圖るためにも必要なりとして、本税を創設せられたのであります。次に増價税の内容であります。本税の要件と致しましては、所有者の行爲に基かずして生じたる土地の増價即ち不勞費増價を客體とし、その増價額に比例して所有者に賦課するものであります。昭和七年八月二十四日終端港發表當日の現在に於ける土地の價格と、本税創設を致しましたる昭和十二年四月一日に於ける土地の價格との差額を増價額とし、之に對し課税するものであります。即ち昭和七年に於ける當時の民有地坪數九百六萬六千餘坪、價格八百二十四萬圓この坪當平均九十一錢、中その半數は轉々所有權を移轉してをります。投機的取引即ち思惑買の最盛なる時代に於きましては、數萬坪の土地の賣買が全然實地を見ず單に路傍に於て、圖上の目的地を指摘して取引せられ、一筆の土地が一日の中に數人の手を轉々するといふ事例も少なかつたのであります。その爲に四、五十錢に過ぎなかつた土地が、所有權を轉々する間に見る／＼引上げられ、數日にして二、三十圓

に達するものも相當あつたのであります。之が爲昭和十二年本税創設當時に於ては時價三千八百二萬餘圓、坪當四圓強に増價してをり、その差額二千七百十圓を不勞増價と見て課税標準とするのであります。尤も土地を取引しまする爲に要したる登録税、不動産取得税、區劃整理負擔金等は増價額より控除したのであります。

課税の地域であります、本税を賦課しまする地域は羅津府一圓ではなく間依洞、新要洞、臨視洞及明湖洞に限定し、新水洞、草島洞、羅津洞及新海洞は之を除外したのであります。即ち除外しました四ヶ洞は地形上から見ましても、相當隔絶してをり將來市街地計畫を實施致しましても、都市たるの要件を缺いてをりまする爲、全然思惑賣買が行はれず、地價の昂騰を來した事例を存しなかつたのに由るものであります。

それから賦課の時機であります、昭和十二年度から五ヶ年間賦課することにしてをります。五ヶ年間と限定しました理由は、本府に於ても成るべく速かに市街地の地價修正を行ふことになつてをります關係上、五ヶ年経つ間には市街地計畫が進行しまして、都市の堅實な發展が豫想され

るであらう。又國策として羅津を中心とした發展策も考へられてをりますから、その方面から考へても、土地増價税を廢止しても差支へない程度の財政状態になると考へられたに由るのであります。

次に納税義務者であります、土地に關する所有權の移轉がありましたる場合、讓渡人は勞せずして過當の利益を取得するのでありますから、讓渡人を納税義務者とするのを適當とするのであります、數年前に遡及して課税することは課税技術上困難であるばかりでなく、課税の原則に反しまする爲、本税を創設致したる際に於ける土地の所有者を納税義務者としたのであります。賦課期間中に所有權の移轉がありました場合は、後の所有者を納税義務者とするのであります、之は賣買に際して土地増價税を加味した價格で取引されたものと認めましたのと、徴收上の便宜上に依るものであります。

課率は毎年増價額の千分の五即ち五年間に於て千分の二十五を徴收するものであります。増價額を二千七百十萬圓と致しました場合平均一坪當の税額は一年五厘一毛強、増價額一圓に對し一厘八毛強となり五年間を通じましても一

坪當二錢五厘七毛、増價額一圓に對し九厘二毛となり、敢て過重なる負擔に非ざるばかりでなく、大連旅順に於て施行致しましたる課率増價額の百分の十五乃至二十に比し、約その十分の一にしか過ぎないのであります。

以上極めて簡単に土地増價税の内容を申上げたのであり

なまするが、未だ創設後幾許も經過してをりませんために、実績を御報告申上げる迄には至つてをらないのであります、單に事實の御報告に止めて御參考に供する次第であります。

## 都市經費の合理化

大阪市庶務部長 大塚 辰 治 君

頂きました時間が大變短かいので、その概略を述べさして頂きたいと思ひます。色々學究的な御議論も相當ございましたが、それに引替へ私は過去に於て實踐して参りました經費の合理化運動の一つの實際問題に付て、御報告申上げて見たいと思ひます。

昨日も私のほうの森下助役が主報告を致しましたやうに、膨脹致します都市の財政は洵に驚くべきもので、その内容を見ましても物價騰貴なり或は人口の増加等に依りまして、都市の經費は益々膨脹してをるのであります。併し

乍らこの内容を検討しまするに、單に政治・行政といふやうなものもあり、都市が大きくなるに従ひまして、それが企業體、勞務監視機關としての作用が強くなつて参りますから、これらの經費の膨脹したことを以て敢て驚くことはいないのであります、唯私共の懸念致しますことは、一般行政費の膨脹がひどいといふこと、その内容を検討して参りますと、學理的なことは別として、私共が經費を考へる場合、財政を考へる場合は實踐的な目標を定めてをります、その第一は膨脹原因としての行政施設の輻輳であります



す。勿論の中には人口の増加、都市の擴張、もう一つの原因としては文化の向上等に依りまして、行政施設の輻輳といふことが年々増加してをることであり、もう一つは公企業の發達といふことであります。これは大阪に致しましても、その他の都市に致しましても、公企業費は公債費を除きましても三割以上になりまして、各公債を入れますと五割近くの公企業費となるのであります。今一つは委任事務の増加であります。廣義の委任事務が膨脹する率を見ましても約十二倍でありまして、洵に大きな率を示してをる、これは餘程考へなければならんことであります。勿論委任事務と申しましても、委任事務それ自體が實は國家の事務である故に、總てこれを國家に移すべしといふ議論もありませんが、これらの委任事務は寧ろ内容的に見ましたならば、色々地方的の事務が多いのでありますから、委任事務が多いからといふて兎や角言ふことは出来ません。その點は大いに我々として考へなければならん點が多々あると思ひます。兎に角既往に於て十何倍といふ膨脹振りであります。

次は各都市の事業の重複といふことであります。上級團

體であります府縣或はその兄弟關係にある他の公共團體の間に於きます事業の重複が膨脹の原因になつてをります。このことはよく申しますやうに、結局豫算を多く取ることが、その人の手柄といふことからして、豫算分捕の弊がこゝに現はれてをるのであります。今一つは新規事業を行つた後に於ける人件費でありまして、仕事は済んだが扱てこれらの人々は長くこの仕事に携つて貰つたから辭めて貰ふことは困まるといふ温情主義よりして人件費は益々嵩むのであります。これはよく世間で申しますが、私共も若い時分にはさういつた悪い經驗を有つてをるのでありますが、兎に角人件費は相當考へなければならん。昨日も主報告にありましたやうに、人件費は行政費の中に於て六大都市を通じて見まして二十二%から二十八%、企業費に於て二十%乃至三十%であります。勿論これは豫算そのものに認めたものでありますから、これを兎や角言ふのではありませんが、今日の經費問題として人件費は相當考慮しなければならんと思ひます。

斯ういふやうな膨脹原因を土臺にして、過去に於て色々考へました。勿論都市にありましては、現在の行政、税制

等の制度を改革し……斯ういつた制度を改革することが最も適當であり、最も捷路でありますけれども、理論的には捷路でありましても、實行問題として到底やり得ないのであります。六大都市が協力して特別市制を要求してをりますのは、以上申上げました膨脹原因を矯正する爲の一つの手段であります。これも出来ないのであります。今日都市には金があつて、農村には金がなくて困まる、農村の資金を持つて行くときよく申されてをります。都市は農村の生産力を搾取して膨脹するとよく申されます。さうして御承知のやうにその人口内容は十五歳から二十九歳迄の生産力を有つた人々が集つて参りますけれども、その反面に於てはそれらの人々は擔税力を有つてゐない。總てそれらに對して社會施設その他凡ゆる施設をしてやらなければならんのでありますから、こゝに都市經費の膨脹原因があるのであります。人口は殖えて來ますが、今申しましたやうに人件費は内部的な人件費であります。人口の増加に伴ひまして色々施設の致します。これら各種の行政費は人件費を伴ひますので、人口の増加と共に行政費は膨脹し、人件費も膨脹するのであります。さういふ現象が起るのであります。

す。この方面を忘れてはならないと思ふのであります。

以上のやうな膨脹原因に付きまして、制度を彼是するとは出来ません。そこで私共はこれを實踐的にどうするか、昨日も色々御報告がありました。經費の檢討機關或は計畫機關を作りまして、或は決算に對する監査機關、或は豫算執行に對する監視機關等を私共のほうで作つて見たのであります。私は實は決算の監査方面をやつたのであります。斯ういつた消極的な決算監査では到底駄目で、積極的に事業に對する再檢討、即ち豫算の中で經費の合理化をする、財政機關等の對象的存在と致しまして、こゝに或程度の合理化を圖りたいといふ計畫を樹てたのであります。所が今日、經費を檢討致します資料が洵に乏しい、殊に今の公企業、一般行政費との統計もありませんし、如何なる程度に都市の經費を定めて行くかといふ限度に對する檢討資料もありませんので、なか／＼これも容易なことでない。それで差當りこれらは將來やる積りで計畫を致し、現にさういつた職制も作つてをります。差當り役所内部にをる人々がこれを利用して、總ての人々が協力一致してやらなければならんといふことで、第一に目をつ

けましたのは、人的無駄排除、人件費が中心でありますから、人的な無駄排除であります。それから物質的方面の無駄排除、技術の無駄排除、事務費の無駄排除等の大體四方面、もう一つ人的無駄排除の反面にそこに勤務してをります人々の生活の無駄排除等に付て考へることに致しまして、これらの経費に對する實踐的合理化が出来るのではない、只今それを實施してをりますが、物的の無駄排除を計畫したのは前年でありまして、先づ能率増進方面から行ひましたが、これは工場管理に於ては可成り發達してをります。併しながら官廳の公企業を有つてをる者、行政方面を有つてをる者は都市に於きましては、これらの人事的の融通をしなければならん立場にあります關係から随分難しい。それで物的方面に付きましては昨年の四月から五月の一月月に亘り事務改善運動をやりました。この物的方面に於ては各吏員の心掛、吏員魂の檢討を致しまして、それらの吏員が経費に對する觀念、同時に吏員としてのサービス等の教育をし、お互にサービスをするのだといふ心掛でやりました。これは物的の方面に付て申しましたが、尙ほ人的方面のことに付て適當の人員を配置するといふ運動、そ

れから服務を監視する合理的方法、それから職制の變化、或は適度の行政整理を行ひまして、平均年齢の低下をし、實質的に年齢の低下といふことになつて参りました。さうして相當の効果も現はれてをります。それから各部課間の豫算争奪なんかを除く爲に積極的、消極的の計畫をやつてをりまして、可成りの成績を擧げてをります。

技術の無駄排除に付きましては、技術方面の専門があり水道、土木、建築、同じ土木の中に於ても河川、港灣と皆違つてをります。そこでこの技術の無駄排除の爲に約半年間を費やして、本年の四月十一日から約六ヶ月に亘り、技術の向上運動、物資の節約、経費の節約等の無駄排除運動を致しまして技術魂を入れ變へ、技術水準の向上運動を約六ヶ月間やりました。これに依つて各技術方面を通じてまして、土木、建築等の連絡を保ち、一つの學會のやうなものを組織し、その上にこれを綜合したやうな聯合會を作りまして、技術の無駄排除、行政の無駄排除に付て事務改善運動を契機として、今日の都市の市民に對してサービスすると申しますか、これは或程度のサービスであります。報告書の中にも東京市監査部長片岡さんの町會資源に

付て報告されてをりますが、この経費も矢張り都市経費の膨脹原因でありますので、これを或程度の限度に止めた。例へば各人の家の前を公費で撒水してやるといふこと、これは各都市の人々が獨力でやりますれば、これが経費は相當節減することが出来ます。斯様に市民の協力を求めることに致して参りまして、これらの實踐運動を土臺と致しまして、先づ理論的な方面を實際問題に移し……勿論

只今は経費の合理化をする時節でもありますから、この経費の合理化を圖りたい、要するに全部それが出来ればいいのですが、出来なければ仕方がない。併しお互にその内容を檢討して合理化を圖るといふことにすれば大變よくはないか、斯ういふ意味に於て、只今色々の問題を實行してをりますので、他日大阪方面を御觀察になられる時は是非これを拜見して頂けば幸と存じてをります。

## 大都市行政に於ける企畫性の必要と企畫部局の使命

東京市企畫局 芦 田 勳 君

昨日日本會議の席上主報告者菊池慎三先生から「経費の合理性と必要性」といふ題下に極めて理論的な示唆に富んだ研究報告がございまして、その中に於て職制の改正その他行政事務の改善といふことによつて、都市の経費の合理化を圖ることも重要な問題であるといふお話もございしましたが、私はこれに關聯して最近東京・京都・大阪等の都市に於て設置されました企畫局とか企畫部とか、企畫課とか

企畫係とかいふ所謂企畫部局の職能といひますか、之が如何なる使命を有ち、如何なる役割を有つものであるか、それは都市経費の配分これを技術的に言ふと、豫算編成に關聯して如何なる役割を果すべきかに付て、極めて未熟な研究報告を提出致してをるのでございますが、御指名を頂きましたから、ホンの補足的な御説明を申上げる程度で、暫く御清聴を煩はしたいと思ひます。

最近に於て東京・京都の三市は昨年十二月以降それ／＼四月、五月に亘り、職制を改正してそれ／＼企畫局、企畫部とか名稱は多少違ひますが、企畫的職能を附與せられたる部局を設けたのでありますが、よく企畫部局は一體どういふことをするので、どういふ役目を有つてゐるのだといふやうな御質問を受けるのであります。皆様御承知の通り、政府に於ても先に調査局が設置せられて以來、漸次その職務権限を強化して、企畫廳となり、現在の企畫院に至つてをるのであります。尙ほ各本省その他の諸官署に於ても企畫課といふ名稱を有する部局が澤山設置せられてをります。言はば企畫統制といふやうなことを點檢致しますと、國策と呼應しました一つの流行であるかの如く考へられる點もありますが、然らばこれら大都市の企畫部局も時代の風潮に便乗した言はゞ流行の尻馬に乗つたものであるかと申すと、私は決して然らざるものと確信するものであります。都市に於て企畫部局の設けられたのは、都市行政の性質から必然的に生まれて來たもので、言はゞ生まれるべくして生まれ來つたものであつて、決して偶然的な事由に基くものでないかと考へるのであります。申す迄

もなく都市行政の今日に於ける活動分野は非常に廣範なものであつて、その事務なり、事業なり、施設經營は極めて多岐に亘り、複雑を極めてをります。單に大都市と言はず都市と言はず、市町村行政はその指導原理は何であるかといふと、今更私が申上げる迄もなく、それは市町村住民の福祉増進、都市で言ひますならば市民の都市生活の向上、市民生活の向上といふことが出來ると思ひます。詰り都市行政のイデーは何であるか、それは常に市民の福祉増進、市民生活の向上になることでもあります。従つて都市に於きます行政の對象は常にその市民である。従つて都市の行政は市民に對する配給的事務……先程も大阪の大塚氏からさういふやうなお話もありましたが、要するに市民に對するサービスである。即ち事業・勞務の管理事務である。それが都市行政に於ける重要な問題であると思ひます。斯の如く都市行政の對象が常に市民であります。市民といふものを考へて見ると、都市の人口構成は極めて複雑で、教育程度に付て考へて見ても、教育文化程度そのものが最高から最低迄あると考へられます。職業に付て考へて見ても總ゆる職業の分布がこゝに發見されます。貧富に付

て考へても非常に金持の階級もあればルンペンの如きものもあつてこれは一樣に市民であります。従つて都市行政は勢ひさういふ複雑な人口構成を有つ市民に對して行ふのであるから、勢ひその施設經營は千差萬別であり、その經營の部門も非常に多岐廣範に亘るのであります。申す迄もなく電車・バス・電氣・水道・下水・教育・學校・社會事業保健衛生の仕事、總ゆる部門を包含してをるのであります。て、都市行政は今日では洵に複雑極まるものであります。而も尙ほ都市が自治體として爲さねばならぬ所謂本來の固有事務、國家又は府縣から委任されたる委任事務が今日では非常に激増してをります。又今日の如く非常時局下に於ては政府の行ふ國策に對應して、都市が受持つべき事務も極めて莫大なものと考へられます。例へば防空事務であるとか、銃後後援の事務であるとか、最近の問題としては失業對策の問題であるとか、或は轉業對策の問題であるとか、政府の行ふ國策に順應して、都市の行はねばならない事務・事業は非常な増嵩を示してをります。又都市が現在の社會文化上に於て受持つてをる使命と申しますか、任務と申しますか、社會發展の上に於て課せられてをります。

す仕事も極めて重要なものがあるであらうと考へられます。例へば例を引いて言ひますと、東京市のことを申上げて甚だ恐縮でございますが、今日は政府の方針により廢止中止をすることに至りましたが、例へばオリンピックの開催・萬國博覽會の開催或は大阪市で開催の豫定であつた更生會議といったやうなことは、大都市が社會文化の發展上に課せられた言はゞ、一つの任務であつて、今迄申上げましたやうな各種の事務事業が現在の都市行政の總ゆる部門に亘つて、存するのであつて、現在に於ける都市行政は洵に複雑極まりないので、單なる自治體の行政と申ししましても、それは從來考へられましたやうな素人政治といふ理念で以ては律することの出來ない複雑なものであらうと考へられます。

斯くして都市行政は益々複雑となり、従つてこれに要します。經費の膨脹も避くべからざる勢ひであります。東京市の例を申し上げますと、この一兩年度の豫算總額は三億六千萬圓に上つてをりまして、朝鮮全體の豫算總額に匹敵するものであらうと考へられます。斯の如く都市は種々雑多な言はゞ無系統に集成されます多岐廣汎な事務なり事業な

りを執行しなければならぬが、その財政は財源關係から申しても非常に窮乏なものであつて、これら多岐廣汎な事務事業を執行して行く上に絶対に樂觀の出来ない状態にあります。彼のピーアド博士は都市を譬へられて、スフィックスのやうなものであると申されてをりますが、都市行政は難然と申しますか、無系統と言ひますか、總ゆる仕事を有ち又總ゆる仕事を課せられて、それを足りない所の財源を擁して處理して行かなければならない現状にあります。斯くの如く極めて窮乏な財政状態であり、益々遞増致す廣汎な事業を執行して行くことになると、そこに當然經費の分配は都市行政の圓滑なる運営上極めて重要な問題になつて來るのであります。所がこれは他の都市のことを申すと恐縮でございますから、東京市の實例に付て言つてをるものとお考へ願ひたいのであります。さういふ三億五千萬或は三億六千萬といふ龐大な豫算の編成經費の分配を一體どういふ計畫を以て切盛してをつたかと言ふと、實はそこに有機的・綜合的な計畫は動もすと樹立せられにくかつたのであります。詰り先程申上げましたやうに市政の活動分野が極めて多岐廣汎でありますから、従つて行政の専門

家と申しますか、部局々々の對立・併立といふやうなことが動もすれば遅れ勝であつて、市政全體が一つの渾然たる有機的・綜合的な形に運営せられることは困難であつたのであります。部局が併立し、對立致しますと、そこにどうしても各部局々々による豫算の分捕りも行はれ勝であつて、豫算編成をする財務當局に於てもやはり計數處理に動もすれば因はれ勝であつて、これを綜合的の立場から詰り大所高所から市政全體を過觀して、そして重要な事務事業を先づ決めてかかつて、その線に従つて豫算の編成を行ふことは動もすれば困難な事情があつたのであります。

ここに於て當然要請されますのは、綜合的な企畫機關、詰り現在東京とか、京都などに設置せられてをります企畫部局であらうかと考へるのであります。言ひ換へますと、外は時々刻々に變轉致します所の社會情勢に即應し、又内は極めて窮乏の實情にあります財政の現状に對處しまして、市政を高所大局から公正妥當に判斷を下して、先づ如何なる計畫が必要であるか、これを十年、二十年、五十年の詰り市政百年の大計から割出してどういふやうな方向に市政が切盛せられて行かなければならないかといふやうな

計畫を立てることが必要になつて來るのであります。

斯様な使命を有つて生れましたのが、企畫部局であると考へます。言ひ換へますと、種々雑多、多岐廣汎な大都市に於ける行政は從來動もすれば一貫した企畫性が缺けてをつた。これに對して都市行政に脈絡あり一貫した企畫を與へ、秩序を與へ、各部局の活動がそれ／＼聯絡あり、さながら有機的綜合的に運営せられますやうに事業の按配、經費の調節を圖るのが企畫部局の重要な使命であると考へるのであります。東京市に於ては昨年十二月企畫局を創設しまして、從來の職制に相當廣範圍の改正を加へたのであります。そして企畫局の中に財政計畫を樹立し、豫算の編成を行ふ財務課と重要企畫の立案・審議を行ふ企畫課を併立して、これを一つの局の中に言はゞ兩翼のやうに存置しまして、一方には企畫課をして事業の緩急輕重を十分に審議

檢討させる一方には財務課をして財政計畫を立て、企畫課の査定致した事業内容に従ひ豫算の編成を行ふ建前を執つて來てをります。創設せられて未だ一年にも満たない現状でありまして、この實績に付て皆さんにこゝに誇示して申上げる段階に至つてをりませんが、今後都市行政に於ける企畫部局の職能は大いに注目せらるべきものだと思へられます。東京帝大の瀧山教授なども企畫部局に付てまだ比較的研究がせられてゐないので、これが研究は今後重要な問題であらうと言つてをられるし、それから今はお送りになりましたが元市政調査會にをられた猪間驥一氏なども企畫部局の職能に付て色々學問的の御研究を發表せられてをります。單に唯今申しました三・四に止まらずにこれから大都市行政の運営上、大いに攻究を要する問題であらうと考へるのであります。

## 都市經費の基準算定に就て

京城市都市計畫課長

梶山淺次郎君

只今「大都市行政に於ける企畫性の必要と企畫部局の使命」といふ題で芦田さんより大變有益なお話を承りました後に、門外漢の私から申上げるのは甚だ恐縮であります。暫く御清聴をお願い致します。

都市の経費の實際は洵に千差萬別でございます。豫算に計上せられる所の款の数は都市の大小に従ひまして數十乃至は百以上に上るのであります。大體これを分類致しますと、教育費、土木費、衛生費、勸業費、社會事業費、一般事務費の六項ばかりに分かれると考へるのであります。而してこれらの各項目に對して、一つの都市は何程位の金額を支出して行つたならば、果して都市としての諸般の事務を滞りなく處理し或は各種の施設を完備し、所謂近代都市としての體面を保つて行けるかといふことに付て少しく検討をして見たいのであります。

若も都市の人口が常に一定してをりますならば、これらの問題は極めて簡単に解決がつくと思ふのであります。實際に於ては近代都市の傾向として、人口は自然の増加のみならず、都市に於ける各種産業の發達乃至地方農村の人口過剰などと相俟ちまして、人口は著しく都市に集中され

つゝあるのであります。所謂人口の都市集中傾向が甚だ顯著であるのであります。従ひましてこれらの増加人口の爲に家屋が必要であります。延いては都市區域の擴大に伴ふ所の都市諸施設の増加或は各種市政事務の増加等必然に起る問題でありまして、これが永く續く時には總ては都市施設の根本的立直しを必要とするのであります。この間に處しまして果して何程宛の経費を支出して行つたならば妥當なりやといふ問題も可成り厄介であります。若し斯様な場合に於て爲政者の態度が若し消極的でありましたならば、この増加人口に對する都市施設の増加は勿論、從來未完成の部分に對する施設の改良等も永く差控へられ、又行政機構の如きも成るべく現狀に甘んぜられるといふことになりまして、都市の實質は漸次低下して行つて、健全なる都市の發展は到底期することが出來ないのであります。總ては一大改革を爲すか或は遂に文化都市の列外に出づるに至るのであります。これに反し徒らに積極的に流れ施設を急ぎ都市發展の方向を誤り、不要多額の經費施設をなすが如き場合はこれ亦府の財政を徒らに危機に導くものでありまして、大いに戒心しなければならんと考へるのであります。

併しながら實際に於ては斯様に積極に過ぎたるほどの經綸を行つた市理事者は減多に見當らず、概ね消極に流れ總てはその施設機構等根本的に改革の要に迫られまして、これに大なる都市問題として四苦八苦するのが現代都市の適例であります。

そこでそれならばどういふ目標の下にこの経費の基準を算定をしたならば宜しいか、斯ういふことに付て細目に亘つて申上げたいと思ひます。

先づ第一に教育費であります。これは比較的よく分かる問題であります。大體この教育費の中に含まれる費用は學校の經費であります。それから幼稚園、圖書館等の教育的費用を含むものと考へます。統計の示す所に依りますれば、小學校の生徒の数は殆ど一定してをります。各都市人口の約一四％位になつてをります。中等學校の生徒の数は大體都市人口の約三％で、可成り一定してをります。さうしてその内の二割、三割の中の二割ばかりは市で經營してをる所の學校に收容してをるのであります。その他のものは縣立、道立或は私立等の學校に收容せられ、結局約都市人口の〇、六％位が市の經營してをる學校に收容されて

るのであります。或は統計がさういふ風に物語つてをるのであります。さうしてこれらの學校の經常費と申すべきものは主として教員の給料或は學校の維持管理その他の經常的に必要な經費は、小學校の生徒一人當り内地に於きまして年額二十圓と相成つてをります。朝鮮に於きましては内地人學校に於て三十五圓ばかりになつてをります。朝鮮人側の學校に於きましては二十圓となつてをります。又中等學校に於きましては例外なく、内地人、朝鮮人生徒一人當り年額八十圓乃至百圓といふ數字になつてをります。さうして今申上げましたやうな生徒數と一人當りの單價で割つて見ますと、その經費は明瞭に分つて來るのであります。

次に臨時部經費ともいふべき増加人口に對する學校擴張費であります。これがなか／＼重大問題であります。小學校生徒は大體一人當り校舎の面積は一坪、敷地は二坪乃至三坪であります。又中等學校に於きましては生徒一人當り校舎は三坪乃至五坪、敷地は五坪乃至十五坪でありまして、女學校、商業學校等は極めて敷地が狭い、併し農業學校或はこれに類した學校は比較的多くを要しまして、十五

坪が平均となつてをります。増加人口に對する増加の兒童數は都市の人口から割出せると思ひます。さう致しますとこの増加人口に對する今申上げましたやうな擴張の費用を計算して行きましたならば、これも割合に容易に計算が出来ると思ひます。この擴張費は學校の面積とか單價等よりして毎年々々それだけ計上しなくて、或は纏めて支出し、二年乃至三年目に一校を建設するかも知れませんが、實際は只今申しましたやうな計算で出て来る程度の金額を年々考へて行くことが必要であると考へます。

その他幼稚園、圖書館等の費用は都市人口に割つて見れば極めて僅かなものでありまして、何れの都市の平均を取つて見ましても大體一人當り十錢内外であります。斯ういふ所で教育費の計算は極めて簡単に出来るかと考へてをります。

次に土木費であります。これが又なか／＼厄介なものであります。大體土木費は原則的に考へますれば、道路、下水、上水の三つであります。その他地形に依りまして河川、港灣、運河等がありますが、これはその都市の特性でありまして、必ずしもこれは必要としない場合がありま

す。でありますから私はこゝに原則的に考へなければならぬものは道路、下水、上水としてこの三つに付て申上げ、その他のものは特別計算を行ふといふ風に考へた方がよいではないかと考へてをります。

大體土木費はどういふ風な目標で算定して行くか、なか／＼厄介であります。私は先づ第一に土木費を考へる場合は、その行政區域に依らず……最近の都市の行政區域は實際に人が住んでをる地域以外の近郷都市を含んでをります。これに對して完全なる施設を考へるとしても、實際に人の住んでをる純都市區域の施設を完備する程度に止めていゝといふ風に考へてをります。

そこで純都市區域、人が住んでをる區域に付てどういふやうな計算を行ふかと申しますと、三つばかりに分けて考へる。第一に年々人口が増加するに従ひまして都市の區域は擴つて行きます。擴つて行く面積に對しまして道路、下水、上水等の施設を行ふこととあります。第二に在來の都市區域に於て施設が完備してをらん部分が澤山あります。何れの都市に於ても非常に澤山存在してをりますが、その未完成の施設を改良して行く、果してどれだけの費用がか

ゐるかは大きな問題でありますが、これを先づ計算して、さうしてそれを何年間に完成する。例へばその未完成のものに對してその二十分の一を毎年々々計上して行くといふやうにするのであります。第三に在來の施設に對する維持管理であります。これだけの三つのものを常に考へて行かなければならぬのであります。

尙ほ道路下水等に付きまして細かく申上げるとよいのであります。永くなりすからそれらの詳細に付ては文献を御覽願ひたいと思ひます。さういふやうな考へから道路、下水、上水の三つの費用の計算は割合に簡単に出来るかと考へてをります。

次に衛生費であります。衛生費の中に含まれる所の事項は塵芥、汚物處分費、傳染病豫防費、病院費、墓地火葬場費、屠場費等を包括して考へてをるのであります。塵芥處分量といふものは都市人口一人當り六分の一トン乃至三分の一トンであります。これを處分する爲に人口一人當り十五錢乃至四十錢といふ統計が現はれてをります。これは内地のものであります。朝鮮では色々の事情に依つて塵芥の量が非常に多く大體二倍の量を示してをるのであります。

す。

それから汚物處分、糞尿ですが、これは一ヶ月四分の三トン乃至四分の一トン位のものであります。これが處分の爲年平均一人當り二十七錢といふ統計が現はれてをります。これは内地、朝鮮同じやうな金額であります。この二十七錢に付ては斯くあらねばならぬといふ氣持から算出したもので、内地等の統計を參照して二十錢といふ數字が出来たのであります。その他傳染病院、病院費、墓地火葬場費、屠場費等の細かい計算をして見ますと、これは都市人口一人當りに割りましたならば、大體平均二十錢内外に過ぎないのであります。さうして人口一人當りの合計を致しますと内地人一人當り六十二錢、内地で八十二錢、朝鮮人七十七錢、一圓二十七錢大さつばに見て大體一圓見當の費用が費るといふことが分るのであります。

次は勸業費であります。市場、物産陳列獎勵費等をひつくるめて、都市人口一人當り四十錢内外であります。

社會事業費は色々の救護事業或は醫療保護施設、經濟保護施設、失業保護施設等の爲に費すのであります。これは昨日の主報告の場合にも色色お説がございました通り

に、大都市、小都市を通じて大體人口三十萬以上の都市に於ては人口一人當り一圓乃至一圓五十錢の金を使つてをります。京城府の如きはこれの十分の一にも足りない金を使つてをります。

次は一般事務費であります。例へば神社費、會議費、警備費、その他の一般事務費であります。それが例外なく人口一人當り一圓五十錢乃至二圓といふことになつてをります。

以上申上げましたやうな趣旨に依りまして、私は各項目毎に基準額算定方法の公式を作りこれを文献に提案してを

## 経費の性質に就て

慶應義塾大學教授

永

田

清君

都市の経費問題につきましては極めて實證的な分析や理論的な研究が報告されてをりますので、私は一般の都市経費のみならず國家財政の経費をも含めた経費の一般を少し大局的と言つては一寸大袈裟ですが、全般的にその性質を

考へて見たいと思ふのであります。経費の性質は先程申しましたように都市財政だけでなく國家財政をも含んでの意味ですが、その性質が今日では次第に變つて行つてゐるのではないかといふ一つの着想を有つてをるのです。既にそ

の経費の性質については略二つの學説がありまして、財政の経費は大體消費的な内容だといふ説がその一つでありまして、もう一つの説は之と全く反對の地位に立つてをりました。之には極めて生産的な内容を織込まうといふ説があることは財政學で説く通りであります。この二つの説の内容容については繰返して申上げる必要はなからうと思ひます。所でさう言つた経費の性質の解釋の仕方が正しいかどうかといふことですが、私自身の考へを以てすれば少し譬喩的になりますけれどもさう言つた議論をすることが極めて消費的なことではないかと思ふのです。率直に申上げますれば要するに経費が消費的か生産的かと言つてもそれは何にもならない全く空論だといふ考へ方です。從來の分析の仕方はつまり財政の支出がなんら生産的なものを作らん消費だと言つてをるんです。生産的な場合はそれは具體的なものは出来上らんだらうけれども、然し無形の財を作つてをるんではないか、例へば行政費は一つの安寧とか秩序とか言つたものを作つてをる、さういふ工合で無形財を生産するといふ意味で生産的だと言ふのです。この理論の立て方はどちらからでも言へると思ひます。結論としてはさ

ういつた解釋の仕方は今日では不可でないと思ふのです。今日経費の性質についての我々の考へは、財政支出が經濟構造に對してどういつた影響を及ぼすかといふ問題が中心です。つまり財政と一般經濟との觀念ですね、之が今日の問題でなければならぬ點だと思ふのです。この點は國家財政に於ても亦都市財政の場合にも全く同様だと思ひます。ただ現じ方が少し違ひますが、内容は同じだといつて宜しい。そこでさういつた新しい性質つまり財政を從來のようには政は財政だ別なものだといふ考へ方を捨てて全く結びつけて考へなければならぬ。財政問題は國家財政にしろ都市財政にしろ何か我々の私生活とは縁が遠いように一般には考へられてをりますが、實際はさうでなくもつと我々の身邊に近い一種の經濟現象だと考へなければならぬと思ふのです。どうしてさうした新しい性質が究明せられて來るかと思ひますと、その根本的な原因は今の經濟の動きと、それから財政の動きといつた觀念から來てをるのです。つまり所もつと財政現象は經濟の動きと結びつけて考へなければならぬ、そこでどういつた作用が現れたかを見てをつて茲



に新しい生活を看取しなければならぬ大局的な見方が起るのです。都市財政の場合よりも國家財政の場合を例示した方が分り易いと思ひますので、それを挙げますと從來のつまり財政現象といふものは、一種の經濟現象に類つた形で小さく寄生的、言はば寄生木のように經濟に寄生した生活が続けて來た形と思ふのです。ですから經濟が正常に發展を遂げてをりますならば自ら健全財政になる、健全財政でなければ正しい發展は望まれないといふ理解が出來て來た所が今日では之が違ふと思ひます。違ふといふとなんだか唐突のように聞えますが、確に違つて來てをると考へるのです。つまり寧ろ不健全財政の方が今日の經濟を發展せしめる所以ではないか、現實に於て發展せしめて來たのぢやないかといふ考へ方です。それはなぜか、なぜさういふ事態が出來て來るのか、我々が今日までちつとも考へなかつたような新しい様相が現はれたのは何ぞやといふこの問題をどうしても解決しなければならぬと思ふのです。之は一々分析して來ると分るんですが一口に言つてしまへば、要するにこの財政の經濟作出、財政が經濟を導いて行く、なぜ財政が經濟を導くかと申しますと、一口に言へば之は

一つのインフレーション政策に關聯する譯です。つまり財政支出をやるとその財政支出は又國家の機構に流れ込んで來ますけれどもどこかへ廻流してをる。支出せられた經費が經濟の面を潤しつつどこかへ廻つて來てをる、ですから貨幣的性質が經濟面に觸れ合ふ毎に問題を起してをる、經濟はぐんぐん進めてをる作用を有つといふ結果になるのです。つまり財政によつて經濟を捲き起す力が茲に現はれて來るといふのです。之を財政の經濟作出といつた言葉で現して宜しいのではないかと愚考を致す次第であります。要するに今日に於てはかう言つた積極的な性質が現はれてをる、之は我々が本當に學び取るべき現象ではないだらうかといふ問題を提起したいと思ひます。かういつたつまり新しい現象を新しい角度から見に行く、然もその場合に樂觀的な觀察をしてをりますのはイギリスのケインズといふ金融學者であります。つまり多くの財政支出があればそれは國家にしろ都市にしろ良い財政状態が悪くなる、然し悪くなつても構はない、その代りに出て行く貨幣が悉く經濟に觸れ合つて茲に新しい作用を捲き起して行くのだからといふのであります。支出の餘り出る所をここに積極的な性質を有

つた或は失業救済とか一國或は一地方の産業を開發するとかいつた性質が現はれて來るといふので極めてこの説明には樂親的或は積極的な内容を盛り込み勝であります。之には又色々な批判がありまして我々はそれを夫々取ることは出來ない、然しそのような樂觀論を假に採らないにしても今日の財政支出經費の現象ではかかる新たな性質が現れたといふ事實を認むべきではないか。我々が從來のように部分的な且つ我々の生活とは切離されたような財政現象を極めて行政技術的に限られたような考へ方から脱却して、もつと廣く經濟構造との觀念を有つ必要があるのではないのかういふ問題を提起したいと思ふのです。無論さう言つたからと言つて極めて放漫に走つたり、極めて不合理な經費を支出してよいといふのではありません。さういつた經費の内容について検討を加へ討論すべしといふのでありますけれども、從來のような引き離された行政技術的な内容からもう一つ飛出して經濟の動き經濟の構造又は景氣の色々な高低といふものと關聯せしめる必要があるだらうと思ひます。そこに新しい支出が現在に於て既に持出されてゐるのぢやないだらうかと思ふのであります。之は今日の國家

財政でも充分に實證出來ますし又さういつた見方を採つても宜しいと思ひますが、これは地方財政にしても考へべきことであらうと思ひます。無論國家的なものと地方的なものとは性質が大分變つて參ります。寧ろ地方財政と農村の財政の方が我々には切實であることは申すまでもないのです。然しそれだけに財政の積極性を故で考へて見なければならぬのではないか、經費の具體的内容としては都市財政では現在一様に教育費衛生費土木費と稱してをります、それは一遍金として歸りますからその支出はその地方の經濟構造に影響する、この點も一應考慮して例へばその地域から流れてとんでもない所に新しい購買力を植へつけることがないように、地方自治體としてはその點も考へて經費の積極的な性質を取入れるべきではないかといふ考へ方があります。極めて難解な御報告であります若し御質問があれば御答へ致しますと思ひます。



## 新京特別市の財政に就て

新京特別市財務處長 鯉沼兵士郎君

昨日第二部會より新京市のことに付て何か話せといふお話をさせていただきますが、手許に申上げる資料もなく、數字等には豫め御了承をお願い致します。

付ては記憶しませんが關係上、速記は止めて頂きまして、雑談的に申上げて見たいと思ひます。

## 都市の經費負擔に就て

本浦府會議員 金聲振君

都市經費の負擔に就て一言申述べさして頂きたいと思ひ者であります。私固より斯かゝる演壇にはふ慣でありまして、未熟の點が多々あらうと思ふのでありますが、その點は豫め御了承をお願い致します。

都市問題即ち都市計畫並に市街地計畫を實現し得るには何よりもその費用がなくちやならぬのであります。さうでなければこれを解決することは出来ないと思ふのであります。

す。さうすればその經費を何れの方面より捻出するか、如何なる方法で負擔すべきかといふのが問題の問題たる所であらうと思ふのであります。目下我が國は御承知の通り一大非常時でございます、この非常時に再會してをる。我等國民は平素即ち天下泰平時に於ける制度を以て進めましては到底至難のやうに思はれるのであります。申す迄もなく我等國民として負擔すべき兵役、納税、教育の三大義務

は何れも同等でありまして、少しも輕重の差はないと思ひます。然るに我等は二大義務即ち兵役、教育は我が國體の然らしむる所でありませうが、半島に於ては先般志願兵制度が布かれてをります。併し今後は全半島民直ちに兵役の義務を負はしめるやうに希望するものであります。これに反しまして納税の義務は如何でありませうか、國民は往々にして負擔の輕減を欲する者があるやうに見聞するのであります。併し我等はこの二大義務の兵役、教育も納税なくして完全な目的を達成することは出来ないと思ふのであります。こゝに於て我等都市に居住する者は、斯の如く多岐多端な都市問題を解決するには他に率先して今一段の努力をする覺悟がなければならぬと思ふのであります。皆さん既に御承知の通り都市計畫の實行に付ては保健、衛生、交通、産業等何れも急を要するものばかりであります。目下最も緊急なる問題は時局下に於ける防護施設の一つであらうと思ひます。さうして初めて我々の生命財産の安固を期することが出来ると考へます。

目下我が忠勇なる皇軍は貴重なる生命をも顧みず彼の廣漠たる支那各地に於て多大の犠牲を拂ひつゝ戰果を收めて

をるではありませんか、この際我等銃後にをるものは物心兩方面に亘り斯の如き氣持を有つて進んだならば何事も出来ない筈はないと思ふのであります。故に斯かる施設に要する經費は、市街地内に多くの土地、家屋を所有する者から、又その市街地内より澤山の収益を擧げた者が率先して負擔すべきであります。寧ろ税金といふものは所謂自己の財政保護上の見地からして進んで多くの負擔をなし、以てこれが施設を一日も早く完璧を期するやう絶叫し、且つ切望する次第であります。

以上私の氣持だけを申述べまして、御清聴を煩はした次第であります。

## 都市の経費と財源捻出策

東京市企畫局 榎 島 勇 君

私は都市の経費と財源との關係につきまして誠に未熟な意見でございますが簡単に申上げて見たいと思ひます。都市が限りなく發展致します場合には経費が膨張致しますことは、必然のことでございますし申すまでもありません。

而して都市の経費を觀察して見ますと、この経費の大部分は國家的の性質を帯びました行政費がその大部分を占めてをります。東京市を例に取つて見ますと、一般會計の約七割は國家的性質の行政費であります。その行政費の中に最も重要な部分を占めてをるのは教育費です。この教育費は都市の特異性に伴ひまして當然増加する経費の一つであると思ひます。都市が人口の集中に伴ひ躍進的な發展を致す反面に於ては、人口の増加が著しいのであります。東京市の人口が毎年増加致しますことは、毎年二十萬人を數へられてをります。その人口の増加に伴ひ小學校兒童の増

加致しますことは、毎年二萬五千乃至三萬人と數へられてをりまして、之が経費として毎年度百萬圓以上の増加を來す状態であります。又人口が集中致します結果或は都市の經濟が發展致します反面に於て、社會事業的経費或は保健衛生上の経費も相當巨額に膨張するのであります。

かように経費の膨張致します反面、財源の問題でありまするが人口の増加は必ずしも財源の増加を來すものでなく、人口の増加と経費の財源を如何に調整するかが、都市財政の最も苦慮致す點であると思ひます。都市財政の理論的或は合理的な研究については、今まで先輩の皆さんから色々の御研究がありましたので、私は實際的な方面の事を少し申上げて見たいと思ふのであります。この膨張を來して參ります経費を如何なる財源によつて調整或はこの経費に對應して行くかといふことを考へて見ますと、都市に

與へられた財源は御承知の如く原則として財産收入使用料又は手数料の收入であつて、之を以て足りない部分については市税を徴収することが出来ることになつてをります。而してこの市税が最近の財政に於きましては最も重要な部分を占めてをる状況であります。東京市の一般會計の大體四割四分位は市税收入を以て賄つてをるような状態にあります。それでこの税收入は原則として各府縣稅の附加税を以て致すことになつてをるのでそれを以て足りない部分に於ては多少の獨立税を認められることになつてをります。併しながらこり税の收入につきましては市民の負擔力に中心を置いて考へて行かなければならない問題であらうと思ひます。この負擔力も市として考へるばかりでなく國稅或は府縣稅市稅を通じて全體の負擔力を考へて行かなければならぬのであります。さう致しますと、結局市經濟の負擔能力を勢ひ目標と致して考へなければならぬのですが、都市と致しましても自主的にさういふ限度を決めることが出来ないような關係にありますので、税收入については都市の財源として誠に窮屈な關係にあります。左様でありますからこの経費の膨張は都市經營上誠に止むを得な

い、之に對してはなんらか財源調達の方法を講じて行かなければならぬ關係にあります。先程も申しました國家事務の経費に相當する巨額の経費が要りますが、それに對しましては補助金或は交付金その他使用料手数料の收入が大體經費に對する二割五分程度のものしかありません。残り七割五分程度のものは市税その他の收入を以て調達して行かなければならぬ状態にあります。さういふ關係でありますから勢ひこの委任事務の経費、法令に基く經費の増加に對應致しますためには止むを得ず市債を以て賄つてゐる状態であつて、この市債の收入が之も東京市の例でございますが、一般會計に於て約三割位のものは市債によつて賄はなければならぬ状態であります。かやうに財源が困窮致します結果は市債費の膨脹となつて現はれて來るのであつて、大都市の財政状態を見ますと何れも都市に於ては市債費の膨脹が非常に著しいのであります。この市債につきましては都市の起債事業は國家の起債と趣を異にして必ずしも不生産な起債ばかりではありません。どちらかと申せば生産的な部分が多いのではないかと考へられます。併しながら起債の限度についても市民の負擔力を考へて行かなければ

なりませんが、先程も申しましたようにこの負擔力を測定致しますのは都市自身の考へで決る問題ではないのであつて、非常に困難な問題でありますからこの財源の調整についてはなんらかの基準を設けてこの財源と經費の調整を圖つて行かなければならないと思ひます。そこで從來も考へて見たのでありますが第一は經費の合理化による財源の捻出であります。之は先程大阪の庶務部長さんから詳細な御報告がございましたから、その理由については説明を省略致しますが、この經費の合理化により或る程度の財源は捻出し得るものと考へられます。第二として考へられることは税収入の必要度を明かにして經費の膨脹と財源との關係をはつきりして或る限度を決めて行くことが必要ではないかと考へられます。そのためには都市行政費の中國家的な性質部分が多いのでありますが之は中央行政と地方行政とは有機的な關係がございますので、先づ第一にその經費の支辨を考へなければならんと思ひます。そのためには最も恒久的な財源である各府縣の附加税を以て委任事務の經費に充當するに決めて見たらどうかと思ひます。第二にはこの委任事務を處理致します外、都市が發展致しま

すためには色々の施設を必要と致しますが、その財源としては特別税を以て之に當てなほ足らざるものについては別な考へからして使用料手数料等により色々の施設を講じて行くことが必要なことではないかと思ふのであります。元來都市の色々な施設は地方的な事業に充足するものであつて、その施設の結果は本質的に色々の利益を齎しますからその利益を受ける限度に於て市民が應分の負擔を歸しますことは最も適切でないかと思ひます。かように都市の財源が貧弱であればかういふ點からこの財源の調達を考へて行くことが一番適切ではないかと考へてをります。勿論使用料手数料の公益による負擔についても一般税と同じように市民の負擔力を全然考慮外に置くことは出来ませんが、或る程度はかういふものによつて色々の都市施設を擴充して行くことが必要であらうと思ひます。東京市に於て只今考へられてゐる下水道使用料の徴收問題或は塵芥手数料徴收問題もかういふ所に出發してをります。

次は公企業の収益を以て色々の行政費の一部に使用することも考へてよいのではないかと思ひます、無論公企業の性質から言へば収益は問題とするものではありませんが、

或る程度一般行政費の財源の一部として幾分でも収益をその財源に振り向ける事もよいのではないかと思はれます。以上申上げましたように色々都市の發展に伴ひ經費の膨脹が著しいのでありますが、それに伴つて財源がございま

せんので以上申述べました方法を講じてその經費の膨脹を或る程度に止めて置くことが必要ではないかと思ふのであります。

## 朝鮮 地方債 に 就 て

朝鮮總督府内務局 高 橋 貫 右 君

都市經費の中で公債費の償還費は重要な部分を占めてをるといふことは、これ迄も度々報告がございました。そのパーセントも年々高まつて参りました。高まつて來るといふことは、公債の取入條件に付て餘程考へなければならんといふことを示唆するものであります。朝鮮の公債の内都市に必要な公債と致しまして、數年前約年額五百萬圓これがこの數年來漸次増加致しまして、昭和十三年度に三千三百萬圓といふことになつてをります。急にこの數年間公債が増加致しましたことは、市街地計畫令の發布に基いて、市街地計畫を實行する費用が主なるものであります。

その他に昭和十二年度より朝鮮人の初等教育の擴充計畫を實施することになつてをります。これは朝鮮全體と致しまして、昭和十二年の就學率二割三分を十ヶ年間に五割にしようといふ計畫であります。その後これを繰上げまして昭和十七年に實現する、都市に付て考へますれば、從來の入學率は約四割五分でありましたがこれを七割程度に引上げる。その爲に學校敷地の購入費、建築費、それから經常費といふ特別の資金を要するので、資金を取入れる條件の如何といふことはこれはその當時の財源に影響するばかりでなく、將來十數年間の負擔を左右致します。又後年府の當

事者が先輩の失敗の跡を整理するといふことのないやうにすることが必要になると思ひます。

大體朝鮮に於てはこの資金の取入れに關しまして三つの方法を考へてをります。

第一は大蔵省預金部の資金を借入れる方法、第二は朝鮮の簡易保險の資金を取入れる方法、第三は銀行資金であります。第一の大蔵省預金部資金に付きましては、從來の歴史から見ましても大體年額四五十萬圓程度であります。起債總額に對しては少額であります。

それから朝鮮の簡易生命保險資金、この方は簡易保險の事業が年々盛になりまして相當増加してをるのであります。が、都市の起債の事業に當てるものは昭和十三年度で約二百萬圓程度でございます。残る部分は銀行資金によるといふことになるのであります。この銀行資金で取入れる方法は現金の取入れ、公債の發行の二つの部分によつてをります。大體相當金額が纏つて参りますと公債の發行によつて取入れることが有効であることは勿論であります。が、小規模な都市に於きましてはそれ程多額の起債をやつてをらない現金取入れの方法によるのであります。銀行と致し

ましては起債借入れの目的になる銀行と致しましては朝鮮殖産銀行といふことになつてをります。これは銀行の特別な使命から致しまして興業資金を統制するといふ目的から、殖産銀行一手で引受けることになつてをります。但て公債を發行する場合に朝鮮と致しまして朝鮮殖産銀行の手を経ました公債を借受けるものが今迄なかつたといふことは、朝鮮の金融市場が至つて貧弱でありまして、それ程の餘裕を持つてをらない。朝鮮と致しましては色々な産業資金に致しましても内地の資金を取入れなければならぬ關係上興業資金に迄手が及ばなかつたかも知れませんが、さういふ關係で大體内地の資金の手による。結局朝鮮殖産銀行の債券引受や東京シンジケートの手を経て一般に賣られるといふことになるのであります。その關係上東京の金融市場の影響が直ちにこちらに響いて参りまして、朝鮮單獨ではこちらの都合のいゝ時に公債を發行することが不可能である状態になつてをります。最近國策と致しまして貯蓄の奨励をやつてをりますその關係で、朝鮮に於きましても相當の資金が潤澤になつて來ました反面、物資と資金の統制によりまして自由にこれを消化することが出來

ない關係で以て興業資金の幾分でも廻はさうといふ機運になつてをるのでありますけれども、未だ朝鮮の需要資金の總額を消化するといふ迄に至つてゐない關係上、凡て内地の供給を仰ぐといふ關係になつてをる次第であります。大體今迄の成績を申し上げますと、府の公債と致しまして利率四分三厘これは内地の一般の公債と同條件になつてをります。

それから起債の認可方針が内地に於きましては、内務大臣、大蔵大臣の許可以外に府縣知事が許可し、更に不要許可起債といふものがあります。朝鮮の起債は凡て朝鮮總督で以て許可するといふことになつて統制を執つてをりますので、この資金の供給であるといふやうな關係に付て非常に便宜を持つてをります。公債の發行に付きましても朝鮮總督府に於て取入れて、さうして適當な條件を交渉するといふ方法を取つてをるのであります。

内地の實例を申しますと、少額の公債を發行します時に地元の銀行なり、信託會社で以て引受けをするその地方々々で契約をしてをります關係でその條件方法に付ても非常に高低がある。内務省に於ては餘り著しいものに付ては調

整をするといふ方法を執つてをるやうでありますけれども、朝鮮の如く各府を通じまして一定の條件で以て公債の發行がなし得るといふことはないと聞いてをります。府は公共團體でありますから、その起債能力なり或は起債の消化能力に付きまして大小の府に拘らず等差はないといふ風に考へてをり、又財政状態から致しましても何等等差がつかないのでありますけれども、内地に於ける金融市場に於ては京城府のやうな大きな都市、それから大きな都市に付て發行條件の等差をつけて發行しないといふやうな状態がありますことは、今朝鮮の府の財政状態を充分に認識してをられないのに依るものではないか。これをもう少し朝鮮の公共團體の財政状態を研究し或は考慮致しましてさうして、發行條件をより有効ならしめるといふことを考へてをるのであります。現在の公共團體の公債それから内地の公債と較べまして、特異性といふやうなものを簡単に御報告申上げる次第であります。

## 物件費と人件費に就て

元山府會議員 李 弘 俊 君

私は物件費と人件費に就て、私の考へた所を述べたいと思ひますが、輓近人口の都市に集中するに伴ひ、都市の經費は各都市共に漸次膨脹して行く傾向がありますが、都市經費の主なるものは物件費と人件費が大部分で、都市經濟の潤枯は物件費・人件費の調節如何によるものと見るべきものであります。今都市計畫の重要な土木行政の一部門たる道路維持費に付て東京に於ける路面維持費を見ますに、砂利道、簡易舗装道路・剛質舗装道路・舗装道路清掃費に一ヶ年二百四十七萬圓の經費を使つてをります。而してその延人員が五十八萬八千六百五十人の多數に及んでるのであります。上下水道、下水道その他の工事は擬て置て路面維持費だけで年二百四十七萬圓といふ莫大な經費と五十八萬八千六百五十人といふ勞働力を消耗することは、國家的に見て大なる問題と考へるのであります。全國六大

都市を初めとし群少都市に至る迄斯ういふやうに勞働力を何時迄も消耗することは我々として考へなければならぬ問題と思ふのであります。國家發展の基礎が國民の勞働力にありとすれば、この點多大の勞働力を何時迄も路面維持費に消耗すべきや否やはこの際大いに考慮しなければならぬ問題と存するのであります。

私はこの前ハルビンのロシア町キタイスカヤの舗装狀態を視察したことがあります。その町の舗装は花崗石を煉瓦より稍や大きくしたものを路面一ぱい綺麗に敷詰めて舗装してある爲に路面修繕の工夫が見えず、唯その道路の清掃をする工夫を若干見るばかりであります。然るに同じハルビンでもアスファルトで舗装した路面には澤山の路面維持に携る工夫が見えるのであります。

この狀態を見まして、朝鮮の如き石山の麓に都市が出来

てをる所では、初めは工費が多くを要しても、花崗石の舗装を施したらどうかと、私は考へたのであります。一度に多くの經費が要るとしても花崗石の舗装を施して置けばこの莫大なる路面維持費は永遠に節約されるだらうと思ふのであります。而してその路面維持に使ふ勞働者を他の國

家の産業生産力に廻はしたならばより効果的であると信ずるものであります。

甚だ未熟なお話を申し上げます、御清聴を煩はしましたことを感謝致す次第であります。

## 支那の都市建設の經費支辨方法

元東京市助役 菊 池 慎 三 君  
元秋田縣知事

三度この壇に上りまして申上げて見たいと思ひます。私の申上げたいことは支那の都市經營、その經費及び財源の獲得方法に付て御紹介申上げたいのであります。

何れ日支事變の後に付きましては、日本は支那に於て種々の經營をしなければならのであります。その場合に實現されるのではないかと思はれる事柄、無論以前の経緯から致しまして有名な孫逸仙の三民主義……これは支那の國民黨が大事なものとして尊重してをるのであります。この三民主義、續三民主義の中に支那の建國方略といふやう

な事柄を項目に入れてをります。孫逸仙は夢を見るやうな人ですが、併し支那として餘程研究をした事柄があるのであります。

支那は人口が非常に多い所で渤海灣の中に大港灣を一つ造らう。もう一つは中支那に於て一つ、南支那に於て一つ造らう。それはどういふ目標によるかといふと、世界の大都市であり大港灣都市であるニューヨークを目標にして都市建設しようといふのであります。さうしてその場合は渤海灣に付ては何處を目標にしてをるか、それは今の天津

或は白河の河口太沽、これは港が浅くて大した築港は出来ない。それで今の太沽と秦皇島の間の大清河あの方面を大體目標としてこの三民主義が出来たといふのであります。この頃の日本の所謂北支開發計畫はどうなつてをるか分りませんが、これが一つの基礎となつてをるやうであります。一體日本の滿洲經營或は青島の經營に付きましてこの基礎は孫逸仙なりドイツ人が定めてをつたのを日本人が引受けて更にその長所を發揮して今日の斯ういふ形になつてをります。北支、支那の從來の經營に付ては支那の目論見が直ちに一つの參考になるのであります。滿鐵なり北支方面の當局の調査の結果はどうなるかよく知れないのであります。今の大清河の築港といふやうなものは何等かそのヒントになり得る事柄があるのではないかと思ふのであります。それで北支那方面に於ける大築港大都市を經營しようといふその計畫は數億の築港費を要するのであります。これは要するに大港灣であり大都市である。さうして日本の北支開發、資源の開發に付てもあの方面は港灣設備、交通機關の整つた都市となり、北支開發もその邊に目的があるのではないか。この事變の後に於ける大經營はさ

ういふ都市にすべく進んで行く傾向があるのであります。さういふことを申上げるのであります。次は上海方面の事柄であります。これは孫逸仙の續三民主義の中に建國方略、物質的建設といふことがあるのであります。三大港の中これは上海附近のことです。この上海は現在世界有数の港灣であります。あの揚子江の下流は時々細くなつて充分な交通が出来ない。故に太平洋なり世界を航海する船舶は益々噸數が大きくなるのであります。さうすると揚子江、黃浦江といふやうな色々な方法によるのであります。永遠の策として上海そのものは適當ではない、斯ういふのが孫文の考へてをる策であります。上海に代はるに新しい大港灣、大都市を支那に作るべきではないか。その造方は何れもその本の中に書いてあります。が、中部支那に於ける大港灣の一つの案ではないかと思つてをります。

第二は現在の上海、揚子江の改修、黃浦江の處置その脈絡を維持して行かう。これは穩健な案と言つてをります。さういふことが書いてありますが、すると揚子江に代はる中部支那の大港灣都市をどの方面に移向するか。それは抗

州、即ち日本軍が敵前上陸をして有名な杭州灣でございませうが、柳川將軍の率ゐる覆面部隊が上陸した所でありませう。さうして支那の歴史を考へて見るとずっと以前日本との貿易場はこの杭州であつたのであります。それでその方面に大きな築港をしよう、さうして上海に代はるべき大都市支那の經營、大港灣都市の經營をしようといふのであります。これが孫逸仙の主義であります。その間に面白いことには本願寺の大谷光瑞伯の案がある。これも夢を見るやうな言葉であると思ふのであります。杭州灣の經營に付て大築港計畫をすべきものだ、それが大都市經營の基礎になるべきものだ。さうして孫逸仙の南支那の案は現在の廣東を中心として、その大都市はニューヨークを目標とする大都市經營であります。斯ういふのが國民黨の氣持であります。所がそれはそれだけのことであります。それならば都市經營はどういふやうな形になるか、さういふ方略將來の實行をどういふ方法でやつて行くか。これを同じく建國方略の中に規定してをるのであります。それはどういふ方法か、一言にして言へば現在の……普通よく何處でもやることではありますが、土地會社が土地を經營すると同じや

うな思想であります。そんな大きな計畫でなく將來はなるほど何年後になれば相當の都市になるかも知れませんが、計畫的大都市の建設をして行く際に於ては現在が假令小さなものであらうとも、將來十年二十年後を目標として相當の計畫を樹てるならば相當の價格になることは疑ひない。それで現在の土地を買収致しまして、現在の地價で買収してそこに色々な計畫を實行しその土地を賣却して行きそれで財源を集めて行けばいい。これが一つの大都市建設の方法であり、何年か経てば龐大な資金となるのであります。その資金を何回轉でもして當初の豫算は小さくても今後に於ては大きなものになる。斯ういふのが大體の方法で御紹介申上げたいといふ思想であります。この思想は所が外の所でも例がないといふ譯ではない。所謂滿洲國の新京建設がそれでありませう。建設した後に大規模な都市計畫を實行して行つたと同じやうなものである。制度として色々ありませうが、極く簡單な方法にはその土地が都市になる前に農耕地の値段で買上げをする。その他に色々な經營をして都市の發展した場合に相當の値段を持つのであります。それを賣却すれば相當纏つたものが出來相當の利潤が加はる

のであります。土地會社が儲けるのもそれでありす。

それで東京の大震災直後に於て後藤新平さんが都市計畫に付て最初考へたことは、當時一部では帝都を東に移すべきだといふ議論が起つた。東京大震災の脅威としてあの土地の値段はどうなつたか、一寸補足することが出来ない状態でありす。さういふ時分に東京の焼跡全部を買収してさうして適當な建設をして行かう。さうして理想的な復興をやらうといふのでありまして、これも夢みたいな話であります。その通に出来るならば直ちに有利な計算になる譯であります。土地會社が算盤が當つて儲かつて行くものもあります。それと同じやうに日本が將來支那に付て、戦後の大都市經營をすると致します時にその費用は莫大なる經費に上るのでありますが、その經費を開放しでは困まる。日本は北支開發會社或は中支那振興會社、といふものを立てて相當の資金を入れることになつてをります、その投下資本に付て相當の利益を上げていふといふ理由はないのでありますけれども、利益が上るならば利益を取つていい。それでその方法は平たく考へますと、土地會社と同じ經營にして財源調達經費を支辨する途がある。これ

は極く素朴な考へであります。寧ろ都市計畫の財政の方面になつて行きますが、それが色々發展して行きます。或は受益者負擔の制度によるとか、或は地帯收用の制度色々あるのであります。根本の考へは何處にあるか。或る土地が農業用に使はれる場合に田地一段幾らである、畑が一段幾らであるとか、兎に角農耕地として決つてをります。それが市街地の宅地となり殊にそこが商業地となつて大發展をすれば、それが坪當り何百圓になることは誰しも疑はない所である。それがどういふ風に反映して行くかは人間の智慧では豫測出来ない。豫想してゐても豫想以外のことが起つて来る場合もあるのであります。併しその點は國策で決めてさうして鐵道の建設その他諸般の建設をして行つたならば、相當の都市建設が出来なくてはならん。

それで最後に申上げたいのであります。日支事變の進行はどうなるかは別問題であります。日支事變に於きまして或は滿洲事變に於きまして日本の戦後の經營は一面から言へば都市建設であります。都市の經營であります。滿洲そのものに付ても日本人が色々大陸發展をし、それは

農業移民といふやうなものもありませうが、併し主たるものは何かと言へば矢張り都市建設であります。さうして日本人の發展する所は都市なんである。行く行くは農耕地に使用し發展するといふことになりまして、一般の目標は都市である。さうして大陸に對して日本が色々進展して行きます。併しには、日本人の手による都市建設が出来なくてはならんのであります。それかといふとそれに莫大なる金を要するのではないのであります。それに付ては色々算盤の工夫を要するのであります。永い間の眼で見れば都市に莫大なる資本が投下されるのであります。その投下した資本の利益は何等かの形に於て上がる。無駄なことを計畫し杜撰なことを計畫すれば、そこに變動があることは當然でありますけれども適切な經營、全體的の經營を考へて、さうして潤澤に資本を投下したならば、所謂利益を計算致しますと相當な利益を上げるのであります。利廻りを得ることになるのであります。唯その利廻りは直ちに外の民間の營利事業とは違つて、この利益を受ける人は莫大な形になり平たく言へば國運の伸展といふやうな無形的な利益になるのであります。

す。經濟的の利益のみでそれは出来ない。さうしてよく言はれるやうに極めて簡單な土地會社が儲かつて行くといふやうなことも、そこに賢明なる組織的計畫をやつてをるからであります。それは當然出来る筈であります。都市建設に付ても一つの基本的の觀念が必要ぢやないかと思ふ。さういふ場合に莫大なる經費は必要であるのであります。併しこれを統制、調整する途は色々考へられる。

もう一つ最後に御參考迄に申上げて置きたいと思ふのは、例の後藤新平氏が八億圓の計畫で東京市の復興計畫をしようとした。それでこれを安田善次郎翁に相談をした。八億圓を持つて行くならばこれが出来るといつて安田善次郎翁に相談したのであります。固より安田翁が出さないと言へばそれで済みでありますが、安田翁は八億圓といふやうな莫大な資金を調達して行つたならば相當の利潤を得る筈であります。併し不幸にして安田翁は亡くなつたのでそのことも遂に行はれなかつたのであります。さういふ風に都市の建設に付ても民間の資金を取入れたりする方法もある。さういふ事柄を考へてやる。前に申上げた支那の大都市建設といふことに付ても孫逸仙の考へ或は大谷光瑞伯

の考へさういふやうな考へを参考にして、勿論これ等の人もそれを實行してをる譯ではありませんが、兎に角専門家の知識を借りて行つたらいゝぢやないか。それには組織

的に計畫的にやつて政策を翫味して行けば、大都市經營に何等かのヒントを得られるのぢやないかと思ひます。

#### 第四 兩部會に於ける報告討議の經過報告

##### 一 序 説

前篇記述の如く、總會第一日及び第二日に於ける第一、第二兩部會の報告討議の經過を、各部會議長より報告ありたるが、其の内容左の如し。

##### 二 第一部會に於ける報告討議經過報告

###### 第一部會議長 佐野利器君

第一部會に於きましての議事經過を御報告申し上げます。  
第一部會に於きましては十日の午後四時、十一日の午前二時、十一日の午後九時合計十五人の御報告がありました。

第一日の午後の部會に於きましては先づ第一に内務省の西村輝一氏から「關東州計畫令の異色」に就てお報告がありました。御報告の要旨は本年二月に制定公布にかゝる關東州計畫令が如何なる點に於て内地の都市計畫法と異

つて居るかといふ事でありました。即ち關東州計畫令は内地の都市計畫法の系統に屬するものでありますが、内地の都市計畫法が個々の都市を目標として其の計畫を進めて居るものであるに反し、これは州全體の區域を其の對象として個々の都市のみならずすべての都市及農村をもひきくるめて、全體的に其の土地の利用開發を目的として居るといふことであります。これは主として關東州の占むる特殊的な地位によるものではあります。又我國二十年來の都市計畫法の運用とその実績とに鑑みまして、且又都市計畫の理論に關する最近の傾向等も取りてこの様に制定することになつたのであるといふことであります。

これに續きまして都市計畫東京地方委員會事務官高橋登一氏から「工業を基調とする都市計畫の再検討」なる御報告がございました。その要點と申しますのは、我が國の人口は最近では年に約百萬人づゝ増加して居るが、この人口を養つて行くには外に對して移民移住の策を採ると共に内に於ては生産事業の擴充を謀ることに努力せねばならぬ。然るに農村に於ては人口は既に飽和状態に達して居てこれ以上收容の餘力は全く無い状況であるが故に是非とも

都市に於てその收容を引受けねばならぬ。そのためには工業を大に振興せねばならない。こゝに於て工業計畫を樹立することは刻下の急務である。然るに従來、工業の配置に就ては何等の統制指導が行はれて居らず、全く自由に放任せられて居た結果として工業は主として大都市及びその周圍に集中せられてしまつて居る。

かくの如く大都市に工業の集中することは大都市に富を偏在せしめ、地方を疲弊せしめ過大都市の弊害を生む原因を作り、又國防上から見れば防空上の重大缺陷となつて居るので政府に於ても工業の地方分散に努めて居る様であるがこの事は現在の都市計畫法令並に現在の都市計畫組織のみを以てしては不十分であるから速に地方計畫の立法により之が解決を希望するといふのであります。

次に咸興府會議員の大川市二氏から「大道路建設の可否」と題し、役人のやる都市計畫が動もすれば地方の要求若くは民情等を無視して徒らに龐大なる計畫を樹てる結果地方民の負擔を重くする嫌があることを指摘して其の反省を促がされました。

又京城帝國大學教授鈴木武雄氏は「朝鮮の都市に就て」



と題して最近躍進的發展を遂げつゝある朝鮮の産業的地位と都市計畫に關して御研究を述べられました。その要旨は次のやうであります。

「都市計畫は地方計畫にまで、又は更に進んで國土計畫にまで高められねばならぬ」といふ議論が最近多いやうであるが、朝鮮の都市建設の立場から見るとこれは國土計畫(ナショナルプランニング)よりも更に一段と高いブロック計畫(ブロックプランニング)といふやうなものゝ必要を痛感する。蓋し朝鮮半島は多年の原始的産業一本槍の時代、従つてブロック的には用地を都市とすれば朝鮮半島側が恰も農村の如き地位にあつたのであるが今や滿洲事變を轉機として農工併進の時代に入り更に支那事變後は日滿支ブロック經濟の中にあつて、大陸的兵站基地としての重要な地位を備ふるに至り、産業の據點として都市の新興の目覺しきものがある。従つて朝鮮の都市計畫程、當該都市自體の狭き立場よりする事が許されず又それが不合理なるものはない。宜しく日滿支ブロックの綜合的、全體的立場よりこれが計畫發展を圖らねばならぬ」といふのであります。

これに對しましては群山府の赤松繁夫氏及び鎮南浦の河村國助氏等よりいろいろ御意見もございました。これを以て第一日の部會を終りました。次に第二日午前の部會に於きましては、先づ愛知縣都市計畫課長眞坂忠藏氏から「國土計畫制度を要求する根本問題」に就て御研究の發表がありました。その要旨は、從來の都市計畫は主として都市の發展を目的として爲されて來たために都市に於ては産業の集中と共に建築物の密集と人口の密住とを生じ地方は之に反して頗る衰頹するやうになつた。この傾向は大に憂ふべきものなるにより改められねばならぬ。工業の種類と性質とに應じて適當に之を分散せしめ、産業的に都市と農村のバランスを保たせる様に計畫施設せねばならぬ、といふのであります。

次に都市計畫三重地方委員會技師兼岩傳一氏から「都市計畫と地方計畫の相關々係に就て」御報告がありました。その御説は我國の都市計畫界には三つの思想的傾向があるよ第一は空想計畫主義とも言ふべきものである。第二は計畫至上主義であり、第三は現實主義である。現實主義の主張は都市計畫とは都市全體の改良計畫であるといふ立場

に立つものであることを強く主張し、空想主義や計畫至上主義を排斥するものである、といふのであります。

而してその結論として現在我が國の都市計畫は

(一)計畫が實行から遊離して居ること、(二)事業財源が眞剣に考慮せられて居らぬこと、(三)計畫の樹立が綜合的でないこと、(四)區劃整理の重要性を把握して居らぬこと(五)行政機構に於ては法科萬能主義の嫌があること等の缺陷があることを指摘せられました。

これを以て時間の都合上午前の部會を一旦打ち切りまして午後一時三十分から再び部會を續行することに致しました。

午後の部會に於きましては先づ第一に朝鮮總督府技師島井捨藏氏から「地域制の分化に就て」の報告がありました。それは用途地域の中には住居地域に於てのみならず、商業地域、工業地域の中にもそれゝ專用地區を設けることが必要であると云ふこと及び用途地域と容積地域とは保健衛生上の必要からも防空上の必要からも分離して考へなければならぬといふ點を特に強調せられたのであります。これに續いて大阪市の中澤誠一郎氏も「都市工業地の

發展と專用地區」と題しまして殊に工業上から工業地域内に工業専用の地區を設けることの必要なる所以を力説せられました。續いて愛知縣建築課長の井上新二氏は「工場原動機馬力數算定の是正」と題せられまして、愛知縣に於ては、市街地建築物法により住居地域又は商業地域内にも許さるゝことになつて居る工場の原動機の數を從來は公稱馬力數に依つて居たが最近それを實效馬力數本位に改めて事實上住居地域又は商業地域内に於ける工場の制限を大に緩和するやうにした、といふ御報告がございました。次に朝鮮總督府技師山岡敬介氏は「都市構成の單位區劃に就て」と題しまして、街路網の計畫はこれを單に交通に對する考慮のみを以てなすべきではなく、公園、小學校及び公設市場の配置又は防空防火上の施設をも考へて綜合的に之を決定すべきである、と申されまして圖面を以て詳細にその設計等を御説明になりました。その次には都市計畫東京地方委員會技師太田謙吉氏から「東京綠地計畫」に關する詳細なる説明をこれ又圖面を以て詳細に致されました。これは昭和七年八月に組織せられました東京綠地計畫協議會の審議によるものゝ由であります。續いて都市計畫山梨地方委

員會の森川清氏は「風致資源の開発と關係法規に就て」と題しまして既存風致の維持に付てのみならず新なる風致資源の開発に關しても十分なる考慮を拂ふことの必要があることを力説せられました。

その次には京城府工營部長長郷衛二氏から「朝鮮特殊國民の處置に就て」といふ問題の下に、土幕民と稱する朝鮮特有の細民部落の現狀と之を如何に處置すべきか、に關しての詳細なる御報告がありました。土幕民といふのは他人の土地を無斷に使用して蒲鉾小屋を造りて集團生活を営むものでありまして、其の生成の由來は朝鮮古來の慣習と都市貸家制度の不備とに基くものである、との事でありま

之に收容し、社會教化事業を行つて彼等を更生せしむると共に、徹底的の警察取締を以て之を根絶する様せねばならぬものと考へて居るとの御話しでありました。

次に「滿洲國の都邑計畫の現狀」に關して滿洲國都邑計畫科長沼田征矢雄氏からの御報告がありました。

滿洲國には建國以前において既に滿鐵沿線における附屬地及び舊北鐵沿線に於ける附屬地等に都市計畫が行はれて居たことがあるが、建國後組織的な都市計畫の必要が感ぜられまして初めは關東軍特務部内に都市計畫委員會が設けられたが唯今では政府内に都邑計畫科が設けられて都市計畫を行つて居る、との事でありま

最後に咸興商工會議所理事の土屋惟一氏から「都市に於ける尿尿處理問題に就て」御話しがありまして部會を閉ちました。

實は以上の外咸興府土木課長涌澤元三郎氏から「咸興市街地計畫建築敷地造成事業に就て」と題する報告の御通告があつたのでありましたが遺憾ながら時間がありませんので部會に於ての御報告を文書を以ての御報告に代へて頂くことに御諒解を得ました。從つて同氏の御報告はありませ

んでした。其の外一旦御通知がありました

以上極めて概括ながら第一部會の経過御報告を終ります。

### 三 第二部會に於ける報告討議経過報告

#### 第二部會議長 松 島 清 君

之より私から第二部會の報告討議の経過を簡単に御報告申し上げます。

第二部會の議題は、都市の經費問題でありまして、報告者は前後兩日を通じて、十六名の多數に上り、何れも議題の各方面に亘り最も有益且つ熱心なる研究の結果を發表されたのであります。

第一日は總會に引續き、午後三時二十分より開會致しましたが、先づ京城府會第一部會議長濱田虎熊氏より「京城府の經費に就て」と題して、京城府の經費の動向を述べ、

之を内地大都市と比較し、尙財源に餘裕のある事を指摘され、併せて中等學校の道費移管と、法人教育費の負擔の必要とを力説されました。

次に京城帝國大學教授小田忠夫氏は「朝鮮に於ける都市經費の動向」に就て考察され、朝鮮の都市の財政が有つ一般的性格と特殊の傾向とを數字を擧げて説明し、特殊の傾向より見たる大小都市間の差異及び内鮮人間の負擔の差異を以てし、之を合理的に調整すべき事を述べられました。

第三に「受益者負擔金」に就て、元山府會議員南百祐氏

は、受益税負擔期間の延長と、賦課率の低下を希望され、且つ道路使用者たる交通業者に之を重課すべしと主張されました。之に引續き元東京市助役菊池慎三氏は、防空關係費、銃後援事業費等非常時局下に於ける都市の新經費に就て、二三の考察を廻らされ此等の國政的性質を有つ事務に付ても、都市は決して之を等閑視すべきでなく、最も能率的合理的に處理する必要があることを述べられました。

第二日は先づ午前の部に於きまして、大阪商科大学助教授竹中龍雄氏は、「公企業會計に就て」と題し、我國の公企業會計の現状を行政學的見地より批判し我國に於ける行政技術の社會的利用の缺除を指摘されました。

次いで「羅津府の土地増價税」に就て、朝鮮總督府内務局高橋貫右氏は羅津府の特異性より土地増價税創設の理由を述べられ、増價税の課税地域、課税標準、税率等について詳細なる説明を試みられました。

第三に大阪府庶務部長大塚辰治氏は「都市經費の合理化」と題して、先づ經費膨脹の原因を顧み、經費合理化の方策として、人的、物的兩方面に於ける無駄の排除と能率増進

を提唱し、大阪市に於ける事務改善運動の實際を紹介されました。

午後の部に入りまして、東京市企畫局の芦田勲氏は最近大都市に於ける行政事務の膨脹複雑になり行くことを述べ各部局間の連絡統制の必要より生ずる、企畫部局の設置とその使命に就て論じられました。續いて都市經費の基準算定に就てと題し、京城府都市計畫課長梶山淺次郎氏は教育費、土木費、衛生費、勸業費、社會事業費、一般事務費の六費目に付き經費基準の算定方法を公式化して述べ、各都市の經費額算定に資せられました。

慶應義塾大學教授永田清氏は經費一般の性質に就て從來の消費説と生産説とを検討し、更に進んで財政の經濟作出と云ふ經費の新なる性質を指摘され、都市經費に付ても經費のこの積極的性質を考慮する必要があるとの注目すべき見解を發表されました。

次に新京特別市財務處長鯉沼兵士郎氏は、新京特別市の舊城内、附屬地、國都建設地の三地域より成る特殊性に基く財政經營の複雑性を述べ、その現状と將來に對する抱負の一端を披瀝されましたが、差迫つての御願ひにも拘らず

枉げて友邦滿洲國首都の事情を御紹介願つた事を感謝致します。

都市の經費負擔に付て木浦會議員金聲振氏は、都市經費の財源を都市施設の恩恵を受けること大なる人々より求むべしと述べられ、次に東京市企畫局横島勇氏は膨脹する都市經費の財源捻出策として使用料手数料徴收範圍の擴大、經費の合理化附加税收入の委任事務費充當、獨立税の固有事務充當、公益企業收益の増加等を挙げられ、財源問題に關し示唆される所がありました。朝鮮總督府高橋貫右氏は、朝鮮地方債を述べ、其の起債條件を説明し今後の方針と希望を開陳されました。續いて元山府會議員李弘俊氏

は、物件費と人件費に付いて朝鮮都市の道路維持を例にとり、其の合理的なる處理方策を要望されました。

最後に菊池慎三氏は、支那の都市建設の經費支辨方法に就て孫文の建國方略に於て主張する所を紹介され、土地會社の土地經營と同様の方針を以てする都市の經營方法を提唱されました。

以上を以ちまして十一日午後四時第二部會の報告討論は終了致しました。これ等の御報告が都市經營の將來に裨益する所大なるを信する次第であります。兩日を通じ演述者並に來會者の多大なる御協力を賜りましたことを厚く感謝致します。

## 附篇 第六回全國都市問題會議總會に關する文獻類

第六回全國都市問題會議總會文獻、同準備文書及び總會開催並執行狀況の報道、又其の批判を試みたる圖書類を列記すれば左の如し。

### 一 總會文獻及準備文書

第六回全國都市問題會議總會文獻 1 研究報告「都市計畫の基本問題」上

同 2 研究報告「都市計畫の基本問題」下  
同 3 研究報告「都市の經費問題」  
同 4 總會要錄

参考文献「朝鮮都市の衛生事情に關する若干研究」(京城府編)

同 「日本都市概観 附・滿洲國都市」(東京市政調査會編)

綜合彙報 第一號 日程及參加者注意事項

同 第二號 日程細目及關聯諸事項

同 第三號 總會參加者名簿

同 第四號 總會參加者追補

同 第五號 拜觀並視察個所説明概要

全國都市問題會議報第十一號 第六回總會議題

同 第十二號 第一議題參考文獻目錄

同 第十三號 第二議題參考文獻目錄

同 第十四號 京城總會誌

同 第十五號 第六回總會報告討議

## 二 總會開催並執行狀況報告及び批判等に關するもの

全國都市問題會議第六回總會京城府に開催と決定——雜誌「都市問題」第二十四卷第五號

全國都市問題會議第六回總會の議題決定す——雜誌「都市問題」第二十四卷第五號

問題」第二十五卷第三號

第六回全國都市問題會議總會の議題に就て——雜誌「都市問題」第二十五卷第四號

時局に對處して全國都市會議京城總會今秋開催——雜誌「都市問題」第二十六卷第三號

第六回全國都市問題會議總會の開催に際して(堀切善次郎氏)雜誌「都市問題」第二十七卷第四號

都市計畫の基本問題と都市の經費問題に關する諸論——第六回全國都市問題會議研究報告の要旨——雜誌「都市問題」第二十七卷第四號

朝鮮統治の要諦——全國都市問題會議に寄す(南次郎)雜誌「都市問題」第二十七卷第五號

第一議題主報告現下都市計畫の緊急問題(松村光賢)——雜誌「都市問題」第二十七卷第五號

第一議題主報告朝鮮に於ける都市計畫の特異性(榛葉孝平)——雜誌「都市問題」第二十七卷第五號

第二議題主報告經費の合理性と必要性(菊池慎三)——雜誌「都市問題」第二十七卷第五號

第二議題主報告都市經費の實證的考察(森下政一)——雜誌「都市問題」第二十七卷第五號

誌「都市問題」第二十七卷第五號

特別議題報告、事變と都市の厚生(社會・衛生)對策(林信夫)——雜誌「都市問題」第二十七卷第五號

第六回全國都市問題會議總會概況——雜誌「都市問題」第二十七卷第五號

第六回全國都市問題會議總會に於ける報告討議概況——雜誌「都市問題」第二十七卷第五號

特別報告日滿支都市の文化的經濟的連携に就て(大野綠一郎)——雜誌「都市問題」第二十七卷第五號

第六回總會を顧みて感想と希望——全國都市問題會議會報第十五號

躍進朝鮮と都市問題の認識——全國都市問題會議京城總會に當りて——(堀切善次郎)——京城彙報第二〇二號

全國都市問題會議第六回總會要項——社會事業彙報第十二卷第五號

全國都市問題會議十月に京城府で——雜誌「大大阪」第十四卷第八號

第六回全國都市問題會議見聞(瀧山良二)——雜誌「大大阪」第十四卷第十一號

第六回全國都市問題會議に出席して(島崎孝彦)——雜誌「大大阪」第十四卷第十一號

研究發表の方法選題等に一考を希望(藤原九十郎)——雜誌「大大阪」第十四卷第十一號

第六回全國都市問題會議に出席して(森下政一)——雜誌「大大阪」第十四卷第十一號

京城を觀る(玉井猛)——雜誌「大大阪」第十四卷第十一號

都市問題會議雜感(土井一徳)——雜誌「大大阪」第十四卷第十一號

全國都市問題會議に参加して(金谷重義)——雜誌「大大阪」第十四卷第十一號

第六回全國都市問題會議散見——雜誌「區劃整理」第四卷第十一號

都市問題會議の雜感(KK生)雜誌「區劃整理」第四卷第十一號

都市計畫の諸流派と地方計畫論との關聯における現行制度の問題——第六回全國都市問題會議の第一議題討議として——(兼岩傳一)——雜誌「區劃整理」第四卷第十二號

第六回全國都市問題會議の概況(幸島禮吉)——雜誌「區劃整理」第四卷第十二號

都市問題會議隨感(幸島禮吉)——雜誌「區劃整理」第四卷第十二號

朝鮮印象記(阿部喜之丞)——東京土地區劃整理研究會叢書第二輯

朝鮮旅行記——全國都市問題會議に出席して——(佐瀬清)——市政研究第五卷第一號

大京城座談會速記錄——京城都市計畫研究會

都市の發展と朝鮮(堀切善次郎)——「朝鮮講演」第九〇號

都市問題に就て(堀切善次郎)——「ラヂオ講演講座」第九輯

防空と建築(佐野利器)——「ラヂオ講演講座」第九輯

三 總會前後に於ける諸新聞の記事

新聞名稱出以後略稱を用ふ(地)は地方版の略

五月十六日

大阪朝日新聞(地) 卅名に委員囑託 都市問題を研究 會議に備へる京城府。

京 日 朝鮮の前途は洋々(中) 都市問題會議

京城總會に當り 東京市政調査會副會長貴族院議員 堀切善次郎氏。

九月二十九日

京 日 朝鮮の前途は洋々(下) 都市問題會議

京城總會に當り 東京市政調査會副會長貴族院議員 堀切善次郎氏。

十月一日

東京朝日新聞 京城で第六回都市問題會議。

朝鮮新聞 都市問題會議並に水道會議の開催。

十月二日

大阪毎日新聞 都市問題會議十日から京城で開く。

十月七日

大 朝(地) 外地で最初の都市問題會議 十日から京城で開催

大 朝(地) 二議題を中心に都市問題會議を協議 堀切善次郎氏來鮮談。

朝鮮日報 都市會議出席 堀切善次郎氏入城。

第三回全國都市問題會議總會に關する文獻類

朝鮮新聞 全國都市會議京城で開催 十月十日から三日間。

六月七日

大 朝(地) 全國都市問題會議今秋京城で開催。

京城日報 都市問題總會京城で開催。

九月二十七日

大 朝(地) 議題決る 全國都市問題會議總會。

朝鮮新聞 朝鮮と都市問題(一) 全國都市問題會議京城總會に當り 東京市政調査會副會長貴族院議員 堀切善次郎氏。

京 日 朝鮮の前途は洋々(上) 都市問題會議

京城總會に當り 東京市政調査會副會長貴族院議員 堀切善次郎氏。

九月二十八日

朝鮮新聞 朝鮮と都市問題(二) 全國都市問題會議京城總會に當り 東京市政調査會副會長貴族院議員 堀切善次郎氏。

朝鮮新聞 全國都市大會出席者が決定(裡里)

滿洲日日新聞 都市問題協議會へ眞鍋市助役ら出發。

十月九日

朝鮮新聞 都市會議出席 堀切善次郎氏入城。

十月十日

大 每(地) 都市會議列車 數々の話題を乗せて釜山から賑かに北行。

京 日 全國都市問題會議總會開會に際して。

京 日 全國都市問題會議總會愈よけふから開催。

十月十一日

大 朝(地) 全國都市問題會議 內鮮滿臺の權威を網羅し外地に最初 京城に幕開く。

大 朝(地) 全國都市問題會議 內鮮滿臺の權威者を網羅し十日から京城で開催。

大 每(地) 都市の周圍に綠地帯 防空建築が必要 松村內務省計畫局長力説す 都市問題會議京城總會第一日。

京	日	更に全國都市問題會議總會に望む	大	十月十二日	朝(地) 熱心に討議續行 全國都市問題會議第
京	日	全國都市問題會議第六回總會 斯界の	大	二日。	二日。
京	日	權威千餘名が列席けふ府民館で開催。	大	每(地) 青少年の結核 家庭の注意が肝要 都	市問題會議第二日。
京	日	全國都市問題會議總會式辭並祝辭	京	日	特別議題報告の後各部會に移る 都市
京	日	都市問題大講演會。	京	日	問題會議第二日
朝鮮	新聞	全國都市問題會議斯界の權威一千餘名	朝鮮	新聞	都市問題會議第二日午前の分。
朝鮮	新聞	參集 京城府民館に開催。	朝鮮	新聞	都市問題會議第二日目午後。
朝鮮	新聞	躍進朝鮮の誇り來會者は記録破りの大	朝鮮	商工新聞	都市問題會議第二日の日程終る。
朝鮮	新聞	多數 都市問題會議の收穫	朝鮮	日日新聞	京城の朝鮮人は世界第一の短命 水島
朝鮮	新聞	全國都市問題會議に於ける内相、拓相	朝鮮	日日新聞	城大教授の發表。
朝鮮	新聞	等の祝辭	朝鮮	日日新聞	朝鮮の事情を新映畫で紹介 都市會議
朝鮮	新聞	都市問題會議第一日(十日)午後五分	朝鮮	日日新聞	の第二日。
朝鮮	新聞	都市問題會議 野遊會開催。	朝鮮	日日新聞	朝鮮人の生命表。
東亞	日日新聞	豪華版! 都市會議 一千三百名參席	東亞	日日新聞	十月十三日
東亞	日日新聞	の大盛況 重要問題各自披瀝。	大	朝(地)	都市問題會議終る
東亞	日日新聞	都市問題會議 南總督祝辭要旨。	京	日日新聞	日程を終り閉會 第六回都市問題會議
東亞	日日新聞	都市問題總會中府民館で臨時通信。	京	日日新聞	大京城批判の座談會開催。

朝鮮	新聞	都市問題會議各部會の經過報告。
朝鮮	新聞	都市問題會議多大の成果を收む。
朝鮮	日日新聞	全國都市會議明年は臺北で 京城の大
朝鮮	日日新聞	會は閉幕。
朝鮮	商工	日滿支都市の相互聯繫を強調 大野政
朝鮮	商工	務總監から特別報告 都市問題會議最
朝鮮	商工	終日。
東亞	日日新聞	全國都市問題會議 重要成果閉會。
東亞	日日新聞	十月十四日
京	日日新聞	都市會議の置土産一つ 幹線道路網を
京	日日新聞	南北にも擴充する早くも新線一本の計
京	日日新聞	畫着手。



京 都 府

都市計畫京都地方委員會事務官  
技師

京都市長

同 第一助役

同 第二助役

同 企畫部長

同 財務部長

同 保健部長

同 水道局長

同 電氣局長

同 土木局庶務課長

同 都市計畫課長

同 市會議長

同 市會書記長

京都帝國大學經濟學部

工學博士

柴谷善次郎

大阪商科大學經濟研究所主事

同 助教授

京都市衛生組合聯合會長  
理事

舞鶴市長

大 阪 府

大阪府都市計畫課長

都市計畫大阪地方委員會技師

同 技師

同 書記

大阪市助役

同 庶務部長

同 土木部長

同 水道部長

同 保健部長

同 財務部主事

同 電氣局總務課長

大阪商科大學市政研究室教授

同 助教授

木村拾治郎  
後藤彌太郎  
川北正太郎

赤間文三

草野茂

田中清志

向井利一

森下政一

大塚辰治

福留並喜

島崎孝彦

藤原九十郎

土井一德

玉井猛

金谷重義

竹中龍雄

高砂恒三郎

大阪都市協會常務理事

大阪北港株式會社

日本建築協會副會長理事

日本建築協會

同 市長

同 土木部長

同 市會議長

堺商工會議所會頭

岸和田市助役

布施市長代理

同 助役代理

同 市會議長

同 市會副議長

同 市會書記長

池田町助役

同 町土木課長

神 奈 川 縣

神奈川縣土木部長

神奈川縣都市計畫課長

都市計畫神奈川地方委員會

同 橫濱市水道局長

同 財務課長

同 市會書記長

神奈川縣建築協會

神奈川縣土地區劃整理協會

同

同

同

同

同

神戶市會副議長

同 尼崎市助役

同 土木部長代理

同 市會議長

橫山 喬  
野坂 相如  
中田 武男  
藤田 弘道  
小島 岩太郎  
須藤 正義  
松原 襄  
中山 虎雄  
山田 敬助  
君塚 秀雄  
大石 清次郎

兵 庫 縣  
松岡 勝榮  
田中 英  
長澤 達  
上村 盛治



西宮市土木課長	中山千秋	栃木縣	同	都市計畫栃木地方委員會	館野保吉
同 市會議長	米田嘉兵衛	同	都市計畫栃木地方委員會	同	同
新潟縣	杉山鏡介	宇都宮市長代理	千葉縣	都市計畫千葉地方委員會技師	鹽澤弘
新潟市土木課長	佐藤幸太郎	都市計畫奈良地方委員會	奈良縣	同	前田宗光
群馬縣	森幸太郎	同	同	岡本岩治郎	同
都市計畫群馬地方委員會技師	佐藤幸衛	愛知縣建築課長地方技師	愛知縣	井上新二	同
熊谷第一土地區劃整理組合	富安鑒助	同 都市計畫課長	同	真坂忠藏	同
高崎市都市計畫課長	本多篤行	同	同	赤司貫一	同
前橋市助役	堀康雄	同	同	大岩勇夫	同
桐生市助役	荻野欽司	同	同	同	同
茨城縣	高橋六郎	同	同	同	同
水戸市技師	平野甚助	同	同	同	同
古河町長	同	同	同	同	同

名古屋市助役	神田純一	半田市會議長	山田佐一
同 助役	藤岡兵一	靜岡縣	同
同 電氣局長	高原匠	靜岡市主事	竹田傳吉
同 庶務部長代理	小島錄太郎	靜岡市會議員	山梨與右衛門
同 土木部長	花井又太郎	濱松市市會副議長	岩崎豐
同 社會部長	松橋基彦	同 技師	蓮池勇
同 保健部長代理	高橋助一	同 主事	大石利平
同 調查課長	奥村國雄	三重縣	兼岩傳一
同 水道局長	池田篤三郎	同	同
名古屋市役所	近藤幸三	同	同
同	江崎與右衛門	同	同
同	太田惣助	同	同
同 市會議長	青井恒次郎	同	同
同 市會副議長	木村重正	同	同
同 市會書記長	林貢	同	同
名古屋市新屋敷土地區別整理組合	高木靜波	同	同
同	太田正兵衛	同	同
同 岡崎市長	菅野經三郎	同	同
同 土木技師	丸本義孝	同	同

都市計畫岐阜地方委員會書記

長野縣

都市計畫長野地方委員會技師

松本市長

同 市技師

同

同

宮城縣

宮城縣土木部長

同 都市計畫課長

同 都市計畫宮城委員會技師

仙臺市都市計畫課長

仙臺市會議長

福島縣

平市會議副議長

坂金一

小林興茂

百瀬睦三

三井睦三

北原義雄

太田政德

大石久吉

船越久吉

國分浩

津田康吉

佐々木幸助

蓮沼龍輔

青森縣

八戶市長

石川縣

都市計畫石川地方委員會書記

小松町長

富山縣

富山市長

同 庶務課長

鳥取縣

鳥取市長

同 主事

米子市長

岡山縣

都市計畫岡山地方委員會技師

神田重雄

齋田政尾

東方秀隆

山崎定義

奥野平隆

楠城嘉一

佐竹吉二

西尾常彦

岡田實

岡山市都市計畫課長

琴浦町助役

廣島縣

都市計畫廣島地方委員會事務官

廣島市長

同 市助役代理保健課長

同 市財務部長

同 市文書課長

同 市會議長

同 市會議員

同

同

同

同

同 市會議長

山口縣

緒方巖

中原英一

横山金太郎

谷山源陸

佐々木忠夫

三宅高二

森保祐昌

小倉康弘

申口亮三

島本秀吉

松坂義正

中山孫三郎

日野熊太郎

石田覺

下關市長

同市

宇部市長

同 市土木課員

和歌山縣

都市計畫和歌山地方委員會技師

德島縣

都市計畫德島地方委員會技師

德島市土木課長

同 市會議員

同

同

香川縣

屋島町長

觀音寺町役場

松井信助

石川國康

伊藤勘助

川口楠雄

濱垣明

樽谷萬治

木内豐太郎

細田文明

竹内秀太郎

港次郎

木村林七

愛媛縣

松山市長代理

福岡縣

福岡縣土木部長

都市計畫福岡地方委員會技師

福岡市技手

小倉市長代理

同市

同市會議長

八幡市土木課長

同市會議長

八幡市會議員  
都市計畫福岡地方委員會會員

同

同

飯塚市土木課長

黑田政一

土肥憲二郎

森四郎

養原金次

菊池武彦

森山健次郎

明石和助

林敬之助

守田道隆

上田吉次

井上圓藏

石松繁雄

濱橋文作

松本昇

山本宇兵衛

大牟田市主事  
戸畑市土木課長  
若松市助役  
八幡土木建築請負業組合書記

大分縣

都市計畫大分地方委員會技師

同技師

別府市土木課長

佐賀縣

唐津市會議長

熊本縣

熊本市土木課長

沖繩縣

沖繩縣警察部保安課

小川清六  
與田喜藏  
大木新一  
行木義男

緒方虎之助  
蜂須賀昭吉  
岡崎春十  
中澤源十

清水莊次郎

天草盛長

大城龍太郎

那覇市長

朝鮮

本府關係

朝鮮總督府政務總監

同內務局長

同專賣局長

朝鮮總督府警務局長

警保局警務課長

同衛生課長

同局技師

同同

同同

同同

同同

同同  
官房會計課技師

同同

同同  
技手

金城紀光

大野綠一郎

大竹十郎

鈴川壽男

三橋孝一郎

伊藤泰吉

西龜三圭

橫山俊久

川口利一

今津重藏

元吉勇太郎

熊懷義人

齋藤忠人

萩原孝一

寺師道尙

加藤克巳

第六回全國都市問題會議總會參加者名簿

朝鮮總督府內務局土木課長

同內務局地方課長

同鐵道局調查課長

同改良課長

同保線課長

同建設課工事係長

同同計畫係長

同改良課計畫係長

同同計畫係

同保線課第一係長

同營業課旅客係長

同庶務課文書係長

同社會課長

同監督課技術係長

同遞信局技師

同同  
地方課事務官  
理事官  
屬

榛葉孝平

西岡芳次郎

大島寅治

清水幸次

伏島信九郎

上野豐次郎

田部正利

上舩主計

吉成一

島田昇二

稻川正一

安宅宇道

湯山茂

田中義一

津田常男

西島祥六

林勝壽

河村雅亮

高橋貫右

朝鮮總督府地方課屬	田中俊輔	京畿道山林課長	淺野力
土木課技師	小野寺啓治	同 學務課長	山下秀吉
同	眞田重雄	同 土木課長	松井精二郎
同	山岡敬介	同 土木主事	小西尙太郎
土木事務官	坂本嘉一	同 土木技師	原田兵作
同 屬	庭瀬信行	同 囑託	阿部久治
同	平島洋三	同 官房主事	樋口剛三郎
同	山口國太郎	稅務署長	高久榮
同	村山道雄	京城帝國大學教授	鈴木武雄
財務局稅務課長		同	小田忠夫
京畿道		同	水島治夫
京畿道知事	甘蔗義邦	京城府尹	佐伯顯
同 內務部長	神谷小一	同 總務部長	松島清
同 警察部長	高安彦	同 工營部長	長鄉衛二
同 產業部長	尹泰彬	同 財務部長	金永祥
同 衛生課長	天岸敏介	同 庶務課長	眞野富太郎
同 地方課長	隅田保次	同 監查課長	磯矢耕太郎
同 警察課長	上野盛一	同 內務課長	柳本朝光
同 保安課長	加藤不二夫	同 時局總動員課長	稻垣辰男

京城府戶籍課長	吳明煥	京城府技師	木島榮
同 勸業課長	田中寅雄	同 技師	高本春太郎
同 學務課長	岡野定乙吉	同 水道課技師	桃田喜一郎
同 社會課長	宮原馨	同 同	谷口清三郎
同 衛生課長	萩野正俊	同 同	木代嘉樹
同 清掃課長	金古鼎成	同 主事	佐治爲敬
同 稅務課長	中村勘吉	同 技師	村田英一
同 會計課長	中村恒造	同 技師	待山正利
同 土木課長	伊藤文雄	同 書記	稻野勝三郎
同 水道課長	江頭又次郎	同 衛生技師	渡邊主稅
同 都市計畫課長	梶山淺次郎	京城府會議員	大野史郎
同 營繕課長	土屋積	同	馬場薊
同 龍山出張所長	森高源藏	同	李弘鐘
同 永登浦出張所長	湯山清一	同	梁在昶
同 東部出張所長	洪祐完	同	赤荻與三郎
同 府主事	家入傳	同	本田建義
同 土木技師	矢野眞郷	同	上杉直三郎
同	丹野三郎	同	南條辰
同 主事	木島榮太郎	同	古川敬介



朝鮮殖産銀行頭取  
朝鮮麥酒株式會社工場  
キリンビール會社工場長  
朝鮮米穀倉庫株式會社社長  
朝鮮無盡協會社長  
清水組  
昭和工科學校長  
京城男子公立高等小學校長  
京城女子公立實業學校  
株式會社和信社長  
朝鮮運送株式會社事務取締役  
商業銀行頭取  
朝鮮生命保險株式會社社長  
京城公立職業學校  
京城高等工業學校  
東洋殖産株式會社朝鮮支社理事  
朝鮮農林株式會社  
同  
朝鮮林業開發會社

林 繁 藏  
青 井 廉 一 郎  
坂 口 重 治  
石 塚 峻  
池 田 與 三 郎  
金 刺 源 一 郎  
三 浦 義 明  
武 田 知 星  
增 井 太 郎  
朴 興 植  
河 合 治 三 郎  
朴 榮 詰  
韓 相 龍  
赤 堀 董  
葛 西 重 男  
上 内 彦 策  
原 四 郎  
小 川 專 太 郎

第一銀行京城支店長  
茶屋町々總代  
稻垣病院長  
青葉町々總代  
西小門町總代  
朝鮮信託株式會社社長

中 間 高 州  
芮 宗 錫  
稻 垣 基 一  
市 川 鶴 松  
松 浦 齊 生  
谷 多 喜 磨  
安 藤 靜  
小 賀 野 清 藏  
後 藤 虎 雄  
工 藤 武 城  
中 島 貞 信  
篠 崎 半 助  
野 中 健 造  
阪 井 清  
小 林 源 六  
高 木 德 彌  
張 壽 慶  
酒 井 政 之 助  
山 岸 富 雄

光 延 丈 成  
柳 海 昌  
阿 部 喜 之 助  
松 村 德 平  
宋 達 燮  
塚 崎 兼 作  
植 西 源 五 郎  
高 澤 藤 子  
橋 圓 壽  
青 木 大 三 郎  
正 木 範 二  
犬 島 新 作  
佐 野 順 太 郎  
江 川 乙 三 郎  
志 岐 信 太 郎  
高 田 眞 次 郎  
吳 珽 煥  
三 上 豐  
神 津 幸 右 衛 門

仁川府會議員  
同 屬  
同 技 師  
仁川府尹  
安城邑長

苦 菜 地 造 酒 彌  
富 井 實 太 郎  
加 藤 清 右 衛 門  
橋 詰 庄 太 郎  
西 崎 源 太 郎  
張 憲 植  
野 中 延 喜  
李 鳳 烈  
大 和 與 次 郎  
石 原 磯 次 郎  
井 上 清  
趙 南 變  
中 村 組 太 郎  
徐 相 準  
永 井 照 雄  
守 山 春 市  
今 岡 修 一  
佐 藤 直 之  
小 谷 益 次 郎







慶尚南道

慶尚南道土木課長  
同 土木技師  
同 土木技師  
同 土木書記  
釜山府尹  
釜山府技師  
同 主事  
同 保健係長  
同 書記  
同 屬  
同 技手  
同 技手  
釜山府會議員  
釜山府會議員  
同

伴格夫 釜山府會議員  
山下博之 同  
元倉三郎 釜山商工會議所常議員  
上野雄三 同  
山本坂太郎 同  
永戶三郎 釜山府尹  
佐藤久吉 尚府政主任主事  
松居辰雄 釜山府會議員  
久山次郎 同  
山形賴義 同  
山口國太郎 同  
末原盛彦 同  
井場難吉 同  
山內忠市 同  
山本榮吉 同  
加藤襄 同  
石原衛 同

長富芳介  
山內忠市  
金相洪  
倉地哲  
戎才吉  
米倉清三郎  
中村高次郎  
藤江崎一  
井手庄太郎  
常松泰  
渡邊利三太  
富和雅夫  
張和在軾  
西野泰民  
黃甲周  
山下淺次郎  
徐基弘  
本田植五郎  
關泳鶴

馬山府會議員  
馬山商工會議所會頭  
同 理事  
同 常議員  
同 議員  
同  
同  
同  
三千浦邑長  
三千浦邑長  
普州邑長  
同 土木技師  
同 庶務主任  
同 邑會議員  
同  
同  
東萊郡邑長  
統營邑長

高相庸 統營邑會議員  
西田木惣市 同  
曾良熊次 同  
小林萬二 同  
井手禎次郎 金海邑長  
松本直 蔚山邑長  
濱田厚太郎  
高道坤  
打越常人  
大野育二  
山下正道  
櫻井貞  
和田平一  
鹽尻庄市郎  
福島是  
李章喜  
黃漢詰  
小川增太郎  
山口精

黃海道

黃海道內務部長 朝鮮總督府道事務官  
黃海道警察部  
同 技師  
朝鮮黃海道技師  
兼二浦邑長  
同 邑會議員  
同  
兼二浦製鐵所水道係主任  
海州邑事務所技師  
海州府尹  
佐々木忠右衛門  
兒玉竹夫  
加藤一郎  
桑野田郎  
森林京太郎  
植田虎吉  
橋本光義  
住友正夫  
平塚文三  
築瀬末太郎  
大下八十七

戴寧呂長

平安南道

平安南道廳

平安南道技師

同

同

同

同 技手

平壤府尹

同 內務課長

同 土木課長

同 技手

同

平壤府會議員

同

同

同

朴性宙

同 鎮南浦府尹 內務課長

水野仙一

同 土木係技術主任 同 同事務主任

西澤賢吉

同 鎮南浦府會議員

橫田虎之助

同

金健求

同

韓錫麟

同

渡邊顯

同

矢野桃郎

同

小林繁

同

阿部健三

同

高田修造

同

岸本彦一

同 鎮南浦府會議員

稻葉善之助

同 鎮南浦商工會議所會頭

松尾六郎

同 平壤商工會議所副會頭

山下基燦

同 平壤府船橋里紡平壤工場 同 平壤土木建築協會會長

金永弼

上野彦八 橋崎清 瀨田周藏 安藤重男 野田良二 明賀七郎 田淵哲次郎 佐藤長五郎 澤田吉平 揚致中 金秉根 林禮燮 李鐘燮 黃潤 李榮瑄 河村國助 金能秀 小賀野朝男 森川源八

東洋拓殖株式會社平壤支店長  
齋藤酒造合名會社支配人

平安北道

平安北道土木課長

同 技手

平安北道保安課長

同 技手

新義州府尹

同 內務課長

同 書記

同 水道係主任

同 書記

同 技師

新義州府會議員

第六回全國都市問題會議總會參加者名簿

望月仲 金丸直利 西脇進 木田久吾 武藤九州男

同 新義州府會議員

杉山食一

同 新義州商工會議所副會頭

中田富二

同 江界邑長

崔昌弘

同 宣川邑技手

渡邊順

同 江原道土木課長

村上耻巳

同 江陵邑長

佐々野靜衛

同 同 嚙託技師

福村萬太郎

同 同 嚙託技師

池田達夫 柳山嘉六 高有日 李炯觀 鄭元燮 中込精一 神保信吉 趙尙鉉 李熙勉 孫應麟 甲斐林 三浦庄之助 草場亮一 瀧澤誠 德力覺二郎 柿本松夫 種子田實矩

春川邑會議員	同	同	江陵繁榮會長	鐵原邑長	原州邑長	咸鏡南道					山田中巽	李漢復	荒木淳吉	井出龜	佐藤廣	洪義植	山田義雄	大田原英輔	福地松造	井上八重二	麻川彌十	永榮仁	丸山阜月	佐藤善藏	玉田之繁	官川庄六郎	倉科真太郎						
同	同	同	同	同	同	同					同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同						
元山府技師	同	同	元山府會議員	同	同	同					同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同						
原國重	佐野正義	尹訓甲	齋藤捨吉	崔光麟	折口宗次郎	南百裕	金楊根	神宮與太郎	宋寅台	金景俊	大田省一	韓光澤	松本五郎	矢野榮作	若林宗七	李弘俊	林虎英	北谷德一															

元山府會議員

元山商工會議所議員

元山府會議員	元山商工會議所議員	同	同	同	咸興府尹	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
--------	-----------	---	---	---	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

威鏡北道書記  
同 技手  
威鏡北道會議員  
羅津府尹  
同 土木課長  
羅津府會副議長  
滑津府尹  
同 技師  
滑津府會議員  
同  
都市計畫研究會會員  
同  
同  
同  
同  
同  
城津副市長  
同 屬  
城津邑會議員

○臺北市會議員  
✓嘉義市尹  
✓屏東市尹  
○高雄市庶務課長

關東州

關東州廳土木部長  
同 地方課長  
大連市長代理助役  
大連市會議長  
滿洲技術協會會長

滿洲國

同	內務局管理處長
同	管理處企畫科事務官
同	官房都呂計畫科長
同	同科事務官
同	事務官
同	財務科事務官

佳木斯市公署工務科長

鞍山市長

同  
技師

安東省長官官房地方科長

安東省經理科長

三江省土木課長

南滿洲鐵道株式會社同調査部

新  
京  
特  
別  
市

新  
京  
經  
濟  
部

三江省經理科長

南滿洲鐵道株式會社鐵道總局土地課計畫係主任

同 鐵道總局工務局

中村吉秋

三  
重  
野  
勝

佐瀬昌二

寺岡健次郎

瀬川克己

伊藤茂利三

下  
村  
節  
義

村田儀信

熊澤季雄

横 晶

司畫係主任

大野巖

第六回總會掛員事務分擔表  
(太字は各掛主任)

掛名	分擔事務の範圍	府側掛員	事務局掛員
總務一掛	開催地との連絡 參加勸誘、文書類の作	柳本課長、田中書記、野尻書記、大坪雇、江頭課長、佐々木、秋田書記、伊藤課長、松下書記、清水雇	菅原、平野、小古間
案内掛	京城驛	大森雇、林(鐘)雇、石川技手、宮崎技手、山岸技手、堀内監視員、(永)技手、加納助手、當麻書記、田村書記、元主事、宮部書記、慎雇	
旅館掛	西上技手、佐々木技手、柳本課長、武田書記、柏木技手、土居書記、棟重書記、天満書記、宮内技手、岩井雇、吳課長、尹雇、馬頭工手、山本工手、益田書記、田部技手		
地元招待掛	眞野課長、河野書記、三浦書記、鶴書記、柳本課長、伊藤係長、平瀨囑託、江頭課長、薄技手、大槻書記、柳田雇、梶山課長、稻田書記、中村技手、柴田雇、吉田係長、相川課長、中塚技手、桑田雇、磯矢技手、待山係長、澤村技手、長友技手、山口囑託、磯田課長、金村課長、田中課長、稻垣課長、各出張所長、岡田課長		
講演會掛	武良係長、五十嵐雇、玉井、屬、稻留書記		藤田、弓家、原田
座談會掛	堀山課長、木島主事、藤田書記、能登書記、世良雇、柳本課長、武良係長		鈴木教授、小田教授
贈呈品掛	柳本課長、江頭課長、木島主事、佐治係長、矢野技師、堀野雇、加藤雇、洪書記、南(命)書記、金(永)書記、藤田書記、志波澤書記、栗山雇、樺雇、文(大)書記、南(延)助手、朴(昇)助手、富田技手、李(載)書記、江頭雇、我妻技手、横山工手、金(義)工手、鈴木(豐)書記、吉田雇、松永書記、江頭雇、永田雇、文書記、萩原書記		



第六回總會掛員事務分擔表 (太字は各掛主任)

掛 名	分擔事務の範圍	府 側	掛 員	事 務 局 掛 員
總 務 掛	開催地との連絡 製加勸誘、文書類の連絡 製送達、掛相互の連絡 絡整備其の他の庶務	柳本課長、田中書記、野尻書記、大坪書記、江頭課長 堀山課長、木島主事、根岸書記、林書記、青木書記	原田、平野、小古間	
會 場 掛	會 場 設 備	植土屋課長、稻野係長、長安技手、早川囑託、丹羽囑託 山岸技手、安藤技手、横田工手、山崎 雇、佐藤囑託	佐久、徳田	
會 場 掛	會 場 整 理	中村課長、藤岡書記、堀山課長、木島技師、安藤技手	佐久、徳田	
會 員 及 庶 務 掛	會員辦當に關する事務	眞野課長、河野書記、鶴 書記、松田 雇、眞野 雇	關 口	佐久(調度經理主任)
	受 付、會 費 收 付 納	柏谷係長、蘇廣、野口雇、藤井(治)書記、藤井(康)雇 阿部雇、山角雇、尾關書記、阿閉 雇、船山書記 谷口書記、川上助手、尾關書記、阿閉 雇、李照敬雇	關 口	佐久(調度經理主任)
	諸用の處辨及幹旋	家入係長、龜井 雇、李聖煥雇	關 口	佐久(調度經理主任)
	手 荷 物 保 管	佐村館長、杉田 雇、川西 雇、韓 工手、張勤助手	關 口	佐久(調度經理主任)
	調 度 及 經 理	中村課長、玉置書記、田川書記、白 書記、武良係長 中(朝)書記、野尻書記、(兼)許 雇、栗田囑託、李(聖) 雇、並升雇(タイピスト)、澤地 雇(タイピスト)	關 口	佐久(調度經理主任)
接 伴 掛	報告者、役員の送迎接	柳本課長、萩原書記、眞野課長、小野原書記、江頭課長 堀山課長、谷口技師、桃田技師、村田技師、佐治係長 渡部技師、木島技師、伊藤課長、別木書記、萩野課長	平野、齋藤、倉辻、 小田教授	
	自 動 車	武良係長、五十嵐雇、林書記(兼)	平野、齋藤、倉辻、 小田教授	
新 聞 掛	記事及記者接伴	柴田囑託、中谷書記	幸島、倉辻、鈴木教授	
	報告者、議長、部會議長 幹旋及連絡	堀山課長、高本技師、根岸書記、江頭課長、橋本書記 菅書記、柳本課長、三浦囑託、二階堂書記 松尾係長、木島主事、中原書記、能登書記、秋山書記 田中雇、齊藤書記	幸島、倉辻、鈴木教授	
議 事 掛	議事進行及整理	柴田囑託	幸島、倉辻、鈴木教授	
	速 記 事 務	柴田囑託	幸島、倉辻、鈴木教授	
視 察 掛	寫眞攝影事務	伊藤課長、矢野技師、安藤技手、小出技手、稻益技手 高木技手、池谷學、石川 雇、有馬書記、明山囑託 金(徳)雇、渡邊 雇、中本書記、小杉山係長、神山囑託 堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	第一 班	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
任意視察掛(十三日)	第二 班	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	府内 第二班	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
鮮 内 視 察 掛	仁同川第一班	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	金剛山、西方面、慶州方面	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
鮮 外 視 察 掛	北鮮方面	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	高本技師、堀山技師、佐治係長、木代技師、木島主事	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
救 護 掛	田中課長、堀川書記、趙 書記、韓(相)雇	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	萩野課長、鎌谷技手、増井技手、崔道元技手	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
鮮 内 視 察 掛	田中課長、堀川書記、趙 書記、韓(相)雇	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	萩野課長、鎌谷技手、増井技手、崔道元技手	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
觀 光 案 內 掛	田中課長、堀川書記、趙 書記、韓(相)雇	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	萩野課長、鎌谷技手、増井技手、崔道元技手	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
案 內 掛	田中課長、堀川書記、趙 書記、韓(相)雇	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	萩野課長、鎌谷技手、増井技手、崔道元技手	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
旅 館 掛	田中課長、堀川書記、趙 書記、韓(相)雇	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	萩野課長、鎌谷技手、増井技手、崔道元技手	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
地 元 招 待 掛	田中課長、堀川書記、趙 書記、韓(相)雇	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	萩野課長、鎌谷技手、増井技手、崔道元技手	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
講 演 會 掛	田中課長、堀川書記、趙 書記、韓(相)雇	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	萩野課長、鎌谷技手、増井技手、崔道元技手	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
座 談 會 掛	田中課長、堀川書記、趙 書記、韓(相)雇	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	萩野課長、鎌谷技手、増井技手、崔道元技手	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
贈 呈 品 掛	田中課長、堀川書記、趙 書記、韓(相)雇	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	
	萩野課長、鎌谷技手、増井技手、崔道元技手	堀山課長、飯塚書記、尾崎書記、松永書記、韓雇(兼)	第一班 關口 第二班 徳田	

昭和十四年四月五日印刷  
昭和十四年四月八日發行

第六回總會文獻4  
第六回總會要錄  
非賣品

編輯者兼  
東京市日比谷公園二番地  
財團法人東京市政調査會内  
全國都市問題會議  
代表者 菅原忠治郎

印刷者  
東京市神田區錦町二ノ五  
久家恒衛

發行所  
全國都市問題會議事務局

東京市日比谷公園二番地  
財團法人東京市政調査會内  
振替口座東京六〇八二四番

株式會社 文成社 印刷

# 全國都市問題會議關係文獻目錄

1

	頁	定 價	送 料
<b>第 二 回 總 會</b>			
1 研 究 報 告	540	3.00	—
2 參考資料 甲篇・3 參考資料 乙篇		絶 販	
4 議 事 要 錄	364	3.00	—
<b>第 三 回 總 會</b>			
1 研 究 報 告 第一議題編(負擔並 稅 制)	237	1.50	—
2 研 究 報 告 第二議題編(汚物處理並 汚 染 防 止)	527	3.00	—
3 參 考 資 料 第一議題編(負擔並 稅 制)	482	3.00	—
4 參 考 資 料 昭和六年度地方財政概要		絶 販	
5 參 考 資 料 第二議題編(汚物處理並 汚 染 防 止)	520	3.50	—
6 議 事 要 錄	296	2.00	—
(補冊) 研 究 報 告 追 錄 編	156	1.00	—
<b>第 四 回 總 會</b>			
1 研 究 報 告 第一議題甲篇其一(都市環境 の 改 善)	556	3.00	.14
2 研 究 報 告 第一議題甲篇其二(都市環境 の 改 善)	564	3.00	.14
3 研 究 報 告 第一議題乙篇(都市環境 の 改 善)	396	1.50	.10
4 研 究 報 告 第二議題甲篇(都市自治 の 濟 美)	254	1.00	.09
5 研 究 報 告 第二議題乙篇(都市自治 の 濟 美)	253	1.00	.09
6 參 考 資 料	520	2.50	.14
7 議 事 要 錄	285	1.50	.10

# 全國都市問題會議關係文獻目錄

2

	頁	定 價	送 料
<b>第 五 回 總 會</b>			
1 研 究 報 告 都市の公益企業	592	2.50	.14
2 研 究 報 告 都市の保險施設(上)	514	2.20	.14
3 研 究 報 告 都市の保險施設(下)	455	2.00	.14
4 研 究 報 告 都市の公益企業(追補篇) 都市の保健施設	142	.50	.06
5 參 考 資 料 公益企業經營に関する若干事例	253	.80	.09
6 第五回總會要錄	362	1.50	.10
<b>第 六 回 總 會</b>			
1 研 究 報 告 都市計畫の基本問題(上)	395	2.40	.14
2 研 究 報 告 都市計畫の基本問題(下)	282	1.80	.14
3 研 究 報 告 都市の經費問題	328	2.00	.14
4 第六回總會要錄	336	1.80	.14
內務省地方局編 地方財政概要 昭和七年度	103	.40	.06
同 上 昭和八年度	105	.28	.06
同 上 昭和九年度・昭和十年度	各 105	各 .30	.06
同 上 昭和十一年度・昭和十二年度	各 105	各 .30	.06
同 上 昭和十三年度	113	.35	.06
全國都市問題會議會報 第一號乃至第十五號		非 賣	餘部なし

東京市麹町區日比谷公園 東京市政調査會內

全國都市問題會議事務局

振替東京六〇八二四